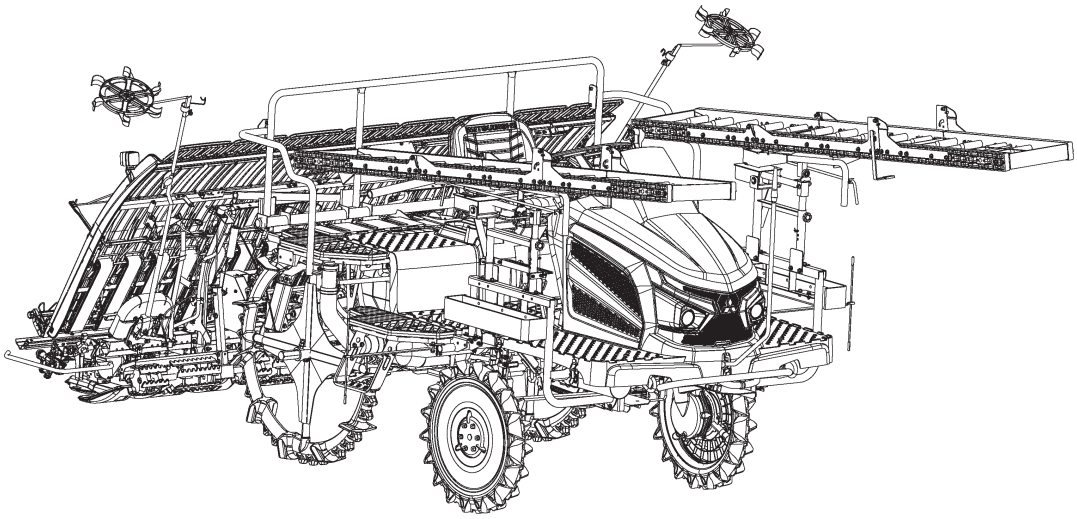
田植機

取扱説明書

XPS6・XPS8



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

このたびは田植機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

●はじめに

この取扱説明書は機械の正しい取扱いかたと簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。

ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。

・お読みになった後も身近な所に保管しいつでも読めるようにしてください。
・また，この機械を貸与または譲渡される場合は，この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
・本書では，安全上重要な事項を⚠で示し，つぎのように表示しています。必ず守ってください。

⚠危険	**その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負うことになるものを示します。**
⚠警告	**その警告に従わなかった場合は，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。**
⚠注意	**その警告に従わなかった場合は，ケガを負うおそれのあるものを示します。**

・なお，この機械の品質・性能向上あるいは安全のために，使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容およびイラストなどの一部が，機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ねがいます。

●機械の使用目的について

・機械は田植作業に使用してください。
・この作業以外には使用しないでください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象になりません。（詳細は保証書をご覧ください。）

こんなとき，こんなことが知りたいとき，ここを見てください!

安全作業のために　安全な作業をするための注意事項は？

機械の安全な取扱いに関する基本事項，また機械に貼り付けてある安全に関する表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）について説明してあります。ご使用になる前によく読んで理解し必ず守ってください。

ご使用まえに　使用前に知っておかなければならないことは？

機械の概要「**仕様（装備）**」などについて説明しています。

各部のはたらき　各操作レバーのはたらきを知るには？

各操作レバーのはたらきを説明しています。よく理解し正しい操作をしてください。

運転のしかた　エンジンを始動し，機械を動かすには？

毎日，運転する前に機械の調子を点検してください。
正しい手順で行い，エンジンの停止方法や安全装置の操作を体得してください。

作業のしかた　上手な田植作業をするには？

田植作業の基本操作を説明しています。条件やほ場条件にあった機械の調整をして，安全な田植作業をしてください。

手入れのしかた　機械を長もちさせるには？

機械をいつも正常な状態に保つために，手入れのしかたについて説明しています。
「**定期点検整備表**」に従って保守，点検してください。

長期格納のしかた　機械を格納するときは？

機械を長期に格納するときの手入れのしかたについて説明してあります。

不調時の処置　故障かなと思ったときは？

作業中のトラブルや不調，性能が低下している？と思ったらすぐに原因を調べて処置してください。

付　　表　諸元・関連部品？

機械に係る諸元表・消耗部品などを一覧表で説明しています。

もくじ

安全作業のために ……（安全作業説明編）

ご使用まえに ……1

1．保証とサービスについて…… 1
2．仕様（装備）について…… 2
3．用語について…… 4

各部のはたらき ……5

1．各部の名称…… 5
2．運転装置の取扱い…… 8
　1．スイッチ・計器関係…… 8
　2．エンジンコントロール関係……17
　3．走行操作関係……17
　4．その他運転装置……20
3．植付け装置の取扱い……22
　1．植付操作関係……22
　2．苗のせ台の各装置……26
　3．その他の植付け装置……28
4．自動装置の取扱い……32
　1．パワーステアリングの取扱い……32
　2．バックアップ装置の取扱い……32
　3．オートマーカー装置の取扱い……33
　4．植付クラッチ切戻し機能……33
　5．まくらっこ自動停止機能……33

運転のしかた ……34

1．運転まえの点検……34
2．エンジンの始動と停止……36
　1．エンジン始動のしかた……36
　2．エンジン停止のしかた……38
3．運転のしかた……38
　1．発進のしかた……38
　2．走行運転のしかた……39
　3．停車のしかた……41
4．自動車への積込み・積降ろし……41
　1．自動車・アユミについて……42
　2．機械の取扱いかた……42
5．ほ場への出入り……43

作業のしかた ……44

1．作業まえの準備……44
　1．ほ場の準備……44
　2．苗の準備……45
　3．機械の準備
　（密植植え（２本爪）・疎植植え（１本爪））…46
　4．機械の準備（植付部の展開・収納のしかた）…48
　5．機械の準備（調節）……50
2．植付け作業のしかた……57
　1．最初の苗ののせかた……57
　2．ほ場進入と機械のセット……58
　3．植付け作業の進めかた……59
　4．クイックアップレバーの使いかた……60
　5．上げ，下げ・植付スイッチ（スマイルシフト）の使いかた…60
　6．油圧感度切替ダイヤルの使いかた……61
　7．水平自動装置の使いかた……62
　8．旋回のしかた……63
　9．枕地距離自動測定機能「ジャストメジャー」の作業のしかた…66
　10．苗の補給……67
　11．植付け終わりの調整……68
　12．残り苗の取出し……69
　13．苗のせ台の収納……69
　14．線引マーカーの収納……69
　15．トルクリミッタについて……70
3．均平装置「まくらっこ」作業のしかた……70
　1．まくらっこ装置の取扱い……70
　2．まくらっこ作業……72
4．電源ソケットの取扱い……73

手入れのしかた ……74

1．定期点検整備……74
2．給油・注油のしかた……76
　1．燃料の給油……77
　2．エンジンオイルの点検・補給・交換……77
　3．燃料ラインフィルタの交換……78
　4．エンジンオイルフィルタの交換……78
　5．ラジエータ冷却水の点検・補給・交換…79

6．トランスミッションケースのオイル点検・補給・交換
（油圧オイルフィルタの交換）……80
7．リヤアクスルのオイル交換……81
8．横送りケースのオイル交換……81
9．プランタケースのオイル交換……82
10．ロータリケースのグリス交換……82
11．プランタアームのグリス交換および給脂…82
12．給脂指定箇所……83
13．注油指定箇所……84
3．各部の点検と掃除のしかた……85
1．エアクリーナの掃除……85
2．燃料フィルタの点検と掃除……86
3．燃料のエア抜きのしかた……87
4．ホース類の点検と交換……87
5．ヒューズの交換……88
6．バッテリ……89
7．バッテリの点検と充電……89
8．電気配線の点検と掃除……94
9．タイヤの点検……95
4．各部の点検と調整のしかた……96
1．走行ベルトの点検・調整……96
2．オルタネータベルトの点検・調整……96
3．ブレーキペダルの点検・調整……97
4．車輪取付部の点検・調整……97
5．植付クラッチの点検・調整……98
6．植付爪（ビーク，フォーク）の点検・調整…99
7．苗シュータの点検・調整…… 100
長期格納のしかた ……101
1．機械の掃除と洗浄…… 101
2．エンジンの手入れ…… 102
3．点検・整備…… 102
4．格納…… 102
5．再使用にあたって…… 103
不調時の処置 ……104
1．エンジン部…… 104
2．走行・運転操作関係…… 105
3．電装品関係…… 106
4．水平自動関係…… 106
5．植付部…… 107
6．まくらっこ装置関係…… 130
付表 ……131
1．主要諸元…… 131
2．ベルト一覧表…… 135
3．主な消耗部品一覧表…… 135
4．潤滑油について…… 137

（安全作業説明編）

安全作業のために

ページ

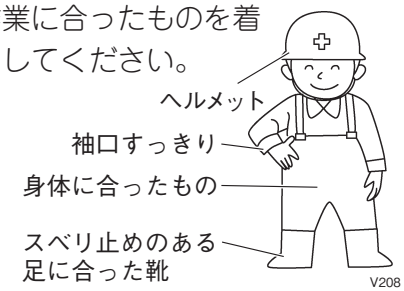
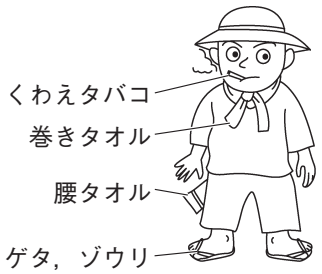
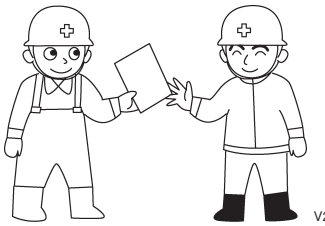
1．安全作業のしかた……（安-1）
⚠作業前につぎのことを守りましょう！……（安-1）
⚠安全作業のポイント……（安-2）
⚠作業前の一般的な注意事項……（安-4）
⚠点検・整備および掃除をするときは……（安-6）
⚠エンジンを始動するときは……（安-12）
⚠走行運転をするときは……（安-14）
⚠狭い道，凸凹道，坂道，傾斜地で運転するときは……（安-17）
⚠自動車への積込み・積降ろしをするときは……（安-19）
⚠ほ場で作業をするときは……（安-22）
⚠１日の作業が終わったら……（安-25）
⚠長期格納するときは……（安-27）
2．表示ラベルについて……（安-29）

安全作業のために

1．安全作業のしかた

・安全上の重要な事項を **⚠危険** **⚠警告** **⚠注意** の３段階に分類して説明していますので，よく読んで理解し安全作業に努めてください。
・なお，この項で説明している安全作業は**機械全般**についてのものです。これ以外にも本文の中で同様に説明していますので，よく読んで必ず守ってください。
・本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

⚠ 作業前につぎのことを守りましょう！

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆このような人は運転しないでください。 ●酒気をおびた人 ●妊娠している人 ● 16 才未満の人 ●指導者のいない運転未熟練者 ●過労・病気・薬物の影響，その他の理由により，正常な運転操作ができない人	誤操作しやすく思わぬ事故を起こすことがあります。  V207
⚠警告 ◆作業に合ったものを着用してください。  V208	このような服装は衣服が回転部に巻込まれたり，足をスベらせたりして思わぬ事故を起こすことがあります。  V209
⚠警告 ◆機械を他人に貸す場合は取扱説明書も合わせて貸して，安全な作業ができるよう説明してください。  V210	借りた人が不慣れなため，思わぬ事故を引起こすことがあります。
⚠警告 ◆運転する人は健康に気をつけて適当な睡眠と休けいをとってください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆初めて運転する人は，操作に慣れるまで低速で運転してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。

安全作業のポイント


V211

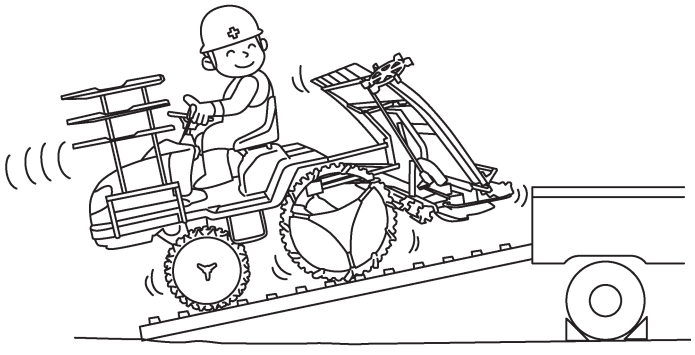
●取扱説明書，機械のラベルをよく読んでから運転する

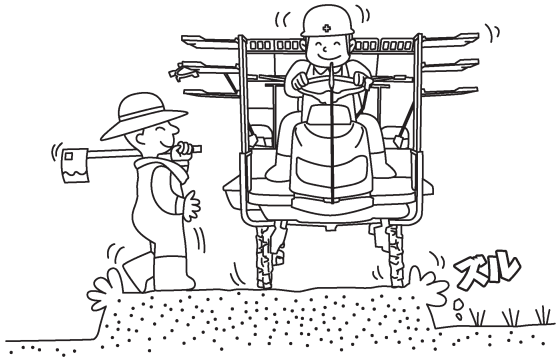
始業・点検　準備点検

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止する
●機械に貼ってあるラベルがなくなったり，汚れたりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替える
●エンジン回り，バッテリ，燃料タンクの周辺を掃除する
●バッテリコード，電気配線，燃料ホースを点検する
●油量の点検はエンジンが冷えているときに行う
●各部の締付け，セットピンの脱落，損傷はないか確認する
●ブレーキの作動具合と遊び量を点検する
●ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認する
●燃料補給時はエンジンを停止し，火気を近づけない
●エンジンが熱いときは燃料補給しない
●植付部を上げて掃除・点検するときは，油圧をロックし植付部の下に固定脚を置く
●機械は改造しない

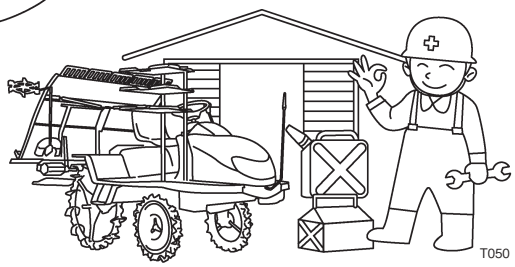
エンジン始動

●始動前に各部のカバーの取付けを確認する
●各操作レバーを《N》（中立）にする
●運転席に座り駐車ブレーキをかける
●機械の周囲から人を遠ざける
●屋内で始動するときは，窓や戸を開けて換気をする


T085



T079


T050

走行運転　自動車への積込み・積降ろし

●アユミは強度，幅，長さ，スベリ止め，フックのあるものを使用する（長さは荷台高さの４倍以上）
●アユミは自動車の荷台に平行にかけ，フックが外れないことを確認する
●植付部付きでの積込みは後進，積降ろしは前進で，低速にして行う
●アユミの上では変速操作や必要以上のハンドル操作をしない
●周囲を確認し，機械の回りには人を近づけない

走行運転

●公道は走行できません
　公道および夜間の移動は自動車にのせて行う
●苗のせ台を中央に止め，マーカーを収納する
●補助苗台の上に物を載せない
●発進は周囲を確認して行う
●植付部を動かしたまま走行しない
●急発進，急ブレーキ，急旋回はしない
●人や物を機械にのせない
●わき見運転や手放し運転はしない
●走行中は飛び乗り，飛び降りはしない
●肥料が入っている場合は，低速で走行する

狭い道，凸凹道，坂道の走行

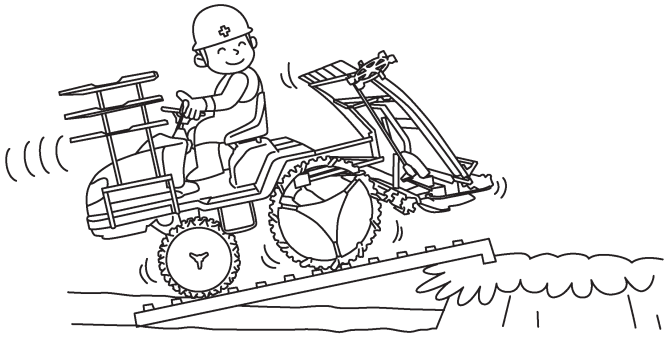
●狭い道や凸凹道は低速で走行する
●下り坂では速度を下げてエンジンブレーキを使う
●坂道では変速レバーを《N》（中立）にしない
●人や物を避けるとき，道の端に寄りすぎない
●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しない
●急な坂道は後進で登る
●急な坂道では旋回しない
●補助苗台の上に物を載せない

停車・駐車

●平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，各操作レバーを《N》（中立）にしエンジンを停止する
●坂道では駐車しない，やむをえず駐車するときは後輪に車止めをする
●機械を離れるときは油圧固定レバーを《油圧固定》にし始動キーを抜取る

ほ場での作業　ほ場の出入り，あぜ越え

- 低速であぜに対して直角に行う
- 高あぜ，溝，急傾斜を越すときはアユミを使用し，上るときは後進，降りるときは前進で行う
- 植付部を動かしたまま出入りしない
- アユミの上では必要以上のハンドル操作や変速をしない
- 坂道やアユミの上でブレーキペダルを踏むときは素早く行う
- あぜが崩れないか確認しゆっくり走行する
- 機械に人や物をのせない


T053

ほ場での作業

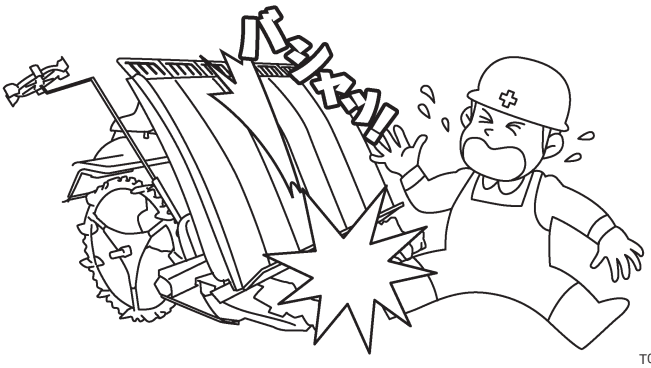
- 子供など，人を機械のそばに近づけない，２人乗りはしない
- 過労にならぬようゆとりを持って，作業の間に休憩を入れる
- 旋回時は周囲を確認する
- ウエイトがわりに人や物をのせない
- 後進するときは，背後に障害物がないことを確認して行う
- わき見運転や手放し運転はしない



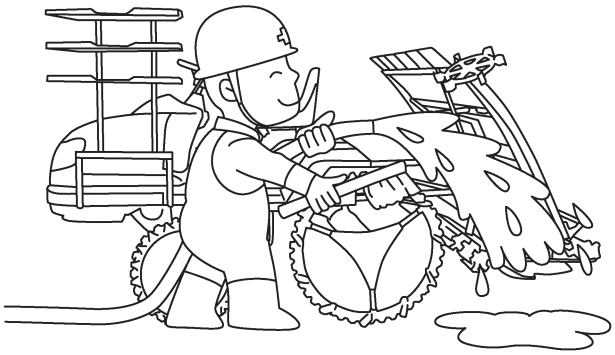
T054

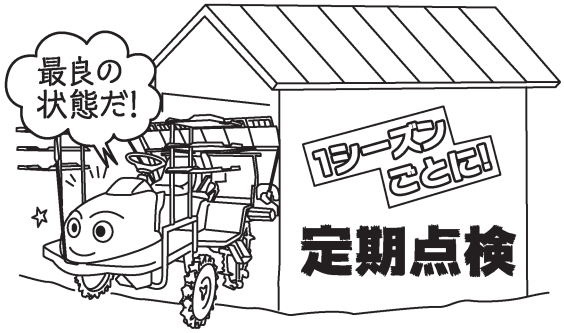
作業途中の点検，駐車時

- 平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行う
- エンジン回りの点検は，エンジンが冷えてから行う
- 植付部を上げて点検するときは油圧固定レバーを《油圧固定》にする
- プランタ部の詰まりの除去や苗取り口の苗を直すときはエンジンを停止する
- 植付部の点検はエンジンを停止して行う
- 取外したカバー類は全て取付けて作業を開始する
- 機械を離れるときは油圧固定レバーを《油圧固定》にし始動キーを抜取る



T055


T051



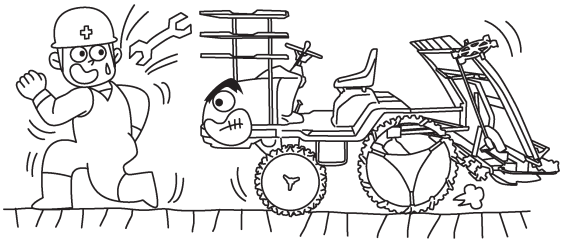
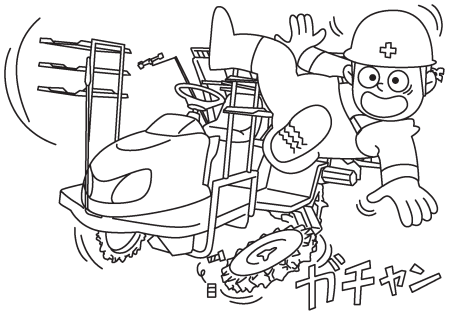
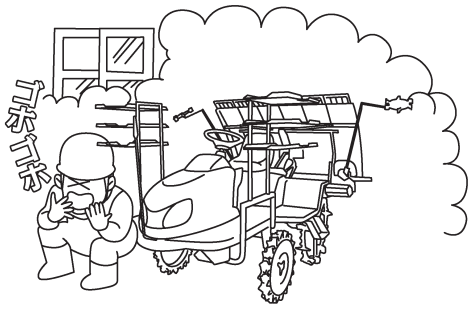
T052

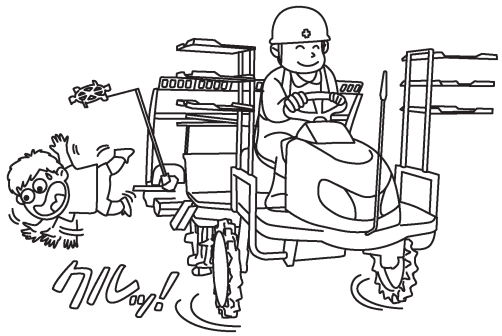
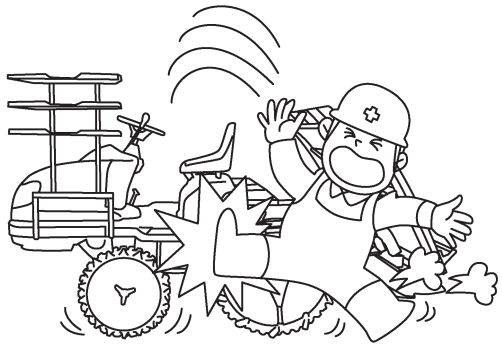
格　納　１日の作業が終わったら

- 平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけ，植付部を降ろして各操作レバーを《N》(中立),《固定》(切)にしエンジンを停止する
- 燃えやすい物の近くに止めない
- エンジン回り，バッテリ，燃料タンク回りをきれいに掃除する
- 始動キーを抜取っておく
- シートカバーはエンジンが冷えてからかける

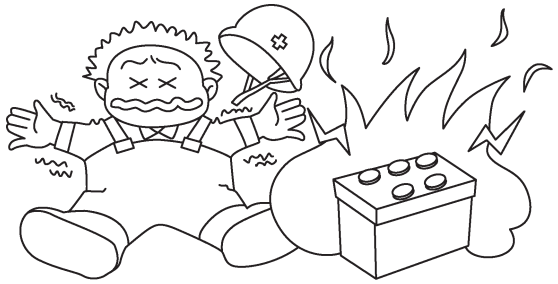
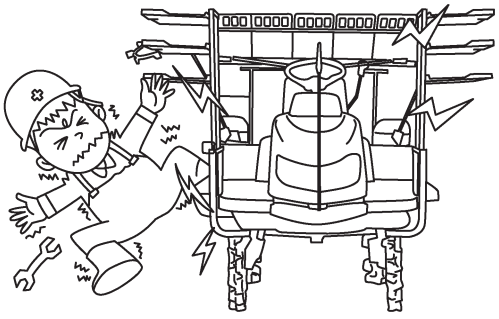
⚠ 作業前の一般的な注意事項

必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

⚠警告 ◆機械はほ場での農業用作業機を装着しての農作業にご使用ください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  T056
⚠警告 ◆機械は改造しないでください。	改造すると機械の機能に悪影響を与えるだけでなく事故の原因になることがあります。  T057
⚠警告 ◆機械を使用する前後に点検を行い，異常箇所は直ちに整備してください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。  T058
⚠警告 ◆1シーズンごとに定期点検・整備を受けてください。	
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしないでください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。  T059

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械に運転者以外の人や物を乗せたり，人を近づけないでください。 ●子供などを，機械に近づけないでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  T060
⚠警告 ◆機械への飛び乗り，飛び降りはしないでください。	バランスを崩して転倒したり，傷害事故を引起こします。  T061
⚠警告 ◆心臓ペースメーカを装着されている方が無線機能搭載機種(※)を運転される際は医師にご相談ください。　※…SE-Navi仕様	機器が発する電波によってペースメーカに影響を与えるおそれがあります。
⚠警告 ◆農薬を使用される際は農薬取扱説明書の指示内容を確認の上，マスクなど防具を使用してください。	健康を害するおそれがあります。

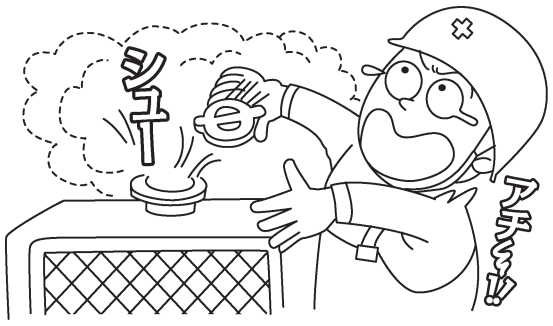
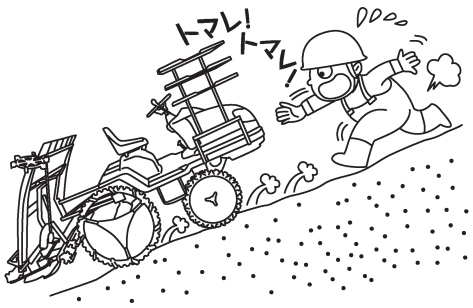
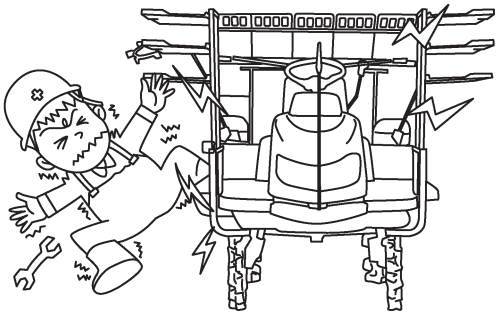
⚠ 点検・整備および掃除をするときは……

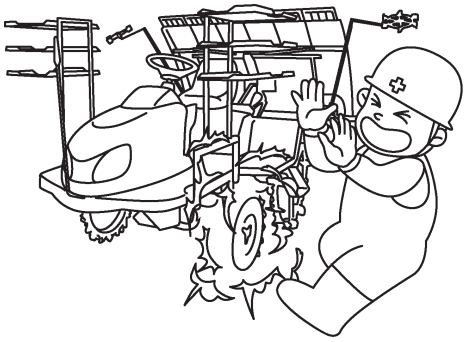
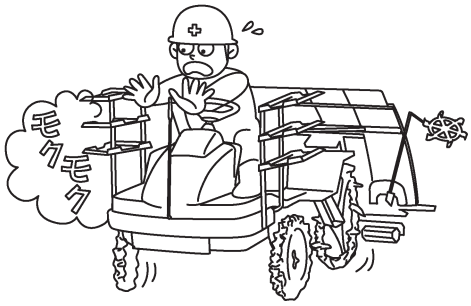
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリの点検時，火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。	バッテリから水素ガスが出ますので，引火により爆発して傷害事故を引起こすことがあります。  V222
⚠危険 ◆バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。	バッテリ液（希硫酸）で服が破れたり，失明や火傷をすることがあります。
⚠危険 ◆バッテリ液が，目，皮ふ，衣服，物についたときは，すぐに多量の水で洗い，飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。目に入ったときや飲み込んだときは医師の診断を受けてください。	 V223
⚠危険 ◆バッテリ端子からコードを取外すときは，⊖側を先に取外してください。取付けは⊕側を先に取付けてください。 ●バッテリは指定されたバッテリを使用してください。 ●⊕，⊖を逆に接続しないでください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  T065

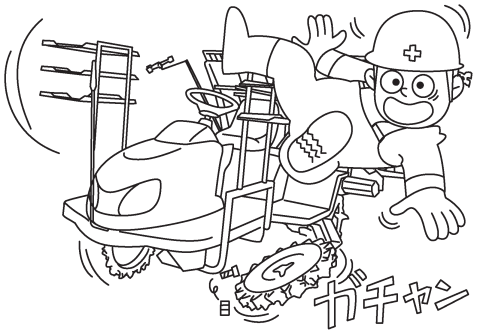
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠危険 ◆バッテリはエンジン始動用ですから，他の用途には使わないでください。 ◆バッテリの充電時，交換時は，バッテリの安全ラベルをよく読んでください。 ◆補水タイプのバッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER以下で使用を続けると爆発の原因となることがあります。すぐにUPPER LEVEL（上限）とLOWER LEVEL（下限）の間に補水してください。 ◆充電は，バッテリを機械から取外して行ってください。 ◆密閉状態で充電を行うとバッテリが破裂するおそれがあり危険です。	爆発や火災事故の原因となることがあります。
⚠警告 ◆給油，注油，点検時は，平坦な場所でエンジンを停止しエンジン回転中や，エンジンが熱い間は給油，注油をしないでください。 ●燃料ホースの破損や燃料漏れがないか，点検してください。 ●燃料ホースは２年ごとに交換してください。	燃料などに引火し，火傷や火災の原因となることがあります。
⚠警告 ◆燃料補給時は，くわえタバコなどの火気を近づけないでください。	
⚠警告 ◆燃料を補給したときは，燃料キャップを確実に締め，こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。	

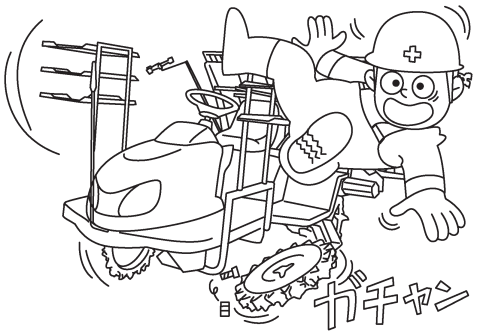
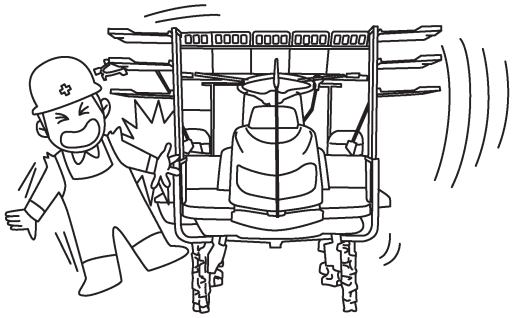
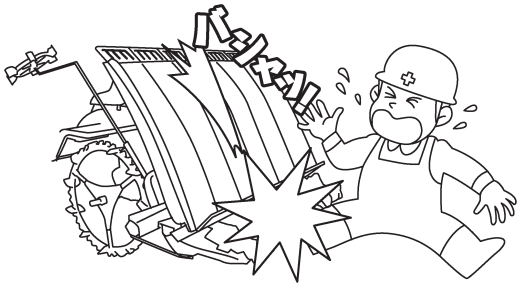


T063

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止しエンジンが冷えてからラジエータキャップをゆっくり回し，与圧を抜いてから開けてください。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷をすることがあります。  V221
⚠警告 ◆平坦な場所で駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止させてから行ってください。 ●主変速・副変速レバーが《N》(中立）になっていることを確認してください。 ●後輪に車止めをしてください。	駐車ブレーキをかけていないと，機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。  T062
⚠警告 ◆電気配線が他の部品に接触していないか，剥がれや接合部のゆるみやガタがないかを点検してください。 ●電気部品を取外す際はバッテリ⊖側のコードをバッテリ端子から外してください。 ●クランプや固定金具のゆるみがないか点検してください。	ショートして，火傷や火災の原因となります。  T065

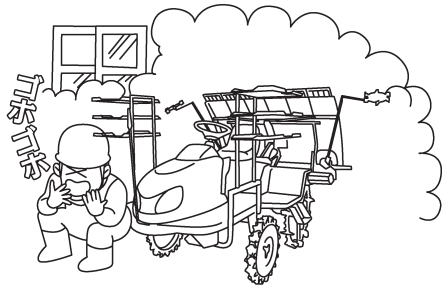
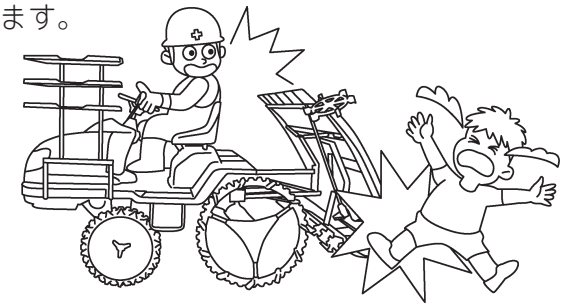
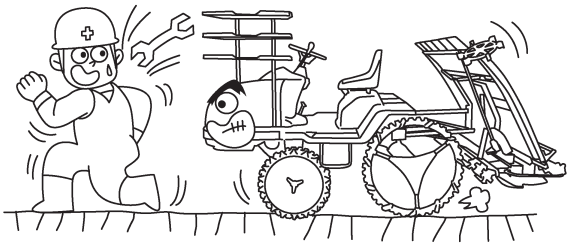
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆空気入りタイヤの空気圧は取扱説明書に記載してある空気圧を守ってください。 ●タイヤの空気は入れすぎないでください。	タイヤに空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。
⚠警告 ◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は使用しないでください。	
⚠警告 ◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。（特別教育を受けた人が行うように法で義務づけられています。）	 T080
⚠警告 ◆エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンク周囲にワラクズ・ゴミ・燃料などが付着していないか，作業前に点検して付着していれば取除いてください。	火災事故を引起こすことがあります。  T066
⚠警告 ◆ブレーキの点検調整をしてください。 ●ブレーキのきき具合は良いか確認してください。	正常な走行ができなくなり，事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆ハンドルの遊びやガタが大きくないか確認してください。	 T081

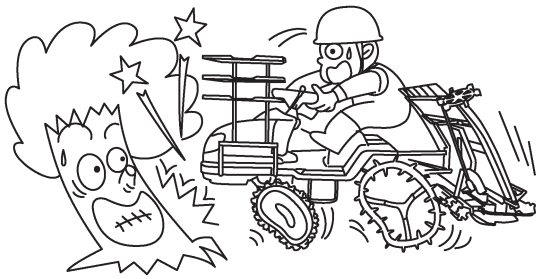
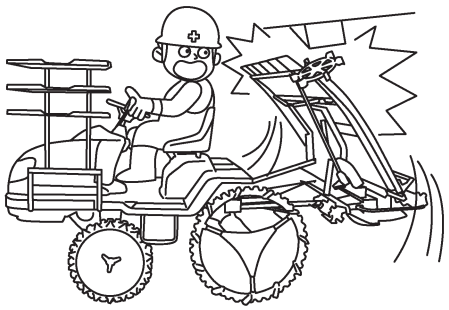
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆油圧関係の部品を点検したり取外す前に，エンジンを停止し，油圧リフト部をもっとも下げた状態にして，残圧を抜いてから作業をしてください。 ◆高圧噴油に触れないでください。もし，高圧噴油に触れたら，直ちに医師の診断を受けてください。	圧力がかかって噴出した油は皮ふに浸透し傷害の原因になります。油が皮ふに浸透した場合，取除かないと壊疽（えそ）になるおそれがあります。
⚠警告 ◆前後車輪取付部に異常や取付ボルトのゆるみがないか確認してください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。  T058
⚠警告 ◆機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。 ◆地面，河川，湖沼，海洋へのたれ流しや投棄はしないでください。 ◆廃油，冷却水（不凍液），冷媒，燃料，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他有害物を廃棄，または焼却するときは購入先または，産業廃棄物処理業者などに相談して，所定の規則に従って処理してください。	環境汚染につながります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆ワラや雑草の上に駐車しないでください。	火災事故の原因となることがあります。
⚠注意 ◆点検整備に必要な工具類は，適正な管理をし，正しく使用してください。 ●機械には，点検整備に必要な工具類を常備してください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  T058
⚠注意 ◆点検・整備などで外したカバーなどは，すべて取付けてください。	巻込まれたりして傷害事故を引起こすことがあります。  T067
⚠注意 ◆植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは，油圧固定レバーを《油圧固定》にすると共に固定脚などで支えをして落下を防止してください。	植付部が落下して傷害事故を起こします。  T055

⚠ エンジンを始動するときは……

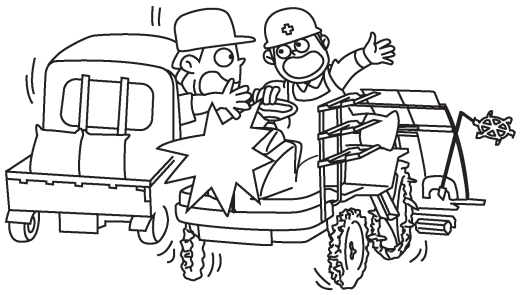
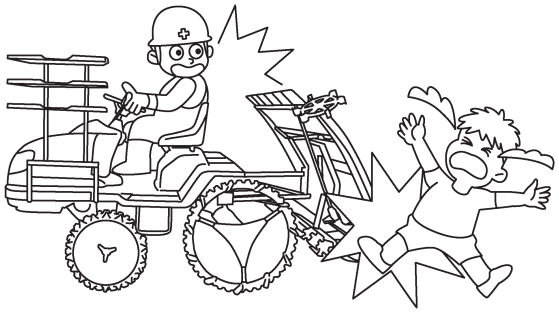
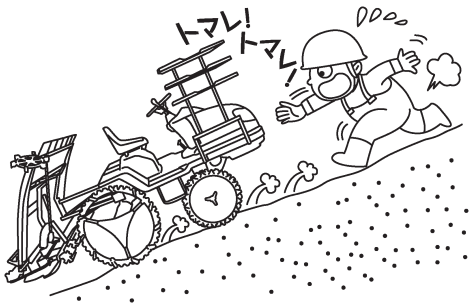
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！

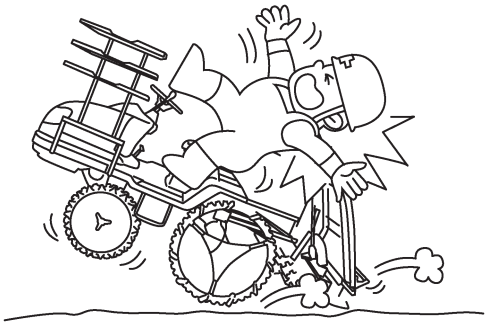
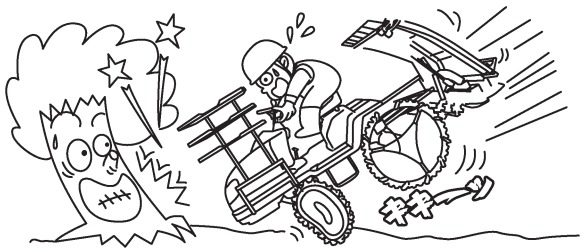
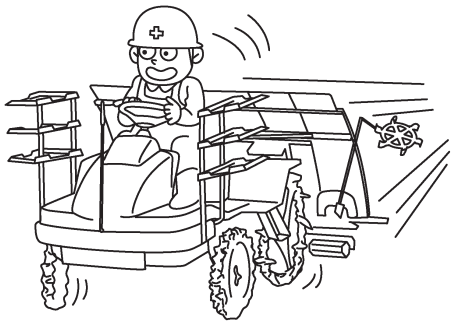
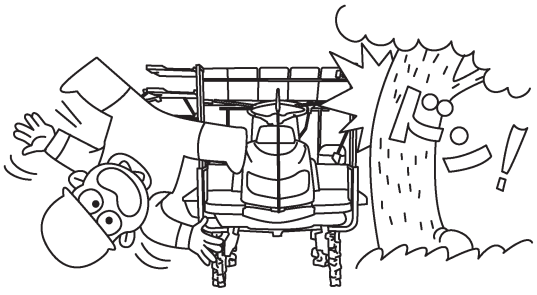
⚠警告 ◆屋内での始動は窓や戸をあけて換気をよくしてください。 ●換気が不十分な所では暖機運転や作業はしないでください。	排気ガス中毒で気分が悪くなったり，酸欠で脳障害になったり死亡することがあります。  T059
⚠警告 ◆始動する前に周囲を確認し，機械の周囲から子供など，人を遠ざけてください。	子供など，人が近づくと，傷害事故を引起こすことがあります。  T068
⚠警告 ◆始動は，運転席のシートに座って行ってください。	機械が急に動き出し，人身事故や傷害事故の原因となることがあります。  T061
⚠警告 ◆主変速･副変速レバーを《N》(中立）にしてください。 ●周囲を確認し，合図してからブレーキペダルを踏んでエンジンを始動してください。	変速やクラッチが入っていると機械が急に動きだし事故の原因となることがあります。  T057

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆暖機運転は，主変速・副変速レバーを《N》（中立）にし，平坦な場所で駐車ブレーキをかけて行ってください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。 T069
⚠警告 ◆低い倉庫内などで後進するときは，植付スイッチを《切》にし，苗のせ台を下げて，油圧固定レバーを《油圧固定》にしてから後進してください。	急に苗のせ台が上昇し，思わぬ事故となります。 T082

⚠ 走行運転をするときは……

必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

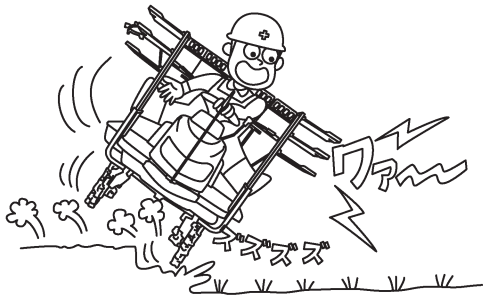
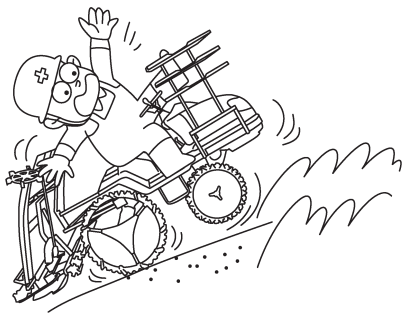
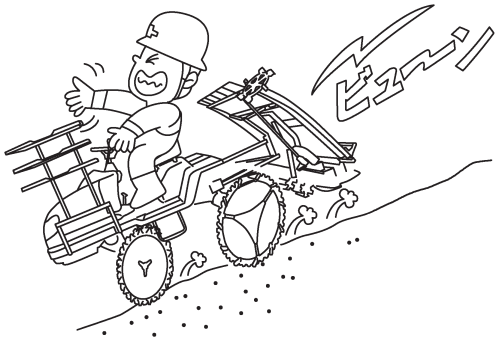
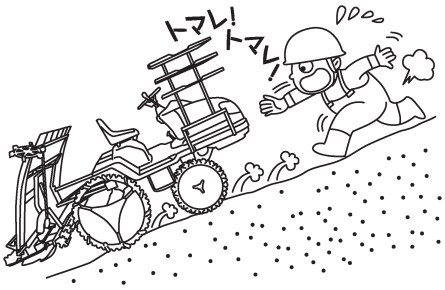
⚠警告 ◆この機械は「道路運送車両の保安基準」に適合していませんので，公道は走行できません。公道の移動は自動車（トラックなど）にのせて運搬してください。	法令に違反するだけでなく，思わぬ事故を引起こす原因となります。  T083
⚠警告 ◆発進するときは，周囲を確認してから発進してください。 ●子供など，人が機械に近づかないようにし，周囲にいる人を遠ざけてから発進してください。	傷害事故を引起こす原因となります。  T068
⚠警告 ◆駐車・停車するときは，平坦な場所で駐車ブレーキをかけてください。 ●油圧固定レバーが《油圧固定》になっていることを確認してください。 ●座席を離れるときはエンジンを停止し，キーを抜取ってください。	機械が動き出して事故の原因となります。  T062

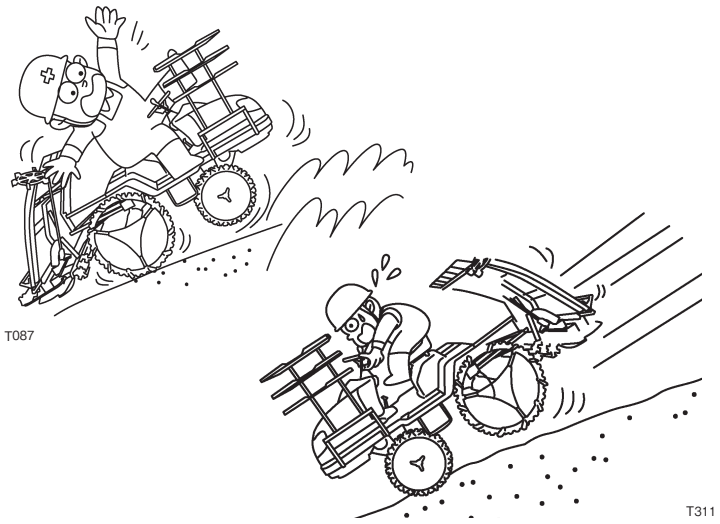
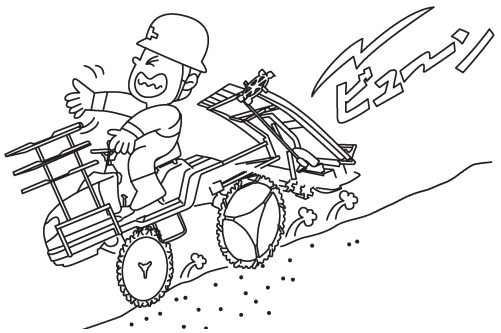
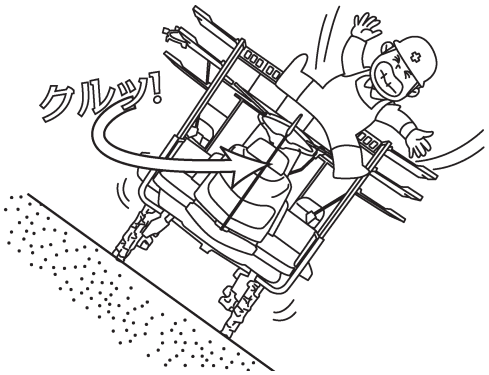
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。 ●低速で発進してください。発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを《N》(中立）位置からゆっくりと操作してください。 ●走行速度はひかえめにしてください。 ●旋回するときは，低速にしてください。 ●停止するときは，主変速レバーを《N》(中立）位置にしてからブレーキペダルを踏んでください。	転倒事故を引起こすことがあります。  T086  T310
⚠警告 ◆ブレーキペダルを踏むときは，まずエンジンコントロールレバーでエンジン回転を低速にしてから，踏込んでください。 ●守らないと，ブレーキが効かず衝突，転倒，転落事故を引起こすおそれがあります。	思わぬ事故を引起こす原因となります。  T071
⚠警告 ◆苗のせ台を中央に止め，マーカーを折りたたんで，機械を格納状態にして走行してください。 ●補助苗台の上に物を載せたまま走行しないでください。 ●トレースマーカー，線引マーカー，センタポールを収納してください。 ●植付部・ロータを動かしたまま走行しないでください。 ●肥料が入っている場合は，低速で走行してください	思わぬ事故を引起こす原因となります。  T070

必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆子供など，人や物を機械に乗せないでください。 ●荷物は，別の自動車（運搬車）などで運んでください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。

⚠ 狭い道，凸凹道，坂道，傾斜地で運転するときは……

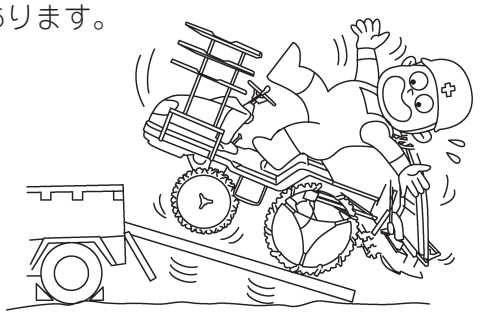
必 ず 守 っ て く だ さ い ⟶ 守らないとこんな事故が！

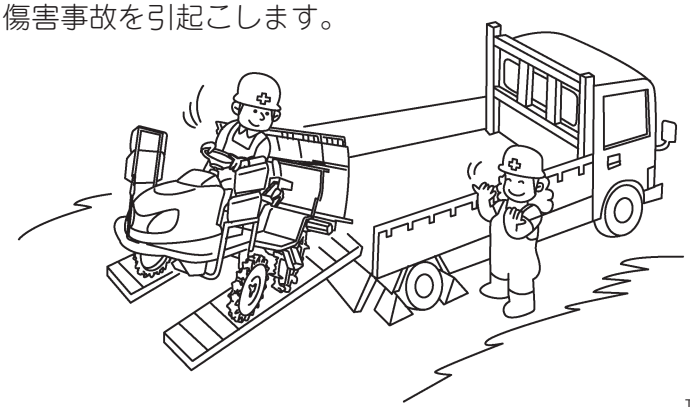
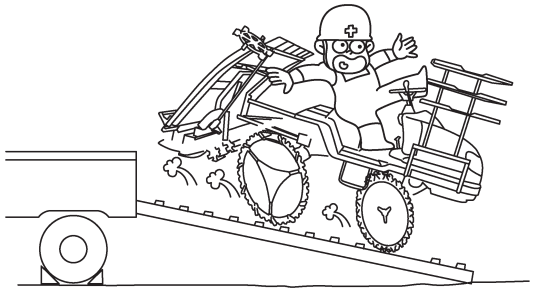
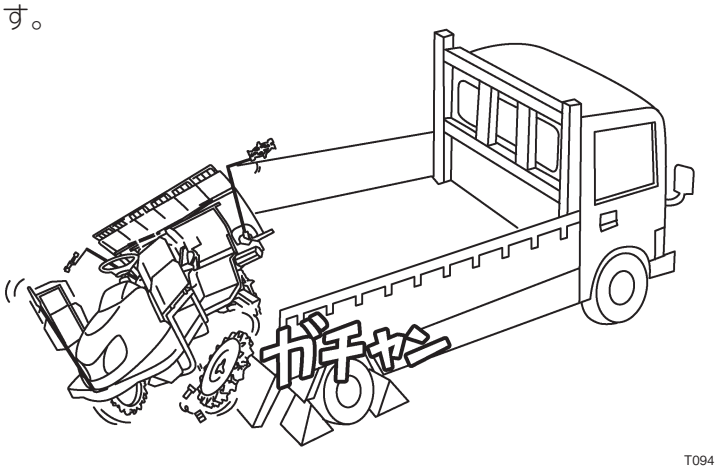
⚠警告 ◆道の端には寄りすぎないようにしてください。 ●対向車を避けるとき，端に寄りすぎないでください。 ●軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。 ●雨天や雨あがりのときは，低速で慎重に走行してください。	路肩が崩れ，横転事故を引起こすことがあります。  T072
⚠警告 ◆坂道，傾斜地や凸凹道，カーブの多い道では，速度を落とし慎重に走行してください。 ●停止するときは，主変速レバーを《N》(中立）位置にしてからブレーキペダルを踏んでください。	転倒事故を引起こします。  T087
⚠警告 ◆坂道，傾斜地では，副変速を中立にしないでください。 ●坂の手前で一旦停止して，副変速を《作業》に入れ変えてから走行してください。	スピードが速くなり事故の原因となります。  T088B
⚠警告 ◆坂道の途中や傾斜地での駐車はしないでください。やむをえず坂道の途中や傾斜地で駐車するときは，エンジンを停止し駐車ブレーキをかけて後輪に車止めをしてください。	機械が動き出し，思わぬ事故の原因となります。  T062

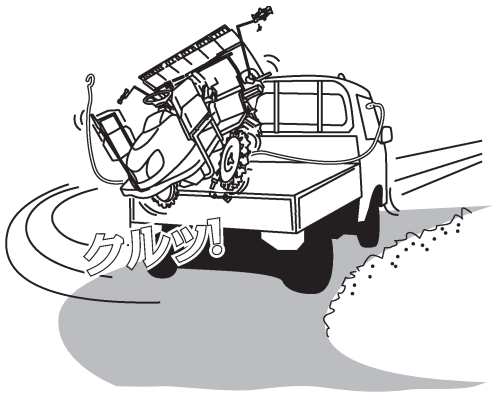
必 ず 守 っ て く だ さ い	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆急な傾斜地では作業や走行をしないでください。	機械が転倒し傷害事故を引起こします。  T087 T311
⚠警告 ◆下り坂では，副変速を《作業》にし，速度を下げてエンジンブレーキを使用してください。 ●坂の途中で危険回避などのためにやむをえず機械を停止させたいときは，ブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。	スピードが速くなり事故の原因となります。  T088B
⚠警告 ◆急な坂道では旋回をしないでください。	機械が転倒し傷害事故を引起こします。  T109
⚠警告 ◆業務用無線やアマチュア無線などの無線機器は機械の制御系に影響を与える可能性がありますので機械に設置しないでください。	安全性をそこない，思わぬ事故の原因となります。

⚠ 自動車への積込み・積降ろしをするときは……

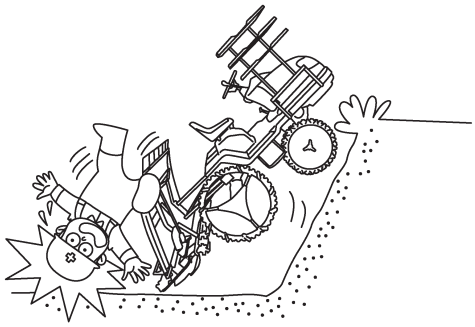
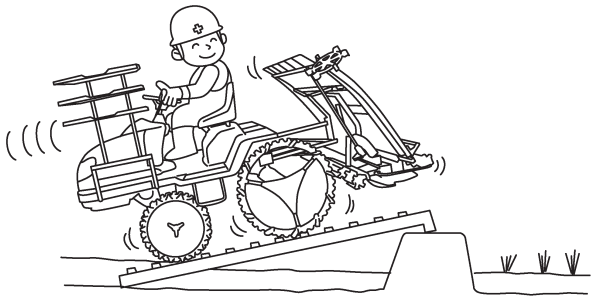
必 ず 守 っ て く だ さ い	→	守らないとこんな事故が！

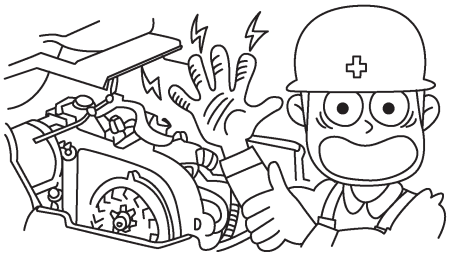
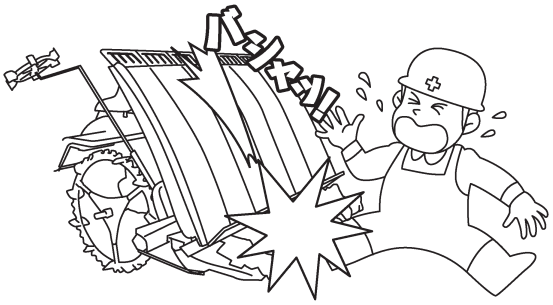
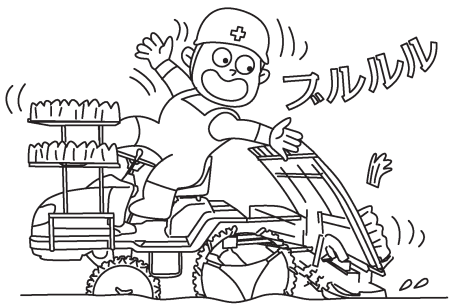
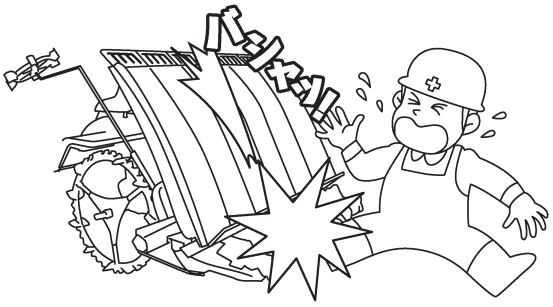
⚠警告 ◆積載重量が自動車の最大積載量を超えない車で，かつ荷台から機械がはみ出さない車を使用してください。 ●自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し変速を１速か後進に入れ，タイヤに車止めをしてください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。
⚠警告 ◆アユミは充分な強度，幅，長さ（荷台高さの４倍以上）があり，すべり止め，フックのあるものを使ってください。 ●前後輪のタイヤがはみ出さない幅の広いアユミを使用してください。	アユミが折れたりして，転倒事故を起こすことがあります。  T089
⚠警告 ◆アユミを自動車の荷台に平行に確実にかけてください。 ●２枚のアユミを左右のタイヤの間隔に合わせて置き，荷台に対して真っ直ぐにしてください。 ●荷台にアユミのフックを確実にかけ，外れないかを確認してください。	バランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。  T090
⚠警告 ◆積込みは後進，積降ろしは前進で行ってください。 ●アユミの上では必要以上のハンドル操作はしないでください。	進路変更するとバランスが崩れて，転倒事故を起こすことがあります。  T092

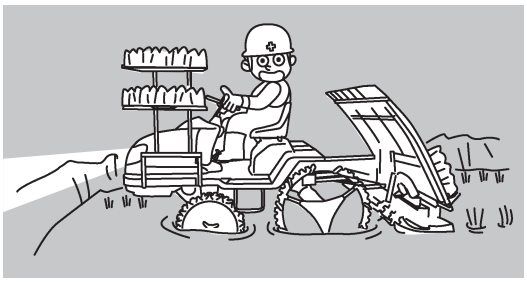
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆積込み・積降ろしするときは，補助者をつけ，補助者の指示に従って行ってください。 ●補助者は機械の直前・直後には立たせないでください。 ●機械のまわりに子供など，人を近づけないでください。	傷害事故を引起こします。  T091
⚠警告 ◆アユミの上ではブレーキペダルを踏込まないでください。 ●途中で田植機を止める必要がないよう，アユミの左右位置や平行，安定を確認し，低速で積込み・積降ろしを行ってください。	エンジンブレーキがきかなくなり，急降下して事故を起こすことがあります。  T093
⚠警告 ◆自動車（トラック）に載せて移動するときは，ロープで機械を確実に固定し，副変速を「作業」にし，駐車ブレーキをかけてください。	自動車（トラック）から機械が転落することがあります。  T094
⚠警告 ◆自動車での輸送時には機械の各カバーを固定してください。 ●カバー類などは風圧で破損，脱落のおそれがあるので，確実に固定するか，外して荷台に置いてください。	思わぬ事故を引起こす原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆輸送中の急発進，急ブレーキ，急旋回はしないでください。	輸送中に機械が動き，思わぬ事故のおそれがあります。  T312

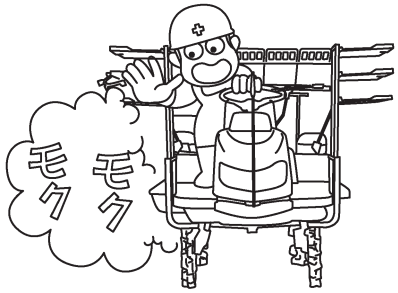
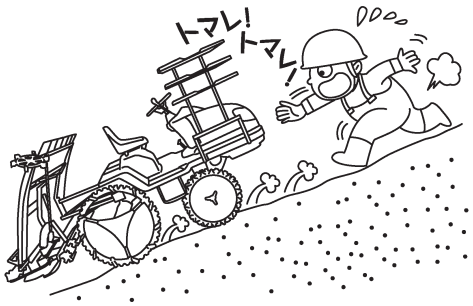
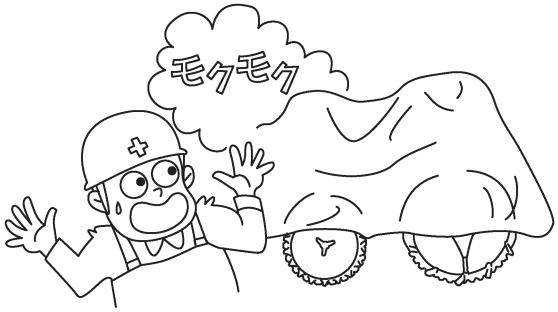
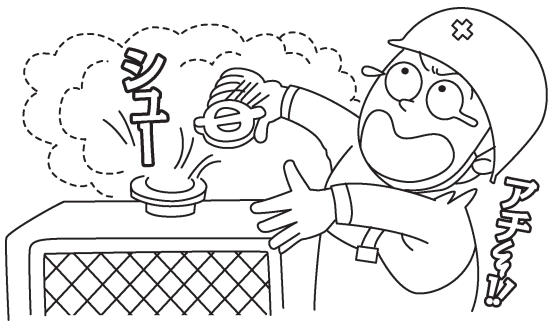
⚠ ほ場で作業をするときは……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆10㎝以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りはアユミを使ってください。 ●ほ場への出入りは上がるときは後進，降りるときは前進で低速で行ってください。	バランスを崩したりして，転倒事故を引起こします。  T073
⚠警告 ◆あぜ越えは，アユミを使い低速であぜに直角に行ってください。 ●あぜが崩れないか確認しゆっくり行ってください。	転倒事故を引起こすことがあります。  T106
⚠警告 ◆作業中は，機械に人を近づけないようにしてください。 ●ほ場に子供など，人を入れないでください。 ●子供など，人が近寄らないようにしてください。 ●わき見運転をしないでください。特にあぜ際での旋回は，周囲に人がいないことを確認してください。 ●あぜ際での作業はむりをせず，枕地に余裕をとって，周囲を確認しゆっくり旋回してください。	思わぬ傷害事故の原因となります。  T095
⚠警告 ◆作業時の旋回は，低速で行ってください。 ●旋回するときは，周囲を確認し，低速で行ってください。 ●機械の周囲に人を近づけないでください。	思わぬ傷害事故の原因となります。

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠注意 ◆作業途中で点検するときは，エンジン，マフラなどの高温部に触れないでください。	火傷することがあります。  T074
⚠警告 ◆植付爪などにかみ込んだ異物を除去するときは，植付クラッチを切りエンジンを停止してから行ってください。	植付爪などが一時的に動き出し，傷害事故を引起こします。  T055
⚠警告 ◆苗を補給するときは，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけて行ってください。	不意に機械が動き，傷害事故を引起こします。  T096
⚠注意 ◆作業中，植付部を上げた状態で点検するときは，油圧固定レバーを《油圧固定》にして行ってください。	植付部が落下して傷害事故を引起こします。  T055

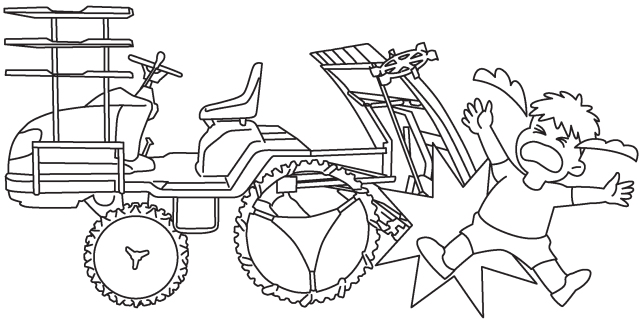
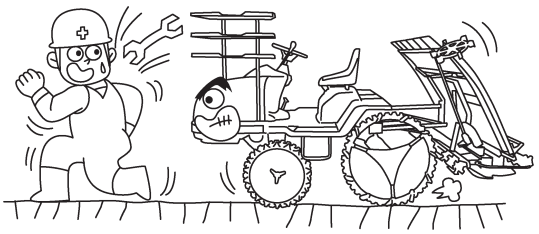
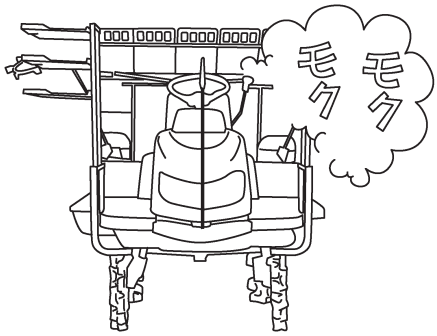
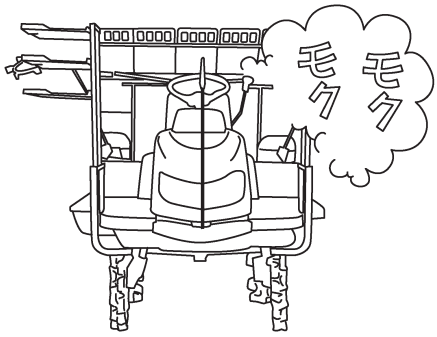
必ず守ってください	→	守らないとこんな事故が！
⚠注意 ◆夜間作業は行わないでください。		思わぬ傷害事故を引起こします。  T097
⚠警告 ◆苗つぎモードは傾斜地で使用しないでください。		停車中に動き出し事故をおこす可能性があります。
⚠警告 ◆エンジンをかけた状態で，ワラや雑草の上に駐車しないでください。		火災事故を引起こすことがあります

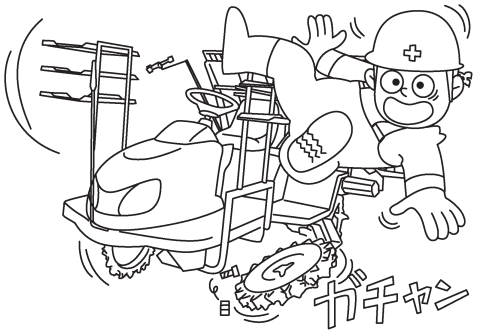
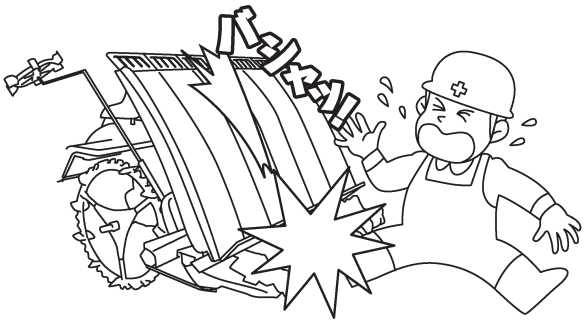
⚠ 1日の作業が終わったら……

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆作業が終了したら，平坦な場所でエンジンを停止して点検を行い，掃除をしてゴミなどを取除いてください。 ●高温部が冷えてから，エンジン，マフラ，バッテリ，燃料タンクまわりのワラクズ，草などを除去・掃除してください。	火災事故を引起こすことがあります。  T064
⚠警告 ◆保管は平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけてください。 ●スタータスイッチから始動キーを抜取ってください。 ●油圧固定レバーを《油圧固定》にしてください。	不意に機械が動き出して，思わぬ事故を引起こします。  T062
⚠警告 ◆シートカバーをかける場合は，マフラやエンジンが確実に冷えてから行ってください。	火災事故を引起こすことがあります。  T076
⚠警告 ◆ラジエータが熱いときは，ラジエータキャップを開けないでください。 ●ラジエータキャップを開ける場合は，エンジンを停止し，エンジンが冷えてからラジエータキャップを開けてください。 ●冷却水の点検はリザーブタンクで行ってください。	熱湯が吹きだし，火傷することがあります。  V211

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆機械の油漏れ，水漏れの点検は機械の温度が下がってから行ってください。	高温の油や水が皮ふに触れると火傷をするおそれがあります。
⚠警告 ◆ヘッドランプを点灯すると，ランプ表面も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。	高温のランプ表面に触れると火傷をするおそれがあります。

⚠ 長期格納するときは……

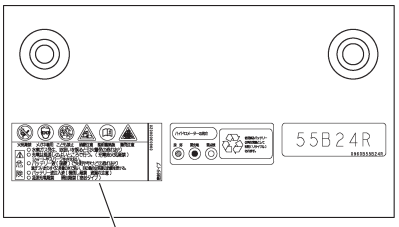
必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆各部を水洗いして平坦な場所でエンジンを停止し，駐車ブレーキをかけて車止めをして，始動キーを抜取ってください。	機械から目をはなしたすきに子供などがイタズラをしたりして，思わぬ事故の原因となることがあります。  T077
⚠警告 ◆故障箇所があれば，早目に修理，交換してください。 ⚠警告 ◆ボルトやナットがゆるんだ状態であれば，直ちに締付けてください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。  T057
⚠警告 ◆バッテリは田植機から外して保管するか⊖側のコードを外しておいてください。 ●バッテリを田植機から外して保管するときは，⊖側のコードから外してください。 ●１ケ月に１回程度補充電してください。	事故の原因となることがあります。  T078
⚠警告 ◆燃料コックを閉じてください。	思わぬ火災事故を起こす場合があります。  T078

必ず守ってください	守らないとこんな事故が！
⚠警告 ◆シーズン終了後には定期点検を受けてください。 ● 1年ごとに定期点検・整備を「お買いあげ先」で純正部品を使用して行って，各部の保安を確保してください。	整備不良が原因で思わぬ事故を引起こすことがあります。  T058
⚠注意 ◆植付部は降ろしておいてください。 ●油圧固定レバーを《油圧固定》にしてください。 ●苗のせ台を中央に止め，苗のせ台，補助苗台の上に物をのせないでください。	植付部が下がり，思わぬ事故を引起こすことがあります。  T055

2. 表示ラベルについて

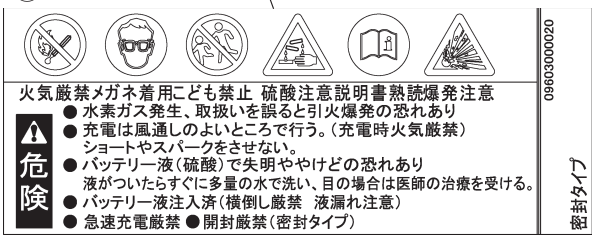
この機械には各運転装置の近くに各々の安全な取扱いかたについて説明している表示ラベル（危険ラベル・警告ラベル・注意ラベル）が貼り付けてあります。各々のラベルの説明をよくお読みいただき守ってください。

また，機械に貼ってあるラベルが破損したりして読めなくなった場合やラベルの貼ってある部品を交換する場合は新しいラベルを**「お買いあげ先」**に注文して購入し貼り替えてください。

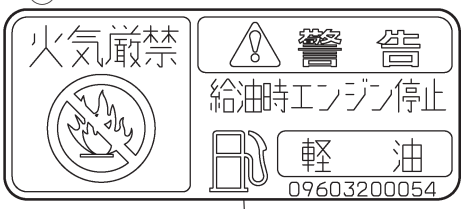


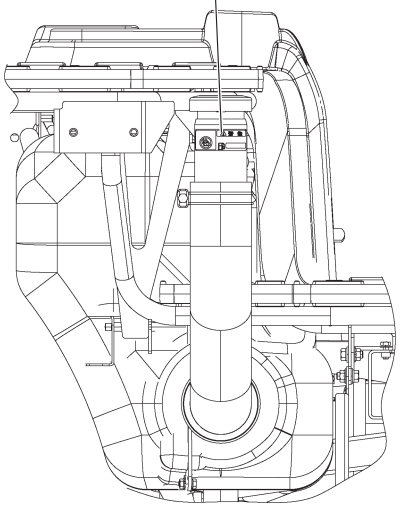
（バッテリ上面）

⑩



③





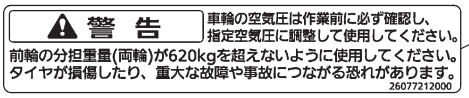
④

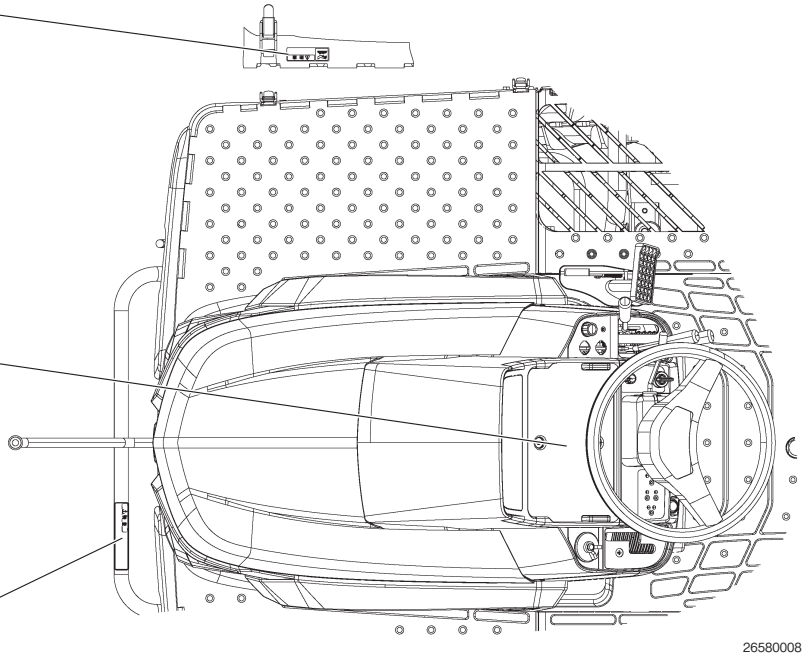


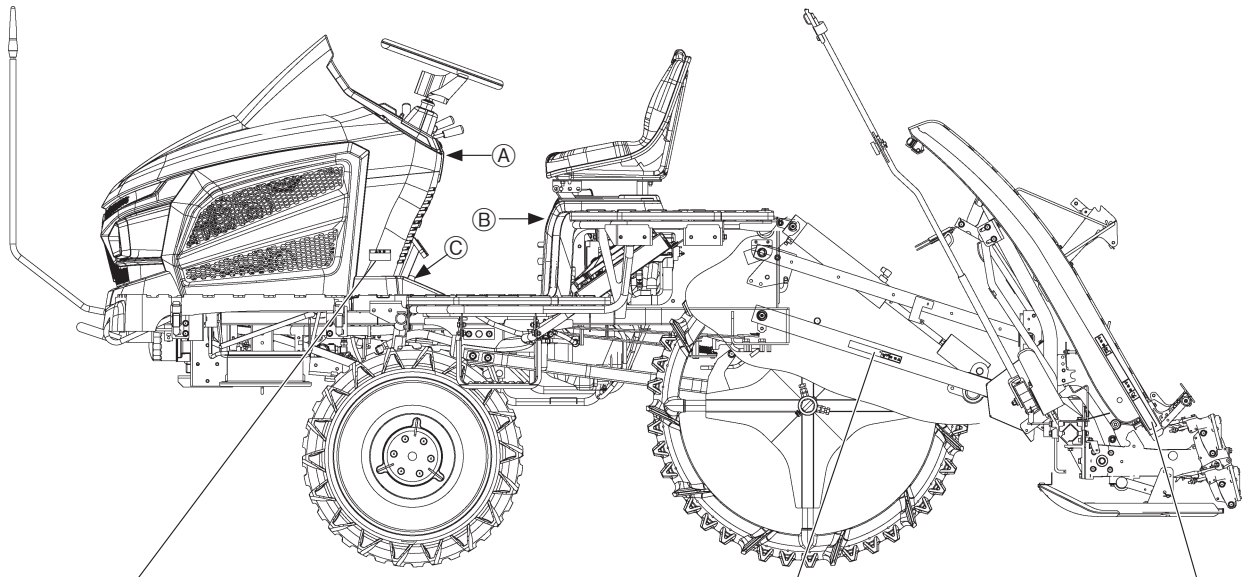
⑫（点検用カバー内）



⑬（T仕様のみ）







26580012

⑥

⚠ 注 意

●カバーを取外したままで使用するとケガをするおそれがありますので、取付けて使用してください。

09603100017

⑦

⚠ 警 告

●回転軸にふれるとケガをするおそれがあります。回転中は手、足、衣服等を近づけないでください。

27087437000

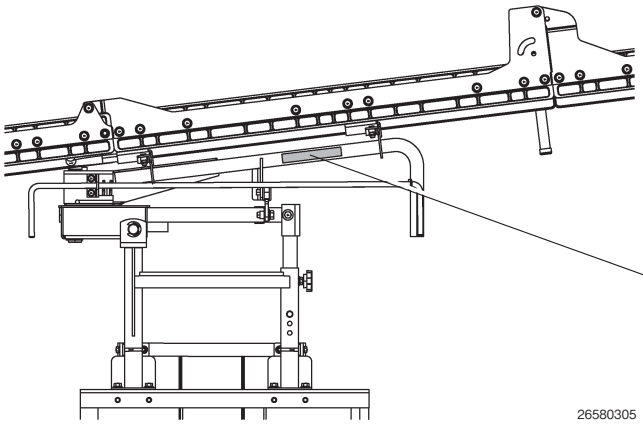
（右 1 箇所）

⑤

⚠ 注 意 ●マーカが人・物にぶつかるおそれがあります。作業時以外は，風車を取り外しマーカを収納してください。 09603200076

⚠ 警 告 ●植付爪に接触するとケガをするおそれがあります。異物を除去、点検、調整時はエンジンを停止してください。

（左 1 箇所）



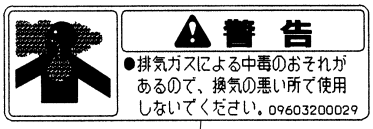
26580305

⑪

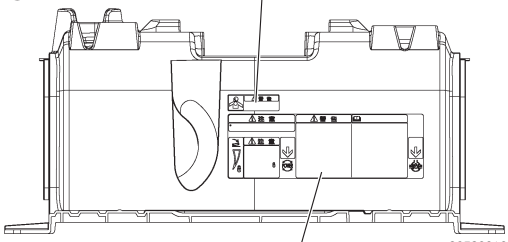
⚠ 注 意 ●ナエスライダーの回動時は、周囲を確認し、ゆっくり行ってください。

26007142000

②

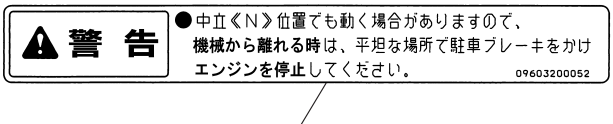


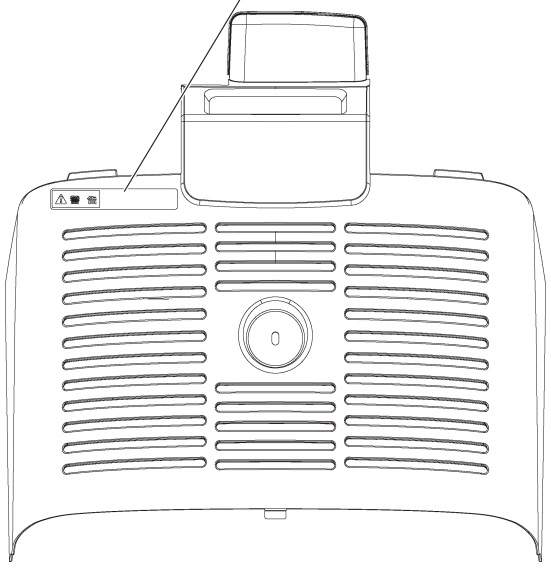
Ⓑから見た図



26580010

⑧

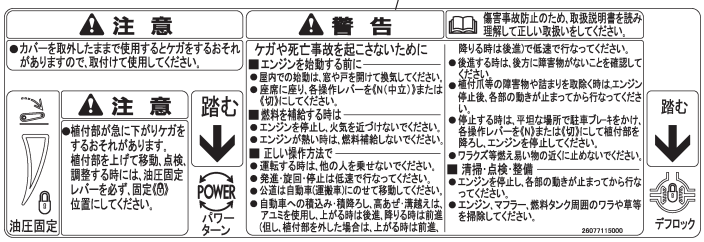


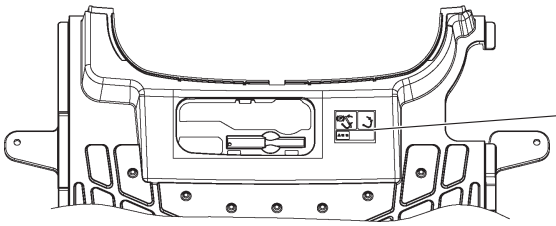


26580065

Ⓐから見た図

⑨





26580011

Ⓒから見た図

①

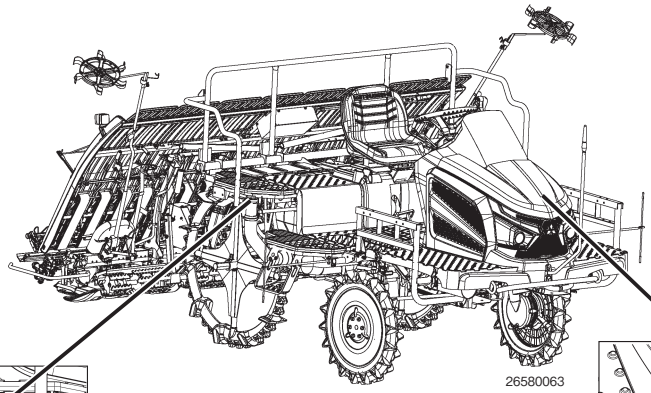


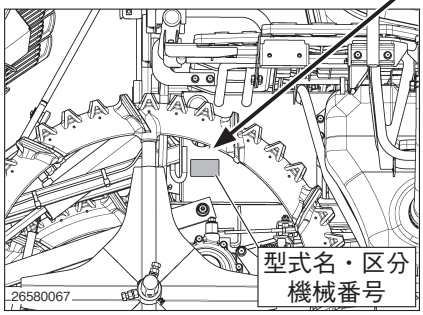
No.	部 品 名 称	部品番号	No.	部 品 名 称	部品番号
①	トリアツカイマークD (チュウイラベルブレーキ)	2607 7108 000	⑧	ケイコクラベルストップ	0960 3200 052
②	ケイコクラベルハイキ	0960 3200 029	⑨	ケイコクラベルジョウタ	2607 7115 000
③	ケイコクラベル（ケイユ）	0960 3200 054	⑩	キケンラベルバッテリ	0960 3000 020
④	チュウイラベルマフラー	0960 3100 026	⑪	チュウイラベル(ナエスライダー)	2600 7142 000
⑤	ケイコクラベルウエツケツメ	0960 3200 076	⑫	ケイコクラベルラジエータ	0960 3200 013
⑥	チュウイラベルカバー	0960 3100 017	⑬	ケイコクラベルタイヤ （T仕様のみ）	2607 7212 000
⑦	ケイコクラベルカイテンジク	2708 7437 000			

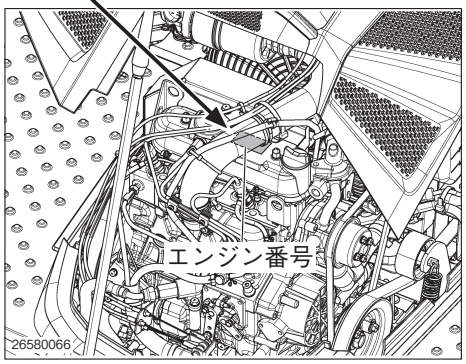
ご使用まえに

1．保証とサービスについて

・この機械には保証書が添付されていますので，ご使用まえによくお読みください。
・この機械のサービスについてのお問い合わせや部品などのご用命のときは「**お買いあげ先**」にご相談ください。その際「**型式名**」・「**区分**」・「**機械番号（製造番号）**」と「**エンジン番号**」をお知らせください。







・補修用部品の供給年限について

・この製品（機械）の補修用部品の供給年限（期間）は，製造打ち切り後11年といたします。
ただし，エンジン部品については，製造打ち切り後９年といたします。
※供給年限内でも特別な事情により供給できない部品も一部ございます。詳しくは三菱農業機械取扱店までお問い合わせください。

・補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期および価格についてご相談させていただきます。

・機械の使用目的について

・機械は**田植作業**に使用してください。
・機械を使用目的以外の作業に使用したり，改造した場合は保証の対象となりませんのでご注意ください。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆機械を使用目的以外の作業に，使用しないでください。
◆機械を改造しないでください。
◆使用目的以外の作業や改造すると，本来の機能を発揮できないばかりか，人身事故の原因になることがあります。

2. 仕様（装備）について

機械の主な仕様（装備）はつぎの表のようになっています。

仕様（装備）の異なった製品については，異なる点のみ追加説明をしていますので，お買いあげの機械の仕様（装備）をお確かめのうえ，お間違いのないようにしてください。

名称	区分＼仕様	ディーゼルエンジン（D1105-E4B）	油圧ポンプエンジン直装	作業速度 作業速度1.95m／S	作業速度 作業速度1.65m／S	燃料タンク 39L	パワステ	HST+副変速2段	スマイルターン（パワーターン付き）	前輪デフ（ロック付）	前輪独立懸架	四輪ブレーキ	ハイクリアランス 460㎜	フロントフラットステップ	条間 30cm	株数 100・85・75・65・60・50株／3.3㎡ 密植植え（2本爪）	株数 50・42・37株／3.3㎡ 疎植植え（1本爪組替時）	施肥機 ペースト 側条用施肥機（180Lタンク）	施肥機 ペースト 2段施肥機	施肥機 ミッド粒状施肥機（跳ね上げ式ホッパー）	前輪 ハブ式装着	前輪 ノーパンクワイド φ650×95	前輪 空気入 φ650×142	後輪 押しボルト固定	後輪 太リム φ950×150	後輪 外側補助車輪
																											OP
XPS8 XPS6	B	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○		○	○	
	BP	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	
	BPN	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	
	BR	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	
	BE	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○		○	○	
	BPE	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○	
	BPNE	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	
	BRE	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○		○	○	
XPS8	BTP	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	
	BTPN	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	
	BTPE	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○	○	
	BTPNE	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	

SE－Navi	苗スライダー（両側）	苗スクレーパ	警報（ホーン）	ウィンカー	サポートフレーム（側方）	サポートフレーム（後方）	フロントウエイトブラケット	ロング苗台／ロングベルト	横送り　4段（20・26・40・52）	縦送りラチェット	前輪ホイールキャップ（樹脂製）	デラックス機能												
												自動マーカー切替	マイコン		ワイドステップ	植付スライド部注油	肥料切れお知らせシグナル	バックアップ	まくらっこ手元ダイヤル操作	まくらっこ深さ車速連動	植付部端寄せ	電動風車マーカー	ジャストメジャー	旋回アップダイヤル	植付自動（スーパースマイルターン）	スマイルシフト	クイックアップ
													ジャストマチック（水平）	ジャストフィット（油圧）									**[8条型]**（1行程測定機能） **[6条型]**（2行程測定機能）			
○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○		1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

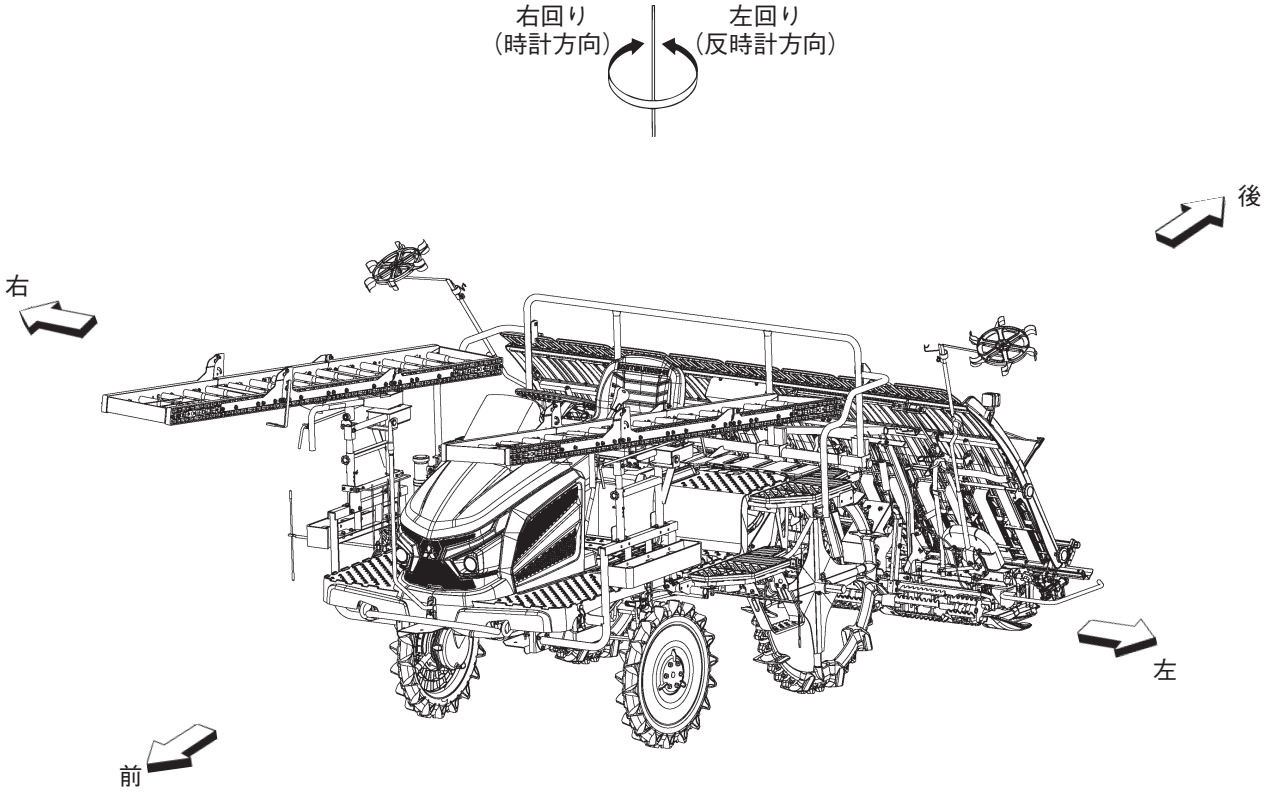
（詳細な仕様は131ページの**「主要諸元表」**を参照ください。）

型式記号の説明：P＝ペースト施肥機付，PN＝二段ペースト施肥機付，R＝粒状施肥機付

B＝密植仕様，E＝SE－Navi付，T＝湿田仕様

3. 用語について

⑴ この取扱説明書に使用している**「前後・左右・右回り・左回り」**などの用語は図示のとおりです。



⑵ **型式表示**

・この取扱説明書はXPS8B型を基本に説明し，そのイラストを主に使用しています。

・型式により仕様（装備）が異なるため取扱方法が変わる点は，その都度仕様ごとに記号を表示し，追加説明しています。

⑶ **マークの説明**

この取扱説明書ではその都度守っていただきたい事柄をつぎのマークを使用して説明しています。

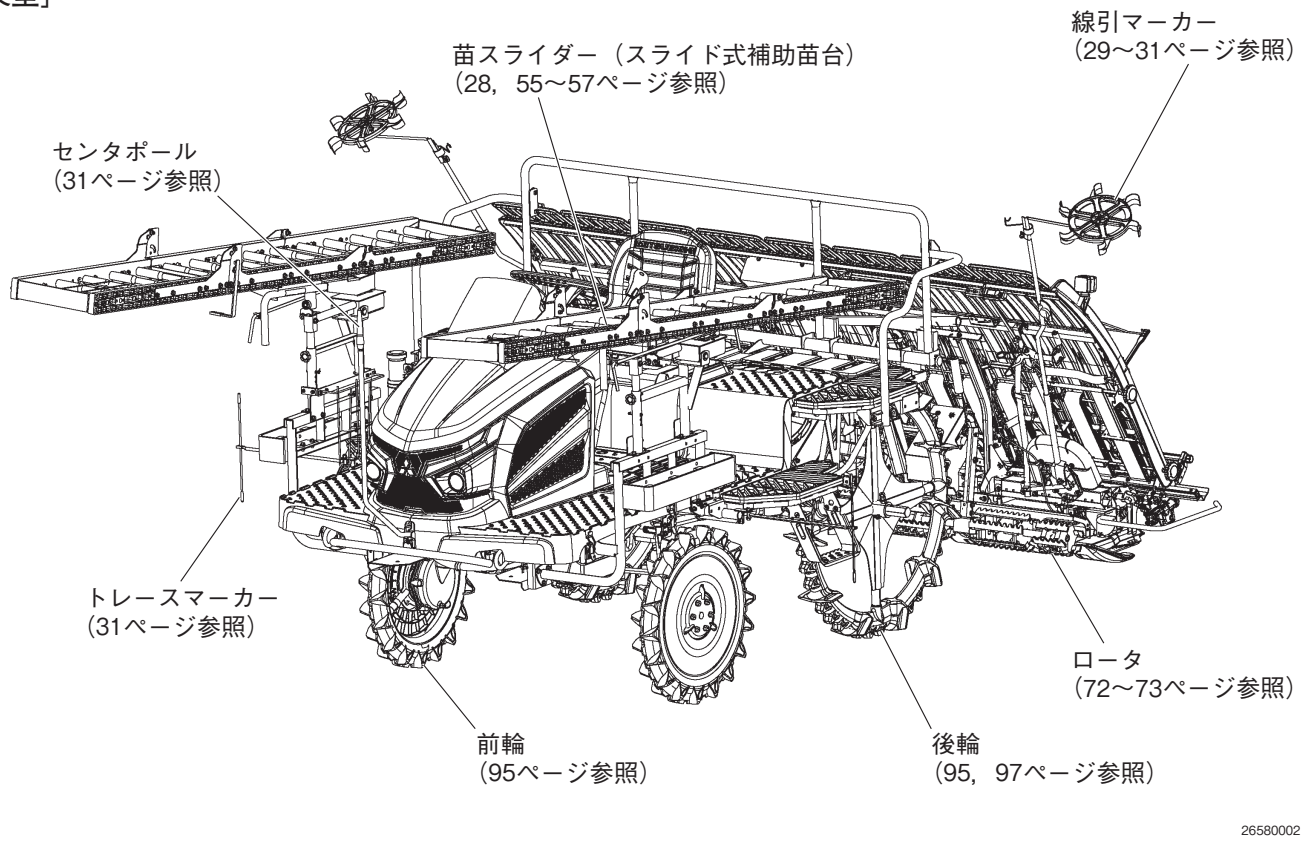
・危険 警告 注意 ……安全上重要な事項を３段階に分けて説明していますので必ず読んでください。

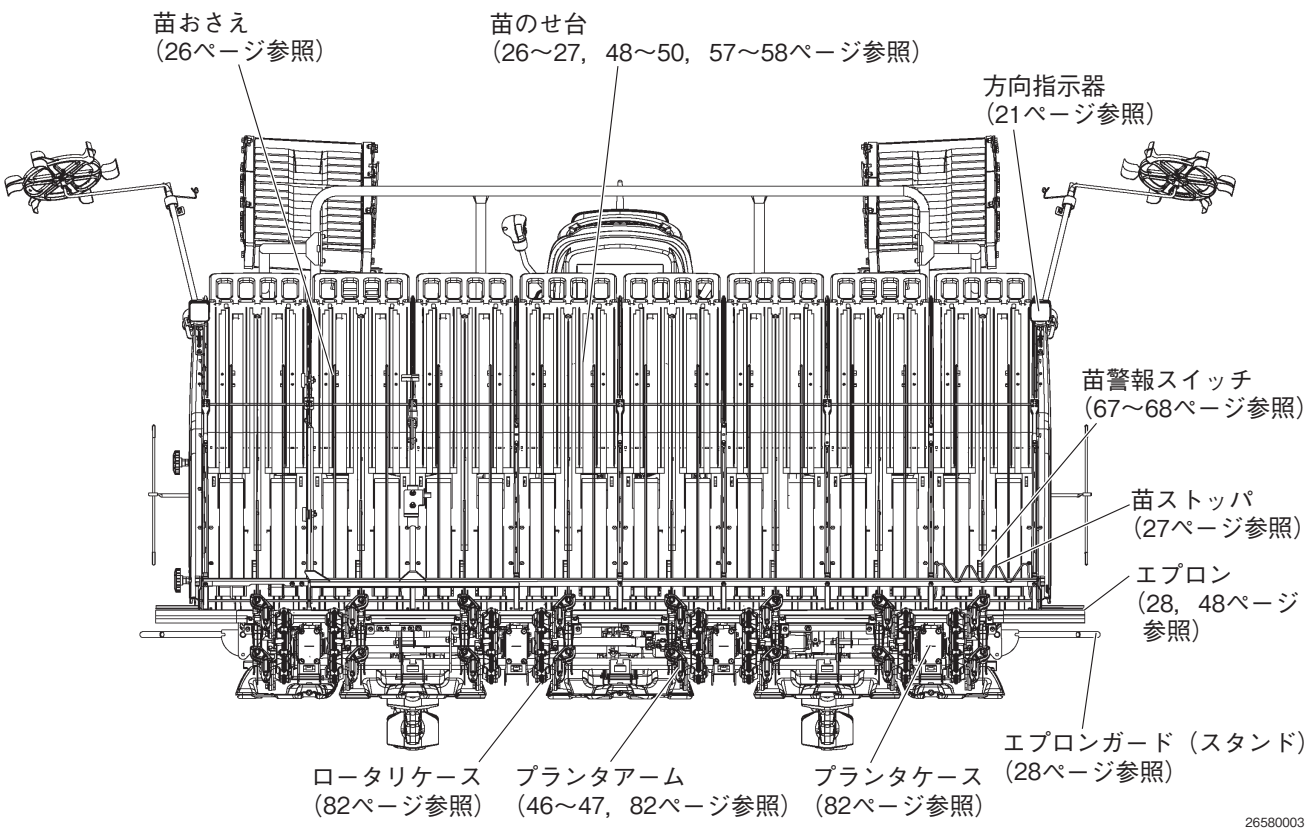
・**取扱いのポイント** ……機械の機能・性能上に関する説明です。守らないと故障の原因になることがあります。

各部のはたらき

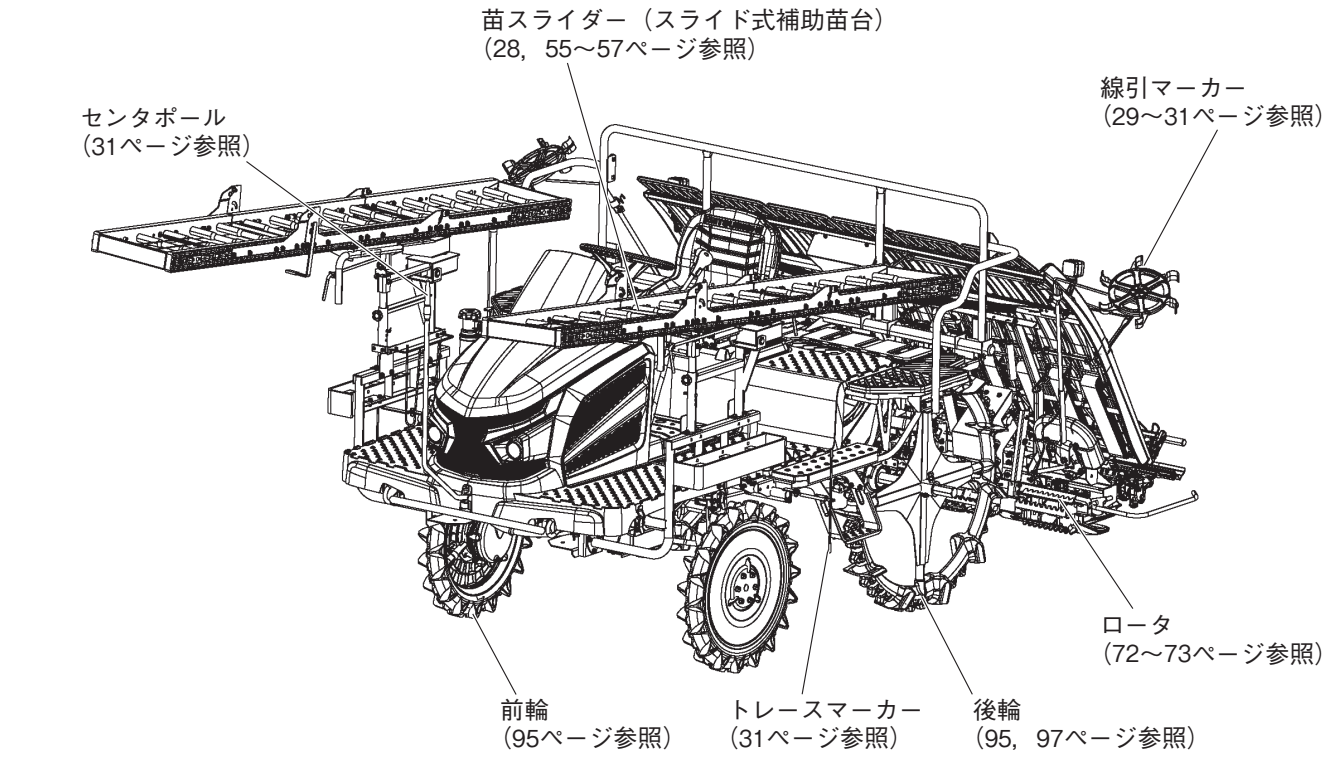
1．各部の名称

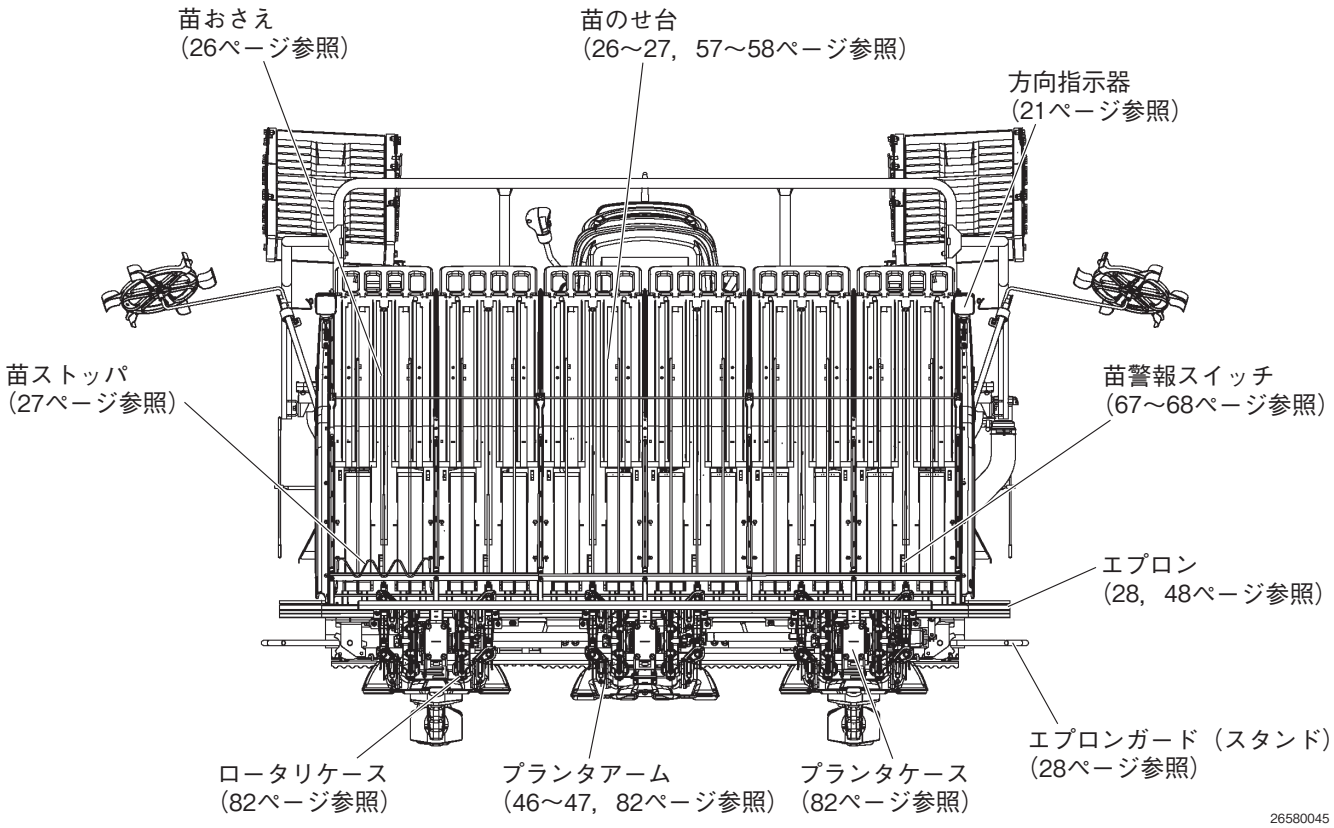
［８条型］



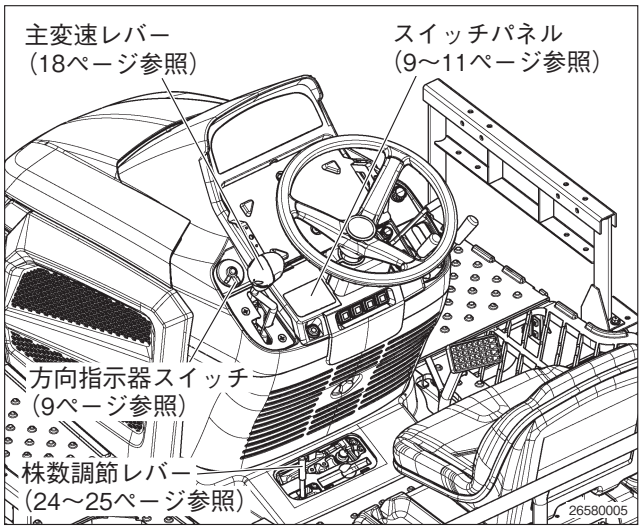


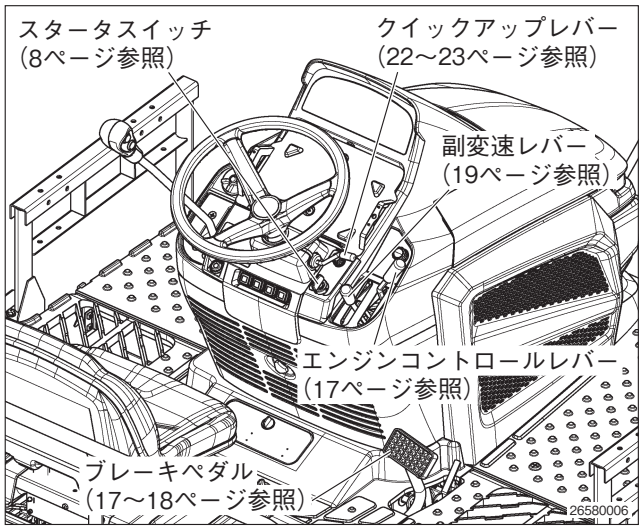
［6条型］


苗スライダー（スライド式補助苗台）
（28，55～57ページ参照）
センタポール
（31ページ参照）
線引マーカー
（29～31ページ参照）
ロータ
（72～73ページ参照）
前輪
（95ページ参照）
トレースマーカー
（31ページ参照）
後輪
（95，97ページ参照）
26580039

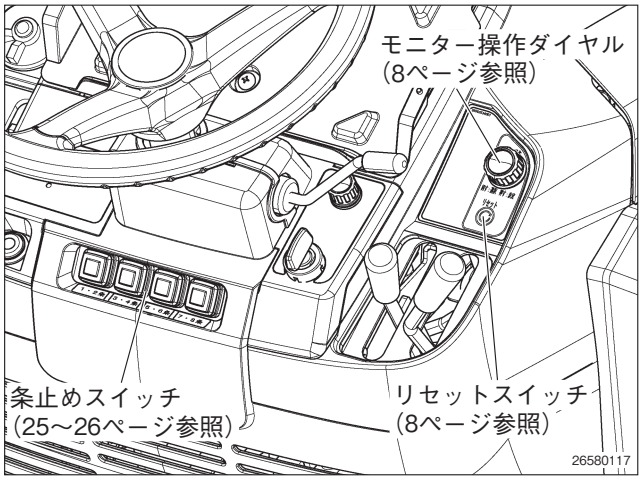

苗おさえ
（26ページ参照）
苗のせ台
（26～27，57～58ページ参照）
方向指示器
（21ページ参照）
苗ストッパ
（27ページ参照）
苗警報スイッチ
（67～68ページ参照）
エプロン
（28，48ページ参照）
エプロンガード（スタンド）
（28ページ参照）
ロータリケース
（82ページ参照）
プランタアーム
（46～47，82ページ参照）
プランタケース
（82ページ参照）
26580045

運転操作部

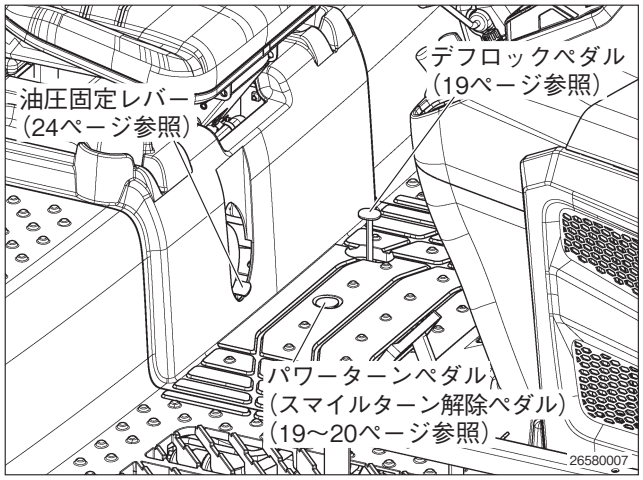




植付操作部

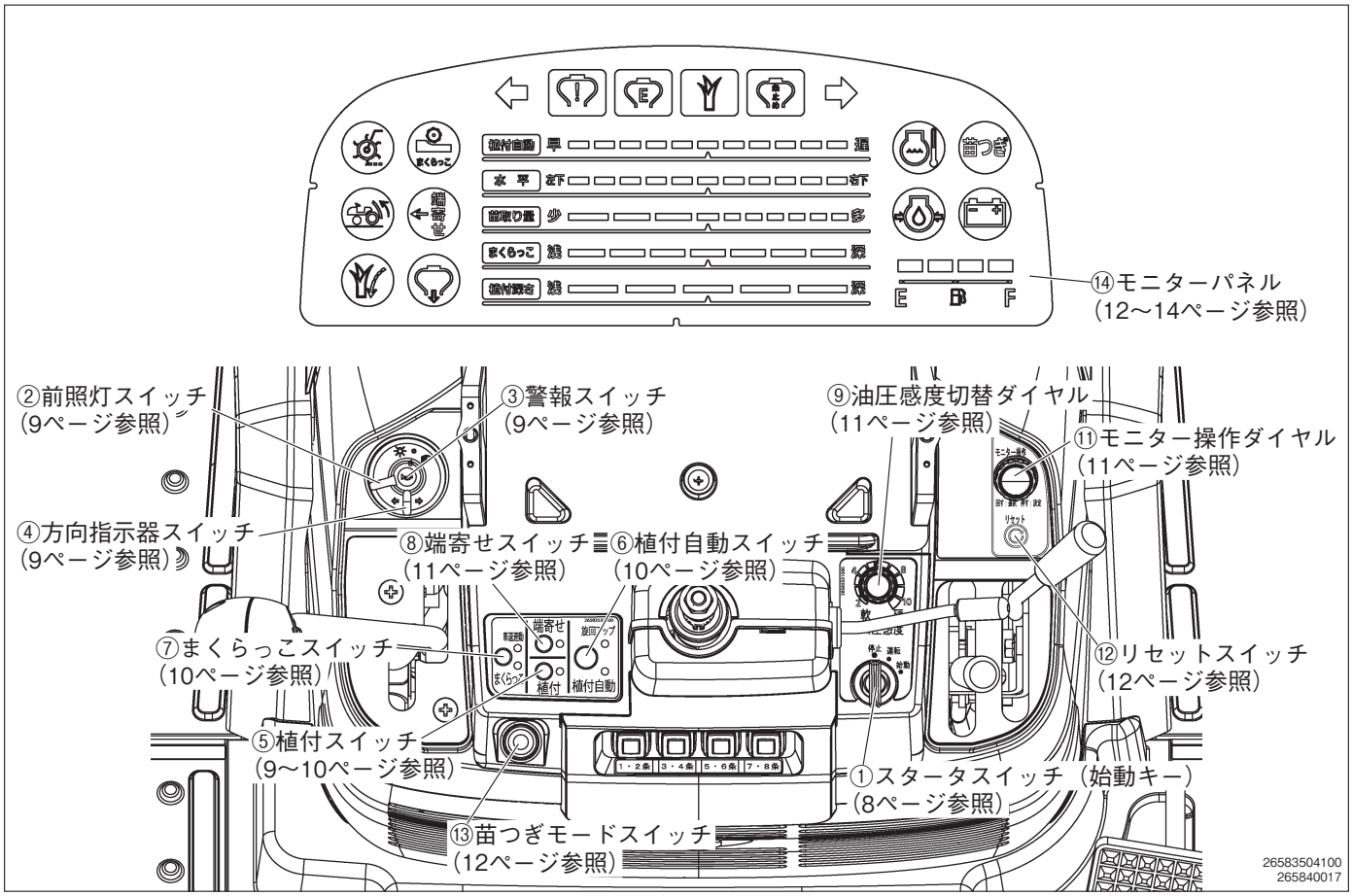


座席下操作部



2. 運転装置の取扱い

1. スイッチ・計器関係



❶ スタータスイッチ（始動キー）

⚠警告 傷害事故防止のために

◆機械を使用しないときは始動キーを抜いておいてください。

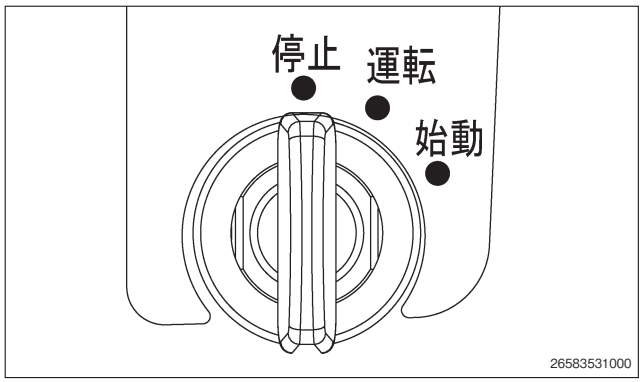
・エンジンの「**運転・停止**」を切換えるスイッチです。

《**停止**》…エンジンが「**停止**」します。（この位置で始動キーを抜き差しできます。）

《**運転**》…エンジン「**運転**」の位置です。

《**始動**》…エンジンが「**始動**」します。

・ブレーキペダルをいっぱいに踏込んで，始動キーを《**始動**》位置にするとエンジンが始動し，手を離せば始動キーは自動的に《**運転**》位置に戻ります。

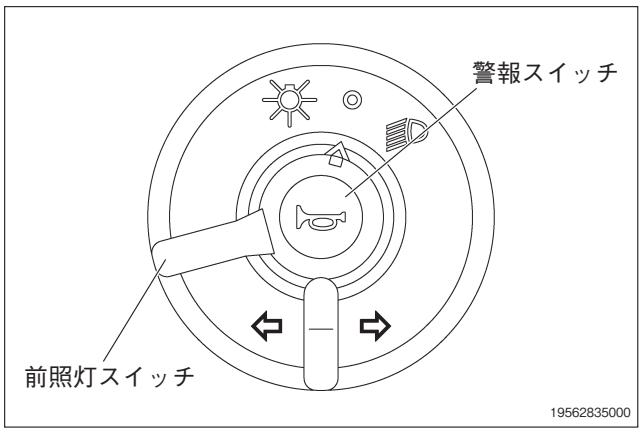


取扱いのポイント

- **寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスタータスイッチを《運転》位置で約５秒待ってから《始動》位置に回してください。**
- **スタータスイッチを《始動》位置で５秒以上使用すると故障の原因になります。**

●エンジン回転中にスタータスイッチを《始動》位置に回すと故障の原因になります。
●ブレーキペダルに始動安全スイッチがついていますので，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないと，エンジンは始動できません。

❷ 前照灯スイッチ



前照灯の「**点灯**」「**消灯**」を切り替えるスイッチです。

《 ◎ 》……消灯

《 🚙 》……前照灯が点灯します。

❸ 警報スイッチ

スタータスイッチを《**運転**》位置にして，警報スイッチを押すと警報ブザーが鳴ります。

取扱いのポイント

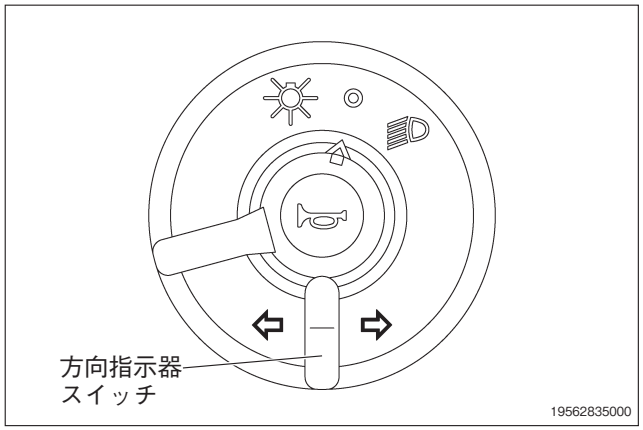
●警報ブザーはエンジンを始動するときや発進するときおよび機械周辺の人への合図に使用します。
●警報ブザーが鳴っているとき，警報スイッチを押せばブザーが停止しますが，モニターパネルのランプは消灯しません。
●警報ブザーを警報スイッチで停止させた後，苗や肥料の補給がなかった場合には，植付部の下降時に警報ブザーで再警告します。（再警報機能）
●肥料詰まり警報のブザーは警報スイッチを押しても停止しません。

❹ 方向指示器スイッチ



方向指示器（左），（右）を点滅させます。

右折，左折のときに使用します。



△（中央）…方向指示器が「**消灯**」します。

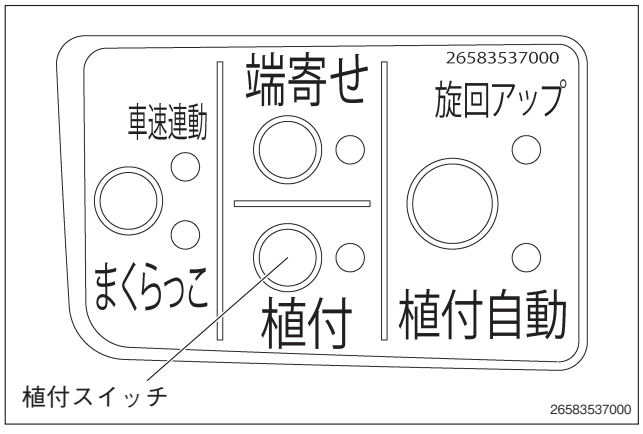
⇨（右）……右側の方向指示器が「**点滅**」します。

⇦（左）……左側の方向指示器が「**点滅**」します。

❺ 植付スイッチ

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行運転するときは植付スイッチを《切》にしてください。



・各モニターおよび装置を《**入**》「**作動状態**」および《**切**》「**停止状態**」に切り替えるスイッチです。



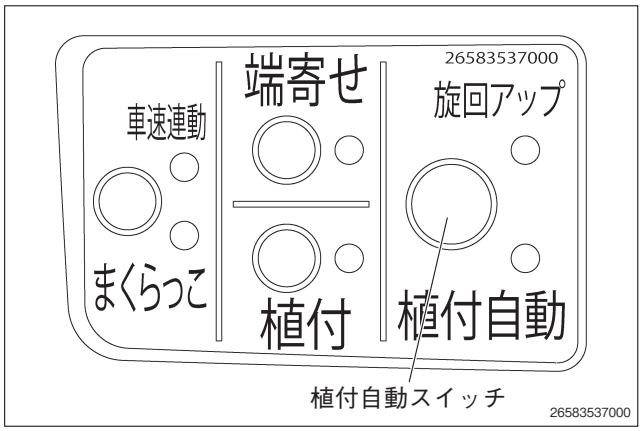
植付スイッチを押すたびに《**入**》「**作動状態**」⟷《**切**》「**停止状態**」が切り替わります。

《**入**》「**作動状態**」のときは植付スイッチランプとマーカーモニターが点灯します。

取扱いのポイント

- **作業中は，植付スイッチを《入》にしておかないと植付作業ができません。**
- **植付け作業時以外は，植付スイッチを《切》にしてください。**

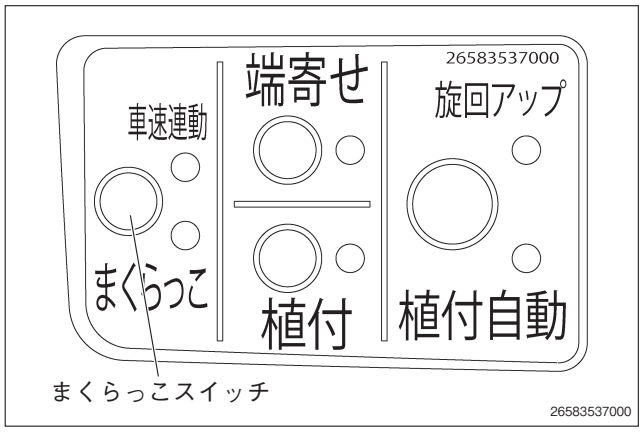
❻ 植付自動スイッチ（スーパースマイルターン）



ハンドルを回し旋回するだけで自動で植付部を「**上げ**」「**下げ**」し，植付スタート位置まで進むと自動で植付クラッチを「**入**」にするスイッチです。スイッチを押すたびに植付自動の各機能が切替わります。機能の入切状態は植付自動スイッチランプと旋回アップランプの「**点灯**」・「**消灯**」で確認します。

・植付自動スイッチランプ「**消灯**」／
　旋回アップランプ「**消灯**」
　…植付自動機能が《**切**》の状態です。
・植付自動スイッチランプ「**点灯**」／
　旋回アップランプ「**消灯**」
　…植付自動機能が《**入**》の状態です。
・植付自動スイッチランプ「**消灯**」／
　旋回アップランプ「**点灯**」
　…植付自動機能が《**切**》の状態で，オートアップのみ《**動作**》する状態です。

❼ まくらっこスイッチ



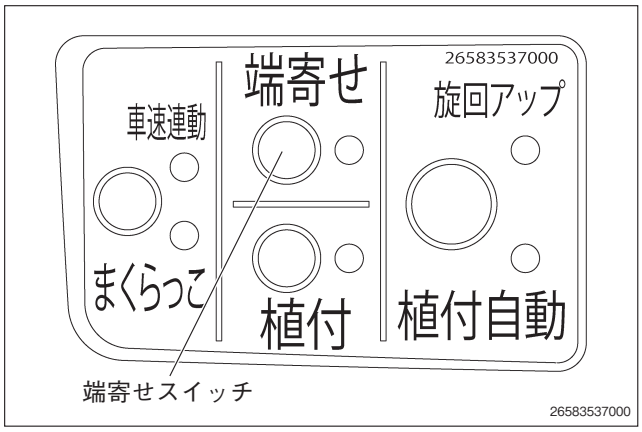
スイッチを押すたびにまくらっこの《**作業**》⟷《**格納**》と車速連動機能の入切が切替わります。

まくらっこと車速連動機能の入切状態は，まくらっこランプと車速連動ランプの「**点灯**」・「**消灯**」で確認します。

・まくらっこランプ「**消灯**」／
　車速連動ランプ「**消灯**」
　…まくらっこ《**収納**》，車速連動機能《**切**》の状態です。
・まくらっこランプ「**点灯**」／
　車速連動ランプ「**消灯**」
　…まくらっこ《**作業**》，車速連動機能《**切**》の状態です。
・まくらっこランプ「**点灯**」／
　車速連動ランプ「**点灯**」
　…まくらっこ《**作業**》，車速連動機能《**入**》の状態です。

車速連動機能の詳細は71ページを参照。

❽ 端寄せスイッチ

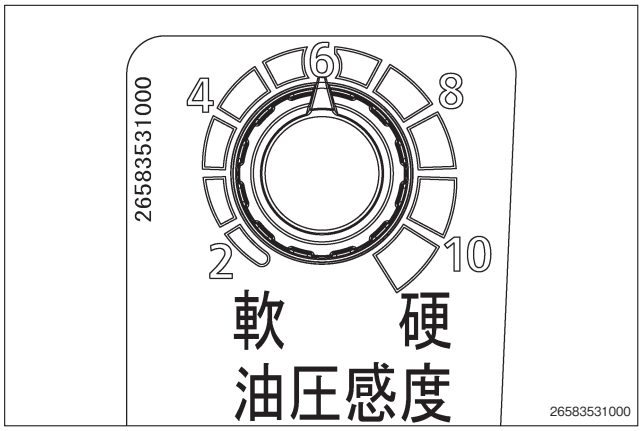


端寄せ停止機能の《**入**》《**切**》を切替えるスイッチです。端寄せ停止機能（48ページ参照）が《**入**》のときに端寄せランプが点灯します。

❾ 油圧感度切替ダイヤル

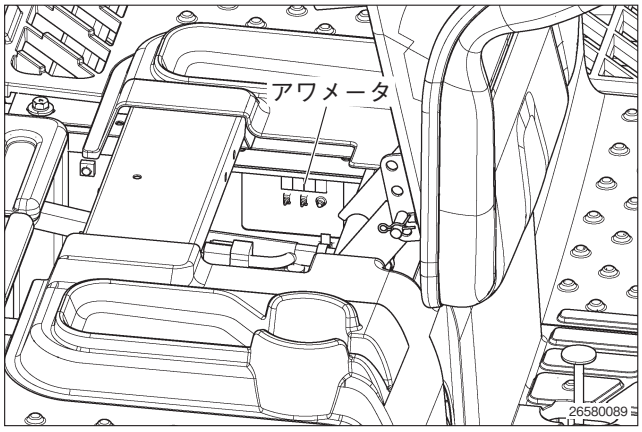
フロートによりほ場表面の整地を良くするため，ほ場表面のやわらかさの状態に合わせて植付部の「**上下動感度**」を調節する装置です。

・油圧感度切替ダイヤル



❿ アワメータ

稼働時間を表示し，たとえば19.1は19.1時間（19時間６分）使用したことを示します。



⓫ モニター操作ダイヤル

モニターパネルに表示されている田植機の各種設定を変更および確定するダイヤルスイッチです。

モニター操作ダイヤルはモニターパネルに表示される内容を確認しながら操作します。

モニター操作ダイヤルでは２種類の操作を行います。

⑴ 押し込み操作

ダイヤルの中央を押すことで各種設定の表示モード，項目選択モード，調節モードに切替えることができます。（14～16ページ参照）

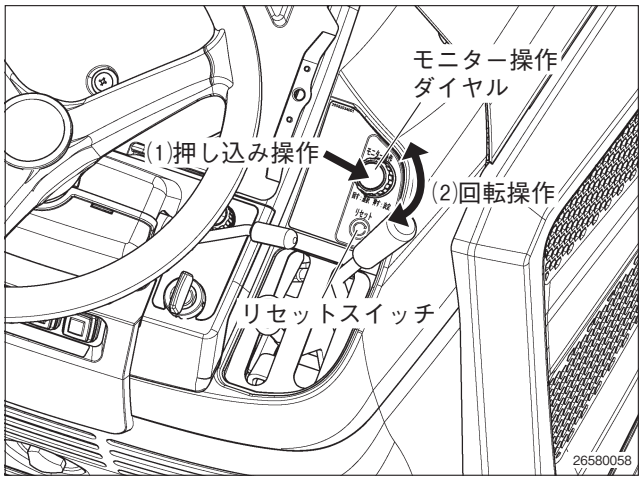
モード切替時はブザーが「**ピッ**」と鳴ります。

《**表示モード**》でダイヤルを押すことで《**項目選択モード**》に切替わります。

《**項目選択モード**》でダイヤルを押すことで《**調節モード**》に切替わります。

《**調節モード**》でダイヤルを押すことで調節量が確定され，《**項目選択モード**》に切替わります。

モニター操作ダイヤルを押し確定されるとブザーが「**ピッ**」となります。



⑵ 回転操作

《**項目選択モード**》でダイヤルを回すことで調節項目を切替えることができます。

《**調節モード**》でダイヤルを回すことで調節量を調節できます。

⑫ リセットスイッチ

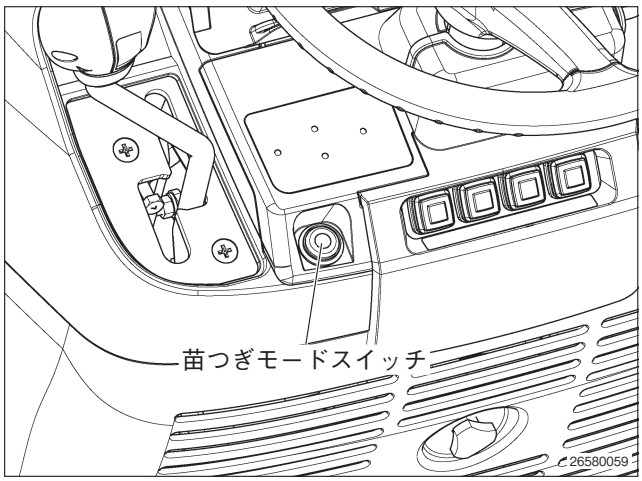
リセットスイッチはモニター操作ダイヤルで《**項目選択モード**》または《**調節モード**》のときにひとつ前のモードに戻すスイッチです。(14〜16ページ参照)

リセットスイッチを長押しすると《**項目選択モード**》または《**調節モード**》から《**表示モード**》に戻ります。

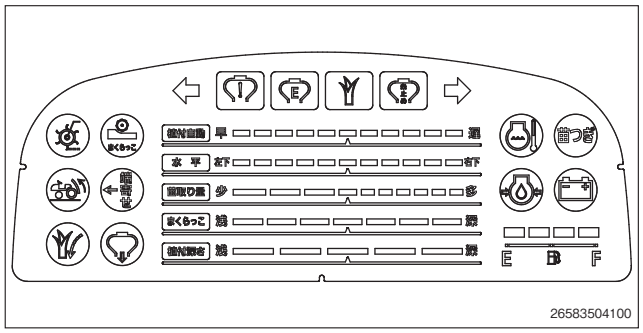
⑬ 苗つぎモードスイッチ

苗つぎモードスイッチは一時的にエンジンを停止するスイッチです。

前照灯が《**入**》のときに苗つぎモードスイッチを《**入**》にすると点灯します。



⑭ モニターパネル



(1) 燃料モニター



・燃料の残量をランプ点灯で示します。

燃料が減ると目盛りの右端から1目盛りずつ点灯→点滅→消灯と変化していきます。残量が少なくなると左端の赤い目盛りが点滅します。

(2) 肥料補給モニター［施肥機装着仕様］



・残量が少なくなると肥料モニターが「**点灯**」し警報ブザーが鳴ります。

(3) 方向指示器モニター／線引マーカーモニター



・旋回する方向に方向指示器スイッチを操作し，方向指示器モニターが「**点滅**」します。

⇨（右）……「➡」が「**点滅**」します。

⇦（左）……「⬅」が「**点滅**」します。

△（中央）…「➡」「⬅」は「**点滅**」しませんが植付スイッチ《**入**》のとき，線引マーカーモニターとして作用し，線引マーカーを出す側の線引マーカーモニターが「**点灯**」します。

方向指示器モニターと線引マーカーモニターでは方向指示器モニターが優先されます。例えば，方向指示器スイッチが⇨（右）または⇦（左）のときにマーカー操作をしても「⬅」または「➡」は点滅したままとなります。

(4) 水温モニター



・エンジンの冷却水温度が異常に上昇（**オーバーヒート**）すると，「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

警報音は，エンジン回転が中速以上で連続音，エンジン回転が中速以下だと断続音が鳴ります。

警報音は，オーバーヒート状態を解消しないと止まりません。

取扱いのポイント

- **運転中に水温モニターが点灯したら直ちに作業を中止し，温度が下がるまでエンジンのみ「低速運転」してください。**
- **冷却水の温度が下がり，モニターが消灯したら，エンジンを停止してください。その後冷却水の量，ラジエータの目詰まり，ファンモータを点検してください。冷却水量，ラジエータの目詰まり，ファンモータが正常であれば，ほかに異常があります。ただちに点検を受けてください。**

⑸ **チャージモニター**



・エンジン運転中，充電系統に異常があると「**点灯**」します。
・正常なときは，スタータスイッチを《**運転**》位置にすると「**点灯**」し，エンジンが始動すると消灯します。

⑹ **エンジンオイルモニター**



・エンジン運転中，エンジンの潤滑系統に異常があると点灯します。

エンジンが停止しているとき，始動キーを《**運転**》にするとエンジンオイルモニターが点灯し，エンジンを始動するとエンジンオイルモニターが消灯するのが正常です。

取扱いのポイント

- **運転中にエンジンオイルモニターが点灯したときは，直ちにエンジンを停止しエンジンオイル量を点検してください。(77～78ページ参照) オイル量が適量であれば，ほかに異常があります。「お買いあげ先」にて点検を受けてください。**

⑺ **苗補給モニター**



・苗のせ台の苗の残量が少なくなると苗補給モニターが「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。

⑻ **植付モニター**



・植付クラッチが《**入**》の状態のときは植付モニターが「**点灯**」します。

⑼ **施肥モニター〔施肥機装着仕様〕[ペースト仕様のみ]**



・施肥装置（ポンプ）が駆動しているときは施肥モニターが「**点灯**」します。

⑽ **施肥条止めモニター〔施肥機装着仕様〕**



・ペースト施肥機において施肥切替レバーで各条の施肥を止めているときに施肥条止めモニターが「**点灯**」します。
・植付条止めスイッチを《**入**》にしたときも，施肥条止めモニターが点灯します。

⑾ **まくらっこモニター**



・まくらっこが作動状態のときはまくらっこモニターが「**点灯**」します。

⑿ **植付自動モニター**



・植付自動スイッチが《**入**》の状態のときに植付自動モニターが「**点灯**」します。

⒀ **詰りモニター〔施肥機装着仕様〕**



・施肥作業中に肥料が詰まると詰りモニターが「**点灯**」し，警報ブザーが鳴ります。
・ペースト仕様はほぼ同時に，植付クラッチが《**切**》になります。

⒁ **マーカーモニター**



・マーカー自動が作動しているときに「**点灯**」します。

クイックアップレバーでマーカー収納操作をするとマーカー自動が《**切**》になり消灯します。

⑮ 端寄せモニター



・端寄せスイッチが《**入**》になると「**点灯**」します。

端寄せが終わると自動で消灯します。

⑯ 苗つぎモニター



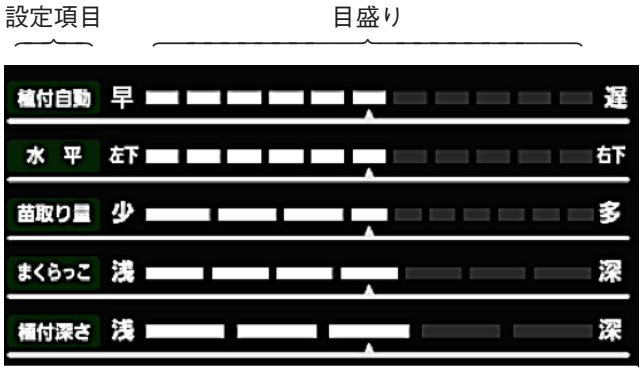
・苗つぎモードスイッチが《**入**》になりエンジンが停止すると「**点灯**」します。

キースイッチを操作してエンジンを再始動させると「**消灯**」します。

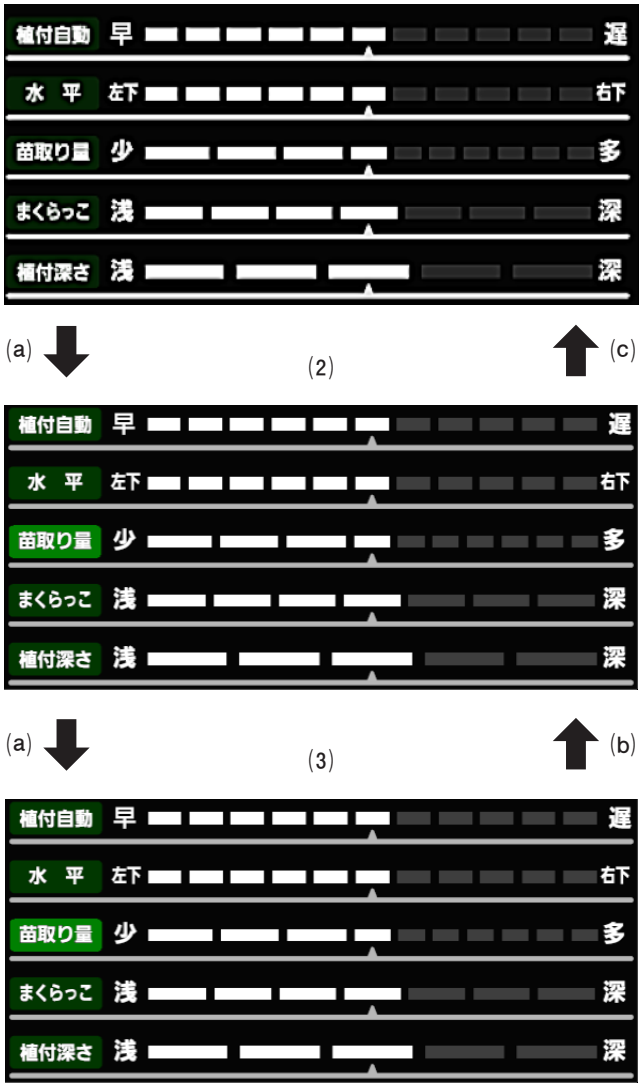
⑰ 設定表示モニター

田植機の各種設定を表示します。

モニター操作ダイヤルまたはリセットスイッチを操作することで表示モード，項目選択モード，調節モードに切替わります。



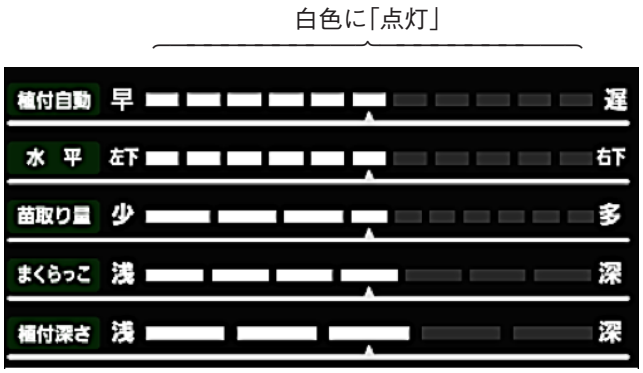
表示内容
(1)



(1)表示モード
(2)項目選択モード
(3)調節モード
(a)モニター操作ダイヤルを押す
(b)モニター操作ダイヤルもしくはリセットスイッチを押す
(c)リセットスイッチを押す

モニター操作ダイヤルとリセットスイッチによる
モード遷移の画面

《**表示モード**》…モニター表示されている各種設定の目盛りが白色に点灯している状態です。このモードでは各種設定を確認できます。



《表示モード》

《**項目選択モード**》…モニター表示されている各種設定のうち，選択中の項目が緑色に点灯する状態です。このモードでは設定を調節する項目を選択します。

モニター操作ダイヤルを右に回すと上の項目を選択します，左に回すと下の項目を選択します。

各項目で調節できる設定値は以下の通りです。

「**植付自動**」…旋回後の植え始めのタイミングを11段階に調節できます。

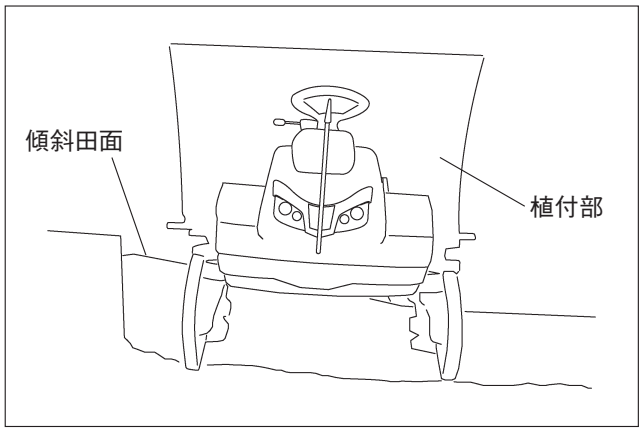
・早…タイミングが早くなります。

・遅…タイミングが遅くなります。

「**水平**」…植付部の傾きを11段階に調節できます。あぜ際や凸凹のある田面の植付などで植付部を傾斜させたいときに使用します。目盛り中央が水平位置です。

・左下…植付部が常に「**左下がり**」に保たれます。

・右下…植付部が常に「**右下がり**」に保たれます。



「**苗取り量**」…苗の苗取り量（１株当たりの植付本数）を10段階（８～19㎜）に調節できます。

・少…植付本数が少なくなります。

・多…植付本数が多くなります。

「**まくらっこ**」…まくらっこロータの高さを７段階に調節できます。

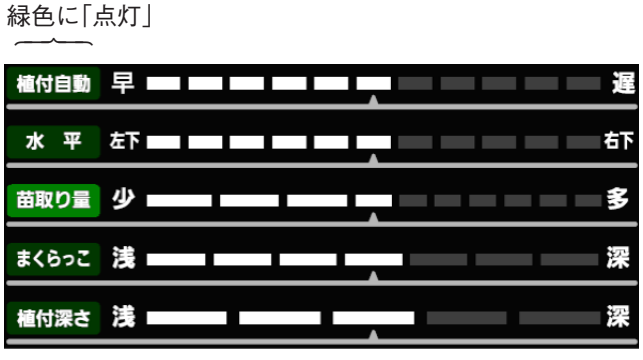
・浅…ロータが高くなり田面に対して浅くなります。

・深…ロータが低くなり田面に対して深くなります。

「**植付深さ**」…フロートを上下して植付深さを５段階に調節できます。

・浅…植付深さが浅くなります。

・深…植付深さが深くなります。



《項目設定モード》

《調節モード》…モニター表示されている各種設定の項目が緑色に，目盛りが白色に点滅している状態です。
このモードでは選択した項目の設定値を調節します。

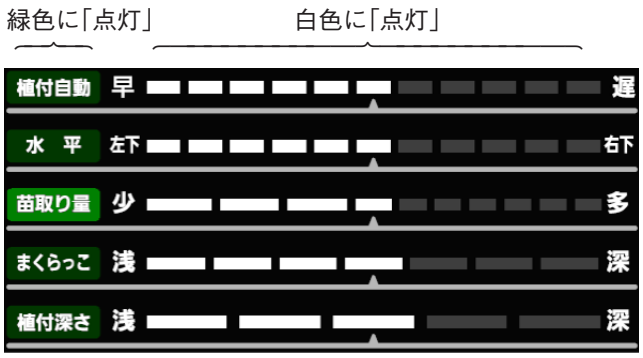
モニター操作ダイヤルを右に回すと選択した項目の目盛りが右に増えます，左に回すと目盛りが左に減ります。

「植付自動」以外の項目の調節モード中にモニター操作ダイヤルを回すと調節量に連動してモータが動きます。

モニター操作ダイヤルを押すことで調節量の変更を確定し，項目選択モードに移ります。

確定操作を行ずリセットスイッチを押して項目選択モードに移ると変更した調節量は反映されません。

各項目の調節については**「植付本数の調節」**52～54ページ，**「植付深さの調節」**54～55ページ，**「傾斜の調節」**62ページ，**「植始めタイミングの調節」**64ページ，**「ロータ高さの調節」**72～73ページを参照してください。



《調節モード》

取扱いのポイント

- **《項目選択モード》および《調節モード》で一定時間操作がないと《表示モード》に戻ります。**
- **一定時間操作がされずに《調節モード》から《表示モード》に戻った場合は調節中の値で確定されます。**

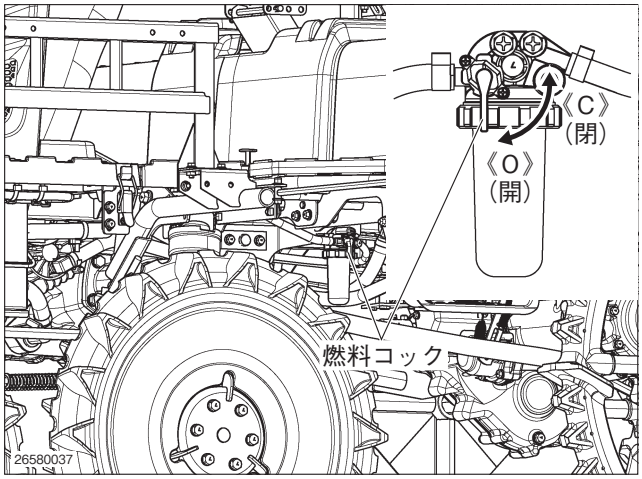
2. エンジンコントロール関係

❶ 燃料コック

エンジンを停止しているときに燃料を止めておくコックです。

《O》(開) ……燃料が「**流れ**」ます。

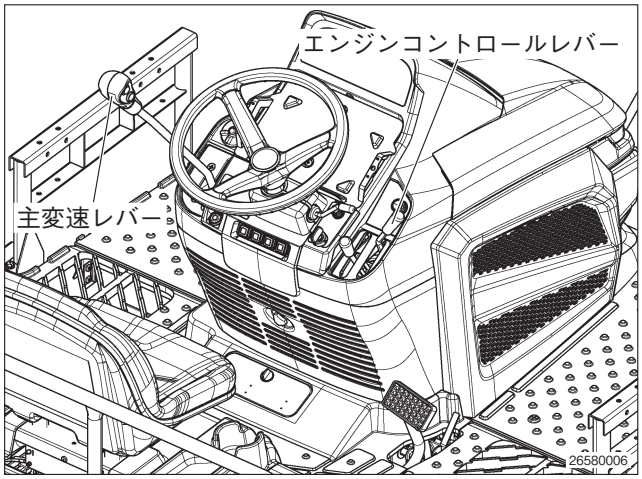
《C》(閉) ……燃料が「**停止**」します。



❷ エンジンコントロールレバー

エンジンの回転速度を調整するレバーです。

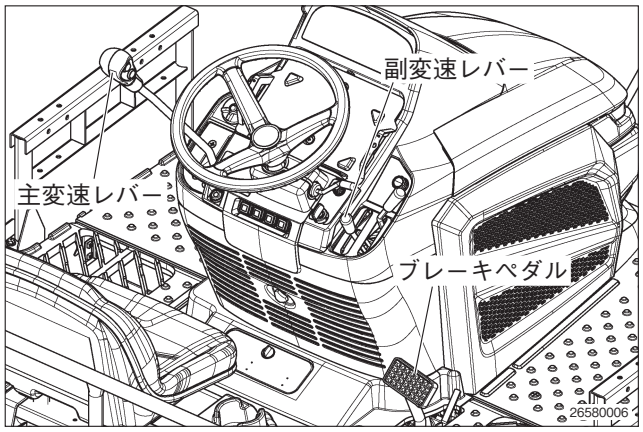
レバーを手前に引けば「**高速**」になり，前方へ押せば「**低速**」になります。



取扱いのポイント

- **作業中はエンジンコントロールレバーを作業範囲で使用してください。**
- **エンジンコントロールレバーが「低速」位置にあっても，主変速レバーを「前進」または「後進」に操作するとエンジンの回転速度が変わります。**

3. 走行操作関係



⚠警告 傷害事故防止のために

◆急発進，急停止，急旋回はしないでください。転倒事故を引起こすことがあります。発進するときは，ブレーキペダルを離してから主変速レバーを《N》(中立）位置からゆっくりと操作してください。

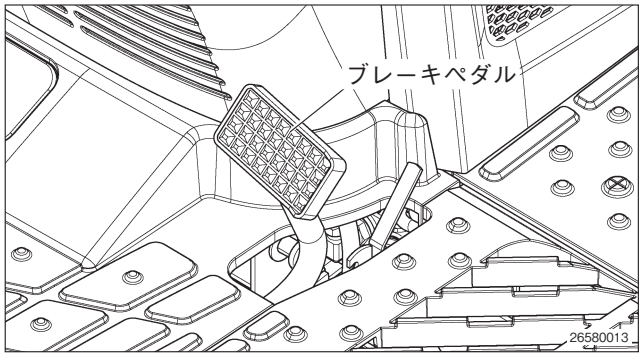
◆停車するときは，主変速レバーを《N》(中立）位置にしてからブレーキペダルを踏んでください。

◆駐車・停車時には，駐車ブレーキレバーをかけてください。

◆機械を離れるときは必ず駐車ブレーキレバーをかけてください。

❶ ブレーキペダル

・ブレーキペダルと主変速レバーは連動していますのでブレーキペダルを踏込むと主変速レバーが《**N**》(**中立**）位置に戻りブレーキがかかります。エンジンの始動時や緊急停止時および副変速レバーを操作する際に使用します。

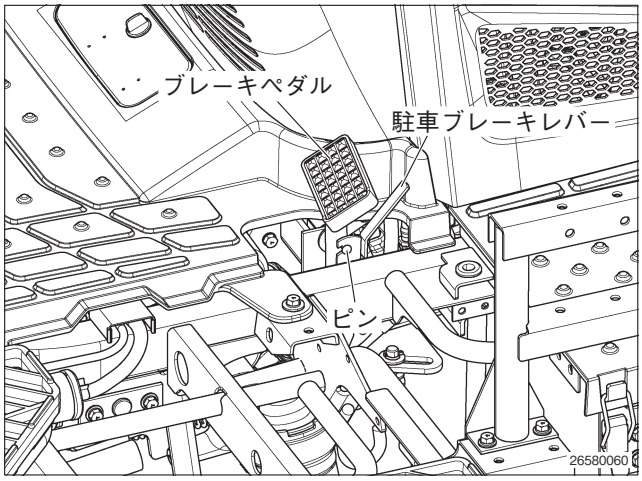


取扱いのポイント

- **ブレーキペダルを踏んだ状態では，主変速レバーは操作できません。**
- **ブレーキペダルを踏込むと，主変速レバーが《N》(中立）に戻り，つぎに４輪全てにブレーキがかかります。**
- **ブレーキペダルに始動安全スイッチを装備していますので，いっぱいに踏込まないとエンジンは始動できません。**
- **主変速レバーを持ったままブレーキペダルを踏むと破損するおそれがあります。**

❷ 駐車ブレーキレバー

・ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキレバーをブレーキペダルのピンにかけます。
・駐車ブレーキを解除するには，ブレーキペダルを強く踏込めば外れます。

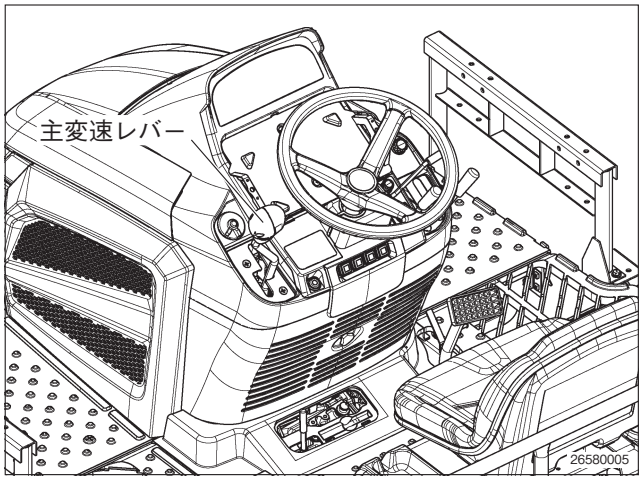


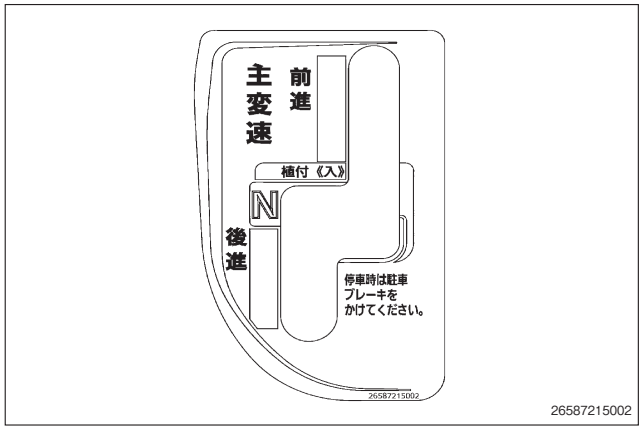
❸ 主変速レバー

前進，後進，停止の操作と走行速度の変速ができます。**《前進》《後進》**いずれにもレバーの位置を動かすことで走行速度を選ぶことができます。

・前進速度は，主変速レバーを**《N》(中立）**位置より前方に動かすと速くなり，後進速度は主変速レバーを左に寄せ，**《N》(中立）**位置より後方に動かすと速くなります。

主変速レバーを**《N》(中立）**位置より前方および後方に動かすと，主変速レバーの動きに連動してエンジンの回転速度が変わります。エンジンの回転速度が足りないときは，エンジンコントロールレバーでエンジンの回転を上げて使用してください。



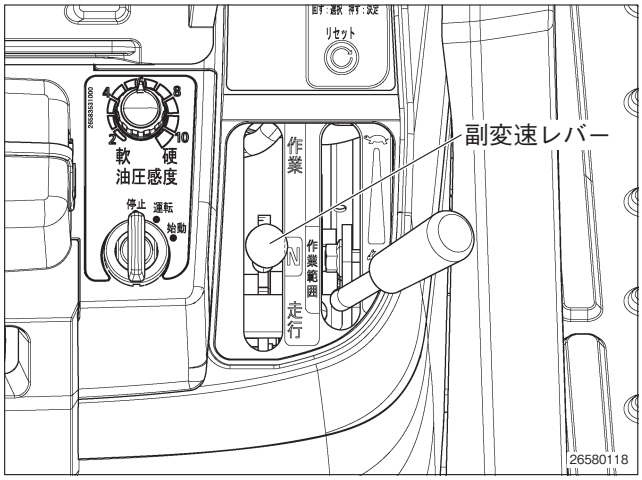


取扱いのポイント

- **エンジン停止中は主変速レバーを操作しないでください。**
- **後進する場合は植付部が充分上がってから，主変速レバーを《後進》側にゆっくり操作してください。**
- **植付スイッチ《入》のとき，主変速レバーを《後進》に入れると，植付部は自動的に「上がり」ます（バックアップ機構）ので，倉庫内などで後進するときは，植付スイッチを《切》にし，植付部の上部を周りに当てないように，必要により植付部を下げて油圧固定レバーで「固定」してから行ってください。**
- **寒冷地などで始動直後，機械が動くのは油の粘度が高いためです。暖機運転をしてから使用してください。**

❹ 副変速レバー

《作業》,《走行》の２段階に変速でき，中央は《N》(中立）になっています。



取扱いのポイント

- 《作業》……「植付作業」および移動・積込み積降ろし・あぜ越え・ほ場の出入り・急な坂道などで使用します。
- 《走行》……平坦地で高速での「移動走行」に使用します。
- 変速しにくいときは駐車ブレーキをかけ主変速レバーを前・後進方向に数回操作してから副変速レバーを操作してください。
- 副変速レバーを力まかせに操作すると機械の破損につながります。
- 副変速レバーが《走行》のとき，植付クラッチを《入》にすることができません。

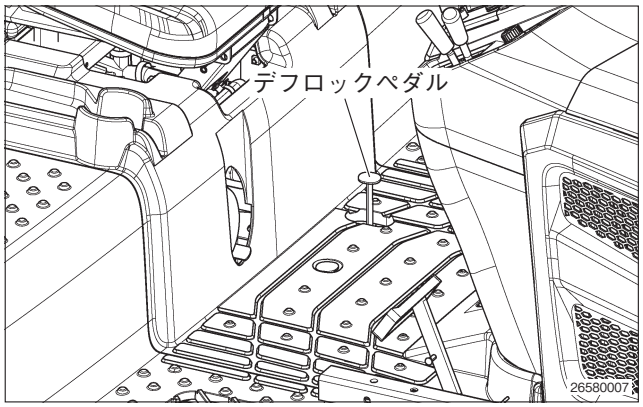
❺ デフロックペダル

> ⚠警告 傷害事故防止のために
>
> ◆自動車への積込み，積降ろしおよび移動走行するときは，デフロックを使用しないでください。またデフロックが解除されていることを確認してください。デフロックを使用するとハンドルを切っても直進しかできなくなり思うように旋回できません。デフロックを入れたままで旋回しようとすると，思わぬ事故につながることがあります。

ペダルを踏むと左右の前輪が同じ回転になります。

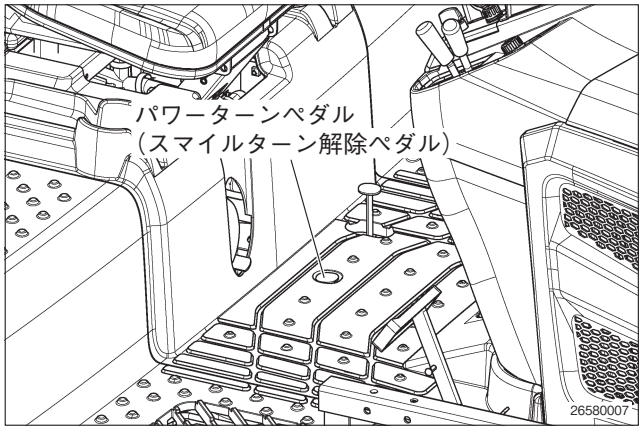
前輪の片側がスリップするときに使用します。

ペダルから足を離すと解除されます。



❻ パワーターンペダル
（スマイルターン解除ペダル）

旋回時，内側後車輪の動力が切れます。（スマイルターン）このとき，パワーターンペダルを踏むと内側後車輪に動力がつたわります。旋回時，車輪がスリップする場合に使用します。



取扱いのポイント

- **機械が旋回時，ほ場の深みにはまり旋回不能になったとき，パワーターンペダルを踏むと，内側後車輪に動力がつたわり，走行しやすくなります。**
- **旋回中にパワーターンペダルを踏み続けると機械の寿命を縮めます。パワーターンペダル，デフロックペダルを踏んでも走行できないときは，すみやかにクレーンなどを呼んでください。無理に動かそうとすると機械の寿命を縮めます。**

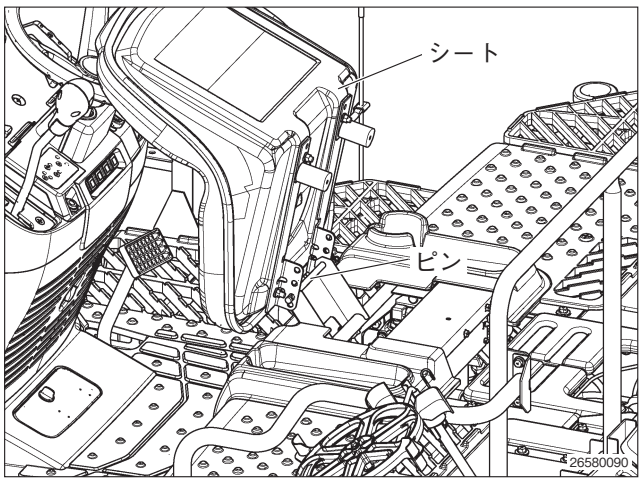
❼ パワーステアリング

・パワーステアリングはエンジン運転中のみ作動し，ハンドルが軽く操作できます。（使いかた32ページ参照）

4．その他運転装置

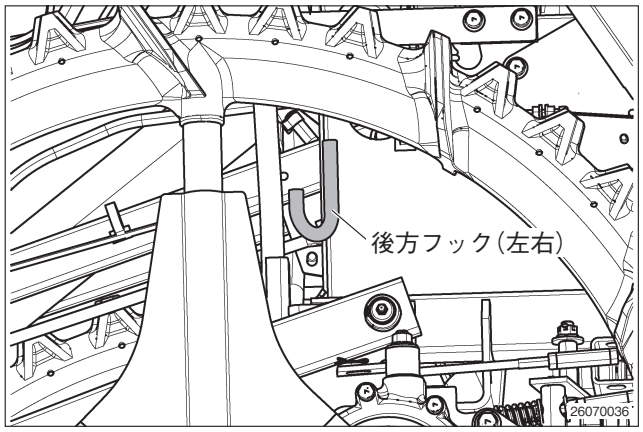
❶ シート

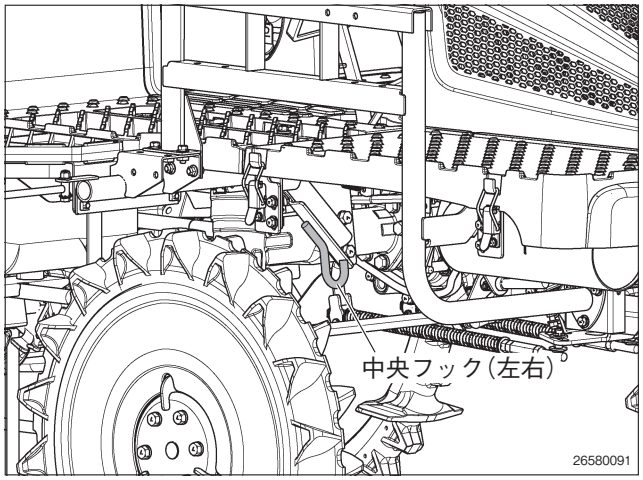
・運転者の体格に合わせて，シート下のピンを差換えることにより着座位置が**「前後４段階」**に調節できます。（粒状施肥機仕様は前後３段階）



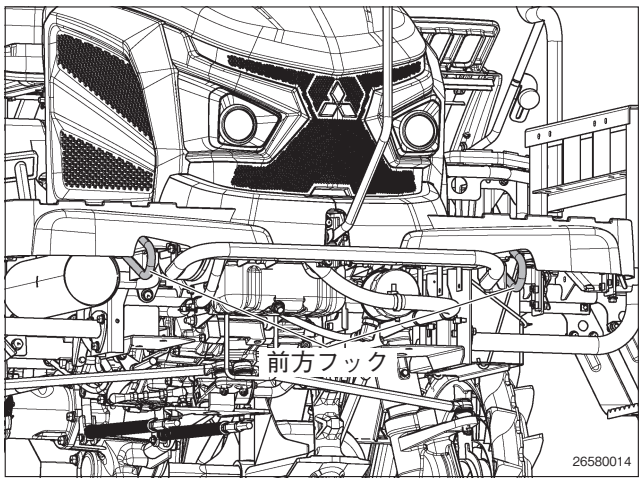
❷ フック（６箇所）

⑴ 荷造りに使用します。





⑵ 脱出用などに使用します。



機械がほ場内の深みにはまり走行不能になったときは，前方のフックにロープをかけて，前進方向に引っ張ってください。それに合わせて，機械を走行させます。

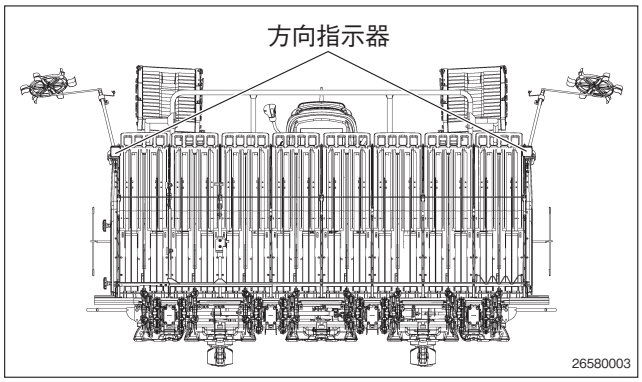
❸ 方向指示器

⚠警告 傷害事故防止のために

◆走行運転するときは植付スイッチを《切》にしてください。

⑴ 方向指示

方向指示器スイッチを操作し，旋回する側の方向指示器を「**点滅**」させます。



⑵ 肥料切れお知らせシグナル

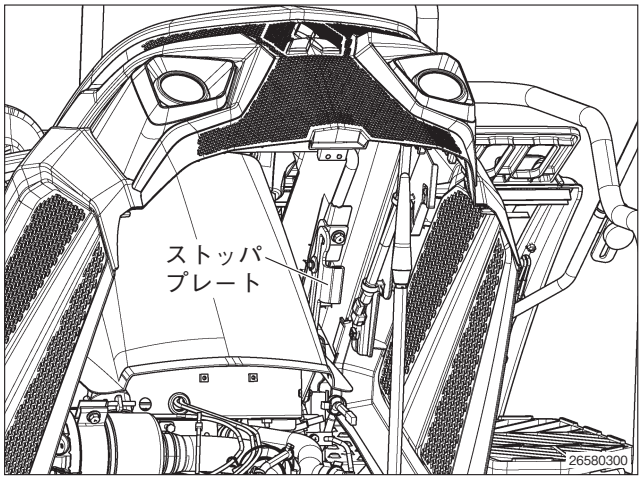
施肥機装着仕様の場合，植付操作時肥料残量が少なくなると両側の方向指示器を「**点滅**」して，補助者に肥料残量が少なくなった事をお知らせします。

❹ ボンネット

ボンネットはマグネットで固定されています。前端を持上げると開きます。

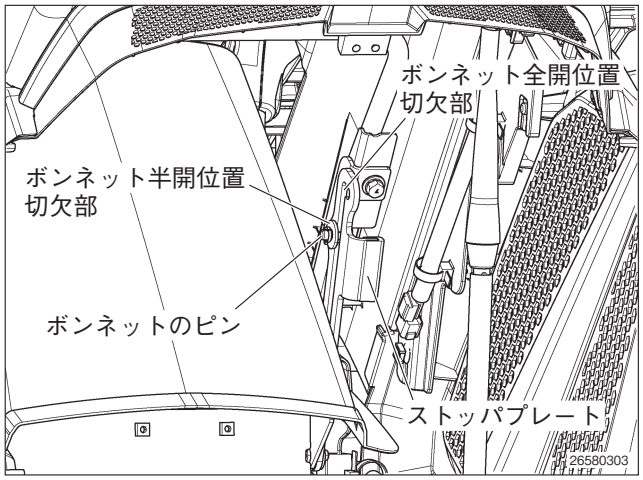
⑴ ボンネットの開きかた

・ボンネットの前端を持上げ，ボンネットのピンをストッパプレートの切欠部に入れボンネットを固定します。



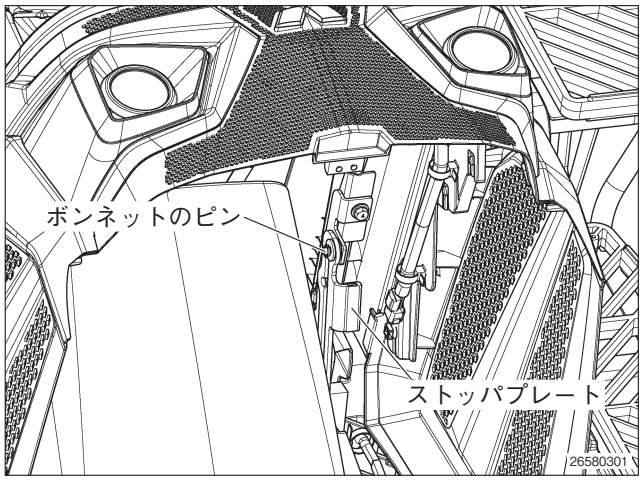
取扱いのポイント

●ボンネットを開き点検・調整するときは，ストッパプレートの切欠部にボンネットのピンが確実に入っていることを必ず確認してください。

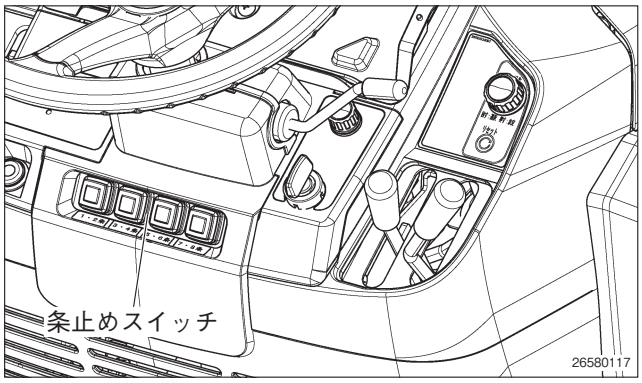


⑵ ボンネットの閉めかた

・ボンネットを少し持上げ，ストッパプレートの切欠部からボンネットのピンを外しボンネットをゆっくり降ろします。



3．植付け装置の取扱い



1．植付操作関係

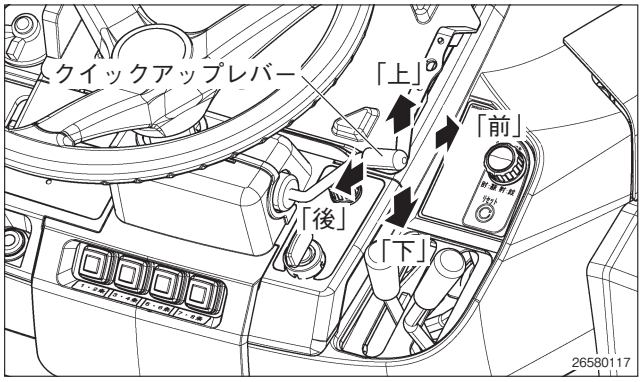
❶　クイックアップレバー

⑴　**植付スイッチが《切》の場合，**

クイックアップレバーの「**上・下**」操作で，植付部の「**上昇**」「**下降**」ができます。

⑵　**植付スイッチが《入》の場合，**

クイックアップレバーの「**上・下**」操作で植付クラッチの「**入・切**」，植付部の「**上昇**」「**下降**」ができ，「**前・後**」操作で「**線引マーカーの操作**」ができます。ハンドルを握ったまま，指でワンタッチ操作できます。



《**下降**》《**植付入**》…… ・植付部が上昇状態で，レバーを「**下**」げると，植付部が「**下降**」し，もう一度「**下**」げると植付クラッチが「**入**」ります。

《**植付切**》《**上昇**》…… ・植付中に，レバーを「**上**」げると，植付クラッチが「**切**」れ，もう一度「**上**」げると植付部が「**上昇**」します。

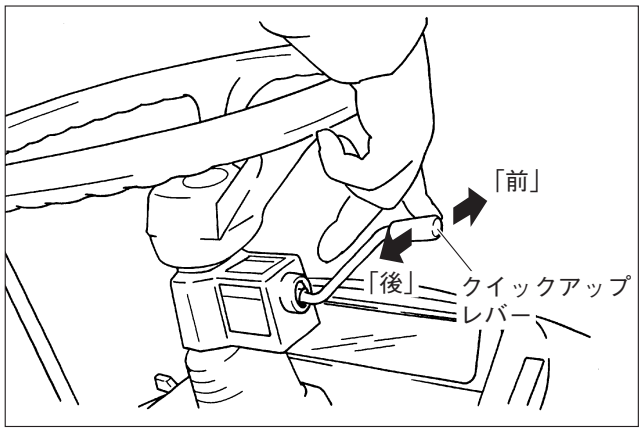
《**植付部停止**》…・植付部を昇降の途中で停止させたい場合は，レバーを逆方向へ操作すると停止します。

取扱いのポイント

●**スタータスイッチを「停止」にすると植付クラッチが「切」に戻ります。ただし植付クラッチが「入」のときに警報スイッチを押しながらスタータスイッチを「停止」にすると植付クラッチは「入」ったままとなります。この操作は「横送り量調節」「ロータリケースを手で回す」場合に使用します。****(99ページ参照)**

《線引マーカーの切替》

植えはじめや枕地植えなどで下がる線引マーカーを左右切替えたい場合に操作します。



①　**植付部が「最上昇位置」のとき**

「**前操作**」…線引マーカーが「**左**」下げ準備状態にセットできます。

「**後操作**」…線引マーカーが「**右**」下げ準備状態にセットできます。

②　**植付部が「下げ」または「植付」状態のとき**

・「**前操作**」…「**左**」マーカーの下げ／収納を切替えます。

・「**後操作**」…「**右**」マーカーの下げ／収納を切替えます。

《**マーカー停止**》…「**前・後**」操作で両マーカーを収納すると，マーカーモニターが「**消灯**」します。(線引マーカーの右または左の切替操作をすると「**自動モード**」に戻ります。)

《**両マーカー下降**》…・植付部が「**下げ**」または「**植付**」状態のとき，線引マーカーが出ていない方向にレバーを操作をすると，「**両方のマーカー**」を出すことができます。

取扱いのポイント

- **線引マーカーは，植付スイッチが《入》のとき，植付作業中には左右のマーカーが自動的に切替ります。(マーカー自動機構)**
- **線引マーカーを作動させるときは，線引マーカーが「フック」から外れていることを確認してください。**

❷ **上げ，下げ・植付スイッチ（スマイルシフト）**



⑴ **植付スイッチが《切》の場合，**
「**上げ**」「**下げ・植付**」スイッチの操作はできません。

⑵ **植付スイッチが《入》の場合，**
「**上げ**」「**下げ・植付**」スイッチの操作で植付クラッチの「**入・切**」，植付部の「**上昇**」「**下降**」ができます。

《**下降**》《**植付入**》…… ・植付部が上昇状態で，「**下げ・植付**」スイッチを押すと，植付部が「**下降**」し，もう一度押すと植付クラッチが「**入**」ります。

《**植付切**》《**上昇**》…… ・植付中に，「**上げ**」スイッチを押すと，植付クラッチが「**切**」れ，植付部が「**上昇**」します。

《**植付部停止**》…・植付部を昇降の途中で停止させたい場合は，“上昇中”には「**下げ・植付**」スイッチを“下降中”には「**上げ**」スイッチを押すと停止します。

❸ 油圧固定レバー

⚠注意 傷害事故防止のために

◆移動走行および点検整備するときは，油圧固定レバーで植付部を「固定」してください。

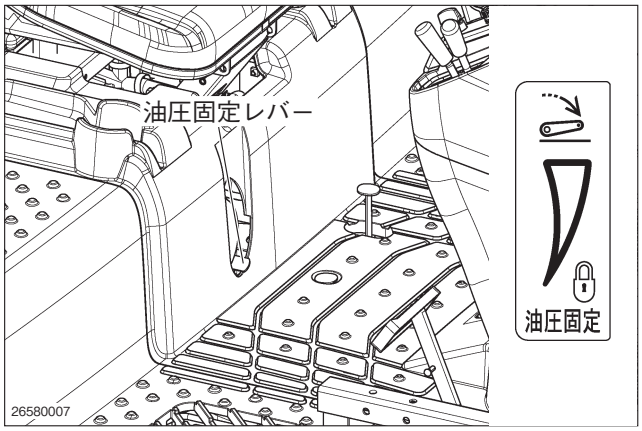
●整備作業をするときは更に植付部の下に木片などの固定台を敷いてください。

●機械から離れるときは，必ず油圧固定レバーを《油圧固定》にしてください。

油圧回路を閉め，植付部の下降を防止するときに使用します。

・**《油圧固定》**……**《油圧固定》**側いっぱいに下げると植付部の上昇，下降が**「固定」**されます。

・《 》……《 》側いっぱいに上げると固定が**「解除」**されます。

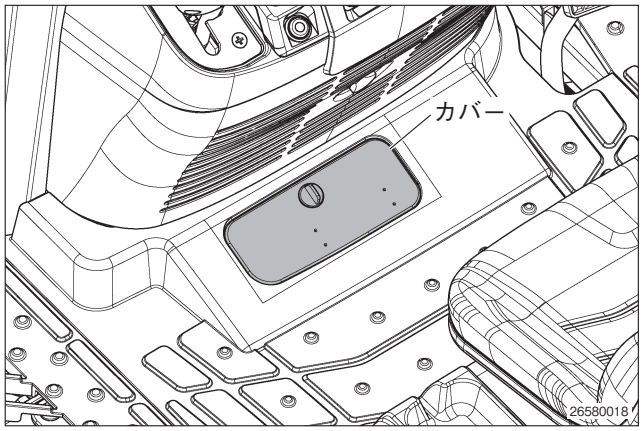


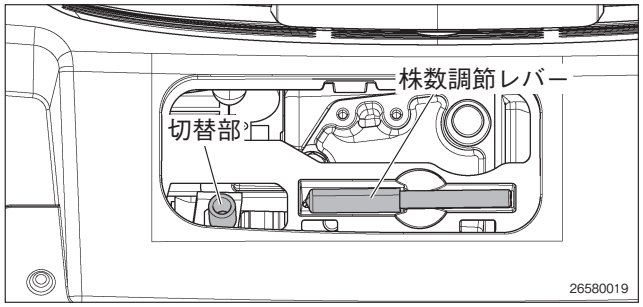
取扱いのポイント

●**植付作業時，油圧固定レバーは《 》側いっぱいに上げておいてください。**

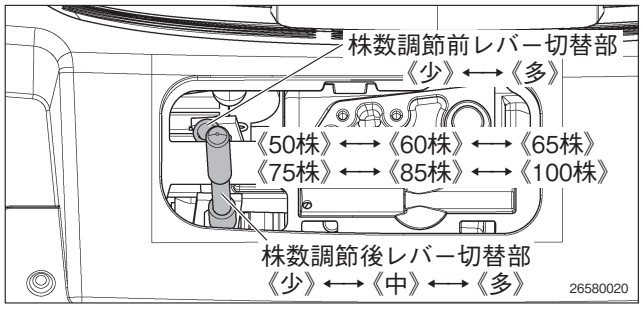
❹ 株数調節レバー

植付部の回転を変えて株数調節を行います。ステップ部のカバーの下に調節レバーが収納してあります。調節レバーを切替部に挿しこみ切替操作を行ってください。

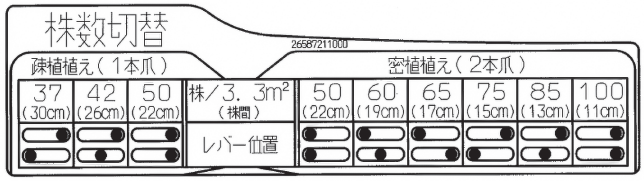




［密植植え（２本爪)］



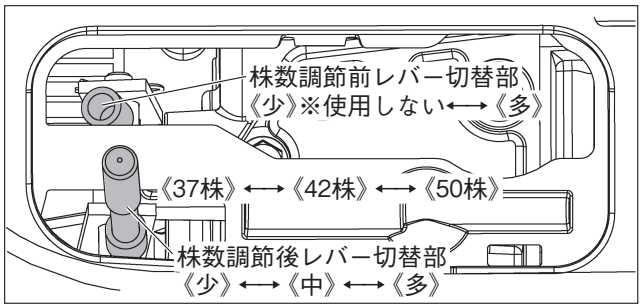
株数調節前レバー	少	多
株数調節後レバー	50株・60株・65株 (22cm)・(19cm)・(17cm)	75株・85株・100株 (15cm)・(13cm)・(11cm)



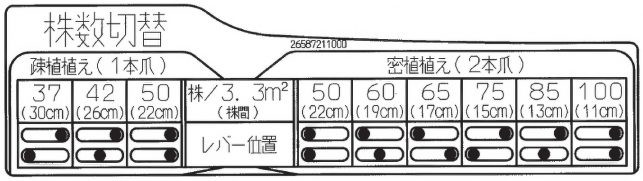
・株数調節前レバーと後レバーの組合せにより株数は**「６段階」**に調節できます。

・**［密植植え（２本爪)］**はプランターアームが出荷時の状態です。

［疎植植え（１本爪組替時)］



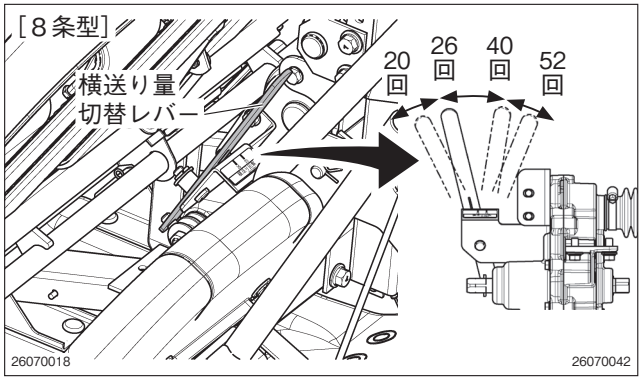
株数調節前レバー		多
株数調節後レバー		37株・42株・50株 (30cm)・(26cm)・(22cm)

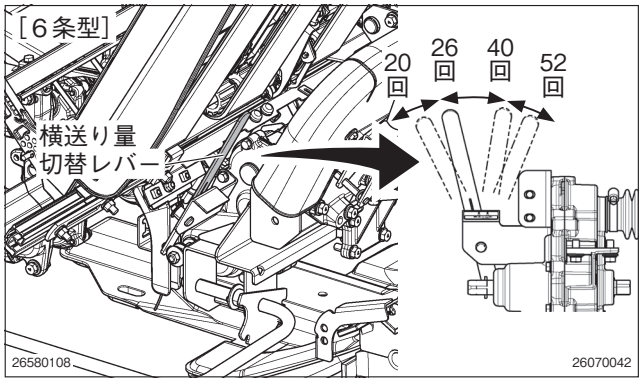


・株数調節前レバーと後レバーの組合せにより株数は「**３段階**」に調節できます。
・［**疎植植え（１本爪)**］はプランターアームの一部をプランターウエイトに組替えた状態です。組替え方法は46ページを参照してください。

❺ 横送り量切替レバー

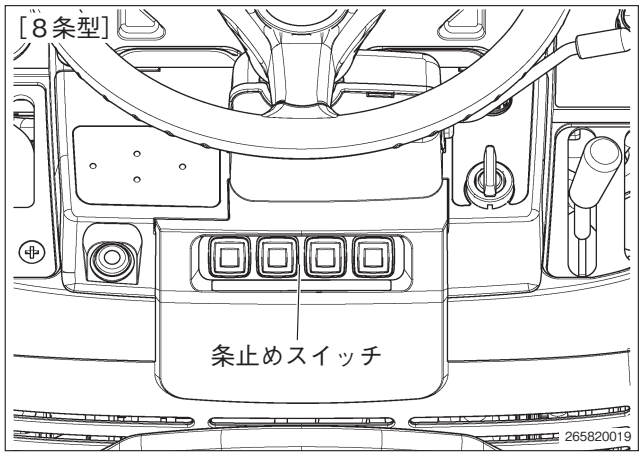
レバーを操作して，セット位置を変えることにより横送り量を４段階に切替えるレバーです。
・出荷状態は26回です。［**密植植え（２本爪)**］は「**20回，26回**」を使用してください。［**疎植植え（１本爪組替時)**］は「**40回，52回**」を使用してください。横送り量を切替えるときは，「**横送り量調節のしかた**」(51ページ）を参照して行います。

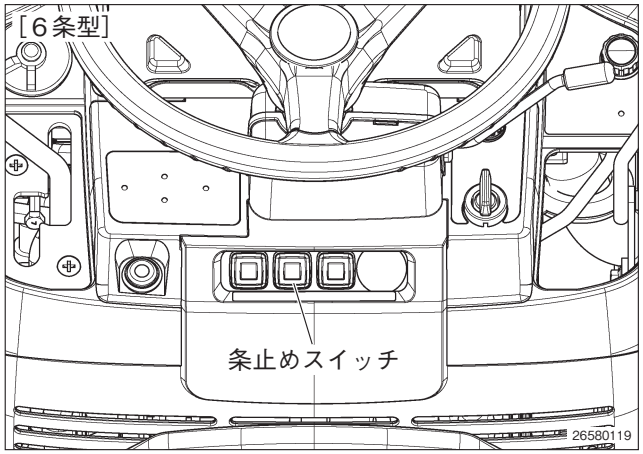




❻ 条止めスイッチ

植付爪および苗送り用ゴムベルトを２条ごとに停止させるスイッチです。
・**条止めスイッチ「入」**
条止めスイッチを押すとスイッチランプが「**点灯**」し，植付爪と苗送り用ベルトが２条ごとに停止します。
・**条止めスイッチ「切」**
条止めスイッチをもう一度押すとスイッチランプが「**消灯**」し，植付爪と苗送り用ベルトが２条ごとに作動します。

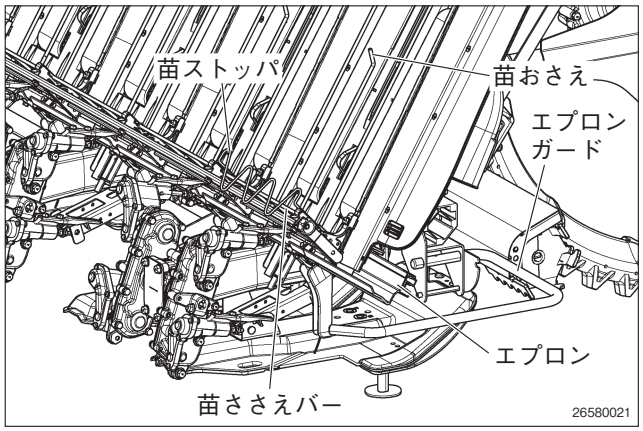




取扱いのポイント

- ●条止めスイッチを操作し，スイッチが「点滅」している間は条止めしようとしている状態です。条止めスイッチを操作するときは走行を一旦停止した後植付爪が停止状態または低速回転状態で行ってください。
- ●条止めスイッチを《入》の状態でバックアップもしくは植付自動，クイックアップレバー《上げ》，スマイルシフト上げスイッチで植付クラッチを《切》にすると条止めが解除されます。
- ●条止めスイッチを《入》にするときは左端または右端の条止めスイッチから順番に押してください。それ以外から押すと条止めスイッチを《入》にできません。
- ●端の１条を停止するときは，苗ストッパを使用します。
- ●条止めスイッチを《切》にするときは《入》にしたときと逆の順に条止めスイッチを押してください。
- ●条止めスイッチが《入》のとき，スタータスイッチを「停止」にすると，つぎにスタータスイッチを「運転」にしたとき条止めスイッチが《切》になります。
- ●植付スイッチを《切》にすると，すべての条止めが解除されます。

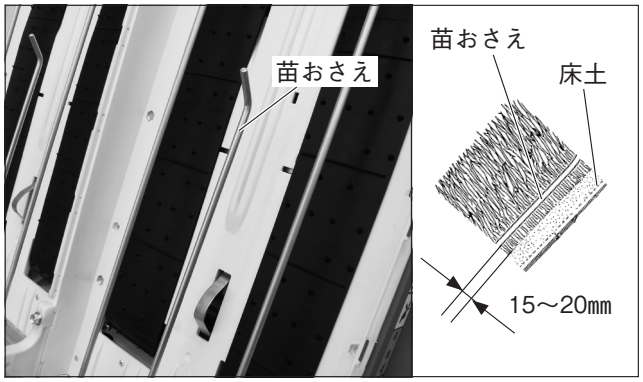
2. 苗のせ台の各装置



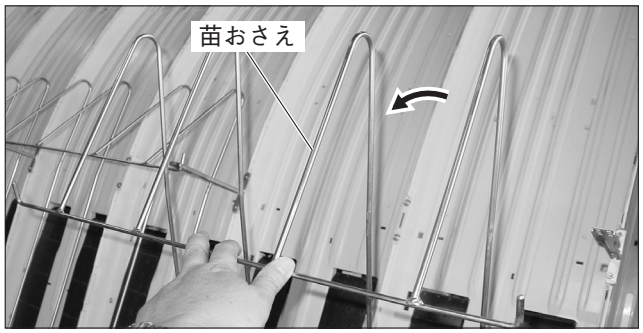
❶ **苗おさえ**

軟弱なマット苗などが崩れ落ちないように支える棒です。

・マット苗の床土の厚さに応じて苗おさえ上下のセット位置(上：３段階,下：５段階)を変えます。苗おさえを床土の表面から15～20㎜にセットします。



・残った苗を取出すときは**「苗おさえ」**を後方に起こして苗を取出します。



取扱いのポイント

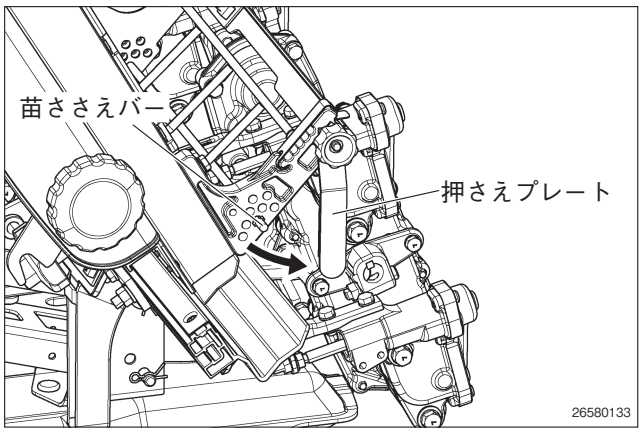
- ●苗おさえを下げすぎると苗滑りが悪くなります。
- ●苗おさえを上げすぎると苗が座屈します。

❷ 苗ささえバー（苗ホルダ）

植付をよくするため苗の長さ，硬さに応じて苗ささえバーの位置を変えます。

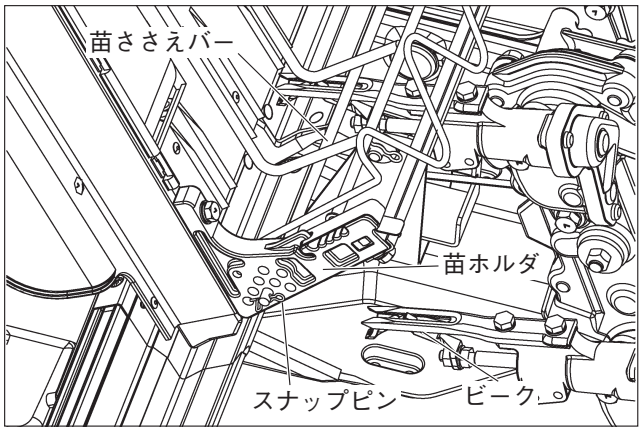
［8条型］

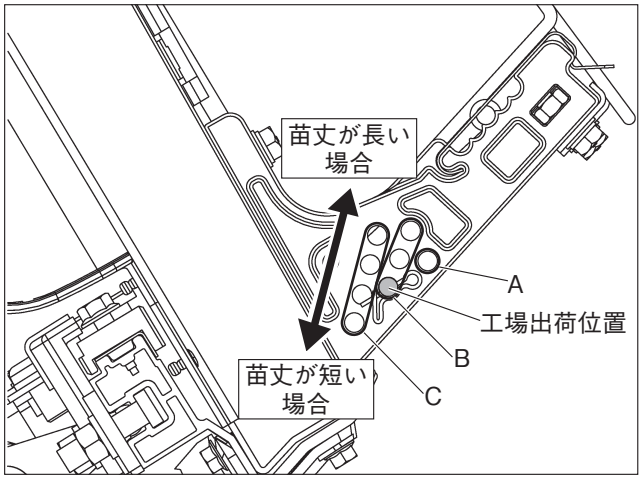
・ノブボルトをゆるめ押さえプレートをずらして苗ホルダから苗ささえバーを抜き苗の状態に応じて苗ささえバーの位置を調節します。



［6条型］

・スナップピンを外して苗ホルダから苗ささえバーを抜き苗の状態に応じて苗ささえバーの位置を調節します。





A：植付けた苗が進行方向に対して前側に倒れる場合

B：標準位置

C：植付けた苗が進行方向に対して後側に倒れる場合

苗切れが多い場合

取扱いのポイント

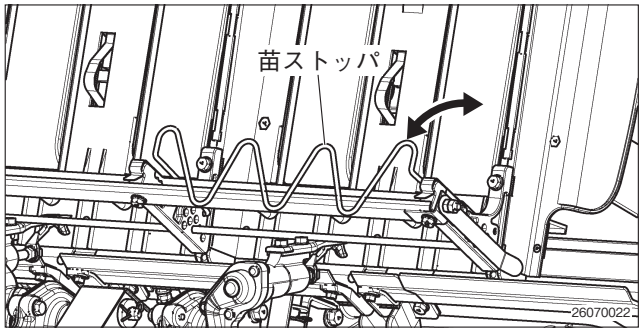
- **苗ささえバーで苗を強く押上げる位置にすると，苗送りが悪くなります。**
- **短い苗は，苗ささえバーよりビーク側に出ないように苗ささえバーを低くします。**
- **苗ささえバーをビーク側に調整した場合に，ビークが当らないことを確認します。**

❸ 苗ストッパ

・植え終わりの調整のとき，「**1条**」のみ停止するときに苗ストッパをセットします。

・条止めスイッチ（2条用）と併用して使用します。

・植え終わり調整するときは「**植付け終わりの調整**」(68～69ページ)を参照して行います。



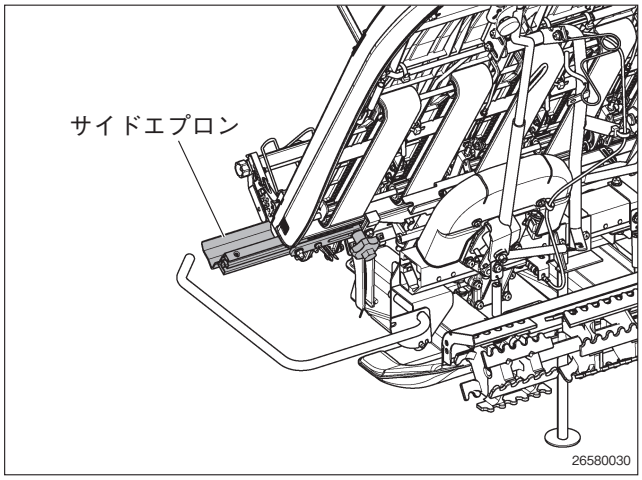
取扱いのポイント

- **苗ストッパを使用するときは苗のせ台の苗を引上げてセットしてください。**
- **再び植付けるときは，苗を引上げて苗ストッパを解除し，苗がエプロン先端に当たるようにセットしてください。**
- **苗ストッパが苗ホルダに確実に収納してあることを確認してください。**

❹　サイドエプロン

［8条型］

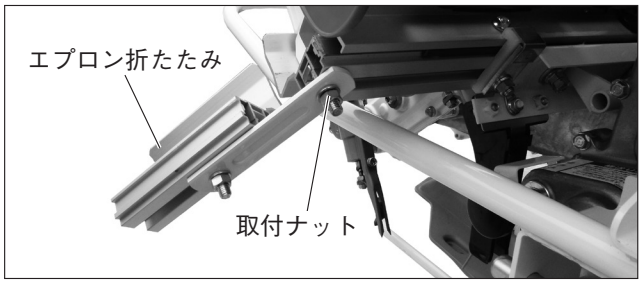
・機械の移動や格納時にエプロンの両端を着脱できます。（48ページ参照）



［6条型］

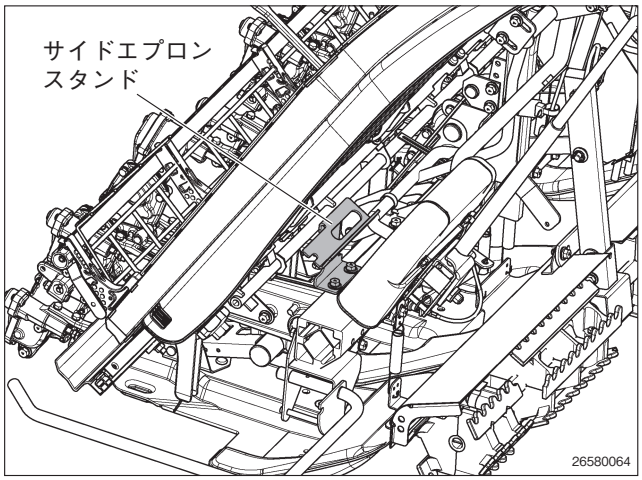
・エプロンの両端を折たたむことができ，機械の移動や格納時に使用します。

・エプロン両端下の取付ナットをゆるめてエプロンを折たたみます。



❺　サイドエプロンスタンド［8条型］

・取外したサイドエプロンを格納するときに使用します。

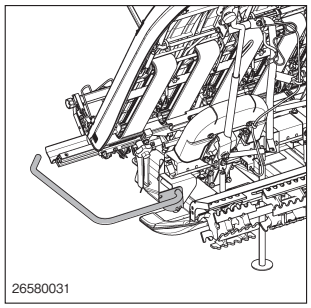


❻　エプロンガード・スタンド

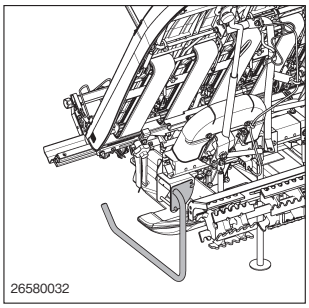
・走行時や植付作業時にエプロンを守るため「**エプロンガード**」をセットします。

・エプロンガードを前方へ引いて下向きに回しセットすると「**スタンド**」として使用できます。

エプロンガード



スタンド



取扱いのポイント

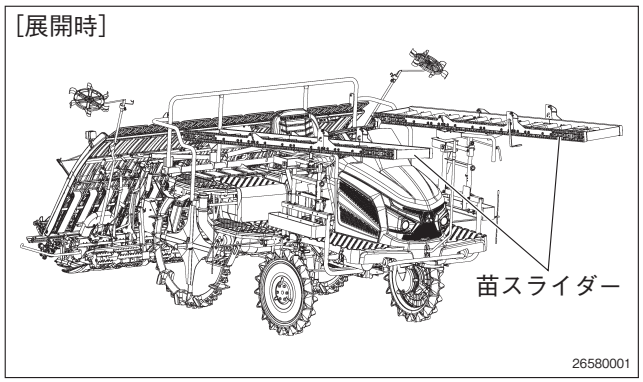
- **スタンドは植付部を降ろして一時停止するときに使用します。**
- **車両での運搬時にはスタンドを使用できません。**
- **エプロンガードの操作は支点部をもって行います。**

3．その他の植付け装置

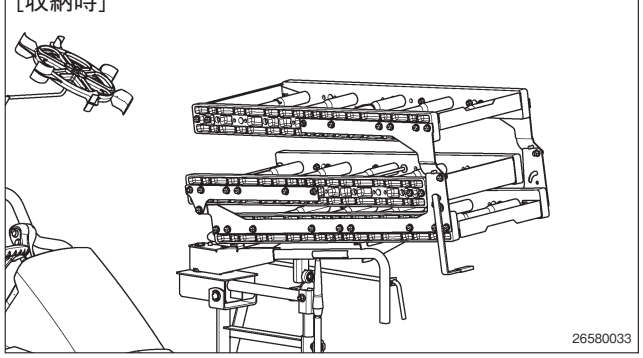
❶　苗スライダー（スライド式補助苗台）

展開して，苗補給や予備苗を載せることができます。（55～57ページ参照）

［展開時］

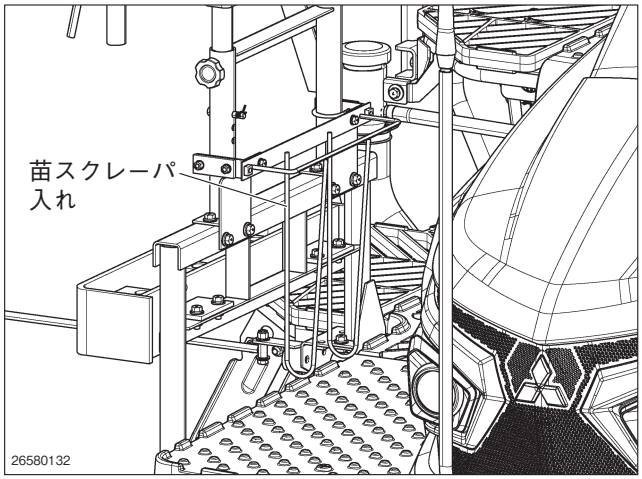


［収納時］



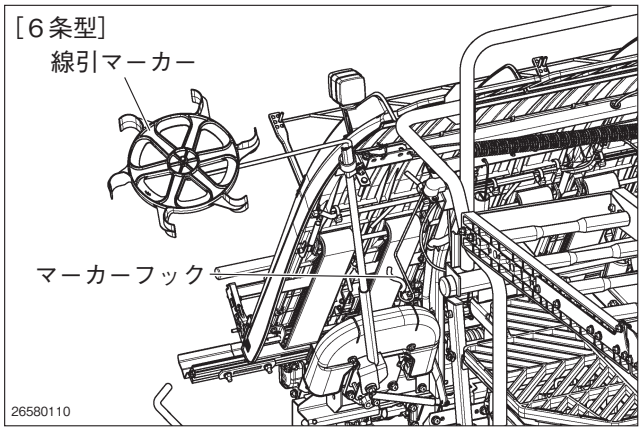
❷ 苗スクレーパ入れ

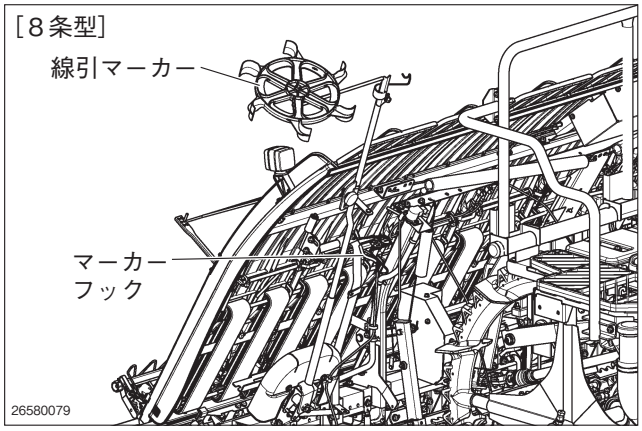
・補助苗台の内側に苗スクレーパを差込むポケットがあります。



❸ 線引マーカー

田面にマーカーを下ろして線を引き，次行程を植付ける際のセンタポールを合わせる目印となります。

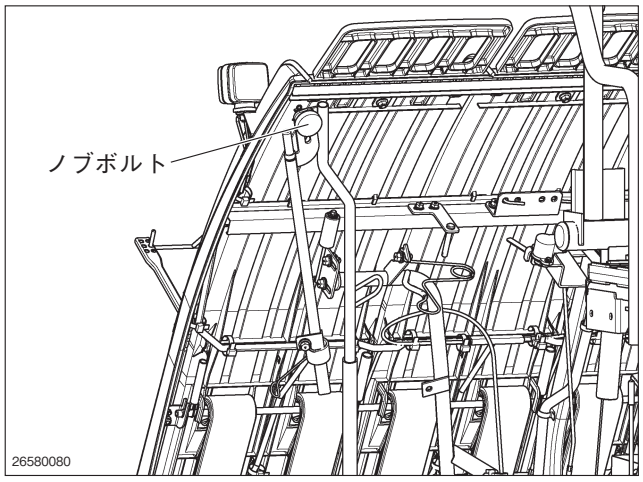




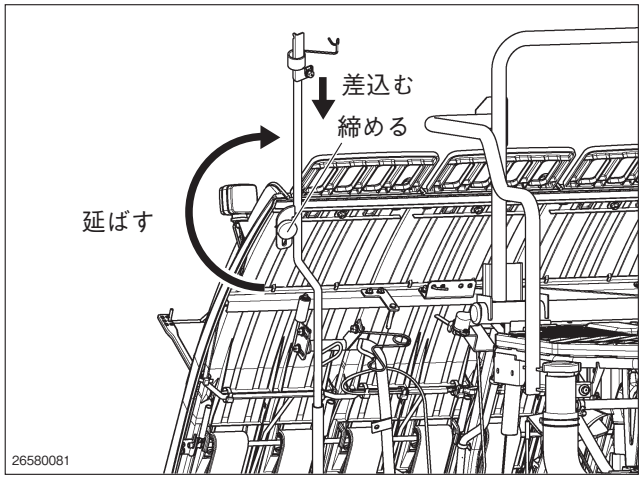
・線引マーカーは，植付部の昇降・植付の「**入**」「**切**」によって自動的に左右交互に切替ります。植付作業をしないときは，風車を取外します。

線引マーカーロッドの延ばしかた［8条型のみ］

(1) ノブボルトをゆるめます。



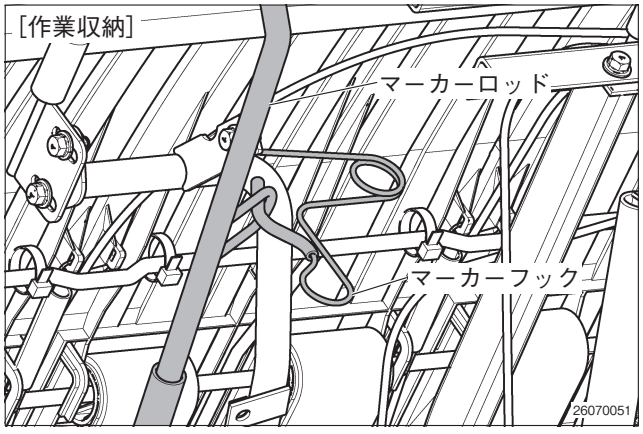
(2) ロッドを延ばし差込んでノブボルトを締めます。



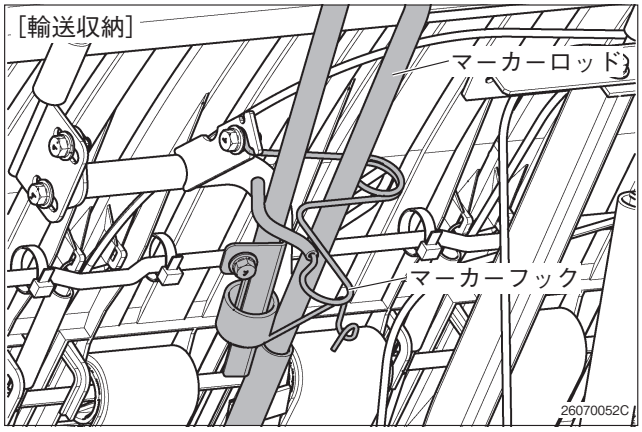
(3) マーカーロッドの収納は逆の手順で行います。

マーカーフックへの収納方法［8条型のみ］

作業時などマーカーロッドを伸ばした状態でマーカーフックに収納する場合は，「**作業収納**」位置に収納してください。



自動車などで輸送する場合は必ず線引マーカーロッドを折りたたんで「**輸送収納**」位置にしてください。

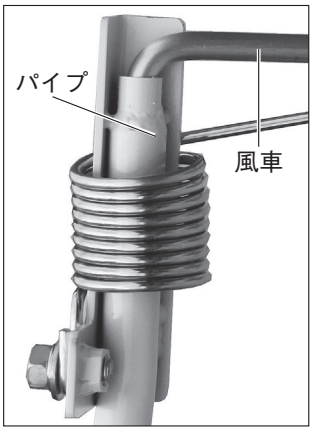


取扱いのポイント

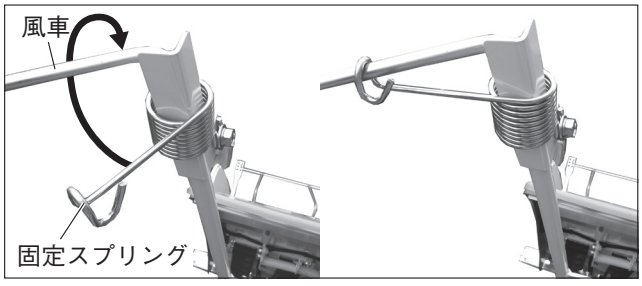
- **マーカーロッドを伸ばしたときには必ず「作業収納」位置にしてください。誤った取扱いをすると周辺部品と干渉し，部品が破損するおそれがあります。**

(風車の取付けかた)

(1) 風車を線引マーカーのパイプに奥まで差込みます。



(2) 固定スプリングでロックします。

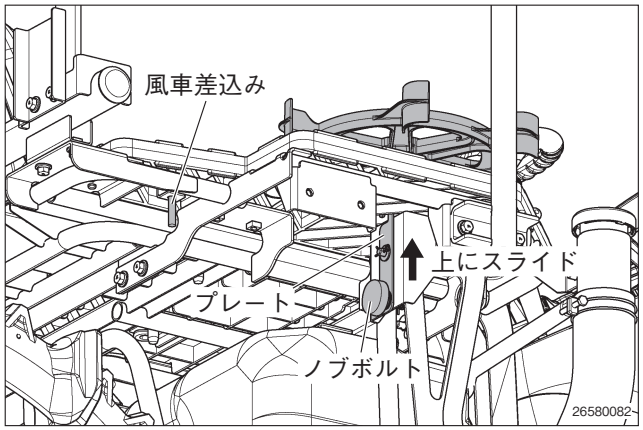


(3) 風車の取外しは逆の手順で行います。

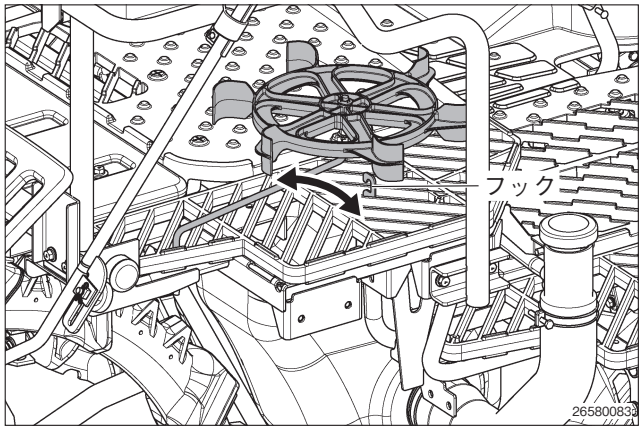
(風車の格納のしかた)

(1) 風車をステップの穴に差し込みます。

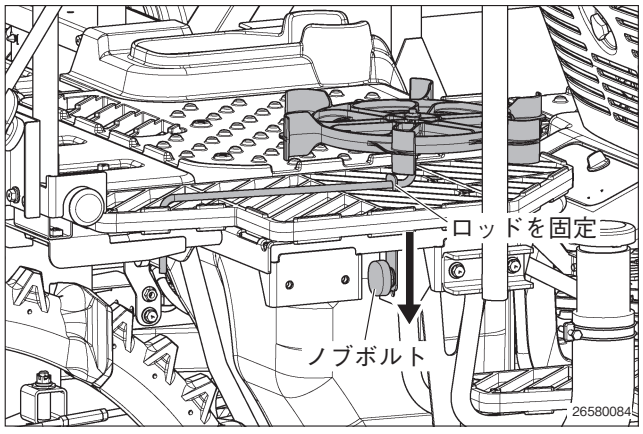
(2) ステップ裏のノブボルトをゆるめて，プレートを上に押上げます。



(3) 風車を回動させてプレートのフックに引っかけます。



(4) プレートを下に引き風車を固定したらノブボルトを締めます。

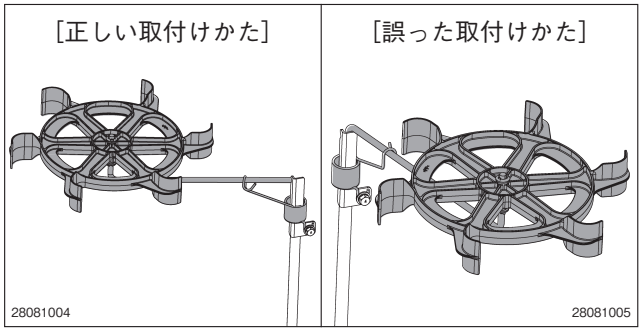


取扱いのポイント

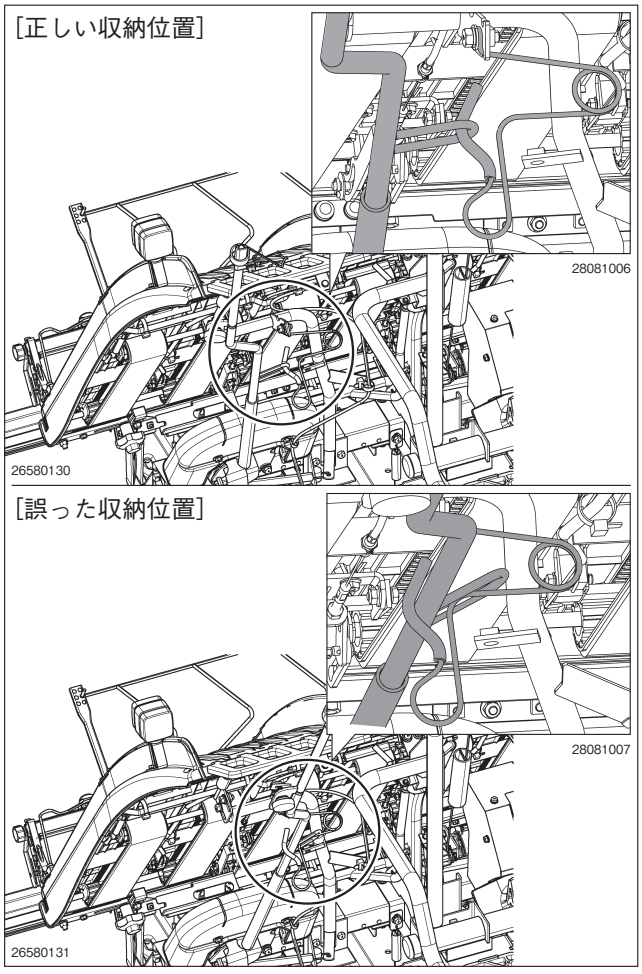
- **マーカーが人・物にぶつかるおそれがあります。作業時以外は，風車を取外しマーカーを収納してください。**

●マーカーを両側出すときは，植付部を下げ，マーカーが出ている側の反対側のマーカーを出す切替操作をします。

●誤った取付けかたで風車を取付けて使用すると風車と周辺部品が干渉し，部品が破損するおそれがあります。

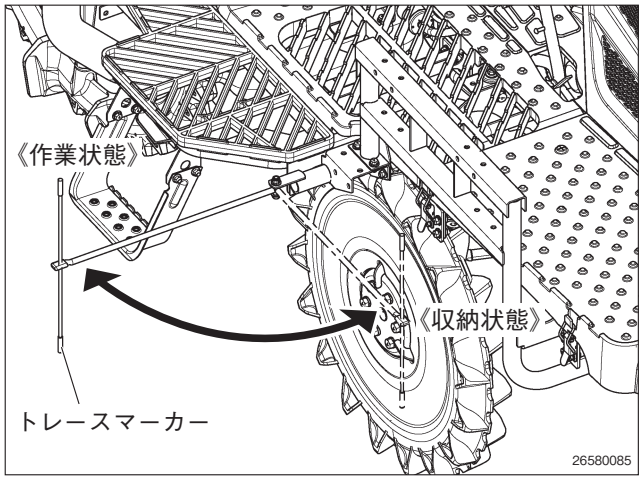


●風車は線引マーカーがマーカフックの外にあるときと，作業収納位置のときだけ取付けるようにしてください。誤った取取扱いをすると周辺部品と干渉し，部品が破損するおそれがあります。



❺ トレースマーカー

線引マーカーで引く線が見えにくい田面では，隣接の苗にトレースマーカーを合わせ条間を保つように使用します。



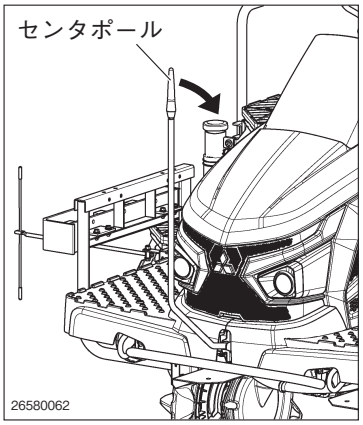
取扱いのポイント

●輸送時および走行時にはトレースマーカーは収納してください。

❻ センタポール

・線引マーカーで田面に引かれた線に合わせるポールです。

・輸送および格納時は，センタポールを後方に倒して「**収納**」します。



4. 自動装置の取扱い

1. パワーステアリングの取扱い

⚠警告 傷害事故防止のために

◆下り坂などでエンジンを停止したまま走行しないでください。
エンジンが停止するとパワーステアリング装置が動かなくなりハンドルが重くなり衝突や転落などの事故になることがあります。

この機械はパワーステアリングを装備していますので，ハンドルを軽く操作できます。

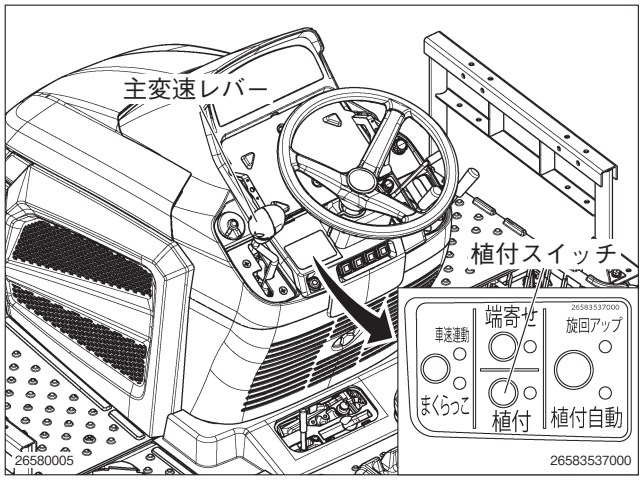
ハンドル操作はつぎの点を注意して行います。

取扱いのポイント

- ほ場条件，前輪荷重大などによりすえ切りができないことがあります。このような場合には，ハンドルを無理に回さず機械を前後に動かして操舵してください。
- ハンドルをいっぱいに切った後，さらにハンドルを回すことは避けてください。車体に無理な力をかけることになり，田植機の寿命を縮めます。また，前輪を溝に落としたままハンドルを切ったりすることも，同様に車体，特にタイヤ，ホイルに影響をおよぼします。
- ハンドルをいっぱいに切ったとき，まれに異音がする場合がありますが，回路中のリリーフ弁などによる音で使用上問題はありません。
- 寒冷地などで始動直後異音が発生し，ハンドルが重いのは油の粘度が高いためです。暖機運転をしてから使用してください。
- ハンドルをいっぱい切ったまま長時間使用すると，油温が上昇し，装置の寿命を縮めます。
- 走行中エンジンが停止したときは，パワーステアリング装置が働かなくなり，ハンドルが重くなりますので，すみやかにエンジンを再始動してください。

2. バックアップ装置の取扱い

植付スイッチを《**入**》のとき，主変速レバーを《**後進**》側に入れると植付部が「**上昇**」します。



取扱いのポイント

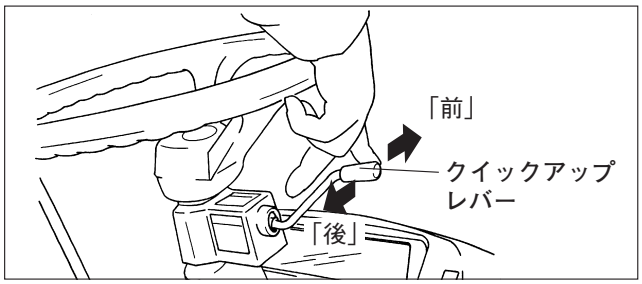
- 植付作業時以外は，植付スイッチを《切》にしてください。
- 倉庫内など天井やハリの低い所で機械を後進させるときは，植付スイッチを《切》にし，事前に植付部を低い位置で油圧固定レバーを《油圧固定》にして，バックアップで自動上昇しないようにしてください。

3．オートマーカー装置の取扱い

線引マーカーは「**オートマーカー**」になっていますので，植付スイッチが「**入**」になっているとき，植付部の昇降・植付クラッチ「**入**」「**切**」ごとに線引マーカーが左右交互に下降します。

「線引マーカーの切替」

植えはじめや枕地植えなどで下がる線引マーカーを左右切替えたい場合に操作します。



⑴ **植付部が「最上昇位置」のとき**

「**前操作**」…線引マーカーが「**左**」下げ準備状態にセットできます。

「**後操作**」…線引マーカーが「**右**」下げ準備状態にセットできます。

⑵ **植付部が「下げ」または「植付」状態のとき**

「**前操作**」…「**左**」マーカーの「**下げ**」⟷「**収納**」を切替えます。

「**後操作**」…「**右**」マーカーの「**下げ**」⟷「**収納**」を切替えます。

取扱いのポイント

- **両側の線引マーカーを出すときは，線引マーカーが出ていない方向の切替え操作をクイックアップレバーで行います。**
- **線引マーカーを使わない，および収納したいときは，振り出している線引マーカーの収納操作をします。**
- **植付部の「上昇」「下降」操作だけでは線引マーカーは切替りません。**
- **線引マーカーの状態は線引マーカーモニターの「⬅」「➡」が「点灯」または「消灯」で確認できます。****(12ページ参照)**

4．植付クラッチ切戻し機能

スタータスイッチを「**切**」にしたとき，油圧バルブの状態にかかわらず植付クラッチを「**切**」にする安全機能が装備されています。

《解除操作》

植付クラッチ「**入**」の状態でエンジンを切りたい場合は，植付クラッチを「**入**」にし，警報スイッチを押しながらスタータスイッチを「**停止**」します。

取扱いのポイント

- **横送り量，ビークなどの調整を行うときは，《解除操作》を行ってください。**

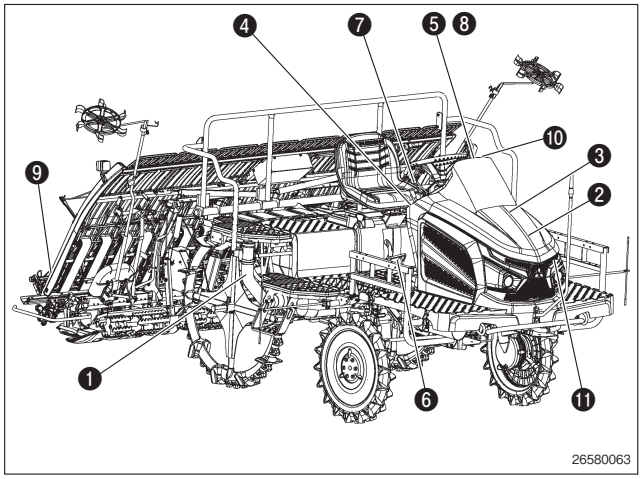
5．まくらっこ自動停止機能

植付部を「**上昇**」させるとまくらっこのロータが自動停止する安全機能が装備されており，旋回時の泥跳ね防止にもなります。

運転のしかた

1．運転まえの点検

安全作業のために毎日の運転まえに「**運転まえの点検表**」を参考に点検してください。



⚠警告 傷害事故防止のために

◆異常が見つかった場合は，処置が完了するまで使用しないでください。整備不良のまま使用すると思わぬ事故を引起こす可能性があります。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油をしないでください。
◆燃料補給時は火気を近づけないでください。燃料に引火し火災の原因になります。
◆燃料補給したときは燃料キャップをしめ，こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。
◆燃料タンクや燃料ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば交換してください。
◆給油・注油・点検するときには機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止してから行ってください。

⚠警告 火傷防止のために

◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意 傷害事故防止のために

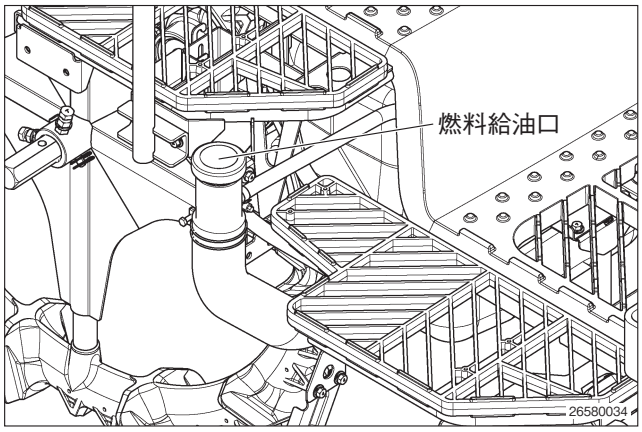
◆点検整備などで取外したカバー類は，すべて取付けてください。

「**運転まえの点検表**」

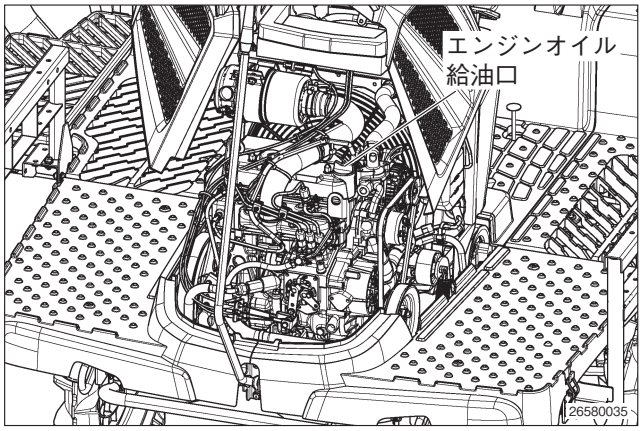
点　検　箇　所	内　　容	処　　置	参照ページ
❶燃料タンク	・作業に必要な量の燃料が入っていますか。 ・燃料ホースから燃料が漏れていませんか。	・燃料を補給する。 ・ホースを交換する。	77 87
❷エンジンクランクケース	・オイル面がオイルゲージの上限・下限目盛の間にありますか。	・オイルを補給する。	77～78
❸ラジエータ	・リザーブタンク内の冷却水が《**FULL**》と《**LOW**》の間にありますか。 ・ラジエータホースから冷却水が漏れていませんか。	・冷却水を補給する。 ・ホースを交換する。	79 87
❹スタータスイッチ	・スイッチを《**切**》位置にするとエンジンが停止しますか。	・配線の外れを調べ処置する。	8
❺警報スイッチ･前照灯スイッチ･植付スイッチ	・各モニターが点灯しますか。 ・警報ブザーが鳴りますか，止まりますか。 ・前照灯が点灯しますか。	・ヒューズの切れ，配線の外れを調べ，処置する。	12～14 9 9
❻ブレーキペダル	・ブレーキペダルを踏むと主変速レバーが《**N**》（**中立**）に戻り，ブレーキがかかりますか。	・異常箇所を調べ処置する。	17～18 97
❼クイックアップレバー	・レバーを操作すると植付部が上昇･下降・固定になりますか。 ・植付クラッチが断続できますか。	・異常箇所を調べ処置する。	22

点　検　箇　所	内　　容	処　　置	参照ページ
❽まくらっこスイッチ	・《**格納**》,《**作業**》の操作ができますか。	・異常箇所を調べ処置する。	70〜73
❾植付部	・苗送りゴムベルトやフロートの上に泥がのっていませんか。 ・エプロンに障害物がのっていませんか。	・掃除する。	−
❿上げ，下げ・植付スイッチ（スマイルシフト）	・スイッチを操作すると植付部が上昇・下降・固定になりますか。 ・植付クラッチが断続できますか。	・異常箇所を調べ処置する。	23 60
⓫前輪（T仕様のみ）	・空気圧は適正ですか。	・空気圧を確認し処置する。	95

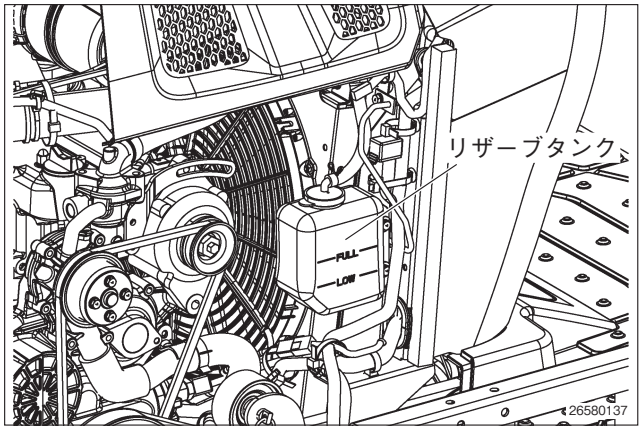
❶ 燃料タンク



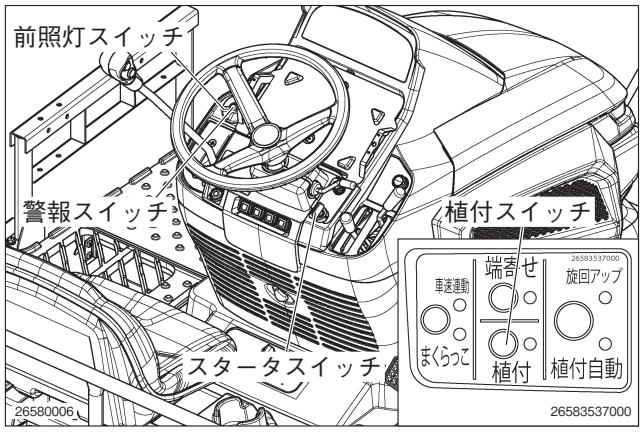
❷ エンジンクランクケース



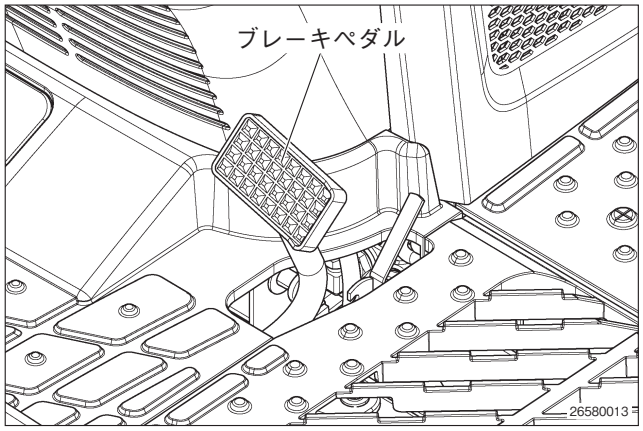
❸ ラジエータ



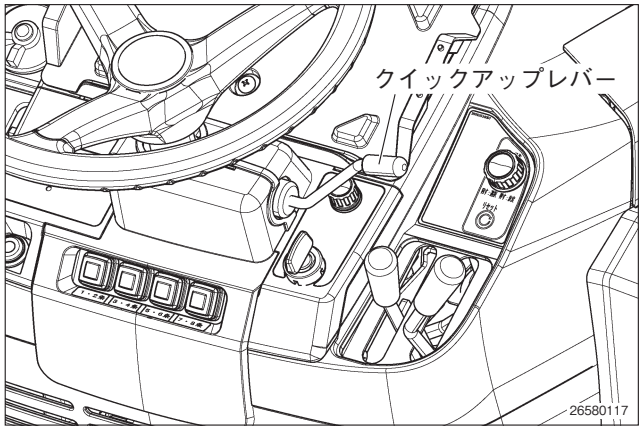
❹ スタータスイッチ，❺ 警報スイッチ，前照灯スイッチ，植付スイッチ



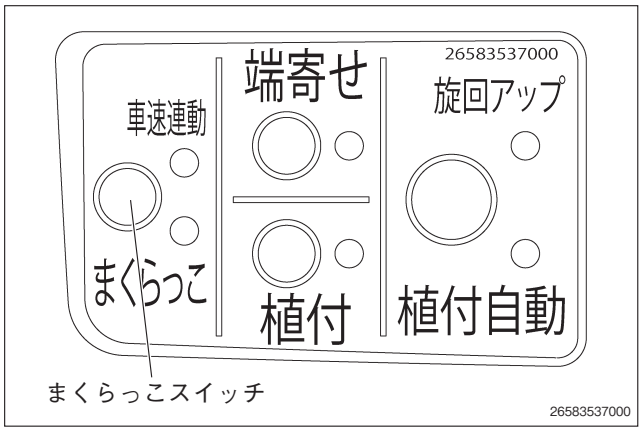
❻ ブレーキペダル



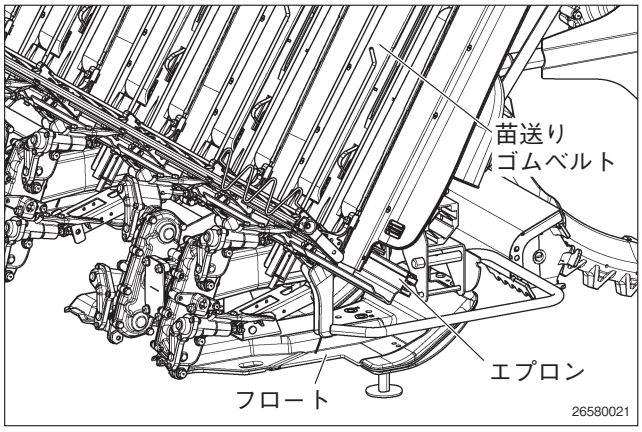
❼ クイックアップレバー



❽ まくらっこスイッチ



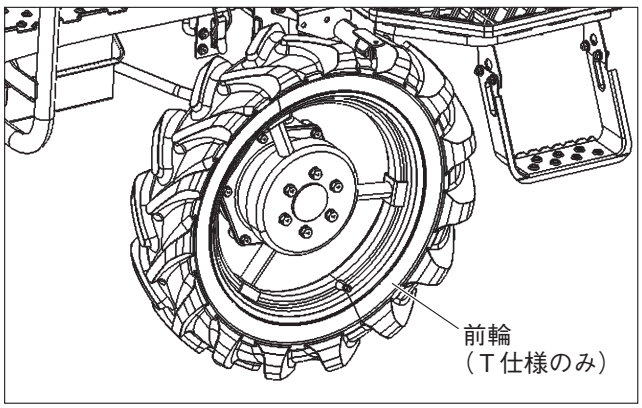
❾ 植付部



❿ 上げ，下げ・植付スイッチ（スマイルシフト）



⓫ 前輪（T仕様のみ）



2. エンジンの始動と停止

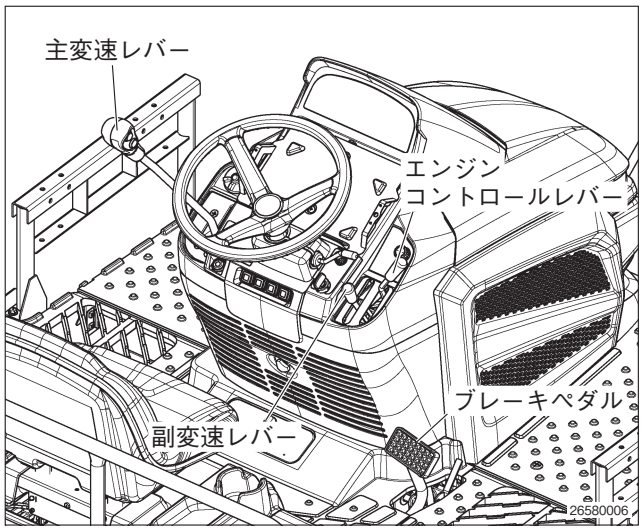
⚠警告 傷害事故防止のために

◆マフラー排気口付近に燃えやすいものを置かないでください。
◆周囲に障害物がないか確認して行ってください。
◆屋内での始動は窓や戸を開けて換気を行い，排気ガス中毒にならないようにしてください。
◆エンジンの始動はシートに座って行ってください。
◆駐車ブレーキをかけて，主変速レバーと副変速レバーが《N》(中立）であることを確かめて，周囲から子供など人を遠ざけてエンジンを始動してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

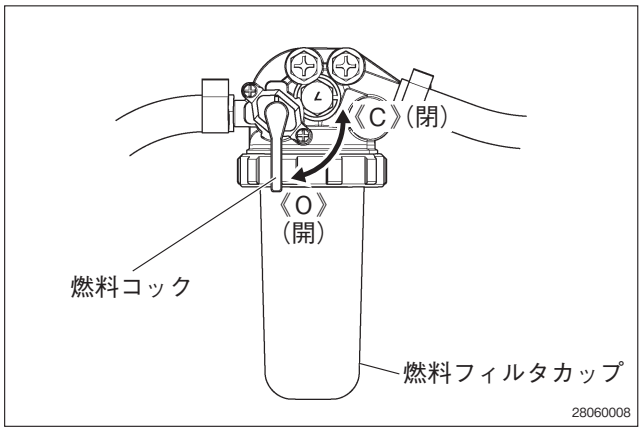
◆点検・整備などで取外したカバー類はすべて取付けてください。

1. エンジン始動のしかた

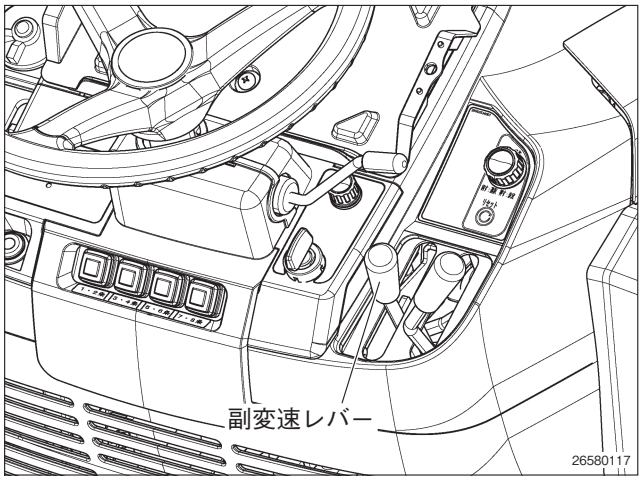


❶ 体格に合わせ着座位置を調節します。（20ページ参照）

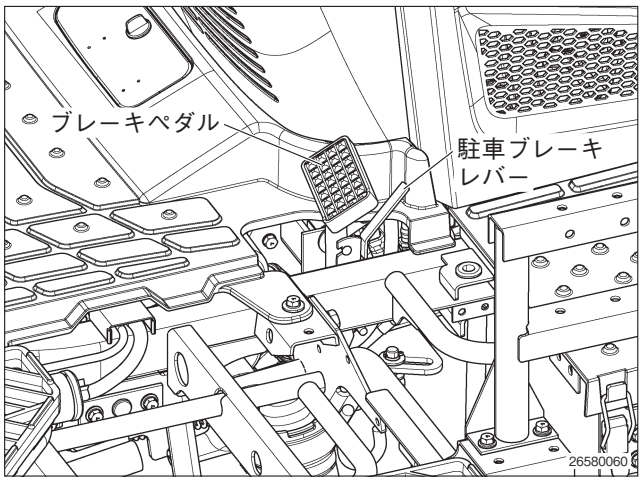
❷ 燃料フィルタの燃料コックを《O》(開) にします。



❸ 副変速レバーを《N》(中立) 位置にします。

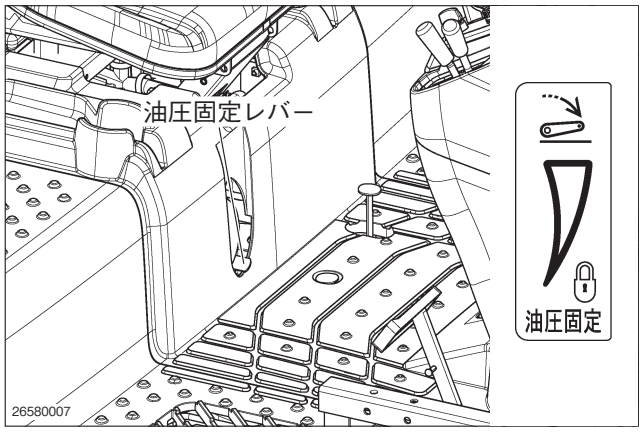


❹ ブレーキペダルを駐車ブレーキレバーのフックにかけます。(ブレーキペダルをいっぱいまで踏込むと主変速レバーが《N》(中立) に戻ります)

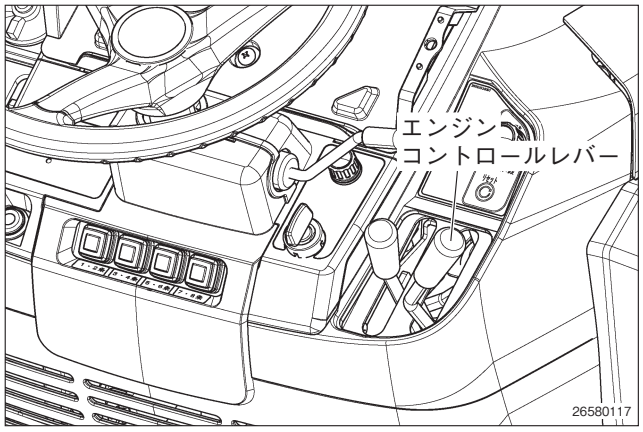


❺ 主変速レバーと副変速レバーが《N》(中立) 位置になっていることを確認します。

❻ 油圧固定レバーを《油圧固定》位置にします。



❼ エンジンコントロールレバーを操作します。

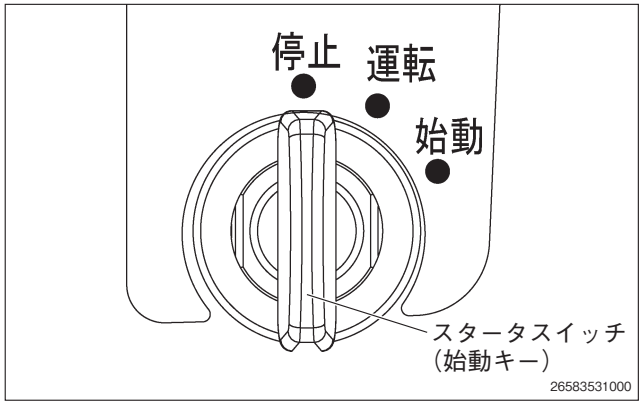


❽ ブレーキペダルをいっぱい「踏込み」ます。

取扱いのポイント

- **始動安全スイッチを装備していますので，ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンは始動しません。**

❾ スタータスイッチを《始動》位置に回します。
❿ エンジンが始動したら，スタータスイッチから手を離します。スタータスイッチは自動的に《運転》の位置に戻ります。



取扱いのポイント

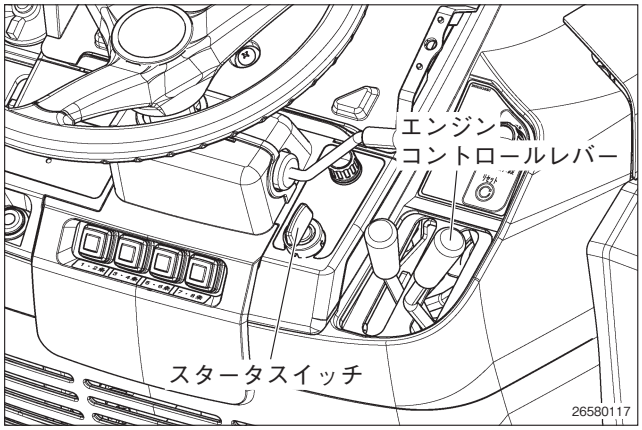
- **寒冷時にエンジンを始動するときは，始動する前にスタータスイッチを《運転》位置で約５秒待ってから《始動》位置に回してください。**
- **スタータスイッチを《始動》位置で５秒以上使用すると故障の原因になります。**
- **エンジン回転中にスタータスイッチを《始動》位置に回すと故障の原因になります。**

⓫　ブレーキペダルからゆっくり足を離します。

取扱いのポイント

- **エンジン始動後は，エンジンコントロールレバーを「低速」の位置にし，約５分間暖機運転をしてください。**
  暖機運転は，主変速，副変速を《N》(中立）位置で駐車ブレーキをかけて行ってください。

2．エンジン停止のしかた



❶　エンジンコントロールレバーを前方に戻して，エンジン回転を「**低速**」にします。

❷　スタータスイッチのキーを《**停止**》位置にしエンジンを停止します。

取扱いのポイント

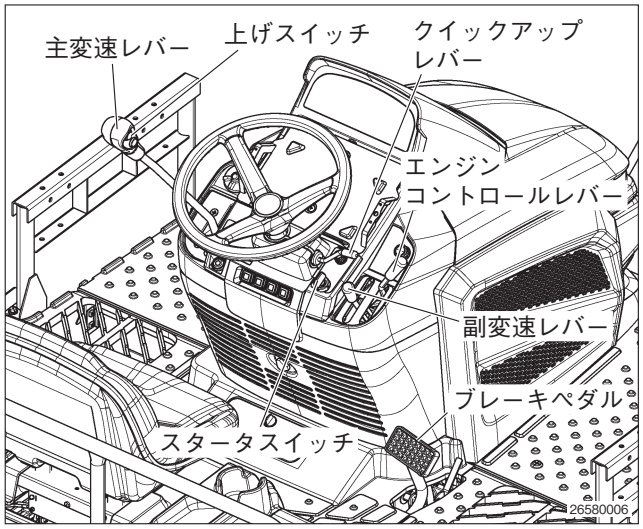
- **エンジンを停止するときは，エンジン回転を「低速」で２～３分間「冷却運転」を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。**

3．運転のしかた

⚠警告　傷害事故防止のために

◆発進するときは周囲を確認してからゆっくり行ってください。
◆運転者の他に子供など，人や物を機械に乗せないでください。
◆ヘルメットをかぶってください。
◆坂道で駐車しないでください。やむをえず坂道で駐車する場合はエンジンを停止し駐車ブレーキをかけ，後輪に車止めをしてください。
◆機械から降りるときは始動キーを抜取っておいてください。
◆駐車・停車時には，駐車ブレーキレバーをかけてください。
◆走行するときは，苗のせ台を中央に止めマーカーを収納してください。

1．発進のしかた

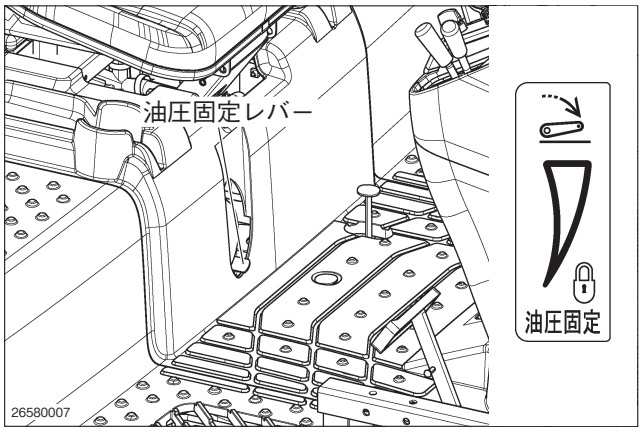


❶　スタータスイッチを回し，エンジンを始動します。（8，37ページ参照）

❷　エンジンコントロールレバーを「**中速**」にします。

❸　油圧固定レバーを「**解除**」し，クイックアップレバーまたは，《**上げ**》スイッチで植付部を「**上昇**」させます。

❹ 油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にし，植付部を「**固定**」します。



❺ ブレーキペダルをいっぱい踏込み，駐車ブレーキを「**解除**」します。

❻ 副変速レバーを目的の変速位置に入れ，ブレーキペダルから足を離します。

❼ 主変速レバーを《**N**》(**中立**）から徐々に前進「**高速側**」にします。

2．走行運転のしかた

走行するときは，危険防止のためつぎのことを守り「**安全な速度**」で運転をします。

［**6条型**］は前後転倒防止のため，植付部を上げた状態で高速走行すると警報音が鳴ります。警報が鳴ったときは下の表のように車速を下げて走行してください。

植付部のまくらっこ軸高さ	車速
後車輪軸より高い	約2.4m/s以下
後車輪軸より低い	約3.0m/s以下

⚠警告 傷害事故防止のために

◆この機械は「道路運送車両法」に適合していませんので，公道は走行できません。
公道を移動するときは自動車（トラックなど）にのせて輸送してください。

◆移動するときは植付部を回転させないでください。

◆走行運転時，植付部を障害物に当てないようにしてください。

◆走行運転時は植付スイッチを《切》にしてください。

◆走行運転時は，補助苗台の上などに物を載せないでください。

◆肥料が入っている場合は，低速で走行してください。

◆わき見運転や片手運転はしないでください。
接触や転落の原因になることがあります。

◆停止するときは，必ず主変速レバーを《N》(中立）に戻してからブレーキペダルを踏んでください。
高速走行時の急ブレーキ操作は行わないでください。

◆側溝のある道や，両側が傾斜している道を走行するときは，路面を確認してください。
軟弱な路肩や草が生い茂っている所は走行しないでください。路肩がくずれて転倒したりして傷害事故を起こすことがあります。

◆溝やあぜを横断したりするときは，低速にしてください。高速では，スリップや転倒の原因になります。

◆旋回するときはスピードを落としてゆっくり旋回してください。高速での旋回は横転するおそれがあります。

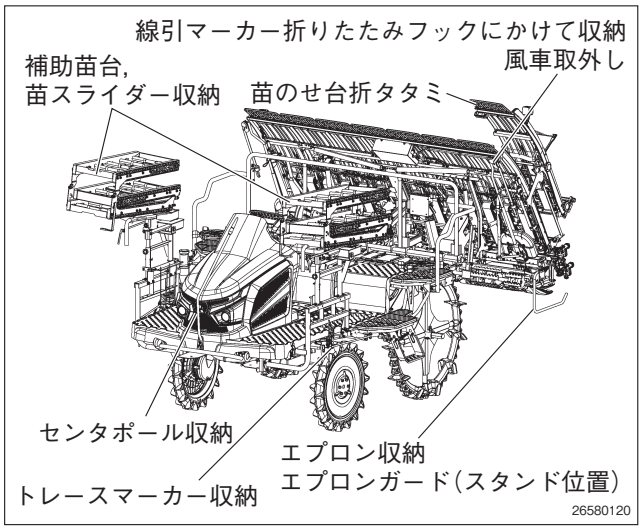
◆坂道では副変速を《N》(中立）にしないでください。エンジンブレーキがきかなくなり，暴走することがあります。

◆坂道や凸凹，カーブの多い道では，高速運転はしないでください。下り坂では副変速レバーを《作業》位置にして走行してください。

◆坂の途中で危険回避などのためにやむをえず機械を停止させたいときは，必ず主変速レバーを《N》(中立）に戻してからブレーキペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキペダルの踏込みが足らない場合は，暴走するおそれがあります。

［8条型］

「走行状態」



❶ センタポール・トレースマーカー（左右）を**「収納」**します。線引マーカー（左右）は風車を外しマーカーロッドを折りたたみ**［輸送収納］**位置でフックにかけて**「収納」**します。(29～31ページ参照)

苗スライダーも収納します。

❷ エンジンを始動し，植付部を**「上昇」**させ，油圧固定レバーを**《油圧固定》**位置にします。

❸ 苗のせ台を**「左よせ位置」**にセットします。(副変速レバーを**《N》(中立)**にし，主変速レバーを**《前進》**にし，植付スイッチを**《入》**位置にしてクイックアップレバーを**「植付」**にして苗のせ台を移動させます。)

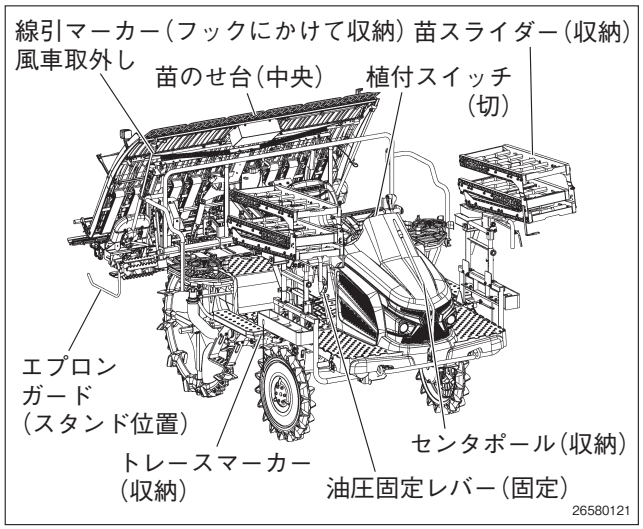
❹ 植付スイッチは**《切》**位置にします。

❺ 左側苗のせ台を収納状態にします。(55～57ページ参照)

❻ サイドエプロンを収納し（48ページ参照），エプロンガードを**「スタンド」**位置にします。

［6条型］

「走行状態」



❶ センタポール・トレースマーカー(左右)を**「収納」**します。線引マーカー（左右）は風車を外し，フックにかけて**「収納」**します。

苗スライダーも収納します。

❷ エンジンを始動し，植付部を**「上昇」**させ，油圧固定レバーを**《油圧固定》**位置にします。

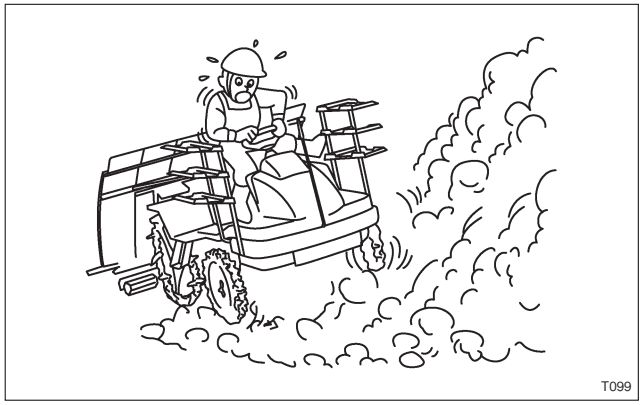
❸ 苗のせ台を**「中央位置」**にセットします。(副変速レバーを**《N》(中立)**にし，主変速レバーを**《前進》**にし，植付スイッチを**《入》**位置にしてクイックアップレバーを**「植付」**にして苗のせ台を移動させます。)

❹ 植付スイッチは**《切》**位置にします。

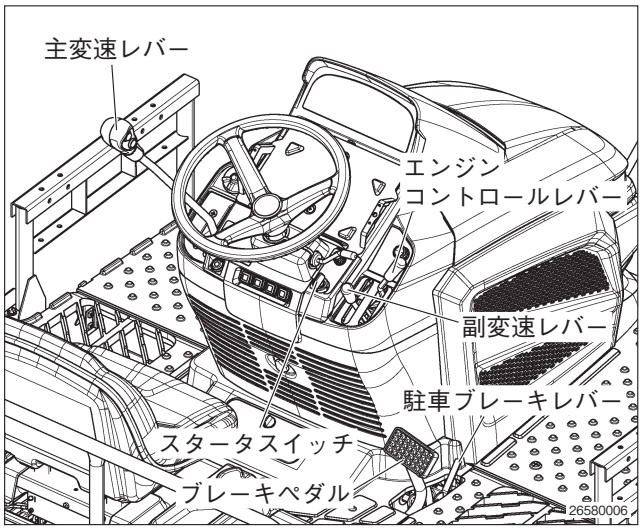
❺ エプロン両端を**「折りタタミ」**，エプロンガードを**「スタンド」**位置にします。

取扱いのポイント

●路面の状態に適した速度を選び，機械に大きな「振動・ショック」がかからないように走行します。



3. 停車のしかた



❶ 主変速レバーを《N》(**中立**) 位置に戻すと，機械は「**停止**」します。

❷ エンジンコントロールレバーを前方に押して，エンジン回転を「**低速**」にします。

❸ スタータスイッチを《**停止**》位置にし，エンジンを停止します。

❹ 駐車ブレーキレバー（フック）をかけます。

❺ 燃料コックを《C》(**閉**) 位置にします。

取扱いのポイント

- **エンジンを停止するときは，エンジン回転を「低速」で2～3分間「冷却運転」を行い，エンジン温度を下げてから停止してください。**
- **やむをえず作業機を「緊急停止」する場合は，スタータスイッチを《停止》位置にしてエンジンを停止させてください。**

4. 自動車への積込み・積降ろし

・自動車への積込み・積降ろしは，まわりに障害物のない平坦で硬い場所を選び，運転者は誘導する補助者と協力してつぎのことを守り，慎重に行います。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆アユミが傾いたりしない平坦で硬い場所を選び，自動車（トラックなど）は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し，変速を「1速」か「後進」(バック）に入れ，タイヤに車止めをしてください。

◆アユミは機械の重量に耐える強度，幅（車輪が外れない幅），長さ（荷台高さの4倍以上）があり，すべり止め，フック付きのものを使用してください。

◆アユミのフックは段差のないように，またはずれないように荷台に平行にかけてください。

◆積込み・積降ろし中は，ブレーキペダルの操作はしないでください。

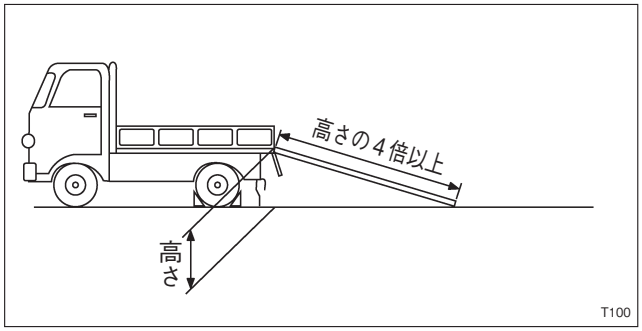
◆万一積込み途中でエンジンが停止したときは，すぐブレーキペダルをいっぱい踏込み，あらためてエンジンを始動してから行ってください。

◆積込み・積降ろし中は，クイックアップレバー，上げ，下げ・植付スイッチの操作はしないでください。

◆積込み・積降ろしするときは，補助者をつけ補助者の指示に従って行い，補助者は機械の直前・直後には立たないでください。また，機械の周囲に人を近づけないでください。

◆万一，積込み・積降ろし途中で危険回避などのために緊急に機械を停止させたいときは，ブレーキペダルを素早くいっぱい踏込んでください。中途半端な踏込みではブレーキがきかなく，転落するおそれがあります。
◆積込みは《後進》，積降ろしは《前進》で行ってください。
◆積込みが終わったら機械の中央および後方のフックにロープをかけ確実に固定し，副変速レバーを「作業」にし駐車ブレーキをかけてください。また，燃料コックを《C》（閉）にしてください。
◆中央と後方のフックは他の物のけん引には使用しないでください。

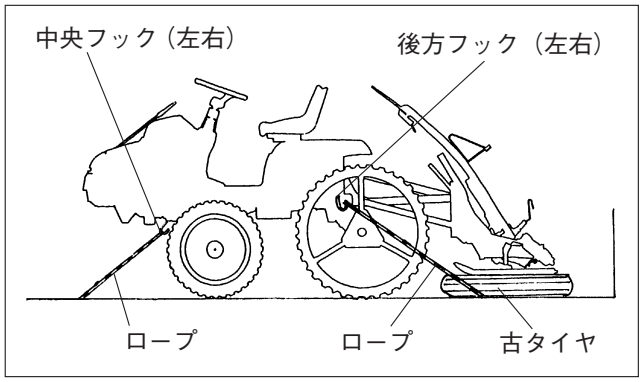
1．自動車・アユミについて



❶　積載重量が田植機の重量以上の自動車で，自動車の幅から機械がはみ出さない車を使用します。
❷　自動車は駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，変速を「**１速**」か「**後進**」(**バック**）に入れタイヤに車止めをします。
❸　アユミは自動車の荷台高さの４倍以上の長さ，機械の重量に合った強度と幅があり，すべり止め，フック付きのものを使用します。
❹　アユミは機械の車輪幅に合わせ自動車の荷台と平行に段差のないようにかけ，横ずれしたり外れたりしないように，フックを荷台に確実にセットします。

2．機械の取扱いかた

❶　機械を「**走行状態**」にセットします。(40ページ参照)
❷　主変速レバーを「**最低速**」にして，エンジンコントロールレバーにて車速調整します。
❸　積込みは「**後進最低速**」で行います。
・主変速位置……後進側
・副変速位置……作業
❹　積降ろしは「**前進最低速**」で行います。
・主変速位置……前進側
・副変速位置……作業
❺　積込み後は駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止し主変速レバーは《**N**》(**中立**)，副変速レバーは「**作業**」位置に入れたままにします。燃料コックを《**C**》(**閉**）にします。ロープで本機の「**中央および後方フック**」を使い確実に固定します。
油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にします。



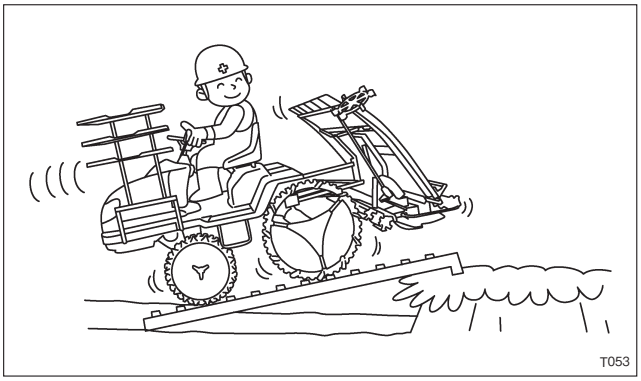
取扱いのポイント

- **機械を運搬する際，フロートの下に古タイヤなどのクッションになるものに植付部を降ろす場合，油圧固定レバー《油圧固定》位置で運搬してください。**
- **輸送時は，スタンドを使用しないでください。**
- **植付部にはロープをかけないでください。**

5. ほ場への出入り

⚠警告 傷害事故防止のために

◆ほ場への出入りやあぜ越えは植付部の回転を止めて行ってください。
◆10cm以上のあぜ，溝，10度以上の急傾斜のあるほ場への出入りは，アユミを使用し「低速」で「直角」に行ってください。
◆ほ場への出入り・あぜ越え・アユミの上で，ブレーキペダルを踏むときは「素早く」行ってください。また，変速操作をしないでください。
◆急傾斜・溝越えはアユミを使用してください。
◆あぜがくずれないことを確認してから，ゆっくり行ってください。
◆後輪がほ場に入ってからハンドルを回し旋回します。



❶ 副変速レバーを「**作業**」位置にします。

❷ 主変速レバーを「**最低速**」にし，エンジンコントロールレバーで車速調整します。

❸ 高低差が大きいと危険です。アユミを使用し，登るときは「**後進最低速**」，降りるときは「**前進最低速**」で行います。

❹ ほ場の出入りは，「**あぜに直角**」に行います。斜めに行うと機械が横に傾いて転倒するおそれがあります。

作業のしかた

1．作業まえの準備

ほ場や苗の条件が整っていないと，植付けの作業性・精度が低下するおそれがあります。以下の条件に気を付けて作業に入ります。

※ほ場づくりは，作物の種類・植付時期・気候や風土などの条件によって異なりますので，最寄りのJAや普及センタ，経験者に相談して，作物に適したほ場づくりをしてください。

1．ほ場の準備

❶ 耕うん

・耕深は13～15cm程度が適当です。

❷ 施肥・除草

・肥料・除草剤の施用は，地域の指導機関に相談してください。

❸ 代かき

・代かきは，田面ができるだけ均平になるようにしてください。

❹ 水の深さ

・田面の水は，「**水深１～２cm**」程度が適切です。

・水が深いと植付け作業のときに，先に植えた隣接苗を倒すことがあります。

❺ 田面のかたさ

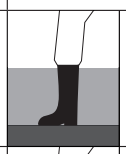
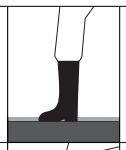
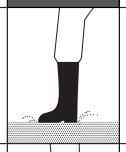
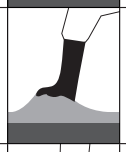
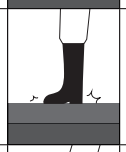
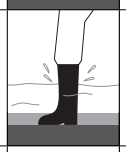
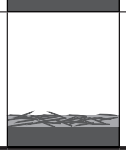
・指で田面に線を引くと，なめらかに「**すじ**」ができ，その跡に徐々に泥が寄る程度が最適です。

❻ ほ場条件

・うまく作業できない可能性のあるほ場がありますので，下の表で確認してください。

取扱いのポイント

●水利事情で落水することができない場合は，田植機での植付け速度を遅くし，フロートによる波が発生しないようにしてください。

項目	条件（うまく作業できない可能性のある状況）			
深　さ		耕盤までの深さが30cm以上のほ場。		耕盤までの深さが10cm以下のほ場。
土　質		砂質の多いほ場。（手植えでも植付困難な硬いほ場）		強粘土質のほ場。（長靴が脱げそうになるような粘いほ場）
硬　度		代かき直後のほ場，または代かき後何日たってもしまらないトロトロの軟らかいほ場。（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）		代かき後，日数がたって硬くなったほ場，または代かき後すぐにしまるほ場。（手植えでも植付困難な硬いほ場）
水　深		水深が全体的に３cmを超える水の多いほ場。		水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。
夾雑物		裏作跡など刈り株や排ワラまたは雑草などが十分に分解されず，代かき後も田面に大量に露出しているほ場。		

2．苗の準備

❶　植付け苗

・つぎの育苗を標準とします。

	稚　　苗	中　　苗
苗　　令（葉）	2.0 ～ 2.5	3.0 ～ 3.5
苗　　長（cm）	8 ～ 15	15 ～ 20
育苗日数（日）	15 ～ 20	30 ～ 35
苗　す　が　た		

取扱いのポイント

●育苗方法などは地域により異なることがありますので詳しくは，各地域の「指導指針」を参考にしてください。

●３葉前後の苗は，移植後の活着が悪くなりますので避けてください。
稚苗は2.5葉までに，中苗は3.5葉程度で植付けてください。

❷　苗床の水分

植付け苗は，田植の前日にかん水しておきます。

・適切な水分

植付け苗の水分はやや控え目がよく，苗床の底面を指で押さえて少しくぼむ程度の湿りが最適です。

・水分が多すぎるとき

苗がすべりすぎて，適切な苗取りができなくなります。

・乾燥ぎみのとき

苗取りした苗がばらけて植付けるときに浮き苗が発生しやすくなります。

また，苗のすべりが悪くなり，欠株が発生することがあります。

❸　苗の準備量

・10アール当たりの標準使用箱数は下表のとおりです。

（１株本数３～６本植のとき）

［条間30cm仕様］

苗の種類（播種量）／株数（株/3.3㎡）	稚苗（360cc）	中苗（230cc）	条苗（160cc）
100（11cm）	25 箱	33 箱	37 箱
85（13cm）	23 箱	30 箱	34 箱
75（15cm）	20 箱	26 箱	29 箱
65（17cm）	18 箱	23 箱	25 箱
60（19cm）	16 箱	20 箱	22 箱
50（22cm）	13 箱	17 箱	18 箱
42（26cm）	12 箱	15 箱	16 箱
37（30cm）	11 箱	13 箱	15 箱

・播種量＝催芽もみ

❹　苗の運搬

・苗をトレーラなどに積んで運搬するとき育苗箱のままで運搬してください。

・苗床がくずれると植付けができなくなることがありますので育苗箱はていねいに取扱ってください。

取扱いのポイント

●苗やほ場の条件により，同じ植付け本数調節でも使用箱数に増減があります。

●10アール当たり２箱程度の予備苗を準備してください。

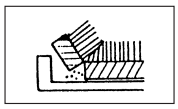
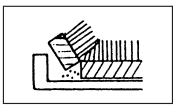
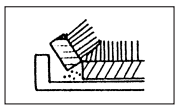
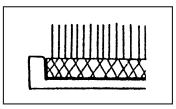
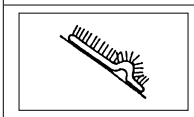
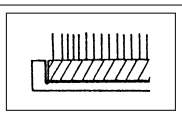
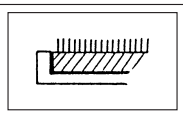
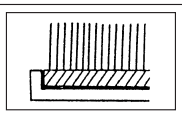
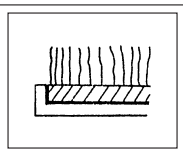
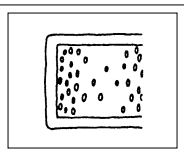
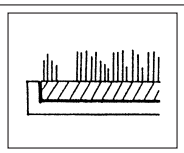
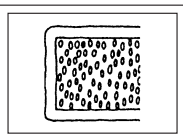
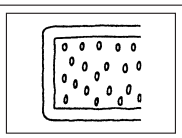
●苗床の含水状態が植付け性能に大きく影響しますので適切な水分に管理してください。

●外気温の低い地域では，トレーラなどで運搬するとき風が苗に直接あたらないようビニールシートなどで覆ってください。

●雨天に田植えをするときは，苗床が湿りすぎないようシートで覆ってください。

❺ 苗の選定

以下のような苗は植付け精度が低下することがあります。

苗　床	 ①砂質が多く，くずれやすい苗床。	 ②根張りが悪く，くずれやすい苗床。
	 ③根張りはよいが，根を切ったためにくずれやすい苗床。	 ④根の張り過ぎた，植付爪のささりにくい苗床。
	 ⑤苗床厚（マット厚）が２cm以下の，薄い苗床。	 ⑥苗床厚（マット厚）が４cm以上の，厚い苗床。
草　丈	 ①８cm以下の，短い草丈。	 ②20cm以上の，長い草丈。
素　質	 ①軟弱徒長苗。 	②播種ムラのひどい苗。  ③生育ムラやハゲた部分のある苗。
播種量	 ①催芽もみで，１箱当たり360cc以上の，厚播きの苗。	 ②催芽もみで，１箱当たり150cc以下の，薄播きの苗。

3．機械の準備（密植植え（２本爪）・疎植植え（１本爪））

⚠警告 傷害事故防止のために

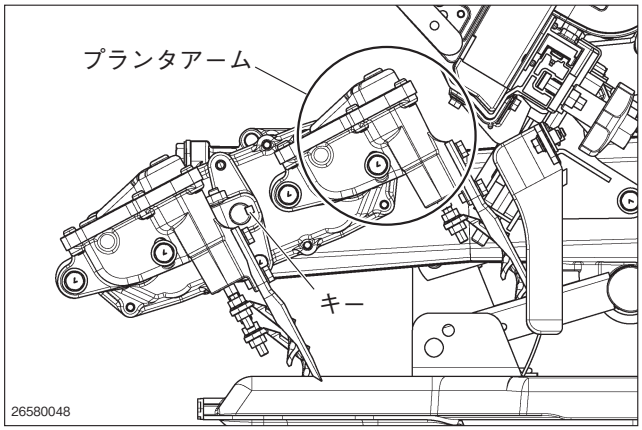
◆プランターウエイトの付替え作業をするときは，油圧固定レバーで植付部を「固定」にしてエンジンを停止してください。

「密植植え（２本爪）→疎植植え（１本爪）」

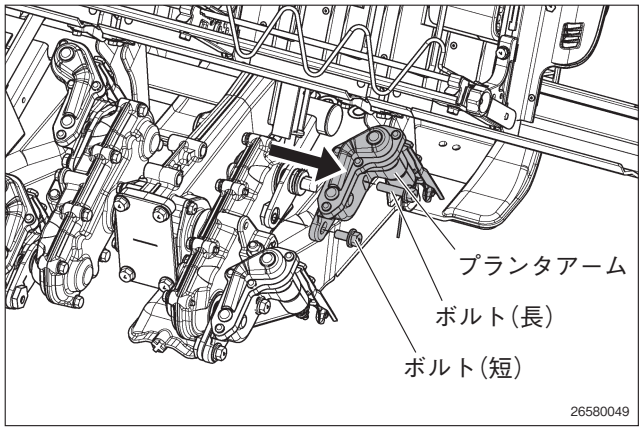
（プランターウエイト組替え）

❶ プランターウエイト組替え

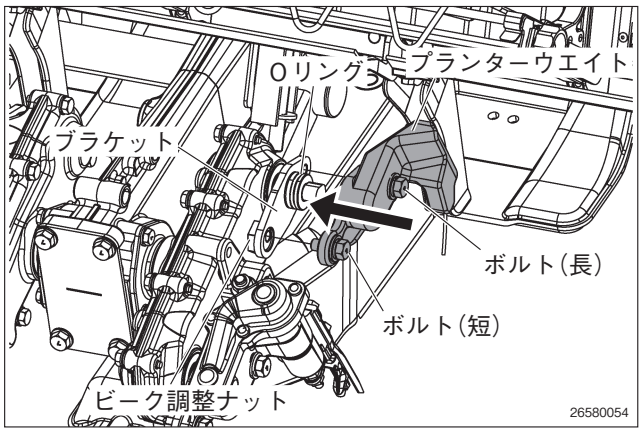
・プランターシャフトのキー溝を確認して，キーがある方のプランターアームを取外します。



・取外したボルト（長，短とも）はプランターウエイトの取付けで使用します。



・Oリングが傷つかないようにプランターウエイトをはめ込みプランターアームを外した際のボルト（長，短）で取付けます。ボルト（長）がプランターウエイトの長穴部の中央位置になるようビーク調整ナットで調整してボルト（短）を取付けます。



❷　取付方向の確認

・エンジンを始動し植付部を回して条止めを行います。

⑴　副変速レバーを《**N**》(**中立**）にします。

⑵　エンジンを始動し，植付部を上げて油圧固定レバーを《**油圧固定**》にします。

⑶　植付クラッチを「**入**」(植付モニターの点灯）にし，主変速レバーを《**前進**》にして低速域で植付部を作動させます。

⑷　条止めスイッチを端から順番に「**入**」にして全条停止させます。

⑸　主変速レバーを《**N**》(**中立**）にして駐車ブレーキをかけ，エンジンを停止します。（条止めはつぎのエンジン始動時に自動的に解除されます。）

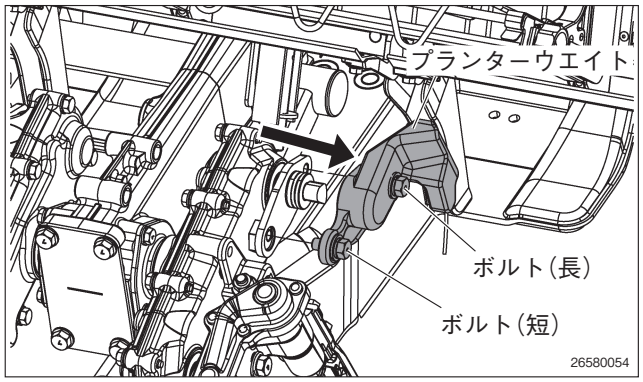
・ロータリーケースが止まっているときにプランターウエイトが機体前方（エプロン側）にあることを確認してください。

「疎植植え（１本爪）→密植植え（２本爪)」
(プランターアーム組替え)

❶　プランターアーム組替え

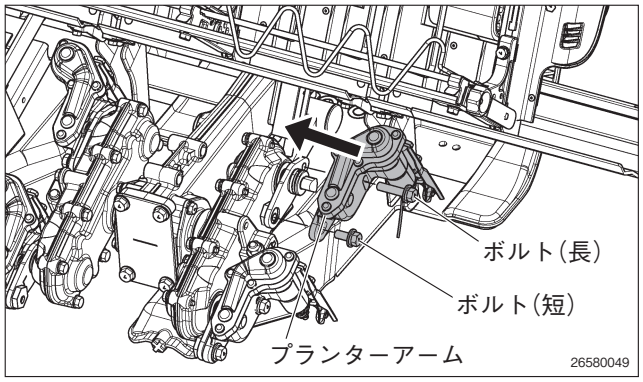
・プランターウエイトを取り外します。

・取外したボルト（長，短）はプランターアームの取付けで使用します。



・フォークを引出しながらOリングが傷つかないようにプランターアームをはめ込みます。

・ボルト２本で軽く締めあげ仮止めをします。



❷　ビークの調整

・ビークの苗取り量の調整を行いボルトを本締めしてください。(99ページ「**ビークの点検・調整**」を参照)

取扱いのポイント

- **プランターウエイトを取付け位置は決まっているので，指示したプランタアームを交換してください。条止め解除後や端寄せ時の植えはじめで空植えが発生します。**
- **組替えの作業がしづらい場合は，「ロータリーケースを手で回す要領」(52，99ページ参照）で作業しやすい位置にプランターアームを持ってきて作業してください。**
- **プランターウエイト，プランターアームを取付ける際はOリングにグリスを塗布してください。泥や汚れたグリスが付着している際はきれいにしてから交換作業を行ってください。**
- **プランターウエイトもプランターアームと同じく左右があるので，組付け方向に注意してください。**
- **取外した部品は大事に保管してください。**

4. 機械の準備（植付部の展開・収納のしかた）[8条型]

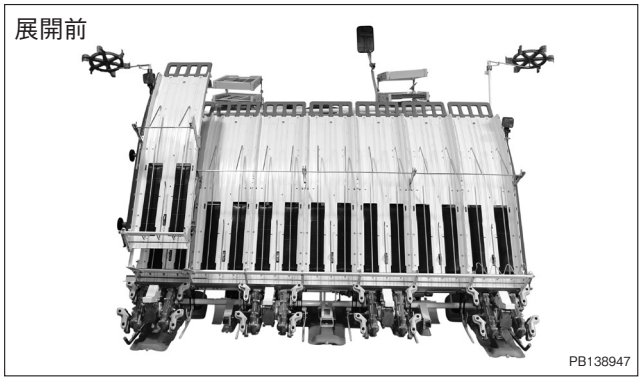
⚠警告 傷害事故防止のために

◆苗のせ台の展開・収納作業をするときは，油圧固定レバーで植付部を「固定」してエンジンを停止してください。

❶ 展開・収納前の準備

・収納時は，苗取り量調節操作をしないでください。

・作業はフロート高さを地面より20～30cmにして行います。



・端寄せ操作は以下の手順で行ってください

⑴ 主変速レバー《**N**》，副変速レバー《**N**》にして，エンジンを始動します。

⑵ 植付部を地面より30cm以上高い位置にして油圧固定レバーを《**油圧固定**》にします。

⑶ 植付スイッチ《**入**》にします。

⑷ ブレーキペダルを踏みながら端寄せスイッチ《**入**》にします。

⑸ 主変速レバーを《**前進**》にします。

⑹ 苗載せ台が左端に来ると，植付部が自動で停止します。

⑺ 主変速レバーを《**N**》(**中立**) に戻します。

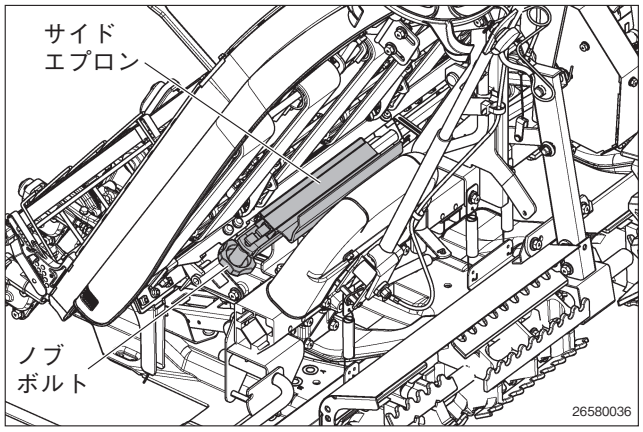
取扱いのポイント

- **苗のせ台が左端の位置にないとスムーズな展開・収納が行えません。**
- **苗載せ台が右端では植付部は停止しません。**
- **主変速レバーを前進側に操作し過ぎると移動速度が速く端で停止しないことがあります。**
- **施肥機を装備している場合は肥料の投入前もしくは施肥を停止してください。**
- **植付部が地面に近いと端寄せは開始しません。**

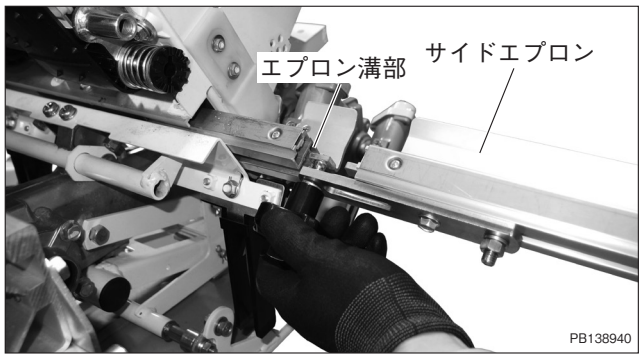
❷ 展開のしかた

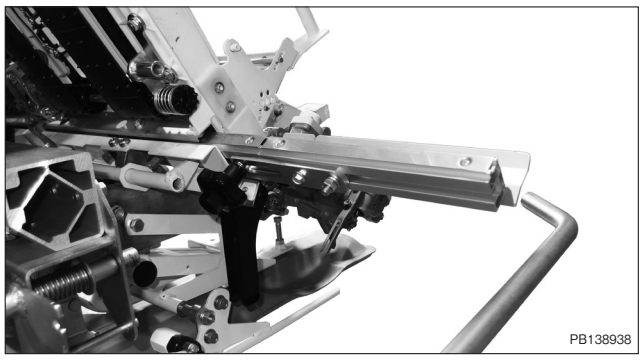
⑴ サイドエプロンの取付け

・サイドマーカー駆動カバー後方のエプロンスタンドに取付けてあるサイドエプロン（左・右）のノブボルトをゆるめて取外し，エプロン両端へ取付けます。



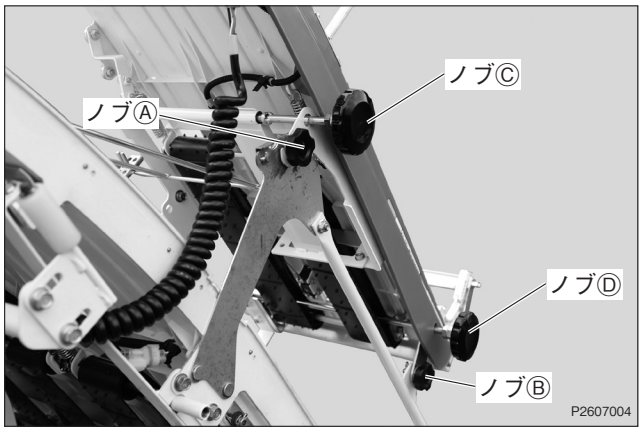
・エプロン溝にサイドエプロン連結金具の突起部を挿入し，エプロンとサイドエプロン連結部を合わせてノブボルトを締付けます。





⑵ 苗のせ台の展開

・ノブⒶⒷⒸⒹをゆるめます。



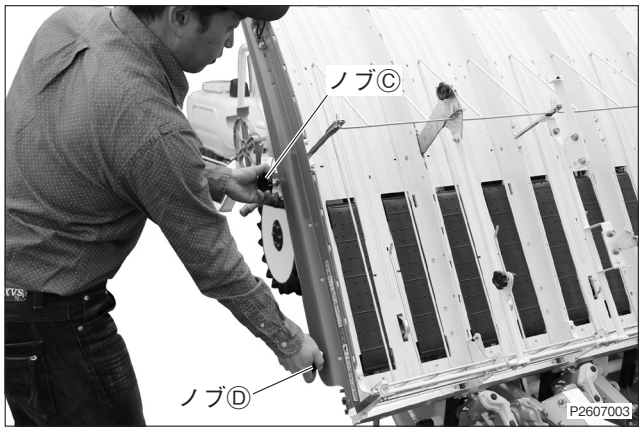
・ノブⒶを回動させて展開部から外します。



・苗のせ台展開部の下部フレームと上部外側を持って横へ展開します。



・ノブⒸⒹを締めます。



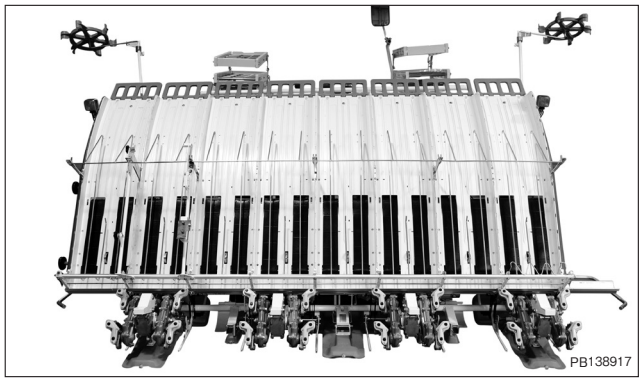
・ノブⒶを回動して締めます。



・クランプを固定します。



［苗のせ台展開状態］



❸ 収納のしかた

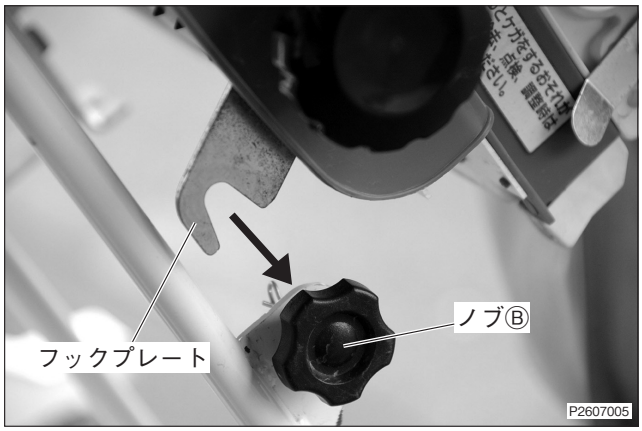
(1) 収納前の準備

・条止めスイッチを《入》(点灯) にした後，端寄せ操作を行い苗のせ台を左端に移動します。

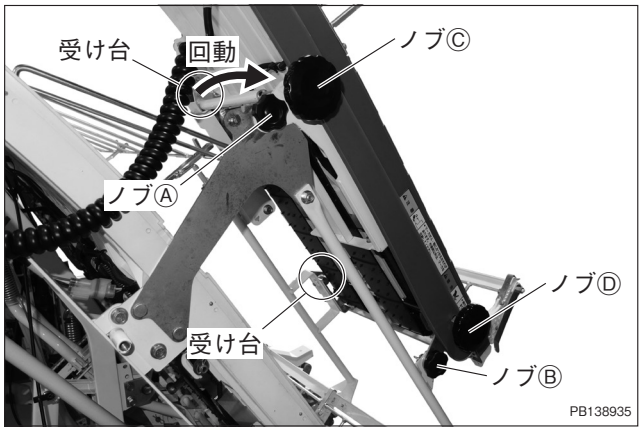
(2) 苗のせ台の収納

・展開の逆手順で行います。

・ノブⒷをあらかじめゆるめておいてフックプレートを引っかけます。



・ノブⒸⒹの先端を受け台にのせて締め込みます。ノブⒶを回動させⒶⒷのノブを締めます。



(3) サイドエプロンの収納

取付の逆手順で行います。

5. 機械の準備（調節）

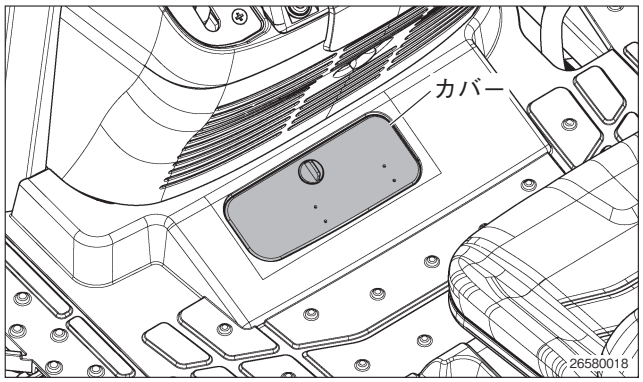
⚠注意 傷害事故防止のために

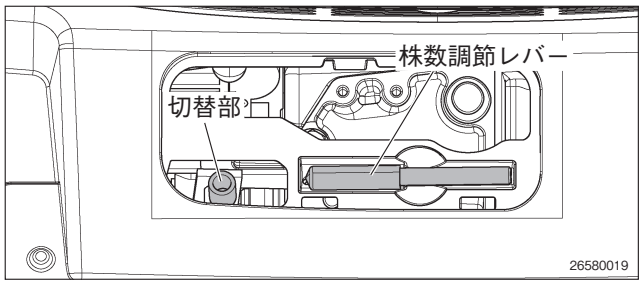
◆機械の準備をするときは，平坦な場所で行ってください。

◆株数を切替えるときは，主変速レバーと副変速レバーを《N》(中立) にして切替えます。このとき，油圧固定レバーは《油圧固定》にしておきます。

❶ 株数の調節

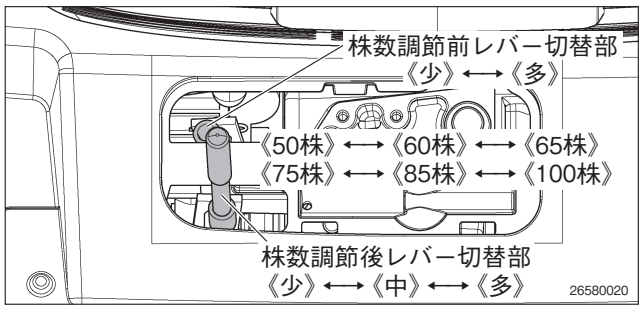
・株数調節は株数調節レバーで調節できます。株数調節レバーは，ステップ部のカバーの下に収納してあります。株数調節レバーを切替部に挿し込み切替操作を行ってください。





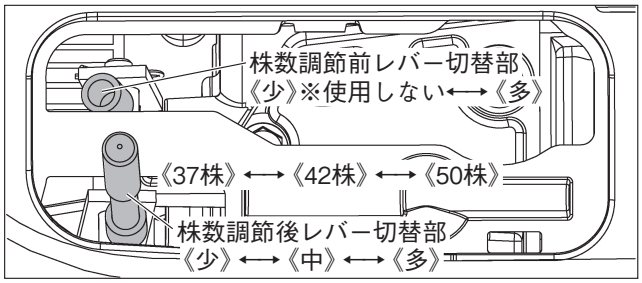
［密植植え（２本爪）］

・株数調節前レバーと後レバーの組合せにより株数は「６段階」に調節できます。



株数調節前レバー	少	多
株数調節後レバー	50株・60株・65株 (22cm)・(19cm)・(17cm)	75株・85株・100株 (15cm)・(13cm)・(11cm)

[疎植植え（1本爪組替時)]



株数調節前レバー		多
株数調節後レバー		37株・42株・50株 (30cm)・(26cm)・(22cm)

取扱いのポイント

- **株数調節前レバーおよび株数調節後レバーが中途の位置では，植付部は作動しません。所定の位置にセットしてください。**
- **株数調節レバーの切替えができないときは主変速レバーをいったん前進側に動かしてから切替え操作を行ってください。**

❷ 横送り量の調節

苗の種類（稚苗・中苗・条苗）密植植え，疎植植えによって横送り量を「**4段階**」に調節できます。出荷状態は26回に設定してあります。

[密植植え（2本爪)]は「**20回，26回**」を使用してください。**[疎植植え（1本爪組替時)]**は「**40回，52回**」を使用してください。

「横送り量調節のしかた」

(1) 主変速レバーを《**N**》(**中立**) 副変速レバーを《**N**》(**中立**) にして，エンジンを始動します。

(2) 植付部を地面より30cm以上に上げてから油圧固定レバーを《**油圧固定**》にします。

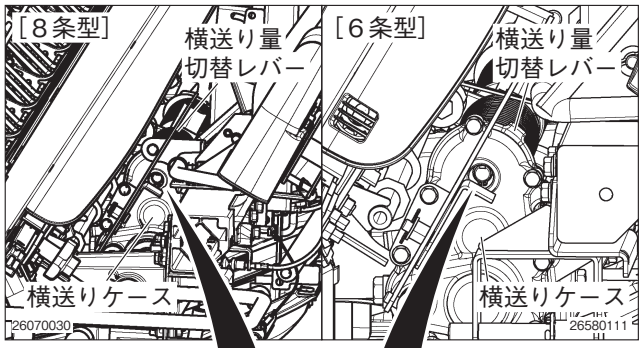
(3) 植付スイッチを《**入**》にして，ブレーキペダルを踏みながら端寄せスイッチを押し，主変速レバーを《**前進**》にします。

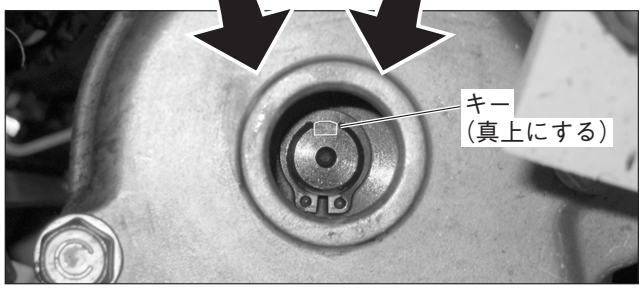
(4) 苗のせ台を左端に移動させます。このとき，施肥機を装備している場合，施肥を停止してください。

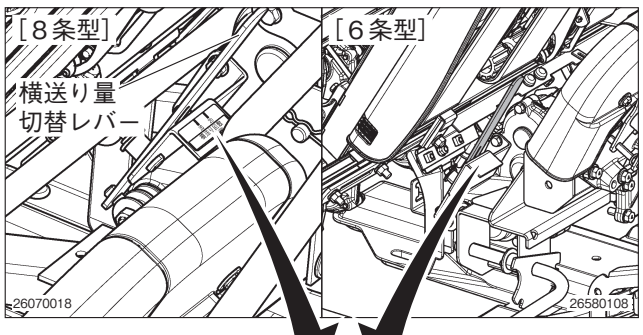
(5) 苗のせ台が左端までくると植付クラッチが自動で《**切**》になります。植付部が停止したことを確認してから，主変速レバーを《**N**》(**中立**) に戻してください。

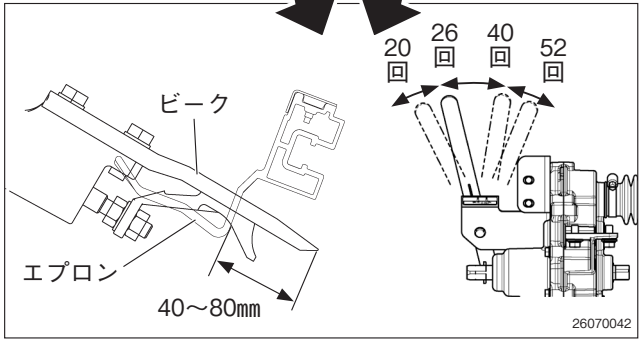
(6) クイックアップレバーもしくは「**下げ・植付**」スイッチ（スマイルシフト）で植付クラッチを《**入**》にして（植付モニターの点灯を確認)，警報スイッチを押しながらスタータスイッチを《**停止**》にしてエンジンを止めます。

(7) ロータリケースを手で回し，エプロンの下へビークを40～80㎜出してから横送り量切替レバーを操作してガイドを所定の位置（キー位置真上）に合わせます。









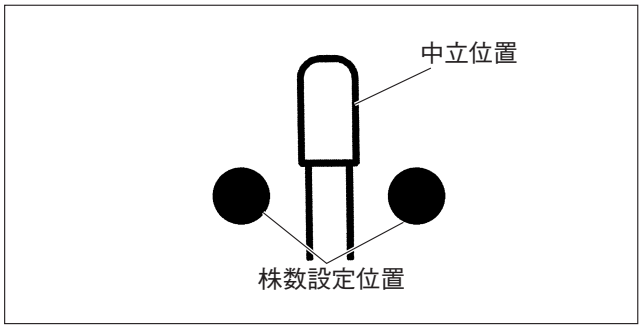
「ロータリケースを手で回す要領」

⑴　エンジンを始動し，植付部を上げて油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にします。

⑵　植付スイッチを《**入**》にしクイックアップレバーを下へ２回操作もしくは，下げ・植付スイッチを２回押して植付クラッチを《**入**》状態にします。

⑶　警報スイッチを押しながら，スタータスイッチを「**停止**」にして，エンジンを止めます。

⑷　株数調節レバー（前レバー）を株数と株数の中間（中立位置）にセットします。



⑸　ビーク先端に十分注意してロータリケースを手で回します。（一人作業）

取扱いのポイント

- **正しい手順で横送り量切替レバーを操作しないと苗の縦送りタイミングがずれますので上記以外の手順は行わないでください。**
- **ガイドの数値は一行程の植付爪の苗取り回数を示します。（数値が小さいほど，横送り量の幅が広くなります。）**
- **疎植植え（１本爪）の場合はガイドの数値の半分が一行程の植付爪の苗取り回数になります。**

❸　植付け本数の調節

・一株の植付け本数は「**３～６本**」が標準です。

・苗取り量はモニター表示を確認しながらモニター操作ダイヤルを操作し，苗のせ台を上下にスライドさせてエプロンのセット位置を変えて調節します。

・苗取り量範囲は「**少～多（８～19㎜）**」になっています。

・苗取り量は目盛りが「**多**」側から「**少**」側になるように操作し，調整します。

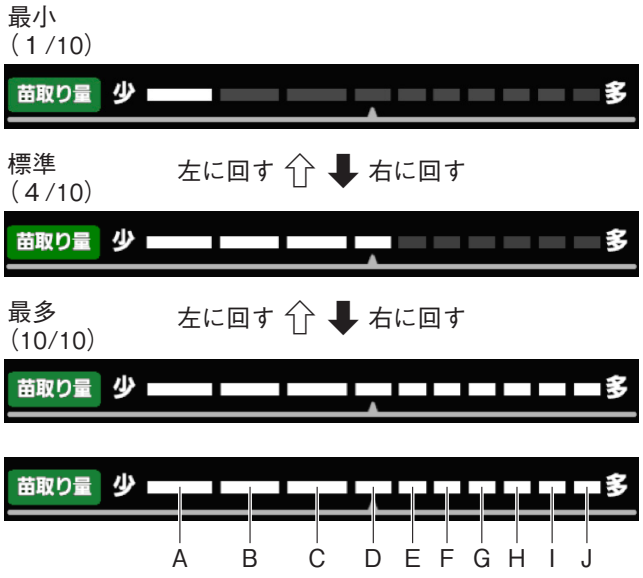
・モニター操作ダイヤルは以下の手順で操作します。

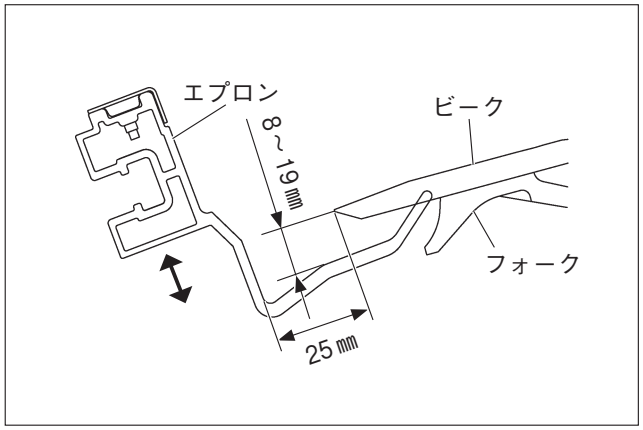
⑴　モニター操作ダイヤルを操作して《**項目選択**》モードにします。

⑵　モニター操作ダイヤルを回して「**苗取り量**」項目を選択し，モニター操作ダイヤルを押して選択を確定させ，《**調節モード**》に移ります。

⑶　モニター操作ダイヤルを回して苗取り量の調節を行います。右に回すと「**多**」側に目盛りが増えます。左に回すと「**少**」側に目盛りが減ります。

⑷　モニター操作ダイヤルを押して調節量を確定します。





・植付け本数が多いとき……

モニター操作ダイヤルを操作し，モニターパネルの表示を「**少**」の方向に調整します。

・植付け本数が少ないとき……

モニター操作ダイヤルを操作し，一旦モニターパネル表示を「**最多**」にし変更前よりも「**多**」側の苗取り量に調整します。

取扱いのポイント

- **苗取り量を調整するときは必ず「多」側から「少」側に動かしてセットしてください。**
- **１箱当たりの播種量（催芽もみ，cc）をめやすにし，苗の種類にあわせて植付け本数の調節をしてください。**

10ａ当たり使用箱数目安表

この表は株数・横送り・苗取り量を任意の位置に設定したときの箱使用数の目安です。１箱当たりの播種量表と合わせて植付本数を調節してください。

条間30㎝箱数

［密植植え（２本爪）］

※出荷時の横送りは26回送りにセットされています。

株数 / 横送り / 苗取り	100株（11cm）		85株（13cm）		75株（15cm）		65株（17cm）		60株（19cm）		50株（22cm）	
	20	26	20	26	20	26	20	26	20	26	20	26
A	22	18	20	15	17	13	15	12	13	10	11	9
B	25	19	23	18	20	15	17	13	15	12	13	10
C	28	22	26	20	22	17	19	15	17	13	15	11
D	32	25	29	22	25	19	22	17	19	15	16	13
E	35	26	32	24	27	21	24	18	21	16	18	14
F	38	29	34	27	30	23	26	20	23	18	20	15
G	41	32	38	29	32	25	28	22	25	19	22	17
H	44	34	41	31	35	27	30	23	27	21	23	18
I	47	37	43	33	37	29	32	25	29	22	25	19
J	51	39	46	36	40	31	35	27	31	24	26	20

［疎植植え（１本爪）］

株数 / 横送り / 苗取り	50株（22cm）		42株（26cm）		37株（30cm）	
	40	52	40	52	40	52
A	11	9	10	8	9	7
B	13	10	11	9	10	8
C	15	11	12	10	11	9
D	16	13	14	11	13	10
E	18	14	16	12	14	11
F	20	15	17	13	15	12
G	22	17	18	14	16	13
H	23	18	19	15	18	14
I	25	19	21	16	19	15
J	26	20	23	18	20	16

「１箱当たりの播種量（催芽もみ，cc)」

［密植植え（２本爪)］

植付け本数の調節 / 横送り				
26回送り	360	320	270	220
20回送り	320	270	220	–

［疎植植え（１本爪)］

植付け本数の調節 / 横送り				
52回送り	360	320	270	220
40回送り	320	270	220	–

❹　植付け深さの調節

・苗の条件やほ場の条件で多少異なりますが，一般には植付け深さは「２～３cm」になるように調整します。

・モニター表示を確認しながらモニター操作ダイヤルを操作し，フロートのセット位置を上下して５段階に調節「２～５cm」できます。

・長い苗はやや深めに，短い苗は浅めに植付けます。

・モニター操作ダイヤルは以下の手順で操作します。

⑴　モニター操作ダイヤルを操作して《**項目選択**》モードにします。

⑵　モニター操作ダイヤルを回して「**植付深さ**」項目を選択し，モニター操作ダイヤルを押して選択を確定させ，《**調節モード**》に移ります。

⑶　モニター操作ダイヤルを回して植付け深さの調節を行います。右に回すと「**深**」側に目盛りが増えます。左に回すと「**浅**」側に目盛りが減ります。

⑷　モニター操作ダイヤルを押して調節量を確定します。

最浅
（1/5）

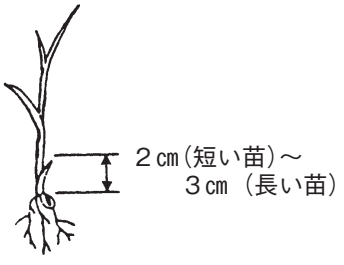


標準
（3/5）　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す



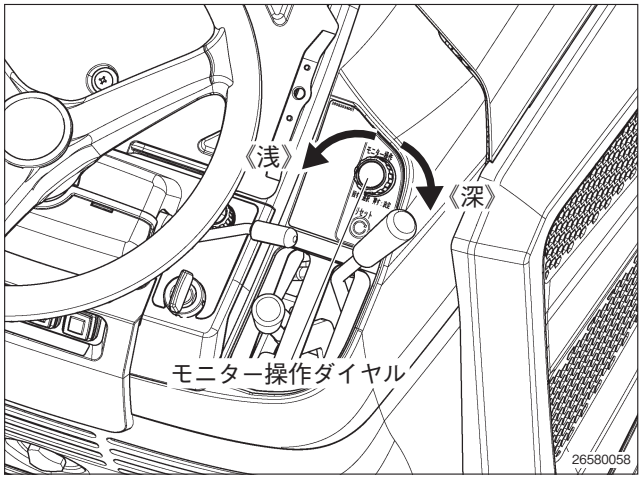
最深
（5/5）　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す





・**浅い植付け**…モニター操作ダイヤルを操作し，モニターパネルの表示を《**浅**》の方向に調整します。

・**深い植付け**…モニター操作ダイヤルを操作し，モニターパネルの表示を《**深**》の方向に調整します。



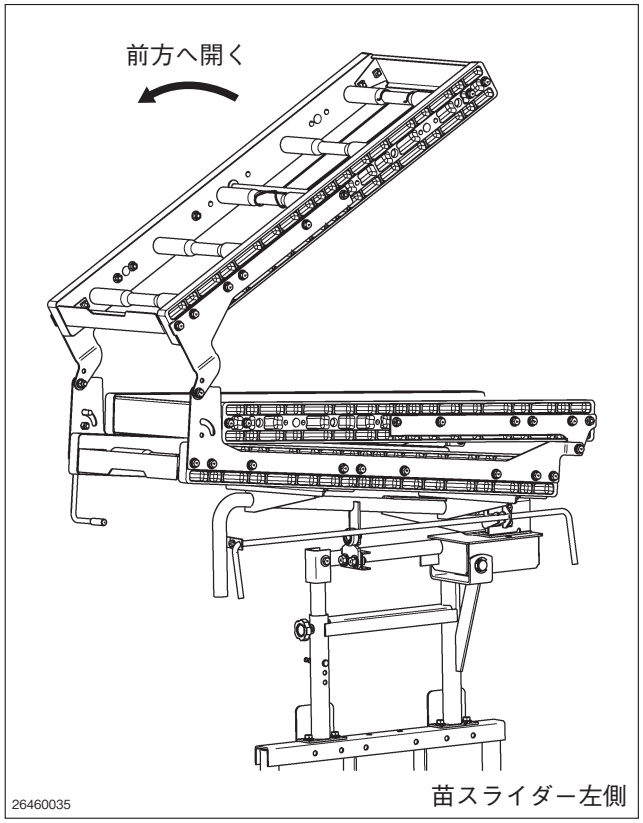
❺ 苗スライダー（スライド式補助苗台）の使いかた

⑴ 展開のしかた

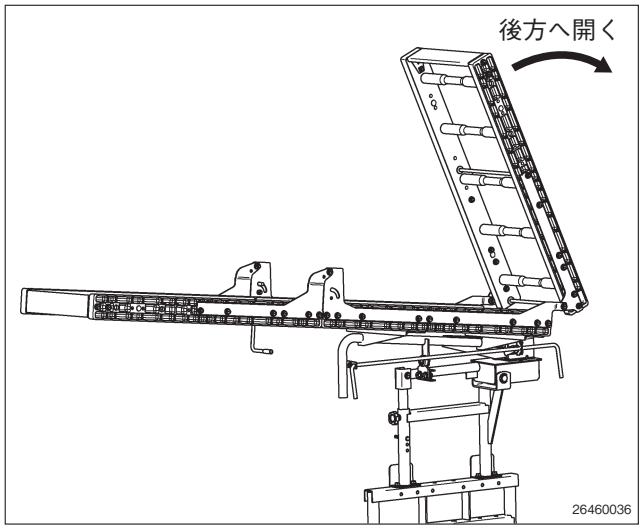
⚠注意 傷害事故防止のために

◆苗スライダーの展開は，周囲の確認をしゆっくり行ってください。

◆苗スライダーを展開する際に，指などを挟まれないよう注意してください。



苗スライダー左側



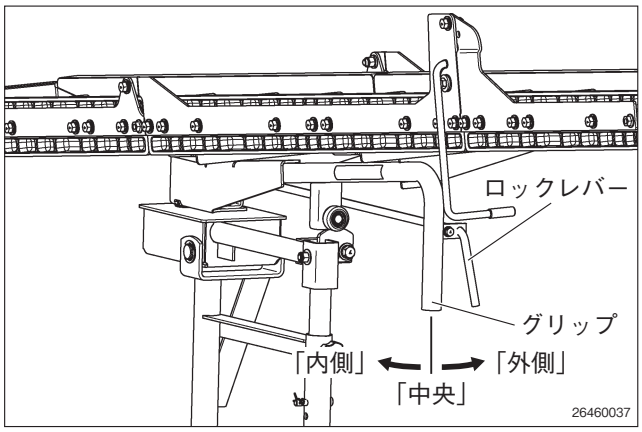
⑵ 回動のしかた

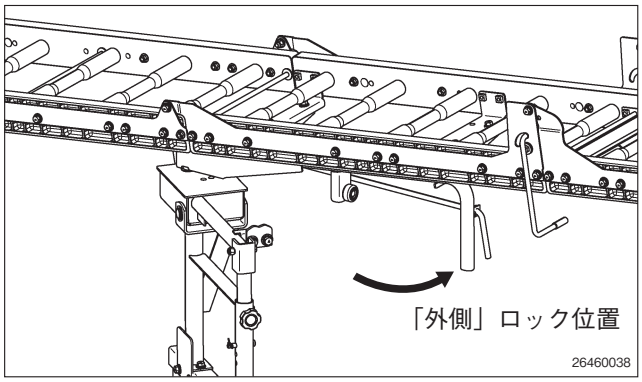
⚠注意 傷害事故防止のために

◆苗スライダーの回動は，周囲を確認しゆっくり行ってください。

ロックレバーとグリップをいっしょににぎり苗スライダーを回動させます。

外側に１箇所と内側に１箇所ロックできる位置があるので必要に応じて回動して使用します。





取扱いのポイント

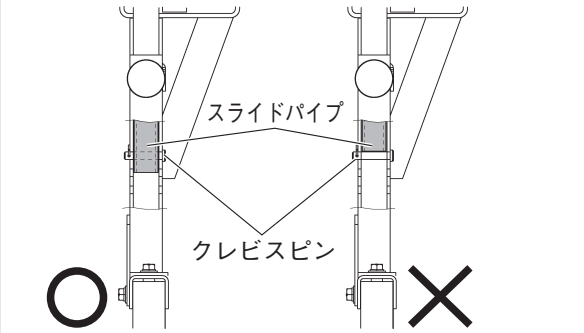
- **苗補給作業は必ずロック位置で行ってください。**
- **植付作業時や移動走行時および輸送時は「中央」位置でロックしてください。**

⑶ 上下調整のしかた

⚠注意 傷害事故防止のために

◆苗スライダーの上下調整でクレビスピンを抜く場合は，苗スライダーの急な落下に十分注意してください。

◆苗スライダーの上下調整でクレビスピンを挿入する場合，スライドパイプの穴にも必ずクレビスピンを通してください。移動走行や自動車での運搬時に外れる場合があります。

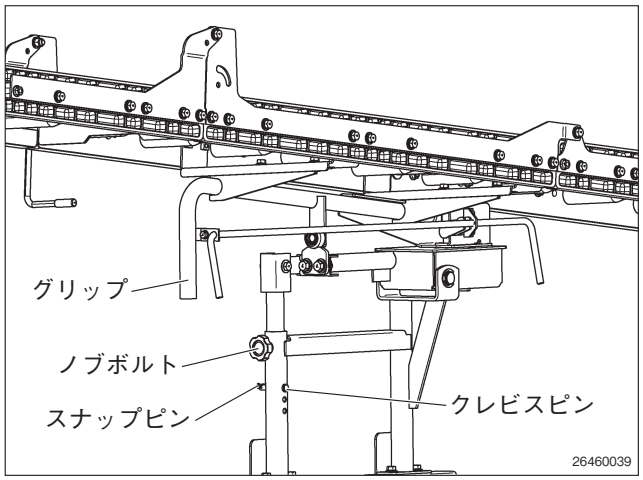


クレビスピンの差込み位置を変えることで，苗スライダーの先端位置を上下調節することができます。

・ノブボルトをゆるめます。

・スナップピンを外して，グリップを片方の手で持ち，軽く苗スライダーを浮かせ，クレビスピンを好みの位置に差し替えます。

・グリップをはなしてノブボルトを締め込みます。



・クレビスピンの差込み穴は３箇所で工場出荷時は，上穴にセットしてあります。

⑷ 苗補給のしかた

・道などからの苗補給の際に補助苗台の先端から供給し，ローラ回転により苗のせ台近くまで苗をスライドさせます。

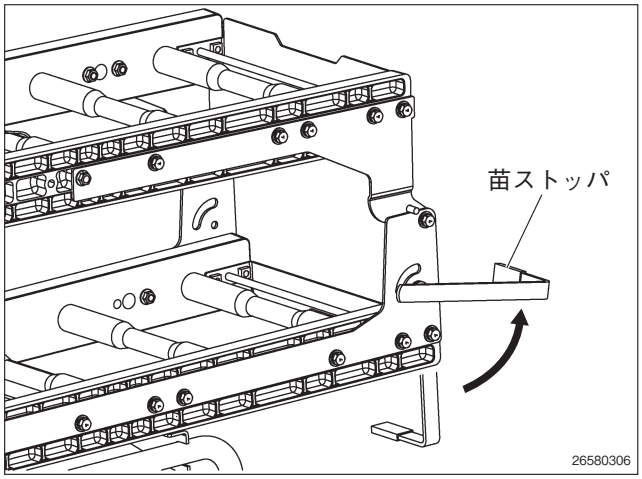


⑸ 補助苗台としての使いかた

・植付作業時は補助苗台として片側４箱搭載できます。



・苗ストッパを前方に回動することにより，苗の落下防止ができます。



2．植付け作業のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆植付爪などに異物がかみ込んだ場合には，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから取除いてください。エンジンを止めないと植付爪が一時的に回転します。

◆作業中は，作業者以外の人を機械に近づけないでください。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆運転中は回転部や作動部，マフラーなどには手を触れないようにしてください。

◆夜間作業は行わないでください。

1．最初の苗ののせかた

❶ 主変速レバーを《**N**》(**中立**) 副変速レバーを《**N**》(**中立**) にして，エンジンを始動します。

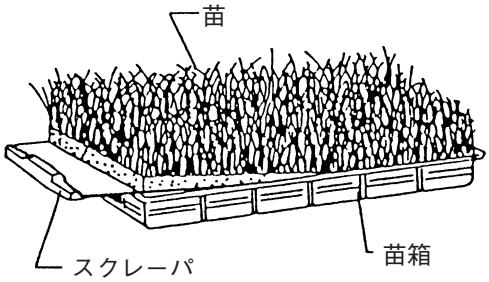
❷ 植付部を地面より30㎝以上に上げてから油圧固定レバーを《**油圧固定**》にします。

❸ 植付スイッチを《**入**》にして，ブレーキペダルを踏みながら端寄せスイッチを押し，主変速レバーを《**前進**》にします。

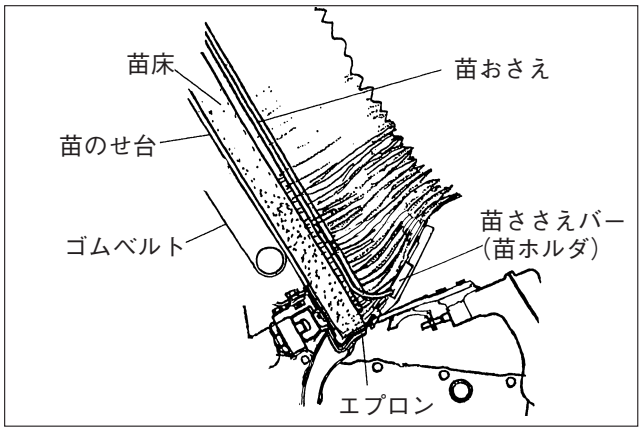
❹ 苗のせ台を左端に移動させます。このとき，施肥機を装備している場合，施肥を停止してください。

❺ 苗のせ台が左端までくると植付クラッチが自動で《**切**》になります。植付部が停止したことを確認してから，主変速レバーを《**N**》(**中立**) に戻してください。

❻ スクレーパを育苗箱と苗の間へ差込んで，苗をすくい出します。



❼ 苗を苗のせ台にのせます。



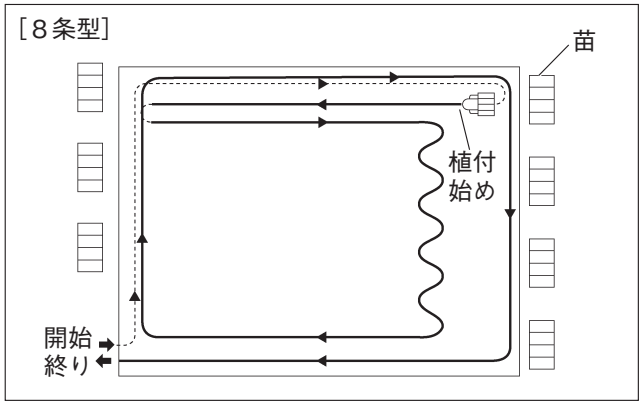
❽ 油圧固定レバーを《**解除**》にします。

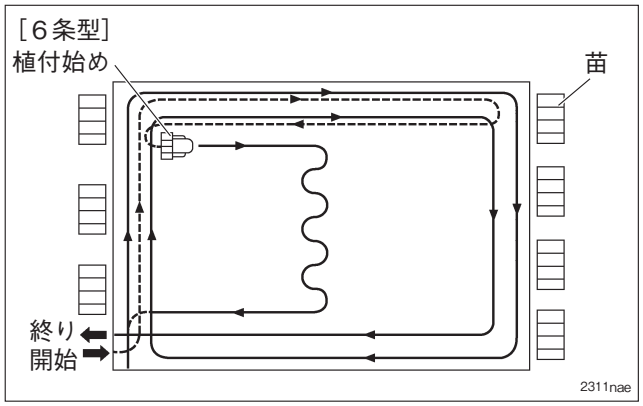
取扱いのポイント

- **施肥作業する場合は肥料が出るのを確認してから苗をのせてください。**
- **根張りが悪くて苗床のくずれ易い苗や軟弱苗はスクレーパを使用します。使用しない場合，苗床がくずれたり損傷苗が多く発生し植付けが悪くなることがあります。**
- **苗床がエプロン先端に当たるように確実に苗をセットします。**
  また苗床が苗のせ台左右枠からはみ出さないように苗のせ台にセットしてください。
- **苗は苗のせ台上方を越えないようにセットしてください。**
- **スクレーパは右側補助苗台内側の「苗スクレーパ入れ」に格納しておきます。**
- **苗床の厚さに応じて「苗おさえ」を上下に調節します。**
- **苗の草丈に応じて「苗ささえバー（苗ホルダ）」の位置を上下に調節します。**
- **苗床が乾きすぎているものは，水をかけて湿らせてください。**
- **苗を乱暴に取扱って葉を乱すと切れ苗，折れ苗などの損傷苗が多くなります。**
- **端寄せ中にクイックアップレバーの上げ・下げの操作があった場合は途中で止まります。**
- **主変速レバーを前進側に操作しすぎると移動速度が速く，端で停止しないことがあります。**

2. ほ場進入と機械のセット

・植付けのしかたはほ場の大きさや形状により異なりますので，作業のまえにどのような手順で植付けるかを決めて，効率のよい植付け作業を行ってください。



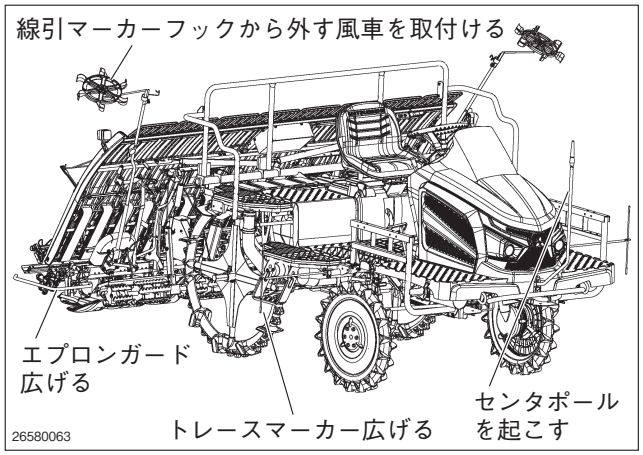


❶ 能率よく田植え作業ができるように，ほ場の両端に苗を配置しておきます。

❷ あぜぎわの真っ直ぐな長い方向から植付けを行うように，植付け方向に向かって田植機を真っ直ぐに停止します。

❸ 機械を「**植付作業状態**」にセットします。

「**植付作業状態**」



⑴ 左右の線引マーカーを「**フック**」より外し風車を取付けます。[**８条型**] はマーカーロッドを延ばし，風車を取付けます。

⑵ [**８条型**]

サイドエプロンを取付け，エプロンガードを「**広げ**」ます。(左・右) 苗のせ台を展開します。

[**６条型**]

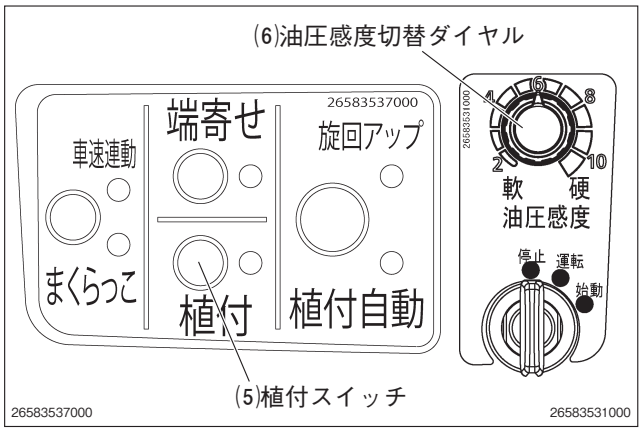
左右のエプロンガードを「**広げ**」，エプロン両端の折りタタミを「**延ばし**」ます。

⑶ トレースマーカを隣接苗に沿うように作業者の目線に合わせて「**広げ**」ます。

⑷ センタポールを「**起こし**」ます。

⑸ 植付スイッチを《**入**》にします。

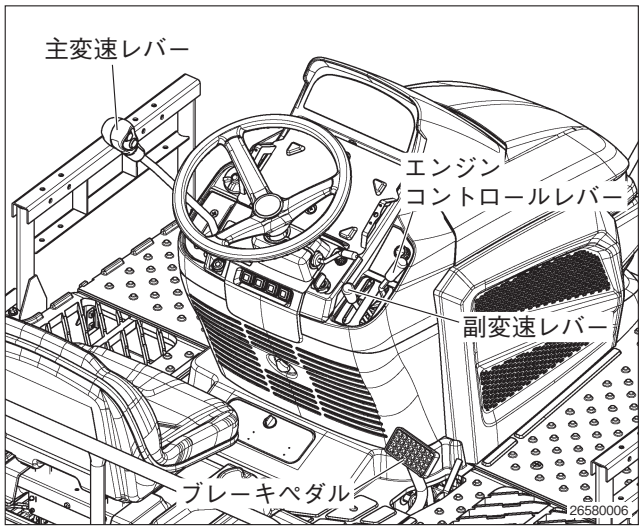
⑹ 油圧感度切替ダイヤルを《**６**》「**標準**」位置にセットします。



取扱いのポイント

- **植付け始めて，少し進んだら植付け作業を停止し，植付け深さ・植付け本数・フロートの沈下状態を調べ適正な植付け状態になるよう調整します。**
- **１箱の苗で植付けられる距離は株数・苗取り量およびほ場の条件により異なりますが，「稚苗で190m・中苗で120m」が標準です。**
- **変形したほ場での植付け手順は，長い辺に沿って植付け，できるだけ手植えが少なくなるように植付け手順を決めてください。**

3. 植付け作業の進めかた



❶ エンジンを始動し，植付スイッチを《**入**》にし，エンジンコントロールレバーを「**作業**」域にします。

❷ ブレーキペダルを踏んで副変速レバーを《**作業**》位置に入れ，主変速レバーを《**N**》(**中立**) にします。

❸ クイックアップレバーまたは，下げ・植付スイッチを操作して《**植付入**》にします。

❹ つぎの植付け行程側に，マーカーを出します。

❺ 主変速レバーを徐々に「**前進**」側にすると，田植機は苗を植付けながら進行します。

・主変速レバーでほ場条件に適した速度にします。

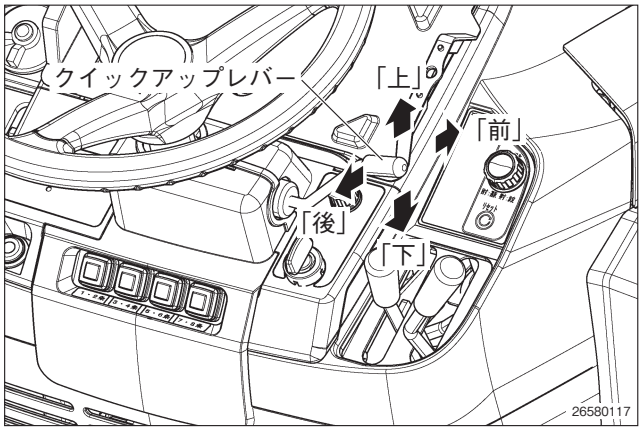
取扱いのポイント

- **植付中にトルクリミッタが作動したり，植付けが乱れるときは，主変速レバーを「低速」にしてください。**

4. クイックアップレバーの使いかた

❶ 植付スイッチを《**切**》にするとクイックアップレバーの「**上・下**」操作で植付部の「**上昇**」「**下降**」ができます。

❷ 植付スイッチを《**入**》にすると，「**上・下**」操作で植付部の「**上昇**」「**下降**」および植付クラッチの《**入**》・《**切**》ができます。「**前・後**」操作で線引マーカーの切替えができます。



（旋回前）

・クイックアップレバーを「**上**」操作すると，植付各部の作動が「**停止**」し，もう一度「**上**」操作すると植付部が「**上昇**」します。

・植付部が上昇すると，線引マーカーは自動的に収納されます。

（旋回後）

・クイックアップレバーを「**下**」操作すると，植付部が「**下降**」し，もう一度「**下**」操作すると植付各部が「**植付**」を開始します。

・植付部が下降すると，反対側の線引マーカーが自動的に出ます。

（マーカーの切替え）

・クイックアップレバーを「**後**」操作すると線引マーカーが「**右**」下げ準備状態にセットできます。

・クイックアップレバーを「**前**」操作すると線引マーカーが「**左**」下げ準備状態にセットできます。

5. 上げ，下げ・植付スイッチ（スマイルシフト）の使いかた

・主変速レバーのグリップに装備されており，植付部の「**上昇**」「**下降**」をワンタッチで行うスイッチです。クイックアップレバーか，上げ，下げ・植付スイッチのどちらか使いやすい方をお使いください。

❶ 植付スイッチを《**切**》にすると上げ，下げ・植付スイッチは機能しません。クイックアップレバーを操作してください。

❷ 植付スイッチを《**入**》にすると，植付部の「**上昇**」「**下降**」および植付クラッチの断続が行えます。



（旋回前）

・上げスイッチを１回押すと植付各部の作動が「**停止**」し植付部が「**上昇**」します。

・植付部が上昇すると，線引マーカーは自動的に収納されます。

（旋回後）

・下げ・植付スイッチを１回押すと植付部が「**下降**」し，もう１回押すと植付各部が「**植付**」を開始します。

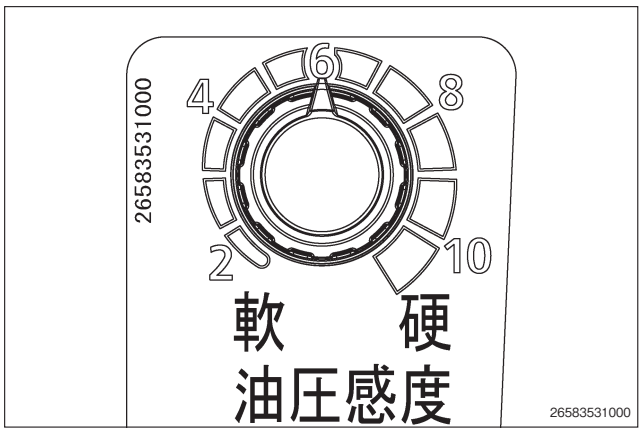
・植付部が下降すると，反対側の線引マーカーが自動的に出ます。

6．油圧感度切替ダイヤルの使いかた

植付部は，ほ場表面の凹凸に合わせて上下動します。

上下動の感度は，ほ場表面の「**やわらかさ**」の状態に合わせて切替えます。

[油圧感度切替ダイヤル]



油圧感度切替ダイヤルの操作

⑴ 最初は油圧感度切替ダイヤルを《**6**》「**標準**」位置にして作業を始めます。

⑵ ほ場条件により油圧感度切替ダイヤルを切替えます。

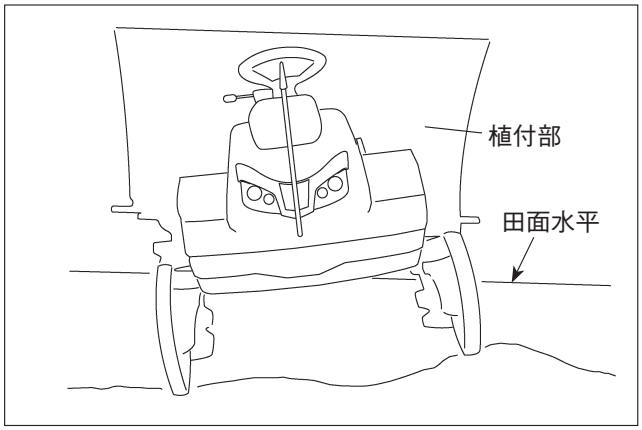
ほ場の状況	ダイヤル操作
・やわらかいほ場 （フロートで泥を押したり，フロート跡が深い場合）	・《**軟**》の方向へ回します。
・かたいほ場 （フロートでほ場の凹凸を十分ならさない場合）	・《**硬**》の方向へ回します。

取扱いのポイント

- **苗補給時などで機械を止めたときに，ひとりでに植付部が上下運動を繰り返すことがありますが，これは植付け作業時には止まります。**
- **ほ場面に大きなかたまりなどがあると，植付部が浮き上がることがありますので耕うん，代かき時には，できるだけ田面をならしてください。**
- **油圧感度の切替と主変速レバー位置の選択は，ほ場条件，植付け場所によってつぎのように使い分けます。**
  - **・やわらかいほ場で油圧感度切替が《軟》の位置でも泥の波が発生するような場合には，主変速レバーを「中速」以下で確実な植付け作業を行います。**
  - **・枕地植付けも主変速レバーを「中速」以下で確実な植付け作業を行います。**
- **油圧感度の切替を行った場合は，植付け深さが変わることがありますので確認します。**
  - **・油圧感度切替を《軟》から《硬》の方向に切替えたときは植付け深さが「深く」なり，《硬》から《軟》方向に回したときは植付け深さが「浅く」なることがあります。**

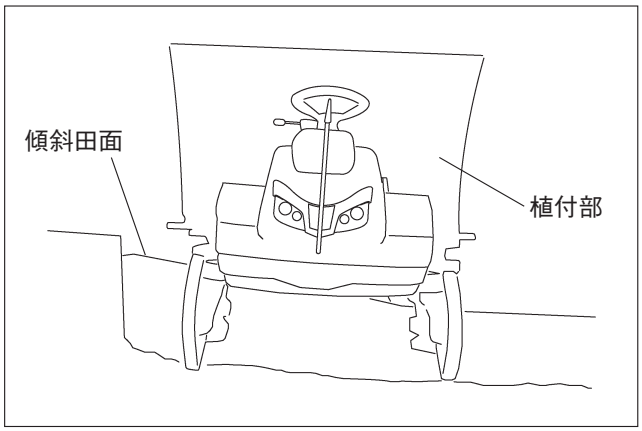
7．水平自動装置の使いかた

❶ 水平自動装置



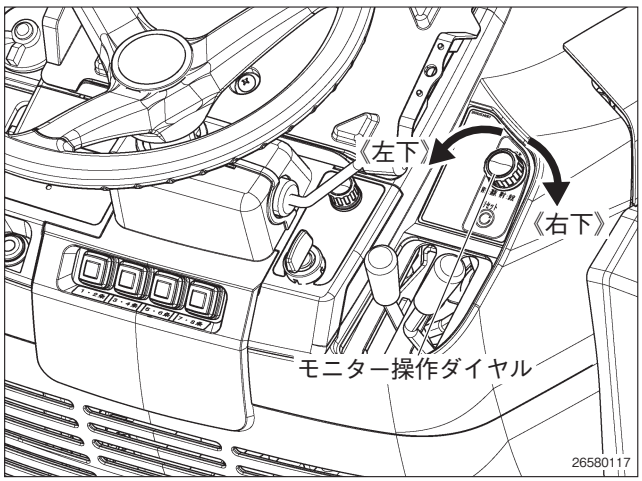
・ほ場の耕盤の凹凸やあぜぎわ・枕地などの機械が傾く場所でも，植付部は絶えず「**水平**」に保つ自動装置を装備しています。

❷ 傾斜装置



・ほ場の田面の大きな凹凸やあぜぎわの傾斜などで植付部を傾斜させたいときは，その度合に応じて植付部を傾斜させる装置を装備しています。

❸ 傾斜の調節



・通常作業時はモニター操作ダイヤルを操作してモニター表示の水平項目の目盛りを《**水平**》位置（目盛り６/11）にセットしておきます。
・田面の凹凸により，植付作業中，左右どちらかが浮き気味のときは，モニター操作ダイヤルで微調整します。
・モニター操作ダイヤルは以下の手順で操作します。

(1) モニター操作ダイヤルを操作して《**項目選択**》モードにします。
(2) モニター操作ダイヤルを回して「**水平**」項目を選択し，モニター操作ダイヤルを押して選択を確定させ《**調節モード**》に移ります。
(3) モニター操作ダイヤルを回して植付部の傾斜の調節を行います。右に回すと「**右下**」側に目盛りが増えます。左に回すと「**左下**」側に目盛りが減ります。
(4) モニター操作ダイヤルを押して調節量を確定します。

左下り
（１/11）



標準
（６/11）　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す



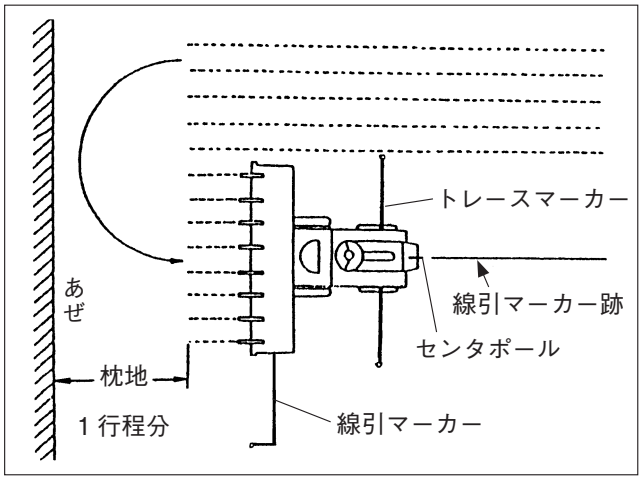
右下り
（11/11）　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す



・《**水平**》(６/11)…植付部は常に水平となるよう自動的にコントロールされます。
・《**左下**》**側**……常に左下がりで保たれます。
・《**右下**》**側**……常に右下がりで保たれます。

8. 旋回のしかた

・枕地は［**8条型**］は1行程，［**6条型**］は2行程植えられる幅を残して旋回します。

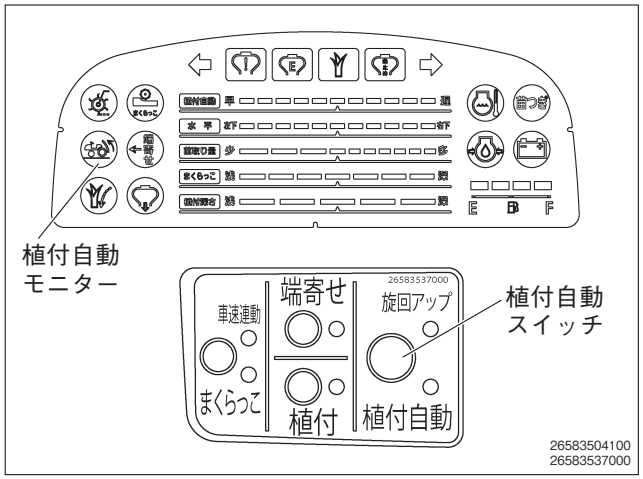


取扱いのポイント

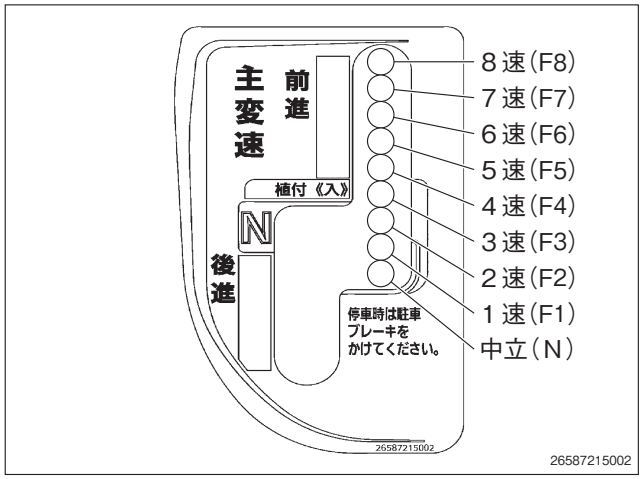
- **ほ場外の移動のときは，安全のため必ず植付自動スイッチを「切」にしてください。**
- **線引マーカーは，植付部を上下しなくても，クイックアップレバーを操作することで左右交互に倒れます。**
- **センタポールは，1行程前に線引マーカーでつけたマーカー跡に合せると隣接との条間が合います。**
- **トレースマーカーは，1行程前に植付けられた隣接条に合せると条間が合います。**

〈スーパースマイルターンを使った旋回のしかた〉

❶ 植付自動スイッチを《**入**》にします。（《**入**》で植付自動スイッチランプと植付自動モニターが点灯）

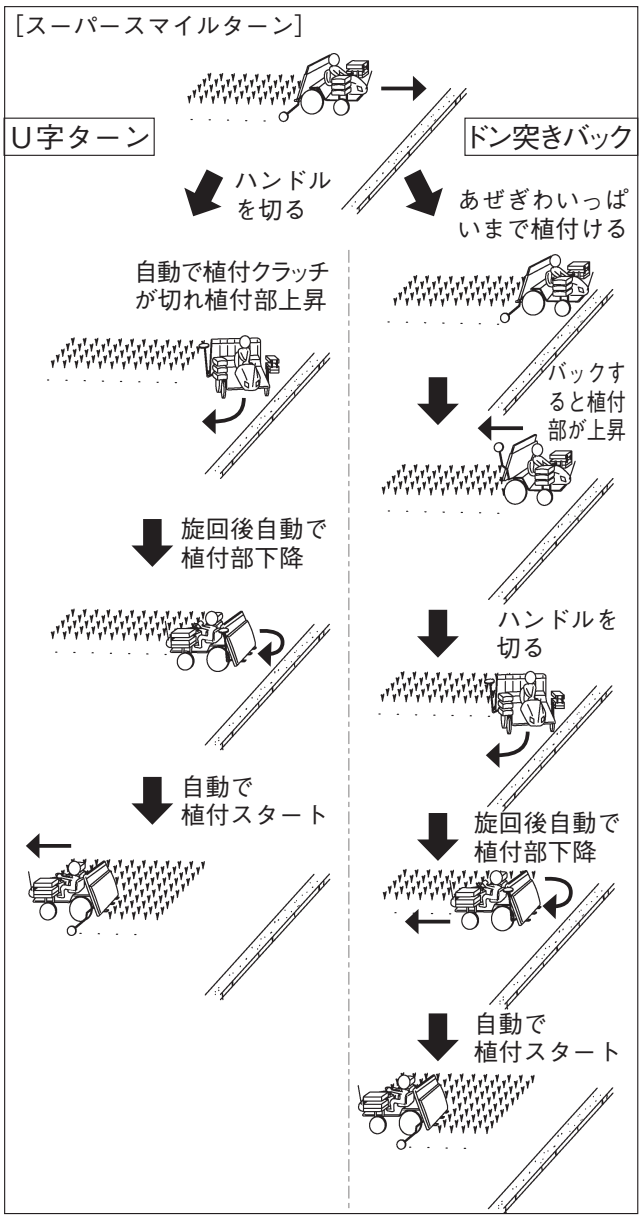


❷ あぜに近づいたら，主変速レバーを前進3速（F3）以下に変速し，速度を落とします。



❸ あぜから枕地分手前でハンドルをいっぱいに回してください。植付クラッチが自動で「**切**」になり，植付部が自動で上がります。

❹ センタポール，トレースマーカーで隣接条との条間をあわせ，機械を進行方向に真っ直ぐ向けてください。植付部が自動で下がり植付クラッチが自動で「入」になり植付が始まります。植付部が下がるときと植付が始まるときにブザーが鳴ります。線引マーカーが植付行程側に出たのを確認して植え進んでください。



取扱いのポイント

- **植付自動スイッチを《入》にして１ｍ以上植付作業をしないと植付自動は働きません。**
- **植付自動スイッチを《入》にしてスーパースマイルターンが作動していれば旋回時植付部が上がってから下がるまでブザーの断続音がします。**
- **つぎの操作をしたときは，植付自動が解除されます。**
  - **・キースイッチによるエンジン停止**
  - **・クイックアップレバー《上》《下》操作**
  - **・スマイルシフト《上げ》《下げ・植付》操作**

上記の場合，手動操作で植付部を下降させて，植付クラッチを「入」にすると，再び自動植付作業ができるようになります。

※スーパースマイルターンは，下記条件では正常に作動せず，植付始めのタイミングが著しくずれる場合があります。また，ほ場条件によっても正常に作動しない場合があります。

❶ 変形田，補助車輪をつけたときや深いほ場。

❷ 旋回中にブレーキペダルを踏んだとき。

取扱いのポイント

- **植始めのタイミングは，モニターパネル表示を確認しながらモニター操作ダイヤルを操作して調節してください。**
- **モニター操作ダイヤルは以下の手順で操作します。**

(1) モニター操作ダイヤルを操作して《項目選択》モードにします。

(2) モニター操作ダイヤルを回して「植付自動」項目を選択し，モニター操作ダイヤルを押して選択を確定させ，《調節モード》に移ります。

(3) モニター操作ダイヤルを回して植始めのタイミングの調節を行います。右に回すと「遅」側に目盛りが増えます。左に回すと「早」側に目盛りが減ります。

(4) モニター操作ダイヤルを押して調節量を確定します。

最早
(1/11)



標準
(6/11)　　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す



最遅
(11/11)　　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す



〈スーパースマイルターンを使わない旋回のしかた〉

❶ 主変速レバーを低速側に変速して，クイックアップレバーを上へ２度操作もしくはスマイルシフト上げスイッチを１度押し，ハンドルを操作しながら旋回します。

❷ 旋回が完了したら，線引マーカー跡にセンタポールをあわせる（または，隣接苗にトレースマーカーをあわせる）ようにすると均等な隣接条間となります。

❸ 旋回後，クイックアップレバーを下へ２度操作もしくはスマイルシフト下げ・植付スイッチを２度押し，適当な植付け速度まで主変速レバーを高速側に変速します。

取扱いのポイント

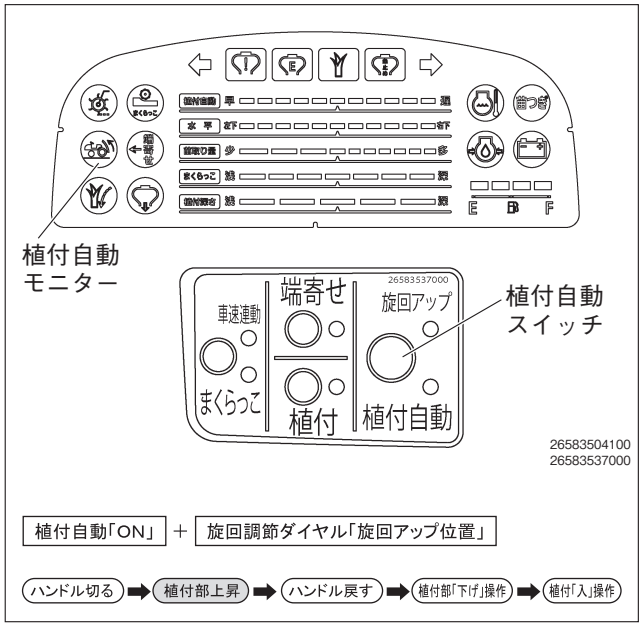
- **クイックアップレバーもしくはスマイルシフト上げ，下げ・植付スイッチの操作で植付クラッチの「入・切」，植付部の「上昇」「下降」ができます。**
- **線引マーカーは，植付クラッチが「入」っているとき植付部の昇降に合わせ自動的に左右交互に出し入れします。**
- **植付クラッチの「入・切」は主変速レバーを《N》(中立) または，「前進１速（Ｆ１）から前進３速（Ｆ３)」の間で操作します。**

〈旋回アップを使った旋回のしかた〉

変形田などで，旋回時の操作を減らすことができます。

❶ 植付自動スイッチを《**入**》にします。(《**入**》で植付自動モニター点灯)

❷ 植付自動スイッチを操作して旋回アップランプを「**点灯**」させます。



❸ あぜに近づいたら，主変速レバーを低速にします。

❹ あぜから枕地分手前でハンドルをいっぱいに回してください。植付クラッチが自動で「**切**」になり，植付部が自動で上がります。

❺ センタポール，トレースマーカーで隣接条との条間をあわせ，機械を進行方向に真っ直ぐ向けてください。

クイックアップレバーを「**下**」操作して植付部を「**下降**」させ，もう一度「**下**」操作して植付を開始します。

「植付自動」と「旋回アップ」の使い分け

圃場の形状	正方形 長方形	台形1	台形2	平行四辺形	湾曲圃場	まわり植え
植付自動	ON	ON	ON	ON	ON	OFF
ダイヤル位置	任意の位置※		旋回アップ			－

※ダイヤル調整により，植付開始位置調整

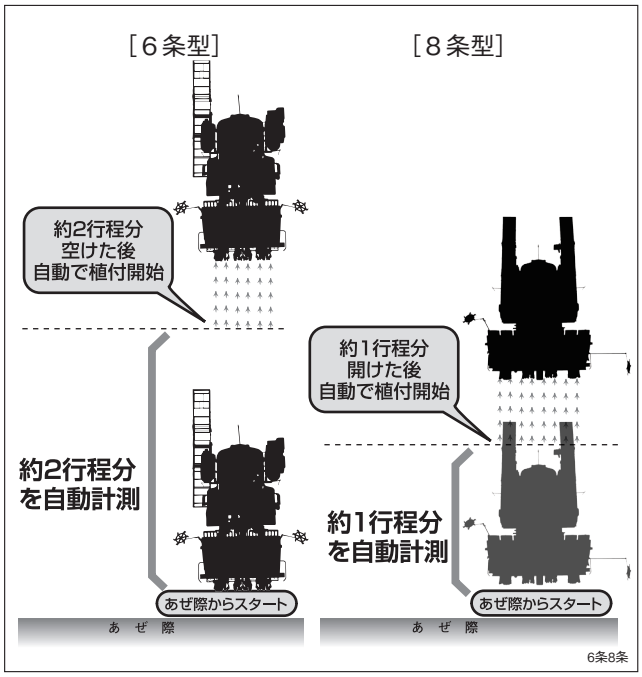
9．枕地距離自動測定機能「ジャストメジャー」の作業のしかた

あぜから［**8条型**］は1行程（2.5m），［**6条型**］は2行程（3.6m）の距離が測定でき，枕地での植終わり，植始めの目安ができます。

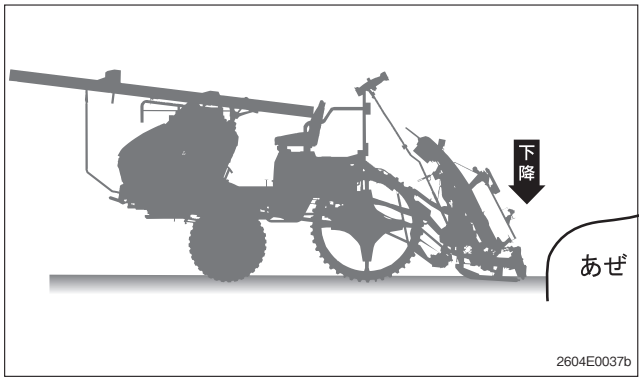
変形田や，請負作業で初めて田植作業するほ場の条あわせ時の目安として活用できます。

取扱いのポイント

●ジャストメジャーは，ほ場条件によっては正常に測定できない場合があります。

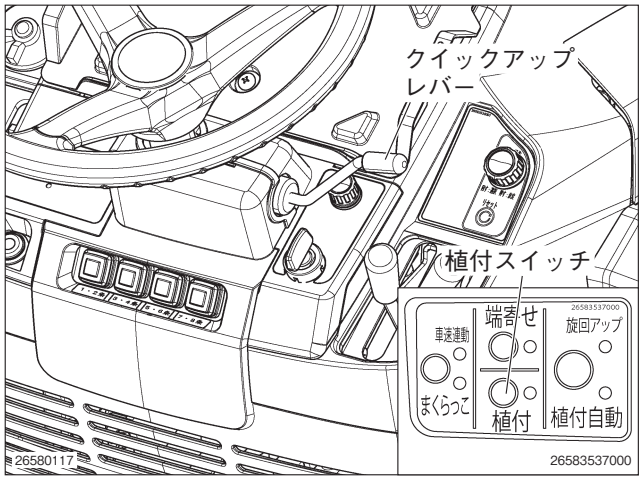


❶ あぜ際いっぱいまで下がり，植付部を下げます。

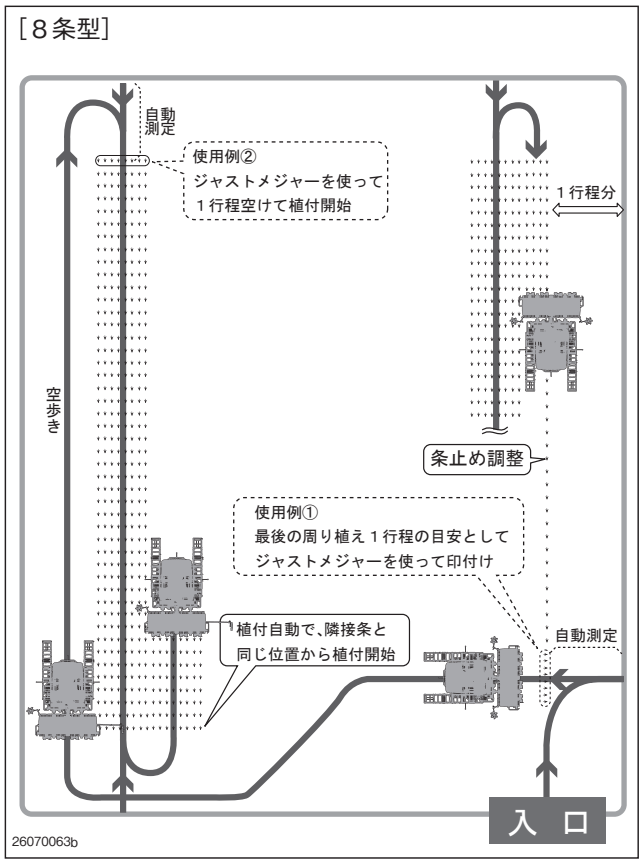


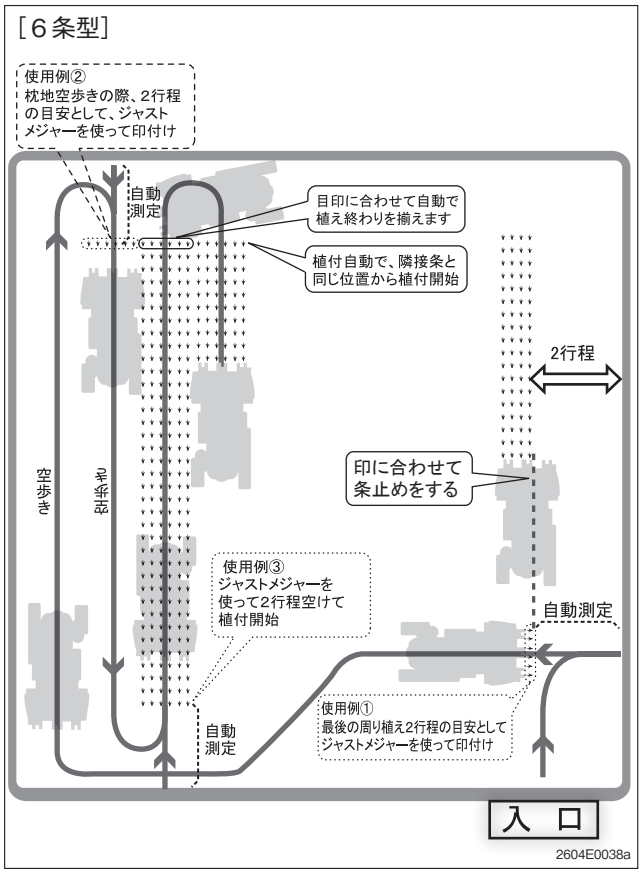
❷ 植付スイッチ「**入**」にし，クイックアップレバーを「**下**」方向に1秒間長押しします。

ジャストメジャーが作動していればブザーの断続音が鳴ります。



❸ 機械を前進させると，［**8条型**］は1行程，［**6条型**］は2行程進んだところから植付を開始します。





10. 苗の補給

⚠警告 傷害事故防止のために

◆植付爪の付近の苗をなおしたり苗おさえを調節するときは，エンジンを停止し各部の動きが止まってから行ってください。

◆足かけステップおよび，ステップが濡れている場合の乗降りは，滑るおそれがあります。くつ底の泥を落とし，足元を確認して慎重に乗降りしてください。

〈苗つぎモードスイッチを使用しない場合〉

❶ 苗のせ台の苗が減って苗警報スイッチ以下になると，「**苗補給モニター**」が点灯し，同時に警報ブザーが鳴ります。



❷ 主変速レバーを《**N**》(**中立**) にし，走行と植付けを「**同時に停止**」します。

❸ ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキをかけます。

❹ 苗のせ台に苗を補給します。

(残り苗と補給苗の境目がぴったりあうようにしてください。)

苗補給モニターが消えたことを確認します。

❺ 駐車ブレーキを解除して，主変速レバーを徐々に「**前進側**」にし，植付作業を開始します。

〈苗つぎモードスイッチを使用する場合〉

❶ 苗のせ台の苗が減って苗警報スイッチ以下になると，「**苗補給モニター**」が点灯し，同時に警報ブザーが鳴ります。

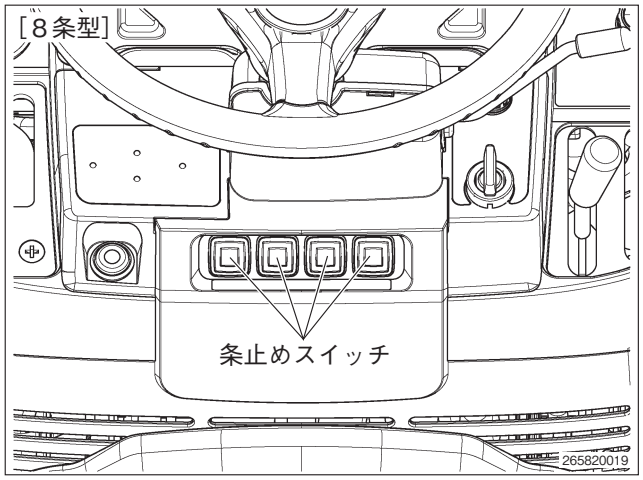
❷ 主変速レバーを《N》(中立) にし，走行と植付けを「同時に停止」します。
❸ ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキをかけます。
❹ 苗つぎモードスイッチを押し，エンジンを停止させます。苗つぎモードスイッチが《入》になるとブザーが「ピッピッピッ…」と断続的に鳴り続けます。
❺ 苗のせ台に苗を補給します。
(残り苗と補給苗の境目がぴったりあうようにしてください。)
❻ キースイッチを回すか苗つぎモードスイッチを押し続けてエンジンを再始動させます。苗つぎモードスイッチが《切》になると，ブザー音が止まります。
❼ 駐車ブレーキを解除して，主変速レバーを徐々に「前進側」にし，植付作業を開始します。

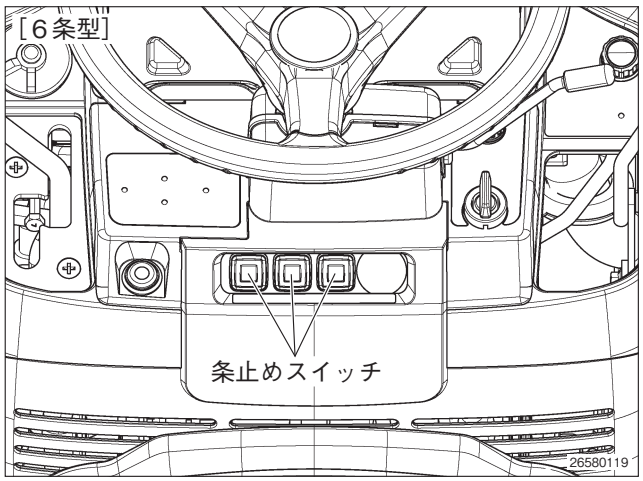
取扱いのポイント

- **苗補給をするときには，主変速レバーを《N》(中立) すると，走行・植付けが同時に停止します。その状態で苗補給をすると，作業を開始する場合に植付けがとぎれることなくできます。**
- **苗補給のとき，苗が完全になくなったときや，残っている苗が変形したりくずれているときは苗を取除き，最初に苗のせをするときの要領で苗のせ台を端に移動してから苗をのせてください。このとき，施肥機を装備している場合，施肥を停止してください。**
- **苗を補給するときは各条ができるだけ同量になるように補給してください。**
- **植付部を下げて苗を補給した場合，植付部が上がりきってから前後進を行ってください。上昇させながらの前後進は苗がめくれることがあります。**
- **警報ブザーは警報スイッチを押すと停止します。**
- **苗つぎ作業後に肥料補給作業を行うような長時間停止する場合などに苗つぎモードスイッチを使用してください。**
- **苗つぎモードスイッチを使用してエンジンを再始動させる場合は，エンジンがかかるまで押し続けてください。**

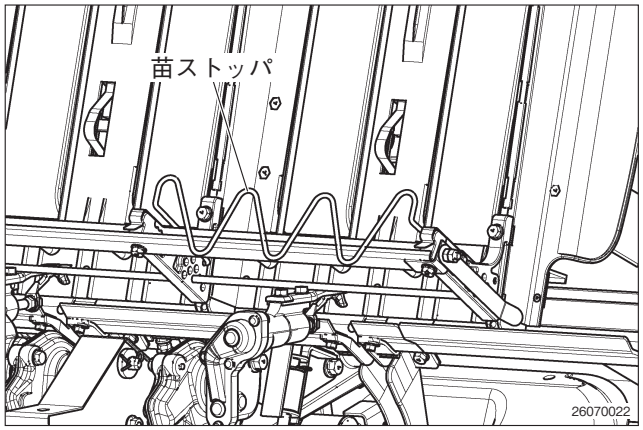
11．植付け終わりの調整

最終行程まで機械で植付けるために，その前行程で「条止め」して調整します。





条止めスイッチの1つを《入》(点灯) にすると，2条の植付爪の作動が止まり，植付けを停止します。
・端の1条を停止するときは，苗ストッパを使用します。



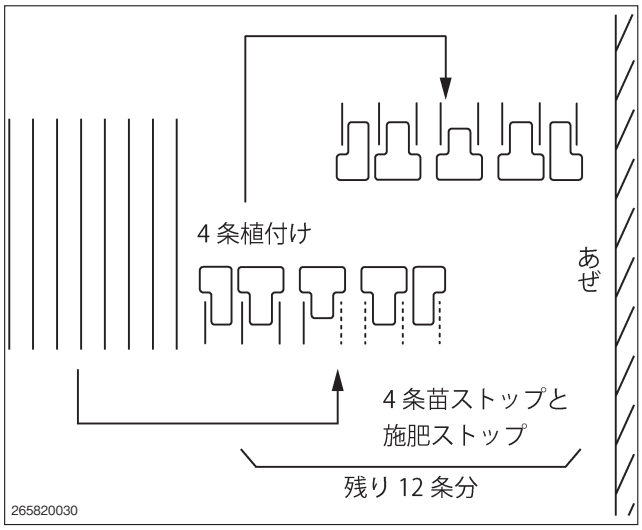
［８条型］

「調整例…残り12条の場合」

❶　12条分を前行程で４条だけ植付けし，後行程で８条を植付けします。

❷　前行程で４条植える場合，あぜ側の条止めスイッチ（２つ）を《入》(点灯）にし，あぜから９～12条目だけ植付けます。

❸　最後に残り８条を植付けます。



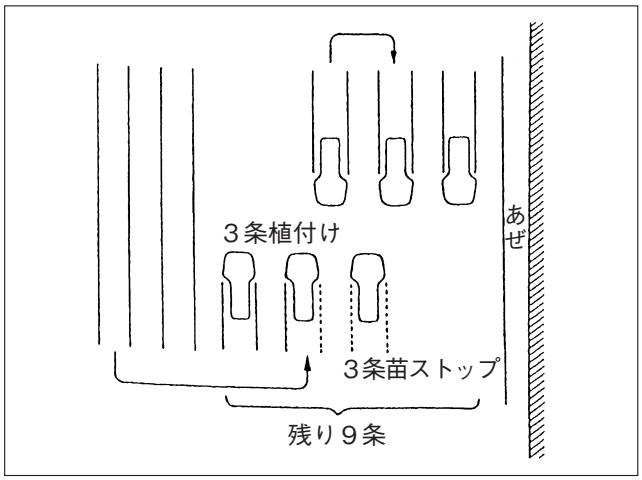
［６条型］

「調整例…残り９条の場合」

❶　９条分を前行程で３条だけ植付けし，後行程で６条を植付けします。

❷　前行程で３条植える場合，あぜ側の条止めスイッチ（１つ）を《入》(点灯）と１条の苗ストッパを倒し，あぜから７・８・９条目だけ植付けます。

❸　最後に残り６条を植付けます。



取扱いのポイント

- **施肥装置を装着している機械は条止めスイッチの操作に連動して，施肥が停止します。**
- **条止めスイッチを操作するときは，走行を一旦停止した後，植付爪が停止状態または低速回転状態で行ってください。**
- **条止めスイッチを《入》の状態でバックアップもしくは植付自動，クイックアップレバー《上げ》，スマイルシフト上げスイッチで植付クラッチを《切》にすると条止めが解除されます。**

12．残り苗の取出し

⚠警告　傷害事故防止のために

◆残り苗を取出すときは，機械を平坦な場所に置き，駐車ブレーキをかけエンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。

作業終了時や，植付け途中で苗のせ台にある苗を取出すときは，苗おさえの上方のフック部を外して回動し，残り苗を取出します。



13．苗のせ台の収納［８条型のみ］

・苗のせ台の収納のしかた（50ページ）参照。

14．線引マーカーの収納

線引マーカーの風車を取外しマーカーフックにかけて収納します。

［８条型］はマーカーロッドを折りたたんで収納します。（29ページ参照）

15. トルクリミッタについて

⚠警告 傷害事故防止のために

◆植付爪などにかみ込んだ異物を取除くときは，植付クラッチを切りエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
エンジンを停止しないで行うと植付爪が一時的に回転します。

❶ 植付け作業中，植付部が止まり，カチッカチッと高い音がしたらトルクリミッタ（安全装置）が働いています。

❷ トルクリミッタが働いたら，すみやかにブレーキペダルを踏込み，主変速，副変速レバーを《N》**（中立）**にし，エンジンを停止し各部の動きが止まってから，植付爪にかみ込んだ異物を取除きます。

❸ かみ込んだ異物を取除いたら，エンジンを始動するまえに植付爪が軽く回動するか，エプロンに当たらないか，植付爪が曲がったり破損していないかを確認してから植付けを再開してください。

❹ 異物を取除いてもトルクリミッタが作動する場合は主変速レバーを低速側にして作業してください。（59ページ❶参照）

❺ 主変速レバーを低速側にしてもトルクリミッタが作動する場合は**「お買いあげ先」**にて点検を受けてください。

取扱いのポイント

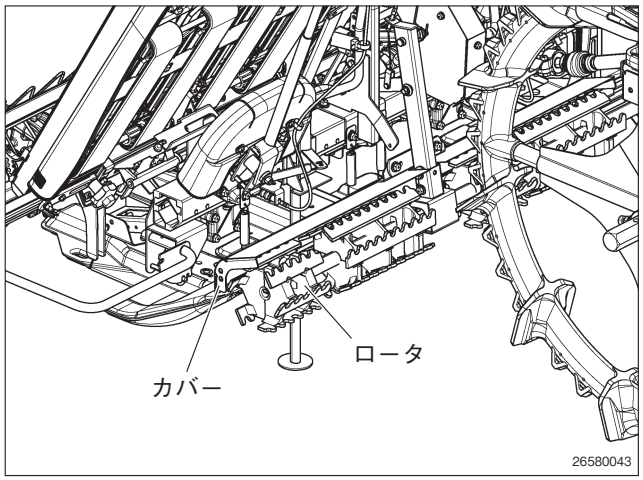
- **トルクリミッタが作動して，カチッカチッと音がする状態で使用しつづけると植付機構が破損することがあります。**
- **植付クラッチの「入・切」を主変速レバーが前進４速（Ｆ４）以上で操作するとトルクリミッタが作動することがあります。その場合は主変速レバーを低速側にして作業してください。**

3. 均平装置「まくらっこ」作業のしかた

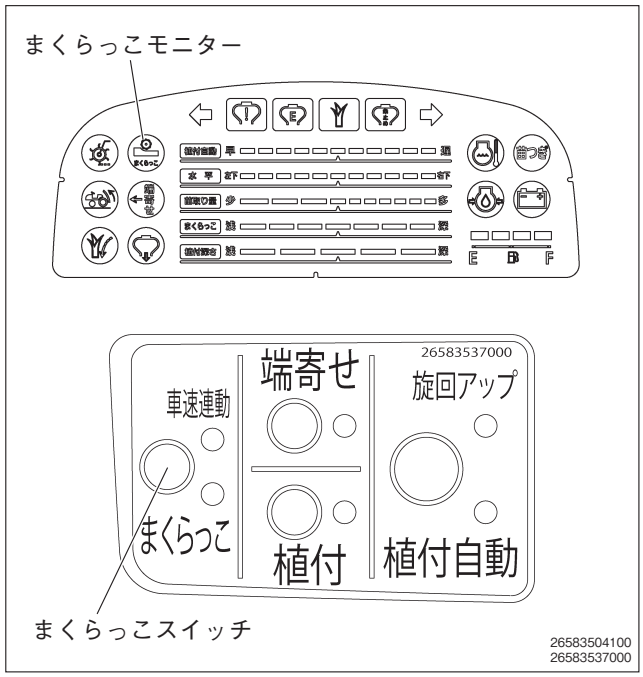
⚠警告 傷害事故防止のために

◆作業時以外はまくらっこスイッチ操作で《格納》の位置にしてください。

1. まくらっこ装置の取扱い



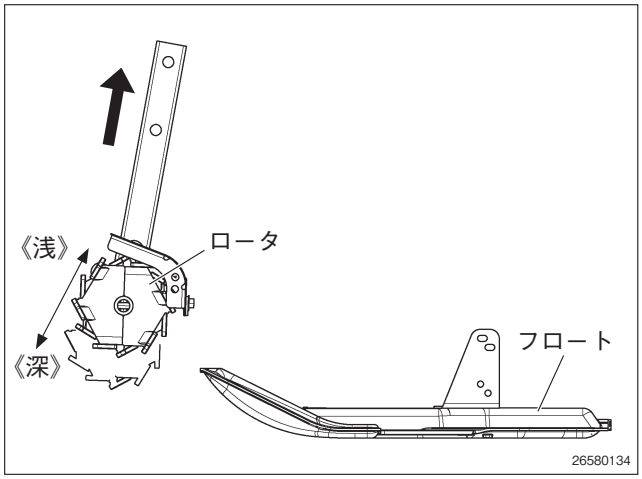
❶ **まくらっこスイッチ**



まくらっこスイッチはまくらっこの**「作業」**，**「格納」**と車速連動機能の**「入・切」**を切替えるスイッチです。

まくらっこ「入」「切」…まくらっこスイッチを押すとまくらっこモニターが**「点灯」**し，ロータの駆動が入ります。もう一度押すと車速連動機能が**「ON」**になり，まくらっこは作業位置のままです。さらにもう一度押すと車速連動機能は**「OFF」**になり，まくらっこは格納状態になります。

車速連動機能……設定されたまくらっこ高さから車速に連動してロータが**「浅い」**側に自動調整されます。



❷ モニター操作ダイヤル

まくらっこの高さを調節するにはモニター表示を確認しながらモニター操作ダイヤルを操作します。

まくらっこ高さ……モニター表示を確認しながらモニター操作ダイヤルを操作し，まくらっこ高さを調節します。モニター表示部が調節モードのときにモニター操作ダイヤルを操作すると，ブザー音と共にロータが上下に動きます。

❸ ロータ

田面をならして整地します。

取扱いのポイント

- **ロータは後車輪に連動していますので，走行しないと回転しません。**
- **移動するときにはロータを回転させないでください。**
- **機械が走行時，ロータが回転中，植付部を上昇させると自動でロータが停止し，下降させると，自動でロータが回転します。**
- **まくらっこスイッチが「切」のときは，植付部を下降し走行してもロータは回転しません。**

2. まくらっこ作業

※田植機の旋回により枕地に車輪跡(凹凸)が残っていることがあります，その枕地をロータで均平にしながらきれいな植付けを行うものです。

(1) まくらっこスイッチを押して，まくらっこを「**作業**」状態にします。(まくらっこモニターが「**点灯**」していることを確認してください。)

(2) 植付作業が終ったらまくらっこスイッチを《**切**》にしてロータ部を「**格納**」し，通常の植付け状態に戻します。

❶ ロータ高さの調節

・まくらっこ高さは，ダイヤル操作で７段階調節が可能です。

・まくらっこの高さは標準位置で使用しほ場条件によって高さを調節してください。

・まくらっこ高さ調節は，モニター操作ダイヤルを操作し，まくらっこを項目選択します。モニター操作ダイヤルを操作してまくらっこ高さを調節した後モニター操作ダイヤルを押して確定します。

補足：リセットスイッチを押すと
項目選択状態から外れます



標準位置

・モニター操作ダイヤルは以下の手順で操作します。

(1) モニター操作ダイヤルを操作して《**項目選択**》モードにします。

(2) モニター操作ダイヤルを回して「**まくらっこ**」項目を選択し，モニター操作ダイヤルを押して選択を確定させ，《**調節モード**》に移ります。

(3) モニター操作ダイヤルを回してまくらっこロータ高さの調節を行います。右に回すと「**深**」側に目盛りが増えます。左に回すと「**浅**」側に目盛りが減ります。

(4) モニター操作ダイヤルを押して調節量を確定します。

最浅
(1/7)



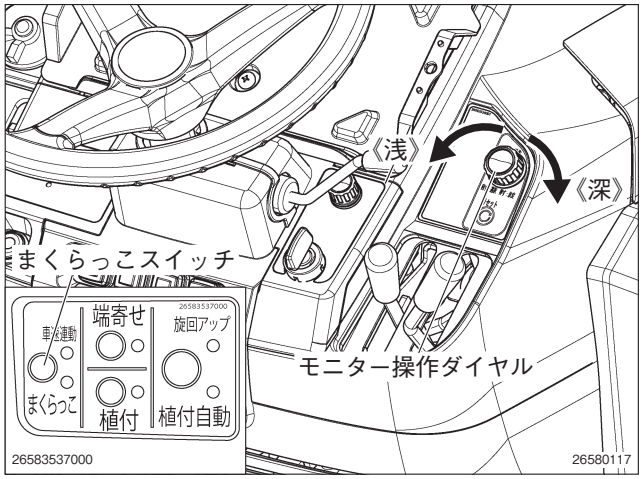
標準
(4/7)　　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す

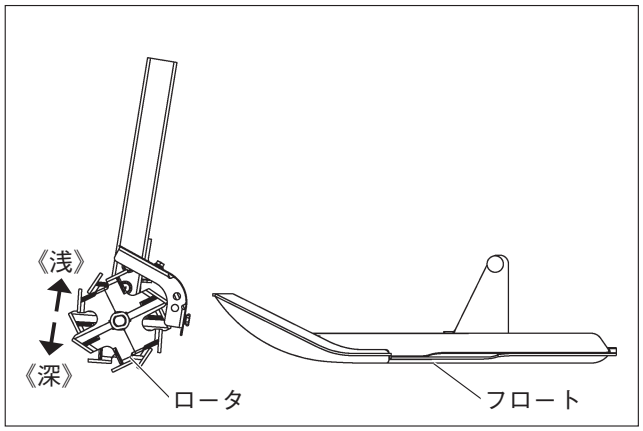


最深
(7/7)　　左に回す ⇧ ⬇ 右に回す



・作業以外は，まくらっこスイッチを《**切**》にして「**格納**」状態にしてください。

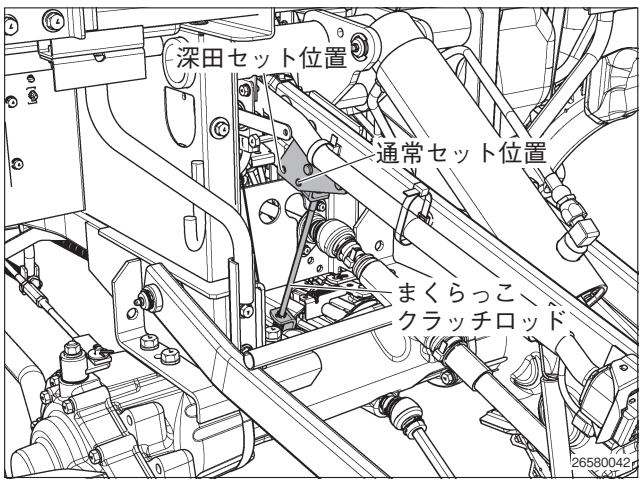




取扱いのポイント

- ロータがフロートに対し深くなりすぎると土押しが多くなり隣接苗を押し倒すことがあります。
- ロータがフロートに対し浅くなると，均平性能が悪くなり，浮き苗になることがあります。
- 全面作業の場合，基本的には枕地作業と同様ですが枕地作業に比べ車速が速くなるため，枕地と同じロータ高さ位置では泥を押すおそれがあります。その場合は，ロータを《浅》側に調節してください。全面作業を行う場合は，できるだけ表面を均す程度にかけてください。
- 全面作業の場合，水の多いほ場や軟らかいほ場で泥水を押す場合は，速度を落として作業してください。
- まくらっこの高さは標準位置で使用し，表面の仕上り状態を見ながら状態が悪いときは，その位置を基準に《浅》または《深》側に調節してください。
- 田面が後車軸よりも上になるような深田の場合，まくらっこクラッチロッドによりまくらっこクラッチがOFFになってまくらっこが作動しなくなる可能性があります。そのような深田で作業する場合はまくらっこクラッチロッドを深田セット位置に変えるかロッドを取外してください。

  ※深田セットまたはまくらっこクラッチロッドを取外した場合は植付部を上昇させたときにもまくらっこが回ります。



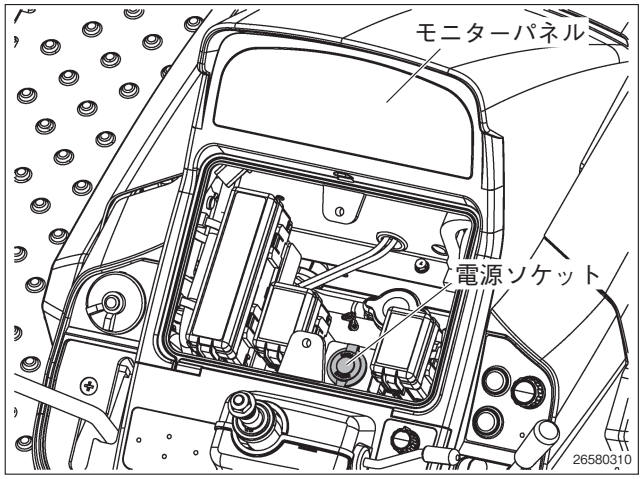
4．電源ソケットの取扱い

電源ソケットは接続したアクセサリに電源を供給します。

仕様の違いにより，電源ソケットタイプが異なります。

SE-Navi	ソケットタイプ	仕様
ナシ	シガー	12V10A
付き	USB-Aポート	5V2.4A
	USB Type-Cポート	5V2.4A

電源ソケットはモニターパネル下の点検用カバーを開けた所にあります。



取扱いのポイント

- バッテリあがりを防ぐため，エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- 使用しないときは，必ずフタを閉めておいてください。
- 電源ソケットに水をかけたり，指や金属などを入れないでください。
- 使用中や使用直後は電源ソケットや相手プラグが熱くなっていることがあるため，注意してください。
- シガレットライタを電源ソケットに差込まないでください。

手入れのしかた

1．定期点検整備

・正常な機能を発揮し，いつでも安全な状態であるように**「定期点検整備表」**に従って定期的に点検し，必要により掃除・調整・整備を行います。

◆使用者が行ってはいけない修理

下記部位に異常があるときは「お買いあげ先」に必ず連絡して修理を依頼してください。

●エンジン本体　●トランスミッション

●ギヤ(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類

●油圧系統　●電気部品と電気系統

取扱いのポイント

●分解・調整・交換などを自ら行うと機械のトラブルの原因となります。メーカ保証の対象外となりますのでご注意ください。

参照ページに☆印のある整備項目（交換・修理・調整）については「お買いあげ先」で行ってください。

⚠警告　傷害事故防止のために

◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。

◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

◆ラジエータキャップの取外しは，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠注意　傷害事故防止のために

◆植付部を上げて行うときは油圧を固定にし，植付部が降りないことを確認し，植付部の下に固定脚を置いてください。

◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

「定期点検整備表」(点検・補給○，調整・掃除◎，交換●)

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時期													参照ページ
			シーズン前後	作業前後	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	500時間	1年毎	2年毎	
エンジン部	エンジンオイル	点検・補給・交換	○	○	●		●		●		●					77~78
	エンジンオイルフィルタ	交換			●				●							☆78
	オルタネータベルト	点検・調整・交換			○		○		○		○				●	☆96
	エアクリーナーエレメント	掃除・交換			○		○		○		○			●		85
	給油口フィルタ	掃除	○		○		○		○		○					77，86
	燃料ホースの劣化と漏れ	点検・交換	○	○											●	☆87
	燃料フィルタ	掃除	○		○		○		○		○					86
	燃料ラインフィルタ	交換						●				●				78
	ラジエータ（冷却水）	点検・交換	○	○											●	79
	ラジエータホース	点検・交換	○	○											●	79
走行部	トランスミッション フロントアクスルオイル	点検・補給・交換	○				●			●					●	☆80
	油圧オイルフィルタ	交換	○				●			●					●	☆80
	油圧ホースの劣化と漏れ	点検・交換	○				●			●					●	☆87
	リヤアクスルオイル	点検・補給・交換	○				●			●					●	☆81
	走行ベルト	点検・調整・交換	○				●			●					●	☆96
	ブレーキペダル	点検	○	○												☆97
	ステアリングの作動	点検	○													☆ー
	車輪のガタ・ゆるみ	点検・調整	○													97
	空気入りタイヤの空気圧	点検・調整	○	○												95
	注油箇所	注油	◎													84
	車輪の摩耗	点検・交換	○	○									●			95

分類	点検・整備項目	整備内容	点検整備時期													参照ページ
			シーズン前後	作業前後	50時間	100時間	150時間	200時間	250時間	300時間	350時間	400時間	500時間	1年毎	2年毎	
植付部	プランターケースオイル	交換	○				●			●					●	☆82
	横送りケースオイル	交換	○												○	☆81
	プランターアーム	補給	○													☆82
	フロート支点部	注油	○													85
	ビーク，フォークの摩耗	点検・交換	○				●			●				◎	●	☆99
	注油箇所・給脂箇所	注油・給脂	◎													83～85
	プランターアーム部のネジのゆるみ	点検・増締め	○													–
	ロータのガタ・ゆるみ	点検	○													–
	ロータの草の巻付き	点検・掃除												◎		–
	ロータの摩耗	点検・交換	○				●			●					●	☆–
電装部	配線の損傷	点検・補修	○													☆–
	配線接続部の外れ	点検・接続	○	○												94
	バッテリーの液量・残存容量	点検・補充・充電	○													89～94

取扱いのポイント

●機械または部品などを廃棄するときは，「お買いあげ先」にご相談ください。

●使用済み廃棄物の処理について

廃棄物をみだりに捨てたり，焼却すると，環境汚染につながり，法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは，

⑴機械から廃液を抜く場合は，容器に受けてください。

⑵地面へのたれ流しや河川，湖沼，海洋への投棄はしないでください。

⑶廃油，燃料，冷却水（不凍液），冷媒，溶剤，フィルタ，バッテリ，ゴム類，その他の有害物を廃棄，または焼却するときは，「お買いあげ先」または「産業廃棄物処理業者」などに相談して，所定の規則に従って処理してください。

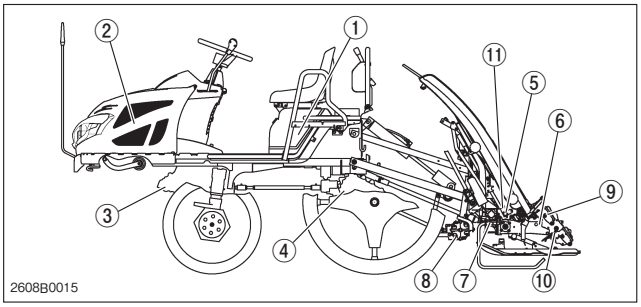
2. 給油・注油のしかた

・工場出荷時は各給油・注油・給脂箇所にオイルグリスが入っています。
・オイルの点検・交換は，**「運転まえの点検表」**(34～35ページ）および**「定期点検整備表」**(74～75ページ）に従って行います。
・オイルの点検・交換は機械を平坦な場所に駐車して行います。

取扱いのポイント

- **各給油箇所には指定オイルを規定量給油してください。ゲージなどがある場合，それで油量を確認してください。**
- **廃油など汚れたオイルを注油すると，故障の原因となりますので使用しないでください。**

「給油・注油・給脂表」



⚠警告 火傷や火災防止のために

◆燃料補給時は，火気を近づけないでください。
◆エンジン回転中やエンジンが熱いときは給油・注油しないでください。
◆損傷や劣化した燃料ホースは，交換してください。燃料漏れがあると火災の原因となります。
◆こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆給油・注油・点検するときは，機械を平坦な場所に置き，エンジンを停止し，各部の動きが止まってから行ってください。
◆回転部に「油差し」で注油するときはエンジンを停止してから行ってください。
◆回転部・摺動部から異音が発生するときはエンジンを停止し，各部の動きが止まってから注油してください。

⚠注意 傷害事故防止のために

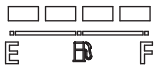
◆エンジンカバーを開いて点検などを行った後は，エンジンカバーを閉じてください。

No.	箇　所	種　類	分類		箇所数	容　量（L）
			APIサービス分類	SAE粘度番号		
①	燃料タンク	ディーゼル軽油	－	－	1	39.0
②	エンジンクランクケース	エンジンオイル	CF級以上	10W－30	1	オイル交換時　3.4 フィルタ交換時3.9
③	トランスミッションケース☆ フロントアクスルケース☆	ギヤオイル	GL－4級	75W	1	15.0
④	リヤアクスルケース☆	ギヤオイル	GL－4級	75W	1	7.3
⑤	横送りケース☆	ギヤオイル	GL－4級	75W	1	0.2
⑥	プランタケース☆	ギヤオイル	GL－4級	75W	4[8条型] 3[6条型]	各0.35
⑦	ドライブケース☆	ギヤオイル	GL－4級	75W	1	0.1(分解時に給油)
⑧	まくらっこドライブケース☆	ギヤオイル	GL－4級	75W	1	0.15(分解時に給油)
⑨	ロータリケース☆	リチウムグリス	－	－	8[8条型] 6[6条型]	各80g
⑩	プランタアーム☆	リチウムグリス	－	－	16[8条型] 12[6条型]	各30g
⑪	スクリューシャフト	リチウムグリス	－	－	1	適量
⑫	給脂指定箇所	グリス	－	－	各部	適量
⑬	注油指定箇所	エンジンオイル	SC級以上	10W－30	各部	適量

・☆交換は**「お買いあげ先」**に依頼してください。
・リチウムグリスはJIS1種０号，グリスはJIS1種２号カップグリスを使用する。

1．燃料の給油

❶ **点検**……スタータスイッチを《**運転**》にして，モニターパネルの燃料モニターで燃料の残量を確認します。



❷ **給油**……給油キャップを外して給油口より補給します

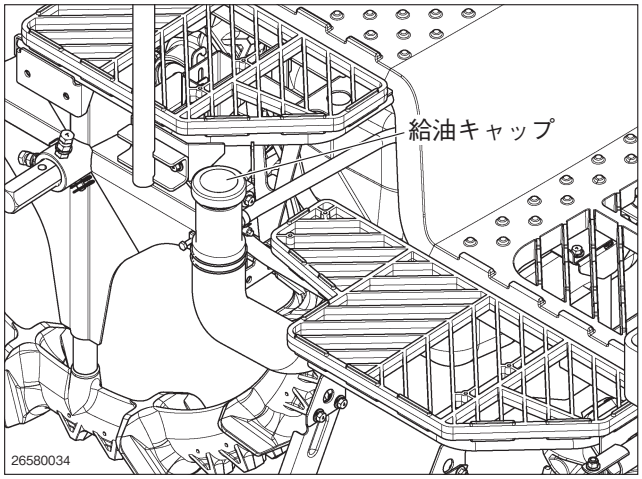
・燃料は「**ディーゼル軽油**」を使用してください。ディーゼル軽油には下表の種類があり，地域・季節により流通している種類が異なります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特１号	＋５以下
１号	－２．５以下
２号	－７．５以下
３号	－２０以下
特３号	－３０以下

（JIS規格より抜粋）

・未使用の菜種油や，使用済みの調理油などを原料としたバイオディーゼル燃料（BDF），およびその混合油の使用は止めてください。

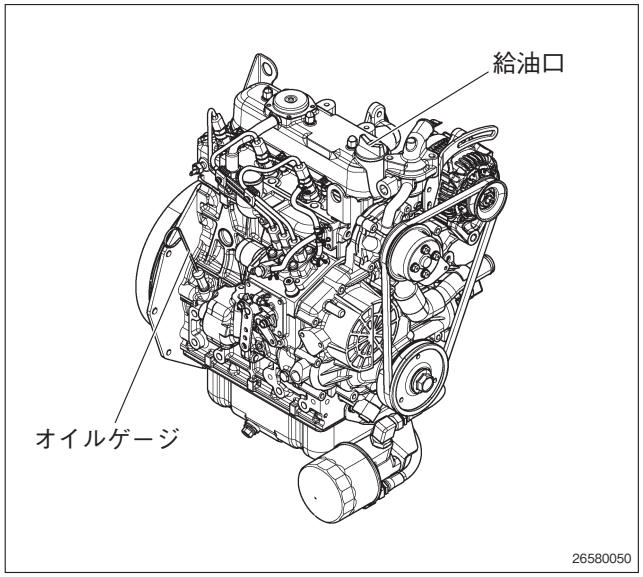
・タンク容量……**39.0 L**



取扱いのポイント

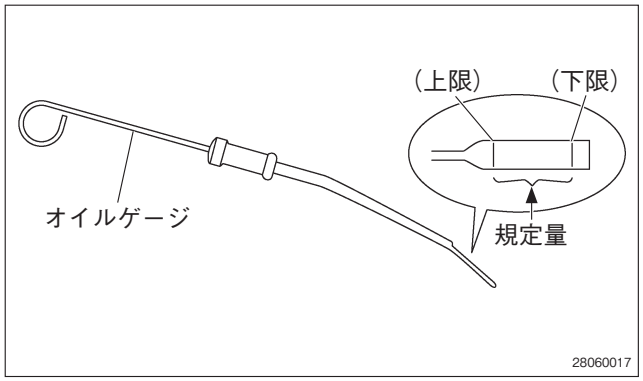
- **流動点付近以下の温度になると軽油が凍結し，エンジンの始動が困難になったり，停止したりすることがあります。**
- **燃料はフィルタを通してゴミや水が混入しないように給油します。**
- **燃料を補給するときは，給油口より確認しながら行ってください。燃料モニターで確認すると遅れてあふれることがあります。**

2．エンジンオイルの点検・補給・交換



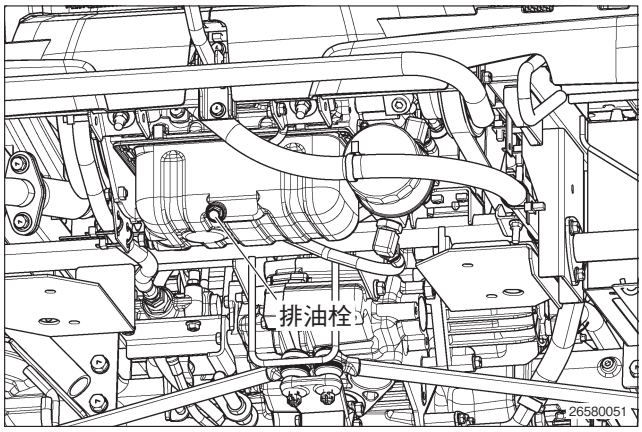
❶ **点検**……ボンネットを開け，オイルゲージを外しゲージ面をキレイにふき取ってから差込みます。

・ゲージの上限と下限の間に油面があるか確認します。



❷ **補給**……油量が不足している場合は，給油口よりオイルをオイルゲージの「**上限**」まで給油します。

❸ **交換**……排油栓を外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。オイルが完全に抜けたら，排油栓を確実に締め，新しいオイルをオイルゲージの「**上限**」まで給油します。



・オイル…… **純正油**

・オイル量（目安）

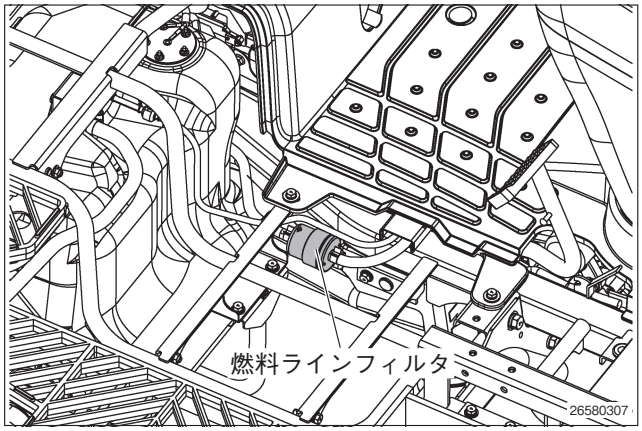
…オイル交換時：**3.4 L**

フィルタ交換時：**3.9 L**

（オイルレベルゲージ上限と下限の中央位置）

3．燃料ラインフィルタの交換

燃料ラインフィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，200時間運転ごとに「**お買いあげ先**」で交換します。



4．エンジンオイルフィルタの交換

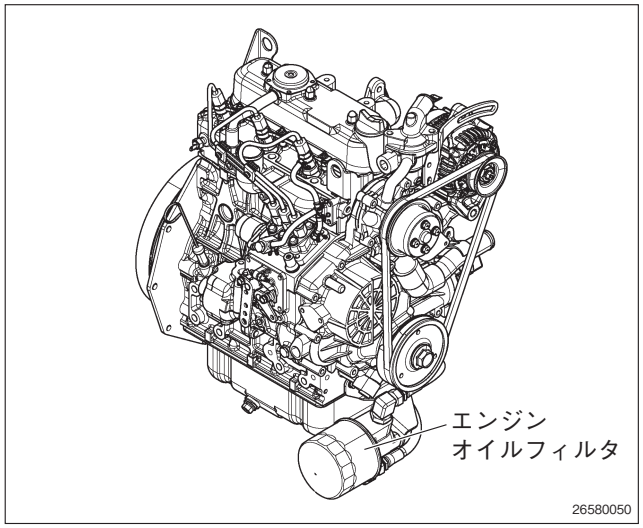
エンジンオイルフィルタは「**カートリッジタイプ**」ですので，「**お買いあげ先**」で交換します。

・１回目……50時間運転後に交換

・２回目より…200時間運転ごとに交換

❶ エンジンオイルフィルタ（カートリッジタイプ）は手でゆるまない場合は専用工具（フィルタ径φ93用）を使用して，外します。

❷ エンジンオイルフィルタを交換したときは，オイルフィルタの容量分オイルが多く入るのでオイルレベルゲージでオイル量を確認し，不足のときはオイルレベルゲージの刻み線「**上限**」まで補給します。



取扱いのポイント

- **エンジンオイルフィルタを取付けるときは，パッキン面にオイルを塗り，エンジンオイルフィルタを手で締め，Oリングがシール面に接触してから約3/4回転締付けてください。**
- **締付け後軽く運転しオイル漏れのないことを確認してください。**
- **オイルフィルターを交換し最初にエンジンを始動するときは，エンジンコントロールレバー「低速」で５秒以上運転し，エンジン内にオイルを循環させてください。**

5．ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

⚠警告 火傷防止のために

◆運転中およびエンジン停止直後はラジエータキャップを開けないでください。熱湯が吹き出し「火傷」をすることがあります。冷えてからゆっくり開けてください。

ラジエータの冷却水の取扱いを誤ると，エンジンの寿命に大きな影響を与えます。

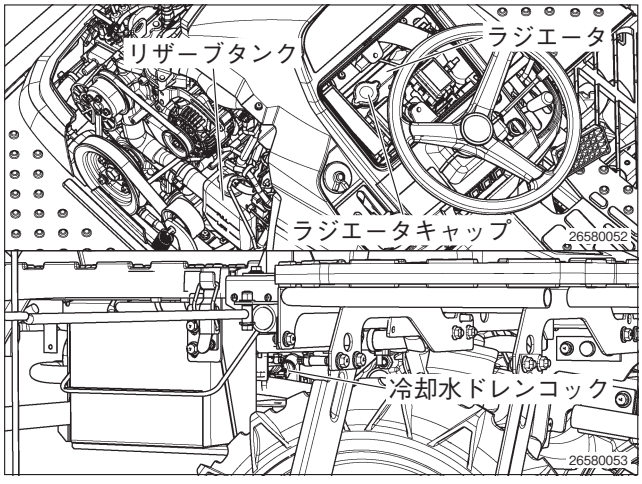
❶ 冷却水の点検・補給

⑴ ラジエータにはリザーブタンクが付いていてラジエータ内の冷却水を適量にする構造になっています。運転前に点検を行い冷却水が不足しているときは補給します。

⑵ ボンネットを開け，リザーブタンク内の冷却水が《FULL》，《LOW》の間にあることを確認します。

⑶ 冷却水が不足しているときはリザーブタンクに補給します。

⑷ ボンネットを閉めます。



❷ 冷却水の交換

⑴ モニターパネル下の点検用カバーを開けてラジエータキャップを外します。

⑵ 冷却水ドレンコックをゆるめ，冷却水を排水します。リザーブタンクの排水はリザーブタンクを外して行います。冷却水は適切な容器で受けてください。

⑶ ラジエータ内の水がきれいになるまで水の入替えを繰返し，内部を洗浄します。

・洗浄剤を使用すると効果的です。

⑷ 排水が終わったら冷却水ドレンコックを閉めます。ラジエータの口元いっぱいまで冷却水を入れたのちラジエータキャップを閉めます。

⑸ リザーブタンクの《FULL》まで冷却水を入れます。

・一度エンジンをかけると冷却水が循環してラジエータ内の水量が減りますのでリザーブタンクの《FULL》まで補給します。

・エンジンラジエータ内部の腐食を防止するため，冷却水に防錆剤を添加します。

・冷却水量（目安）……**4.0 L**

❸ 不凍液の注入要領

⑴ 工場出荷のときは不凍液が注入され**「外気温度－25℃」**まで効果がありますが，納入後１年以上経過すると効力が低下しますので，冷却水を抜き**「不凍液濃度基準」**を参考に入替えます。

不凍液濃度基準表

外気温度	℃	－5	－10	－15	－20	－25	－30
不凍液濃度	%	20～25	25～30	30～35	35～40	40～45	45～50

・不凍液は「ロングライフクーラント」を使用します。

⑵ 別容器（ポリバケツ）に不凍液を必要量（不凍液濃度基準表参照）入れます。

⑶ 清水を加えよく攪拌した後にラジエータの口元いっぱいまで給水したのちラジエータキャップを閉めます。

取扱いのポイント

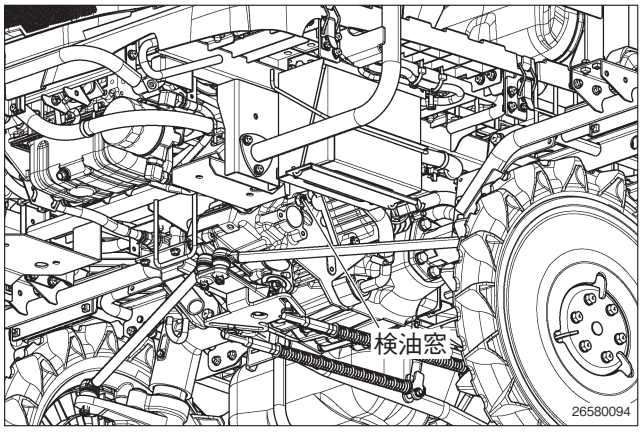
●冷却水には清水を使用してください。泥水や塩水を使用しないでください。

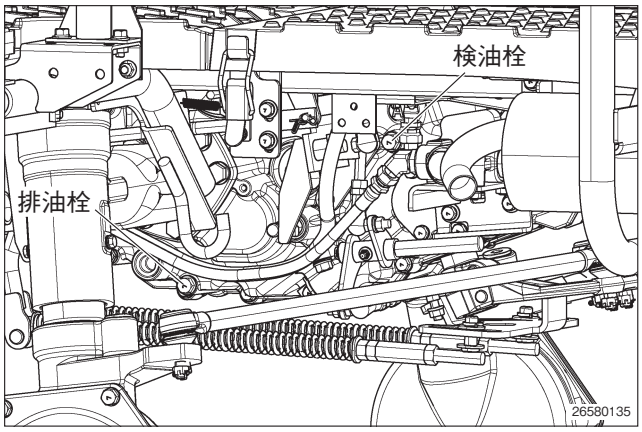
●冬季には冷却水が凍結し，エンジンやラジエータを破損することがあります。使用後は冷却水を抜取るかまたは不凍液を混合してご使用ください。

6．トランスミッションケースのオイル点検・補給・交換（油圧オイルフィルタの交換）

❶ **点検**……スタンドが着地するまで植付部を下げます。トランスミッションケース下部左側の検油窓に斜め下よりライトを当てオイルが入っているか調べます。検油窓から油が見えにくい場合は検油窓を外し，油量が口元まであるか調べます。

❷ **補給**……油量が不足している場合は，給油栓より給油します。





❸ **交換**……トランスミッションケース下部の排油栓を外し，オイルを抜取ります。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・給油するときは，スタンドが着地するまで植付部を下げた状態で，検油栓まで給油します。

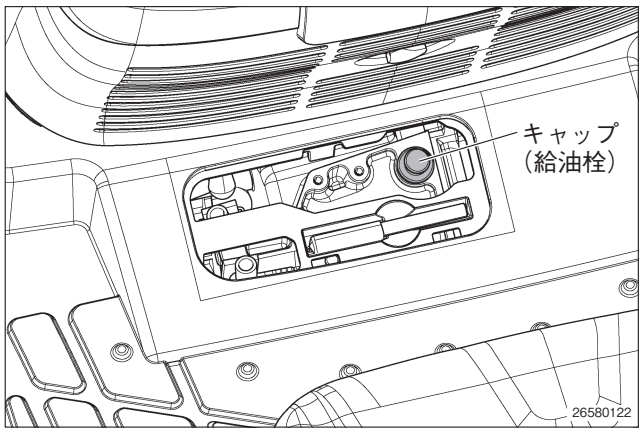
・ギヤオイル…… **純正油**

・オイル量

オイルは検油栓まで給油してください。

・分解整備時（目安）……**15.0 L**

・トランスミッションの排油栓のみで排油した場合（目安）……**11.7 L**

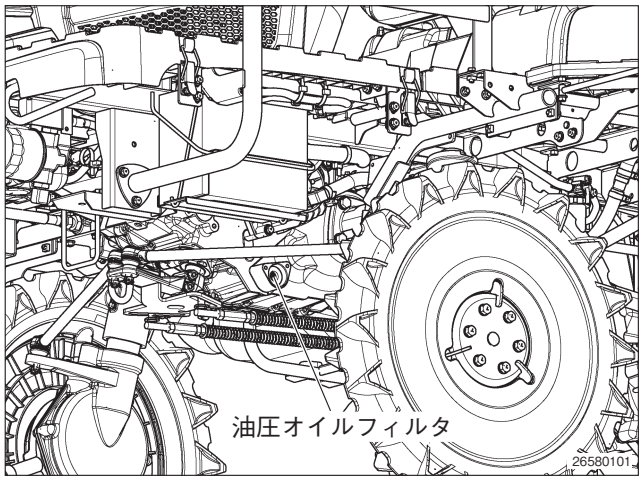


❹ **油圧オイルフィルタの交換**

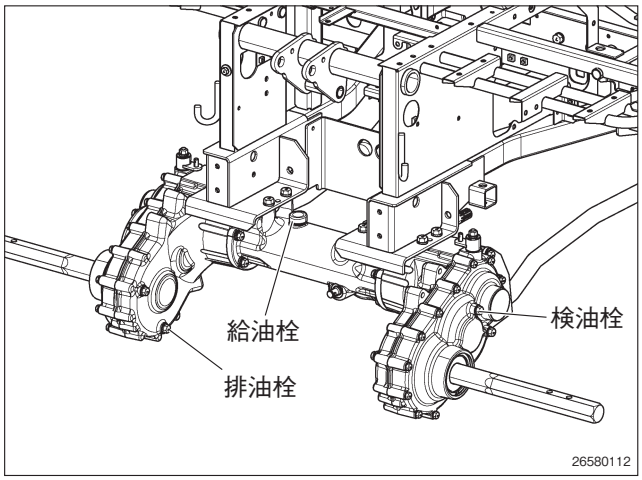
・トランスミッションケースのオイルを交換するときは，ケース下部左側にある油圧オイルフィルタも交換します。油圧オイルフィルタは「ペーパーフィルタ」ですのでお買い上げのうえ交換します。

・１回目……30時間運転後またはシーズン後のどちらか早い方で交換します。

・２回目より……150時間運転ごと，または２シーズンごとのどちらか早い方で交換します。



7．リヤアクスルのオイル交換



❶ **交換**……左右のリヤアクスルケース下部の排油栓を外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・給油は油量を計り，給油栓より給油します。

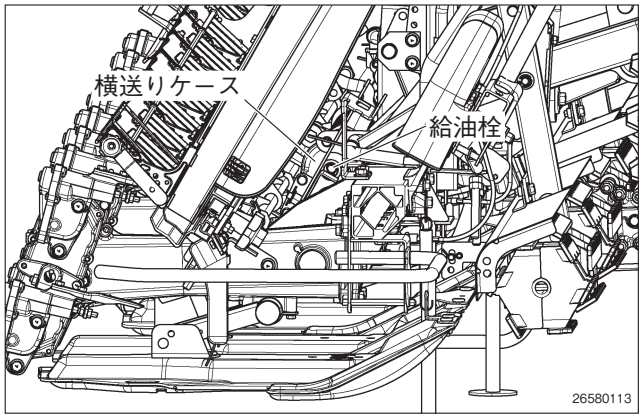
・ギヤオイル…… **純正油**

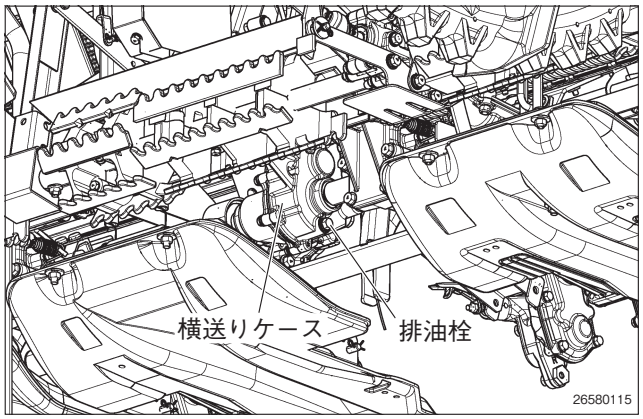
・オイル量（目安）……**7.3 L**

オイルは検油栓まで給油してください。

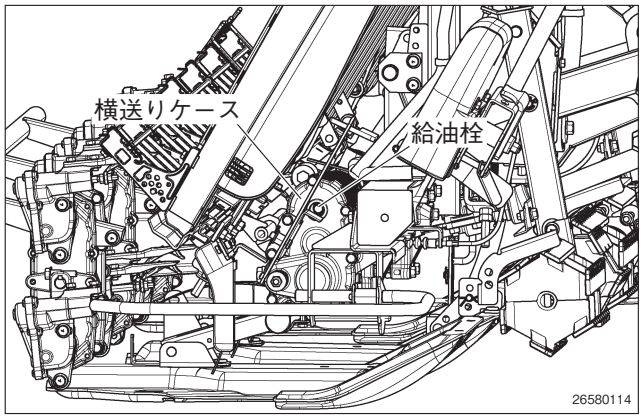
8．横送りケースのオイル交換

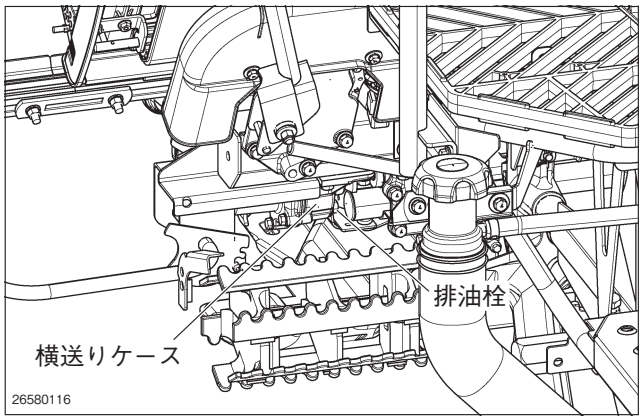
［8条型］





［6条型］





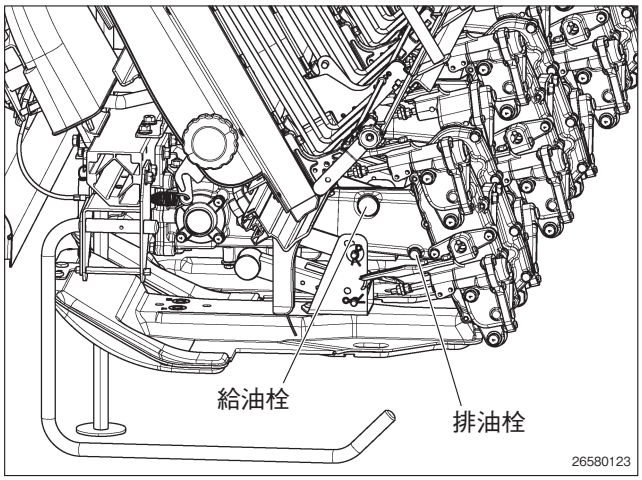
❶ **交換**……横送りケース下部の排油栓を外し，オイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・給油は油量を計り，給油栓より給油します。

・ギヤオイル…… **純正油**

・オイル量……**0.2 L**

9．プランタケースのオイル交換



❶ **交換**……各プランタケースの排油栓を外してオイルを抜きます。その際，オイルは適切な容器で受けてください。

・給油は油量を計り，給油栓より給油します。

・ギヤオイル…… **純正油**

・オイル量……**各0.35 L**

4箇所［**8条型**］

3箇所［**6条型**］

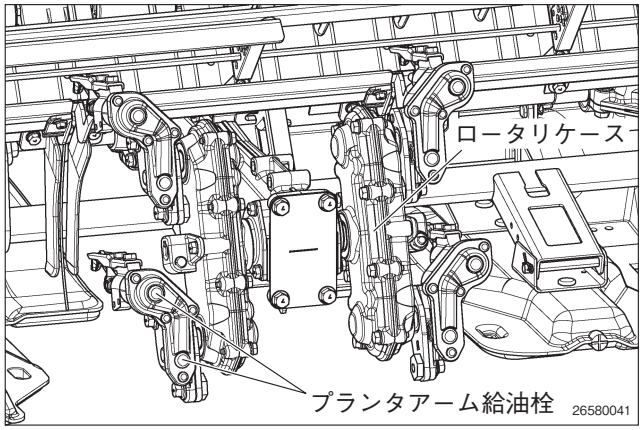
10．ロータリケースのグリス交換

・ロータリケースを分解したときにグリスを交換します。

・リチウムグリス……JIS 1種0号

・容量……**各80 g**　8箇所［**8条型**］

6箇所［**6条型**］



※分解は「**お買いあげ先**」で行ってください。

11．プランタアームのグリス交換および給脂

・プランタアームを分解したときにグリスを交換します。

・リチウムグリス……JIS 1種0号

・容量……**各30 g**

「**密植植え（2本爪）**」

［**8条型**］：16箇所，［**6条型**］：12箇所

「**疎植植え（1本爪）**」

［**8条型**］：8箇所，［**6条型**］：6箇所

・またはプランタアームの給油栓よりリチウムグリスを油差し容器で補給します。

・リチウムグリス……JIS 1種0号

・容量……**適量**

「**密植植え（2本爪）**」

［**8条型**］：32箇所．［**6条型**］：24箇所

「**疎植植え（1本爪）**」

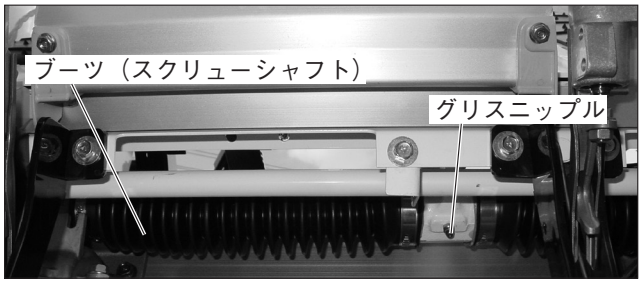
［**8条型**］：16箇所，［**6条型**］：12箇所

※分解は「**お買いあげ先**」で行ってください。

12. 給脂指定箇所

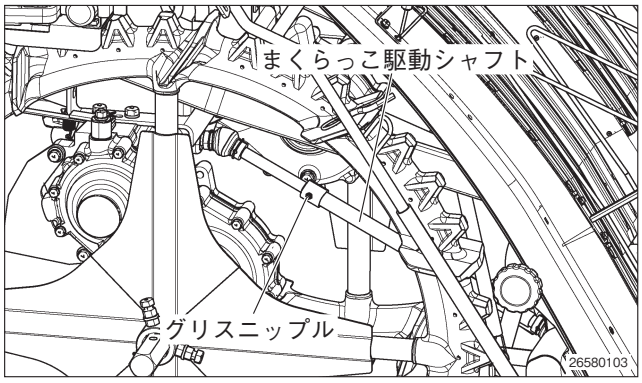
❶ スクリューシャフトのグリスニップル

・グリス適量給脂



❷ まくらっこ駆動シャフトグリスニップル

・グリス適量給脂



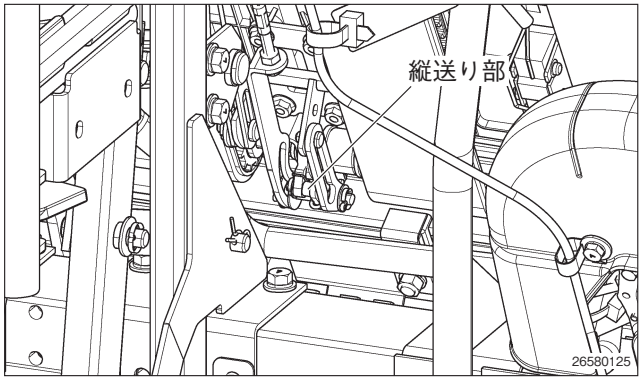
❸ 苗のせ台スライド部

・グリス適量塗布



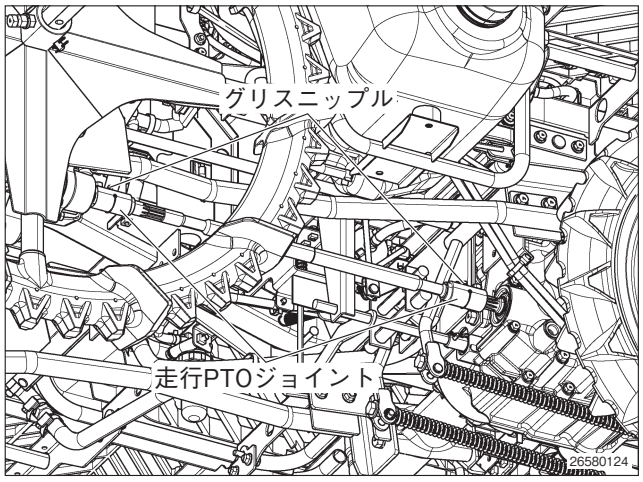
❹ ゴムベルト縦送り部

・グリス適量塗布



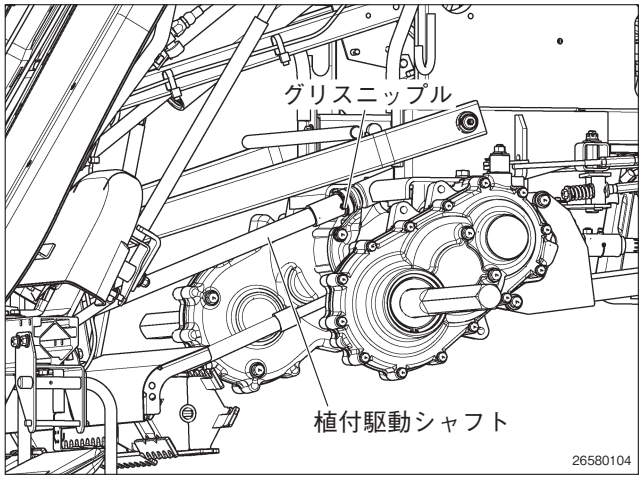
❺ 走行PTOジョイントグリスニップル

・グリス適量給脂



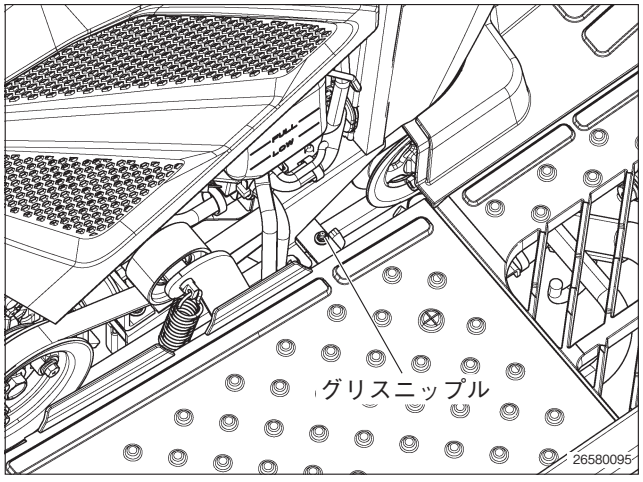
❻ 植付駆動シャフトのグリスニップル

・グリス適量給脂



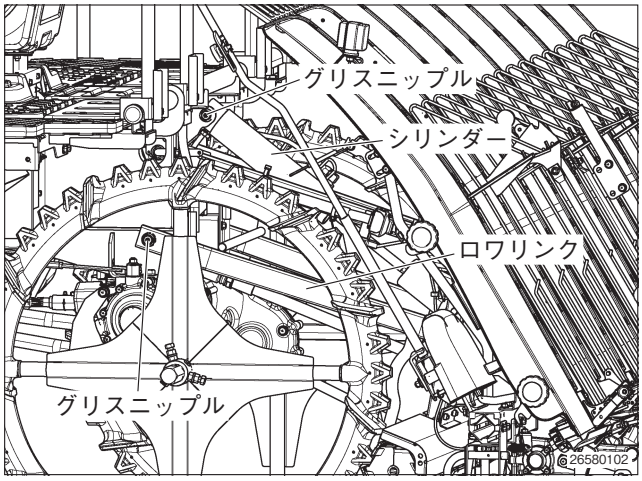
❼ HSTベルトテンションのグリスニップル

・グリス適量給脂



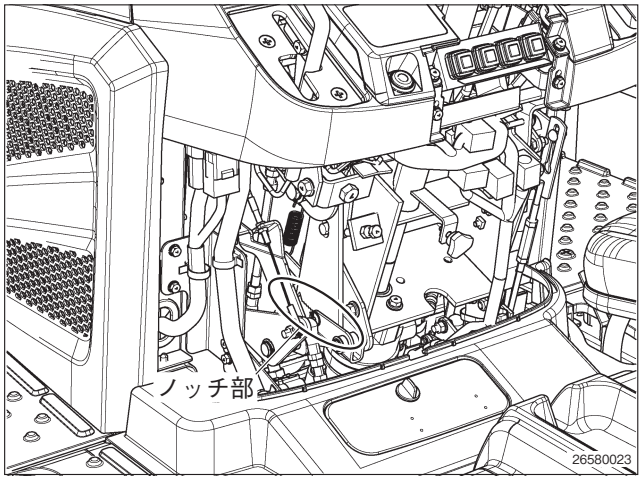
❽ ロワリンク支点部およびシリンダー支点部のグリスニップル

・グリス適量給脂



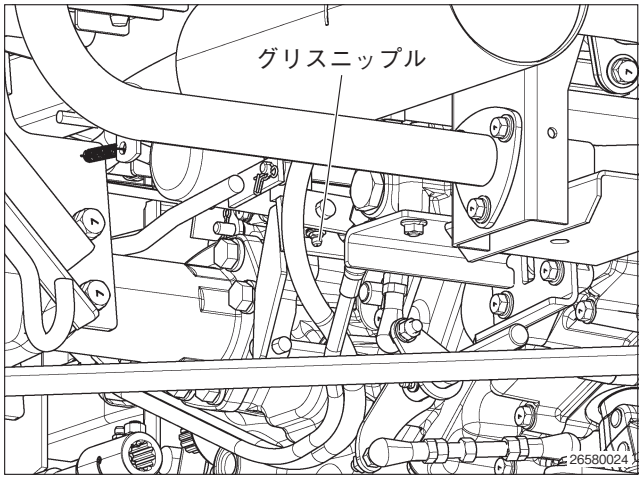
❾ 主変速レバーノッチ部

・グリス適量塗布



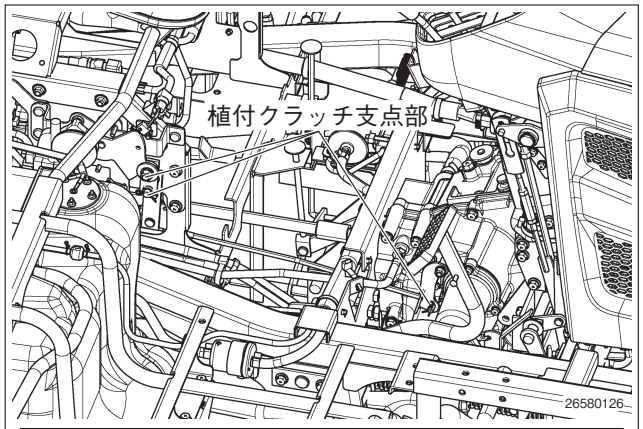
❿ 副変速部のグリスニップル

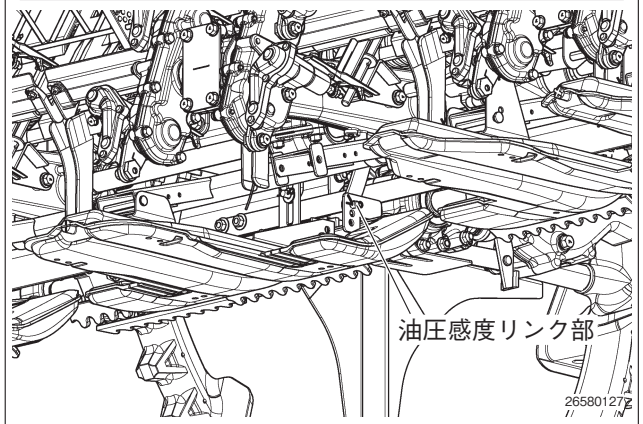
・グリス適量給脂

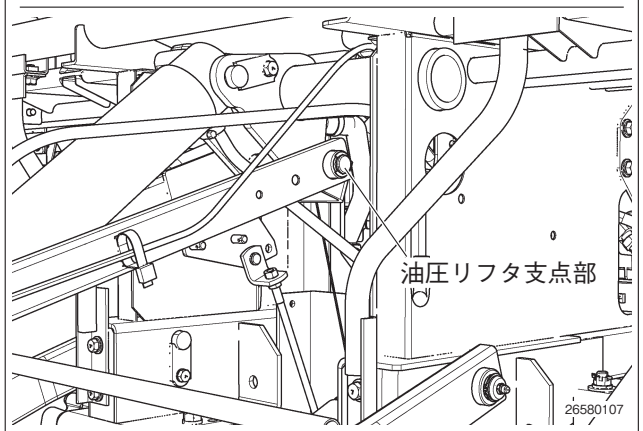


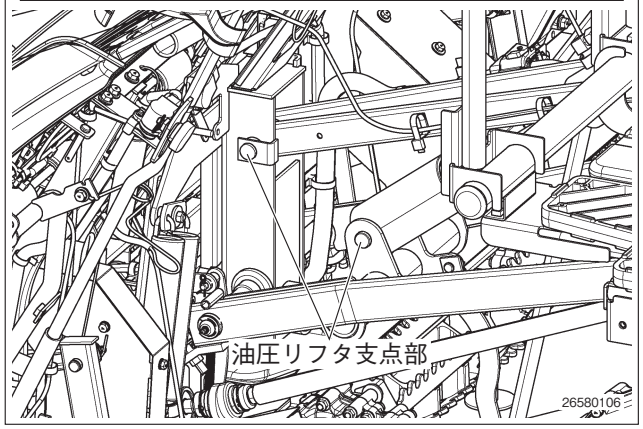
13. 注油指定箇所

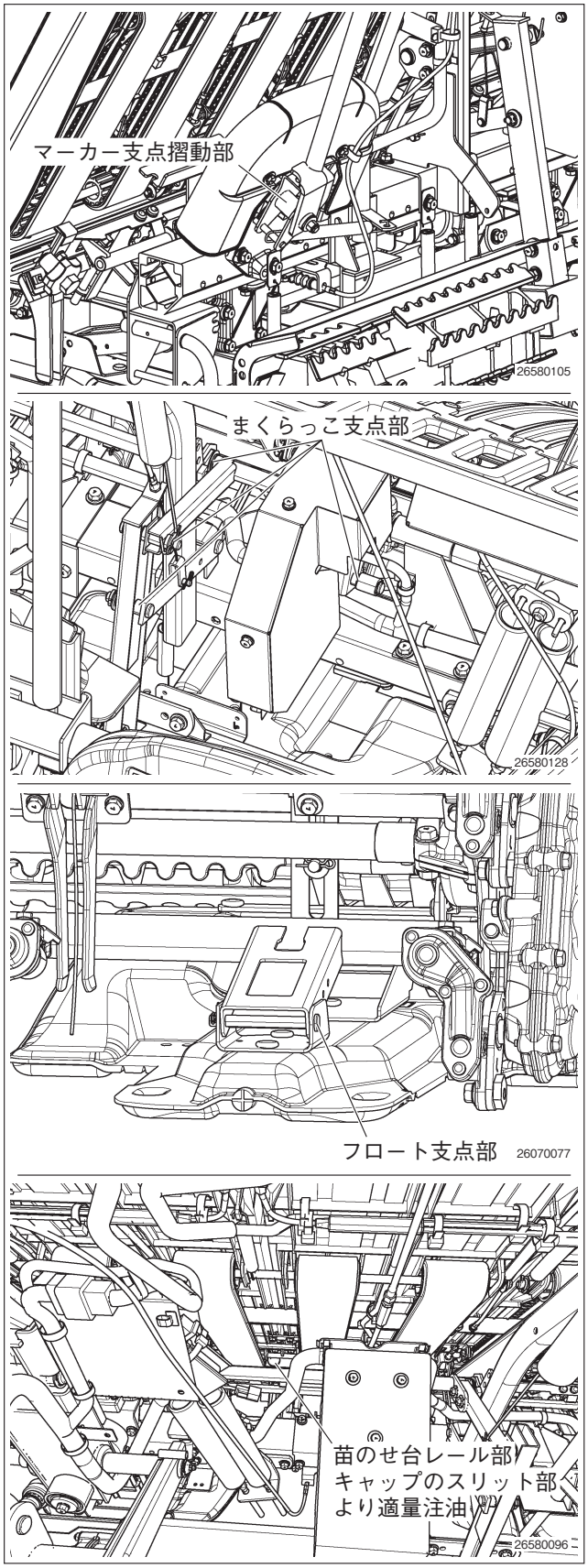
・エンジンオイルを適量注油します。











・指定箇所以外の回転部，摺動部にも注油します。

3. 各部の点検と掃除のしかた

⚠警告 傷害事故防止のために

◆各部の点検，掃除をするときは，機械を平坦な場所に置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。

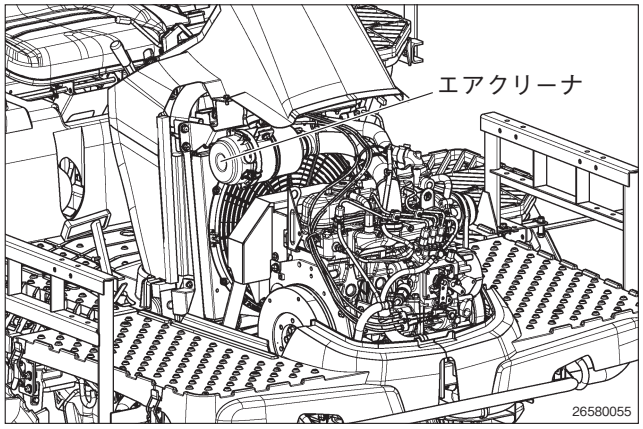
◆プラグキャップや高圧コードに触れているときにエンジンを始動しないでください。「感電」することがあります。

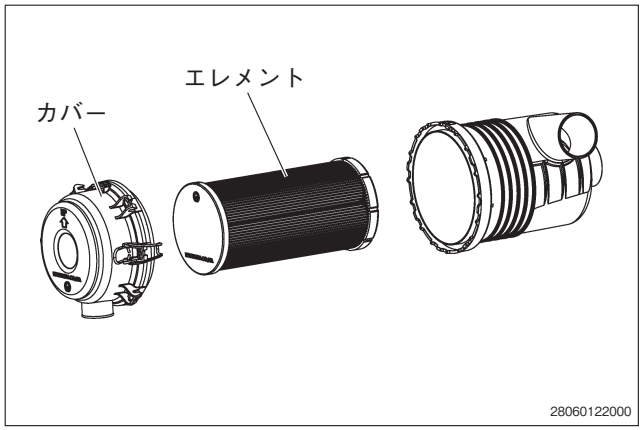
1. エアクリーナの掃除

エアクリーナエレメントを汚れたままで使用すると,エンジンの内部損耗や出力低下をまねきます。

❶ エアクリーナーカバーのクランプを外し，エレメントを取外します。

❷ エレメントは軽くたたくか，コンプレッサでエレメントの内側よりエアを吹きつけて掃除をします。





❸ 取付は，エアクリーナ本体とカバーの矢印を合わせるようセットして取付けます。

取扱いのポイント

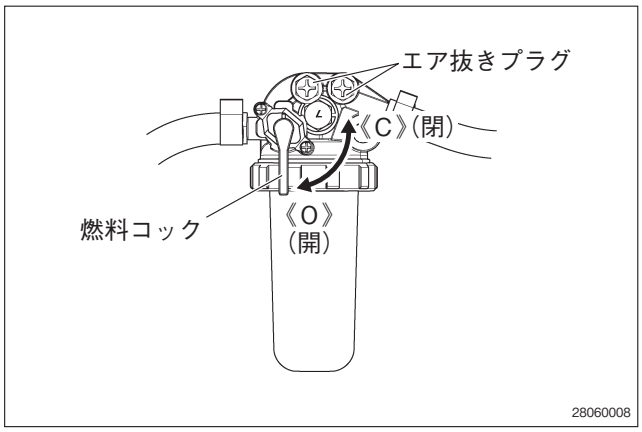
●コンプレッサでエアを吹きつける場合は，空気圧「0.7MPa {7kgf/㎠} 以下」で行ってください。

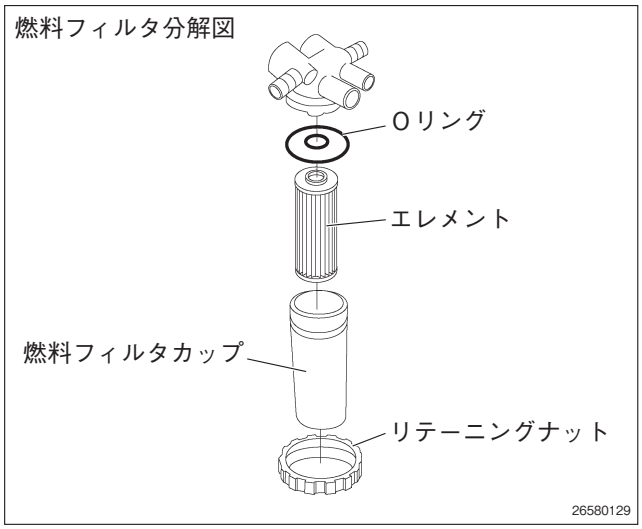
2. 燃料フィルタの点検と掃除

⚠警告 火災防止のために

◆燃料ホースおよび継ぎ部より燃料が漏れている場合は，火災の原因となることがありますので交換してください。

燃料フィルタは燃料内に含まれるゴミや水をフィルタにて取除きます。





❶ 燃料コックを《C》(閉) の位置にしてコックを締めます。

❷ リングねじを外し，フィルタカップを取外します。

❸ 軽油につけてエレメントをすすぎ洗いします。また，フィルタカップ内部も軽油で洗浄します。

❹ 洗浄後，チリやホコリが付かないようにして元のように正しく組付けます。

❺ 燃料コックを《O》(開) の位置にしてコックを開いて，エア抜きを行います。

❻ 同時に噴射ポンプのエア抜きも行います。

取扱いのポイント

●燃料の中に，水やゴミなどが混入しますとエンジンに重大な故障が発生したり，燃料ポンプが作動しなくなることがありますので，燃料は燃料タンク給油口のフィルタを通して給油してください。

●燃料は雨水などがかからない場所に保管してください。

3．燃料のエア抜きのしかた

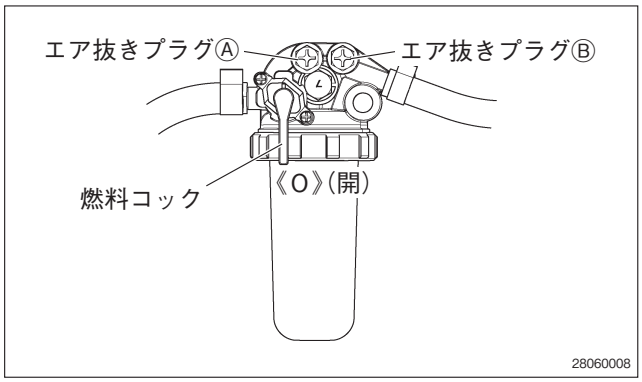
運転途中での燃料切れや，燃料フィルタの掃除や交換時はつぎの手順でエア抜きを行います。

❶ 燃料タンク給油口のフィルタを通して燃料を給油します。

・燃料はディーゼル軽油

JIS２号（−7.5℃まで）

JIS３号（−20℃まで）

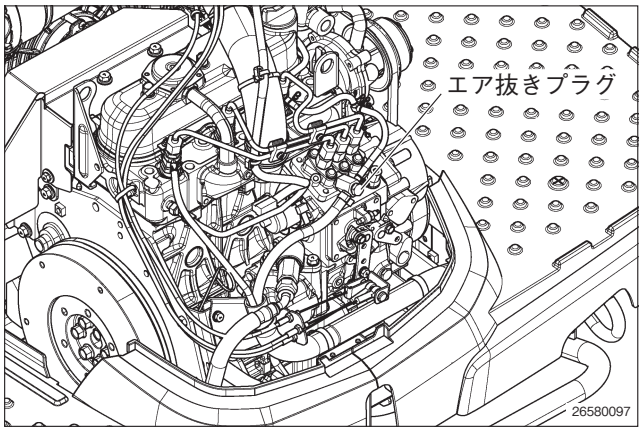


❷ 燃料フィルタの燃料コックを《**O**》(**開**) 位置にします。

❸ スタータスイッチを《**運転**》位置にすると燃料ポンプが作動します。(このときエンジンは始動しません。)

❹ エア抜きプラグⒶをゆるめ，気泡が混じらない燃料が出てきたら，エア抜きプラグⒶを締めます。

❺ エア抜きプラグⒷをゆるめ，気泡が混じらない燃料が出てきたら，エア抜きプラグⒷを締めます。



❻ 噴射ポンプ上にあるエア抜きプラグを開きます。

❼ 燃料に気泡が混じらない燃料が出たら，エア抜きプラグを締めます。

❽ 以上でエア抜きは完了ですのでエンジンコントロールレバーを「**低速**」位置にしてスタータスイッチを《**始動**》にしてエンジンを始動します。

❾ 始動しないときは，❸〜❼項の操作を行います。

取扱いのポイント

- **エア抜きをするとき以外は，必ず噴射ポンプのエア抜きプラグは閉じておいてください。エンストの原因になります。**

4．ホース類の点検と交換

燃料ホース，ラジエータホース，油圧ホースなどの燃料漏れ，水漏れ，油漏れがないかを点検します。

また締付けているバンドやホースの継ぎ部がゆるんでないかを点検します。漏れ，ゆるみ，損傷のある場合は交換が必要ですので「**お買いあげ先**」に依頼してください。

取扱いのポイント

- **燃料ホースは，定期交換部品ですので２年ごとに交換してください。**
- **油圧ホースは，定期交換部品ですので２年ごとまたは，150時間の早い方で交換してください。**

5. ヒューズの交換

⚠警告 火災防止のために

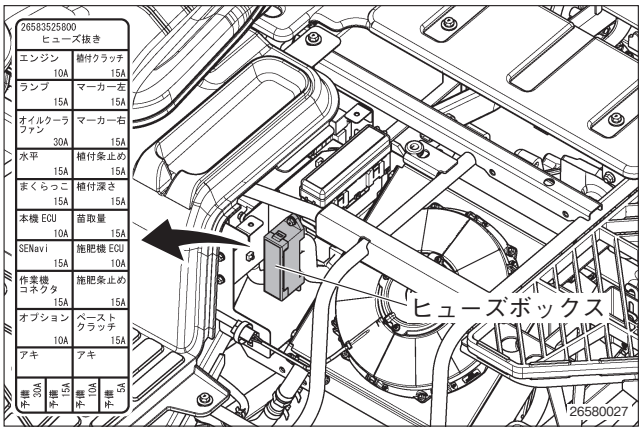
◆取付けてあるヒューズと異なる容量のヒューズを使用しないでください。また針金，銀紙などをヒューズのかわりに使用しないでください。使用すると電線の過熱焼損の原因になります。

配線の回路に異常を生じたとき，事故を未然に防止するためにヒューズが設けてあります。

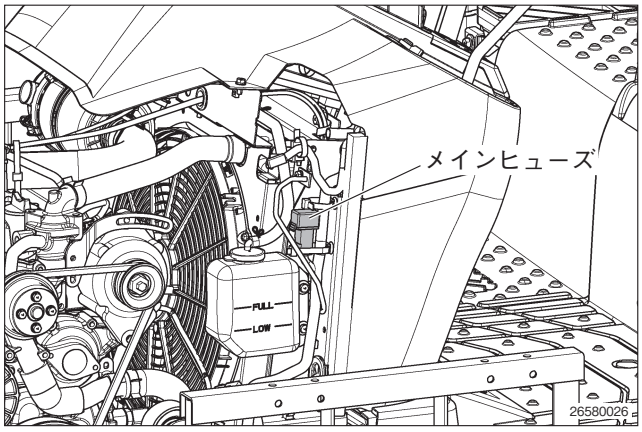
運転中，電気系統に異常を確認したときはヒューズが切れていないかチェックします。

・ヒューズボックスと，大電流ヒューズの点検はボンネット，ホールカバー，左リヤステップを外しヒューズボックスカバーを外して行います。
・シート下左側のヒューズボックスはカバーに隠れているため，カバーをめくって点検します。

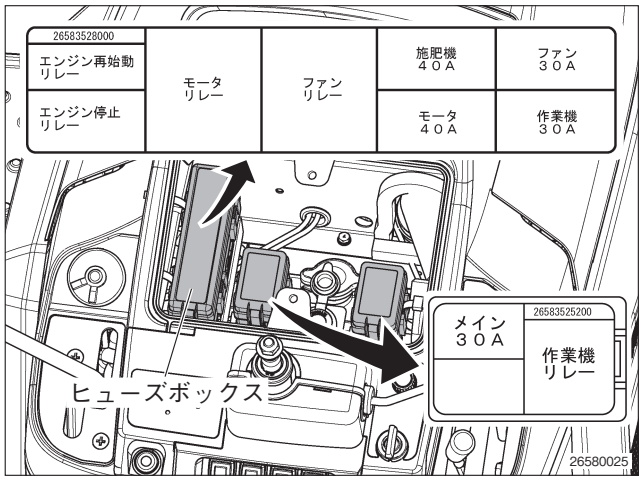
❶ ヒューズボックス（シート下カバー内左側）



❷ 大電流ヒューズ（ボンネット内右側）



❸ 大電流ヒューズ（ホールカバー内側）



・ヒューズが溶断した場合は，つぎの機能が作動不良となります。

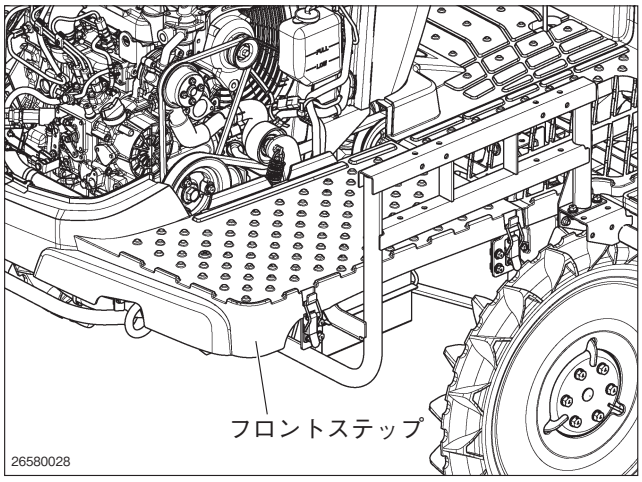
	大電流	モータ	施肥機	作業機	ファン	メイン	ランプ	オイルクーラーファン	水平	まくらっこ	本機ECU	オプション	植付クラッチ	マーカー左	マーカー右	植付条止め	植付深さ	苗取り量
ファンモータ	×				×													
ブザー	×					×	×											
燃料ポンプ	×					×	×											
前照灯	×					×	×											
モニターアッシ	×					×	×											
方向指示器	×					×	×											
水平制御モータ	×	×							×									
マーカー右モータ	×	×													×			
マーカー左モータ	×	×												×				
まくらっこモータ	×	×								×								
本機ECU	×					×					×							
植付クラッチモータ	×	×											×					
オイルクーラーファンモータ	×	×						×										
植付条止めモータ	×	×														×		
植付深さ調節モータ	×	×															×	
苗取り量調節モータ	×	×																×
電源ソケット	×			×								×						

（×は作動不良を示す）

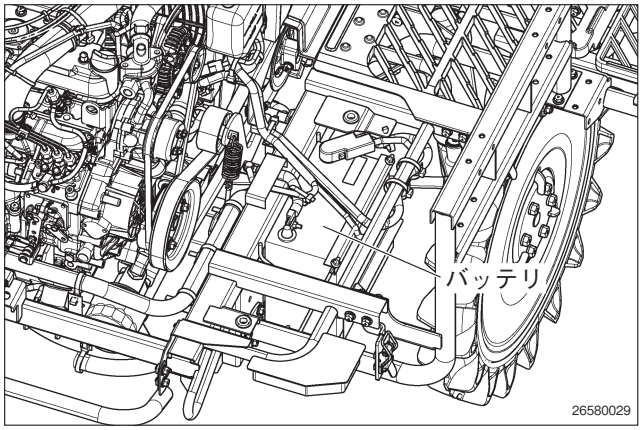
取扱いのポイント

- ヒューズが溶断しているときは，原因を調べ修理後，指定容量のヒューズと交換してください。
- 再発するときは「お買いあげ先」にご相談ください。

6. バッテリ



・ボンネットを開き，左側フロントステップを外すとバッテリが装着されています。



指定バッテリ……55B24Rまたは相当品

7. バッテリの点検と充電

バッテリの残存量の確認は91～94ページの3-1, 3-2を参照してください。

指定バッテリ…55B24R（補水不要）

⚠危険 火災や傷害事故防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆ブースタケーブルを使用するときは，接続前にエンジンを停止してください。

◆ブースタケーブルは，100A以上の仕様のものを使用してください。
容量の小さいケーブルを使用すると，ケーブルが焼損し，火災の原因となることがあります。

◆バッテリを「着脱」したり充電器で「充電」するときは，エンジンを停止し，始動キーを抜取ってください。

◆⊕端子と⊖端子を間違えないようにしてください。逆につなぐと電装品が焼損します。また，「スパーク（短絡）」による電気火花で負傷をすることがあります。

◆⊕端子が機械に接触しないようにしてください。

◆⊖端子を取付けたままで充電すると，発電器や電気配線を焼損することがあります。

◆バッテリを化学繊維製布などで掃除しないでください。静電気による引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは，水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

補水不要なバッテリ

◆密封タイプなので，急速充電や開封は厳禁です。

補水が必要なバッテリ

◆バッテリは，充電するとき引火性の強い「水素ガス」を多量に発生し，「引火爆発」を起こすことがあります。「火気」に近づけたり，「スパーク」による電気火花が発生しないようにしてください。

◆「水素ガス」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をしてください。
失明や火傷をすることがあります。

◆バッテリ液（電解液）は，希硫酸で劇毒物ですので，こぼさないようにしてください。

◆バッテリを充電するときは，液口栓をすべて取外してください。

◆バッテリの液量が，側面に表示されている「下限」(LOWER LEVEL）以下になった状態で使用したり充電すると，バッテリの破裂（爆発）の原因となることがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがありますので，眼鏡などで目を守り，衣服や皮膚に付着しないようにしてください。

⚠警告 火傷や火災防止のために

共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

◆バッテリを取外すときはバッテリ⊖コードを先にバッテリの⊖端子（アース側）から外し，つぎにバッテリ⊕コードを⊕端子（プラス側）から外してください。取付けるときはバッテリ⊕コードを先にバッテリ⊕端子（プラス側）に取付けてください。逆の手順で作業するとショートや漏電を起こす原因となります。

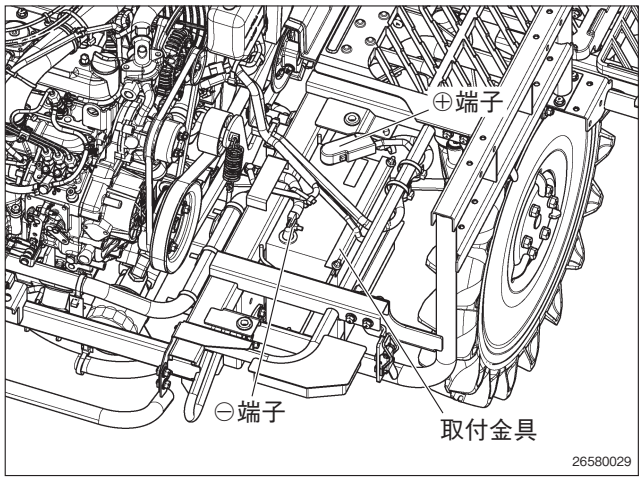
❶ バッテリ取付金具の点検

バッテリの取付けがゆるいと，バッテリが上下左右に動き，振動で電解槽やフタなどが摩耗したり，亀裂を起こすことがあります。

取付金具で，しっかり固定します。

取付金具などが腐蝕していれば，修理または取替えます。

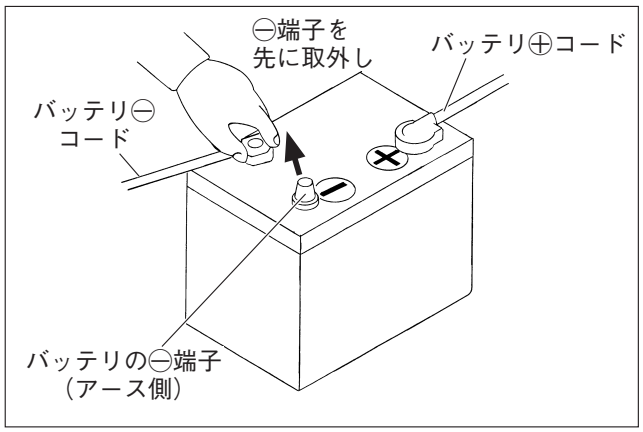
左側フロントステップを外すとバッテリが装着されています。



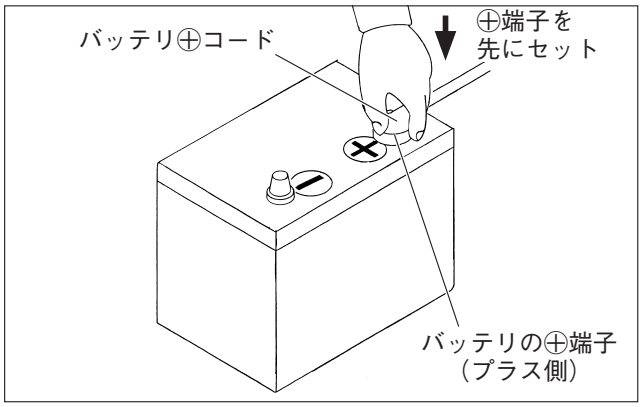
❷ バッテリ着脱時の注意

(1) バッテリを「**着脱**」したり充電器で「**充電**」するときは，エンジンを停止し，スタータスイッチから「**キー**」を抜取ります。

(2) バッテリコードを端子から取外すときは「**⊖端子（アース側）**」を先に外します。



(3) バッテリコードを端子にセットするときは「⊕端子（プラス側）」を先に取付けます。



(4) バッテリ上面に貼ってある取扱いの注意ラベルをよく読んでください。

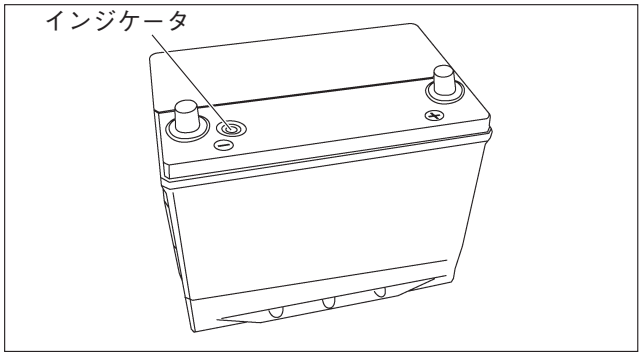
3-1 残存容量の確認（補水不要バッテリ）

(1) バッテリは上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し，処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換

取扱いのポイント

●インジケータは真上から確認してください。



(2) バッテリが破損して液漏れが発生しているときは，交換してください。

取扱いのポイント

●液漏れが発生すると車体が腐蝕する原因となります。

●インジケータで使用可能でも補充電が必要な場合（エンジンがかかりにくいなど）があります。その場合は補充電を行ってください。

3-2 残存容量の確認（補水が必要なバッテリ）

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下のことを守ってください。

◆バッテリは液面がLOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVELとLOWER LEVELの間に補水してください。

◆バッテリ液が身体や衣服に付かないようにしてください。電解液（希硫酸）によって火傷することがあります。

◆充電のとき，「バッテリ液」が飛散することがあるので，保護眼鏡などで目を守り，ゴム手袋を着用ください。

◆バッテリ液が皮膚に付着したり目に入ったときは，直ちに水洗いをし，医師の手当を受けてください。

◆衣服についたときは水洗いし，弱アルカリ性石けんで，硫酸分を洗い流してください。

バッテリの状態を点検し，異常があれば処置します。

(1) バッテリ液の「比重」を測定する方法と，「バッテリテスタ」で測定する方法があります。

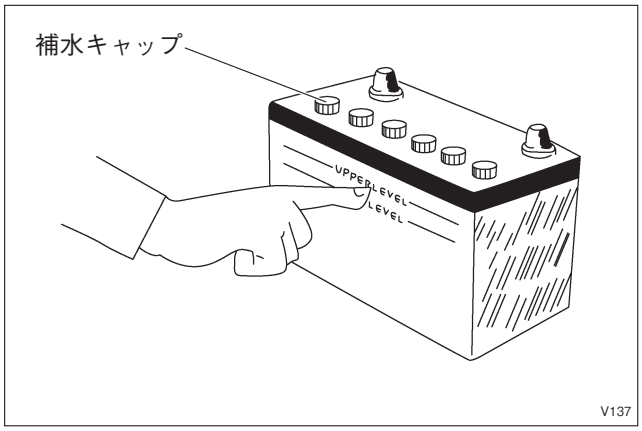
(2) 残存容量が低下していれば，ただちに補充電をします。

⑶ バッテリ液の比重を比重計で測定し「1.220（20℃）」以下であれば補充電をします。

比重（20℃）	放電電気量（%）	残存容量（%）
1.280	0	100
1.240	25	75
1.200	50	50
1.160	75	25
1.120	100	0

⑷ バッテリテスタで測定するときは，バッテリテスタの取扱説明書に従って測定し，必要があれば補充電を行ってください。

⑸ バッテリ液の量を点検し，「UPPER LEVEL」（最高液面線）と「LOWER LEVEL」（最低液面線）の間の液量があるか確認し，不足しているときは補水します。



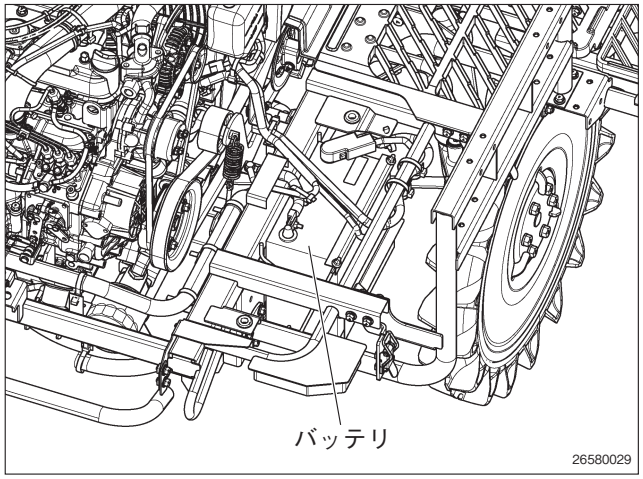
取扱いのポイント

- **バッテリ液が不足し極板が空気中に露出すると，バッテリ寿命は著しく短くなります。**
- **バッテリ液を補充する場合は，必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。**
- **バッテリに精製水を入れ過ぎないでください。液漏れして機械を傷めるおそれがあります。**

❹ ブースタケーブルによるエンジン始動

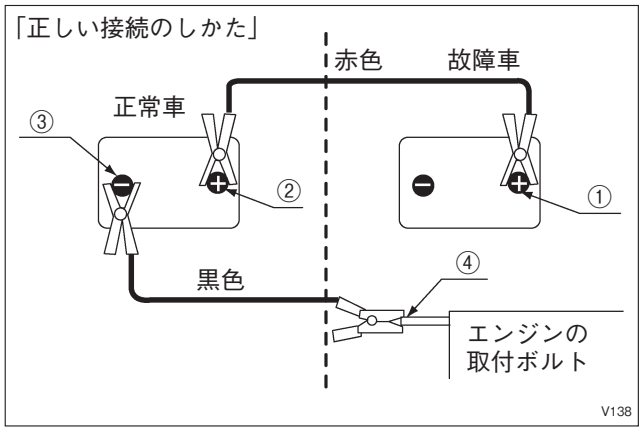
バッテリが放電し，エンジンが始動できないとき，他車（12V仕様車）の良好なバッテリを電源として始動する場合，ブースタケーブルを使用します。

このときは，つぎの手順を守って行います。



「ブースタケーブルの接続のしかた」

⑴ 正常車のエンジンを停止して，①～④の順序でブースタケーブルを確実に接続します。

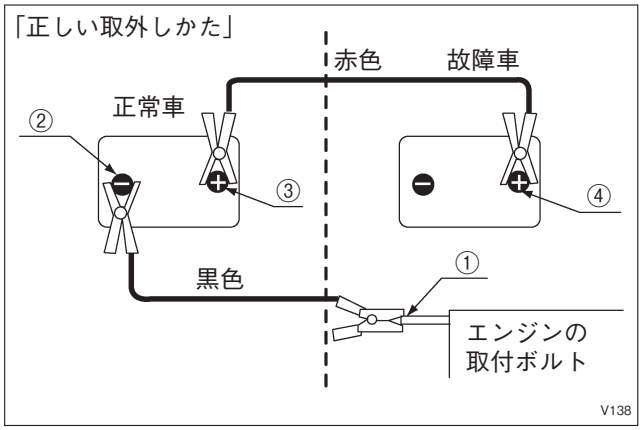


接続順序④は，ブースタケーブル（黒色）のクリップを機械のエンジンの取付ボルトに接続します。

⑵ 放電バッテリ搭載車のエンジンを始動します。エンジンがかかりにくいときは，正常車のエンジンをスタートしてから，放電バッテリ搭載車のエンジンをスタートさせます。

「ブースタケーブルの取外し」

・エンジン始動後のブースタケーブルの取外しは，**接続の場合と逆の順序**で行います。



❺ バッテリの充電

⚠危険 傷害事故防止のために

◆バッテリは，以下の順序で脱着してください。順序を誤ると，ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
・取外し…（−）端子側(アース側)から外す。
・取付け…（＋）端子側を最初に接続する。

◆バッテリを転倒させたり，衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）の漏れにより，失明や火傷をするおそれがあります。

◆バッテリを機械に取付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機械損傷の原因となるおそれがあります。

◆バッテリを投げたり，落としたり，斜めにしたり，衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入っている電解液(希硫酸)により，失明や火傷の原因となることがあります。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆バッテリの取付け方向を間違えないでください。（＋）と（−）が逆に取付けられると接続ケーブルが損傷し，火災の原因となるおそれがあります。

取扱いのポイント

●バッテリが完全に放電し，スタータスイッチを《入》にしてもチャージ・エンジンオイルモニターが点灯しない状態になった場合は，バッテリを交換してください。他のバッテリでブースターケーブルを使用してエンジンを始動すると高電圧が発生し，電装品を破損することがあります。

使用前またはつぎのような状態が発生したときは補充電を行ってください。また，補充電を行っても短期間で再発するときや状態が良くならないときは，バッテリの寿命ですので交換を行ってください。

・スタータモータの回転が，いつもより弱い。
・アクセルの加減で，前照灯の明るさが変わる。
・ホーンの音が，いつもより低い。

1．共通（補水不要なバッテリ，補水が必要なバッテリ）

⑴ 充電作業に取かかる前にエンジンを停止し，スタータスイッチ（始動キー）を抜取ります。

⑵ 機械からバッテリを取外します。

⑶ 「**水素ガス**」が滞留しないよう，風通しのよい場所で充電をします。

⑷ 「**火気**」を近づけたり「**スパーク（短絡）**」による電気火花が発生しないようにします。

⑸ 充電器のクリップを着脱するときは，充電器のスイッチを「**切**」にし，㊉端子（赤色）・㊀端子（黒色）を正しく取付けます。

2．補水不要なバッテリ

⑴ 急速充電厳禁。

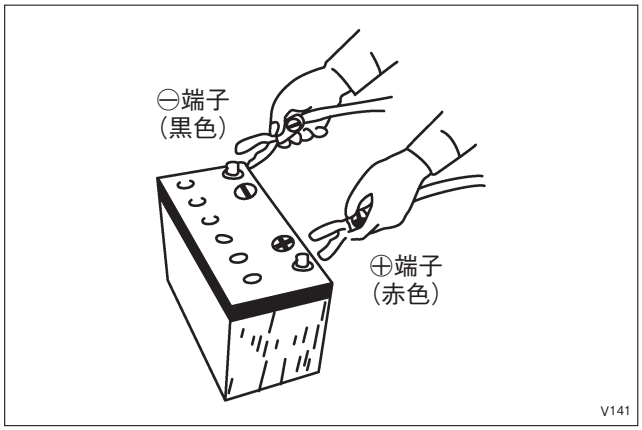
3．補水が必要なバッテリ

⑴ 充電前に「**補水キャップ**」をすべて取外します。



⑵ 急速充電はできるだけ避け，普通充電をし，液温が「45℃」を超えないようにします。

⑶ 補充電が終わったら「**補水キャップ**」をすべて取付けてください。



取扱いのポイント

- **各端子は，「ゆるみ」がないように締付けてください。**
- **取付けのとき，バッテリ端子部は布で油などをふき取っておきます。取付け後バッテリ端子部には，腐蝕防止のためグリースを塗布してください。**
- **バッテリ⊕端子のゴムブーツを，取付けておきます。**
- **厳寒時は，機械を格納するときに，バッテリを取外して暖かい所に保管してください。**
- **亀裂や変形のあるバッテリは，新品と取替えてください。汚れていれば，清水で洗浄してください。洗浄後は，水分をふき取ってください。**
- **バッテリを交換するとき，バッテリは下記指定のバッテリを使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**

指定バッテリ…55B24R（補水不要）

- **バッテリはエンジン始動用ですから，ほかの用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取付けてください。傾いたりすると転倒や液漏れの原因となります。**

8. 電気配線の点検と掃除

⚠警告 火傷や火災防止のために

◆電気配線の点検時には，スタータスイッチを《切》位置にし，バッテリコードのアース側⊖端子を外してください。

◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火災や損傷の原因となりますので交換してください。

◆エンジン，バッテリ，電気配線回りのワラクズなどを取除いてください。火災の原因になることがあります。

❶ 電気配線の点検

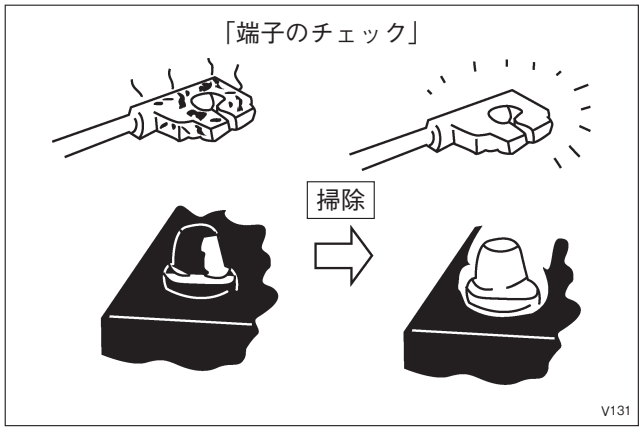
配線の端子部の「**ゆるみ**」や「**接続不良**」または配線が「**損傷**」していると，電気部品の性能を損なうだけでなく，「**ショート（短絡）**」することがあります。

傷んだ配線は交換，修理します。

❷ 電気配線の掃除

⑴ エンジン，バッテリ，電気配線部に溜まっている「**ワラやゴミ**」などは，「**火災**」の原因になりますので取除きます。

⑵ バッテリ端子にバッテリ液がかかると，端子が「**腐食**」することがあります。バッテリ端子が腐食すると，「**接触抵抗**」が大きくなり，電流が流れにくくなりますので，「**定期的**」に汚れや腐食を，サンドペーパやブラシで取除きます。腐食防止のために，グリースを塗ります。



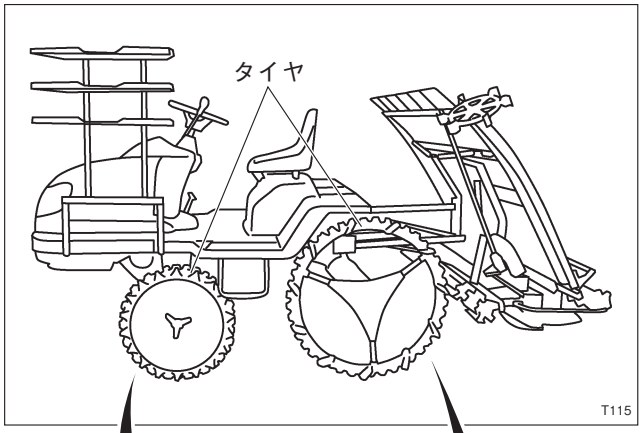
9．タイヤの点検

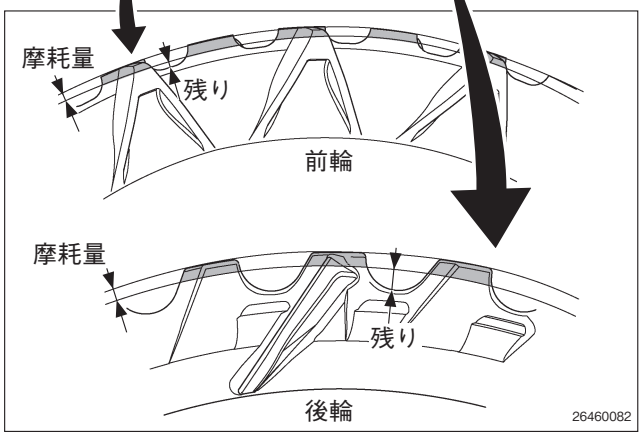
⚠警告 傷害事故防止のために

◆タイヤが摩耗すると，スリップを起こしやすくなるため，アユミ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。

❶ 点検

前輪，後輪共にタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し，８㎜以上摩耗している場合や破損がひどい場合は，「**お買いあげ先**」に連絡して交換してください。





	種類	摩耗量	残り
前輪	ノーパンクワイド 空気入	８㎜以内	２㎜
後輪	−	８㎜以内	13㎜

⚠警告 死傷事故防止のために

◆タイヤの空気は入れすぎないでください。空気を入れすぎる（空気圧が高すぎる）と，タイヤが破裂し，死傷事故につながることがあります。

◆タイヤに傷があり，その傷がコード（糸）に達している場合は，タイヤが破裂するおそれがありますので，使用しないでください。

◆タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は「お買いあげ先」に相談してください。

❷ 点検

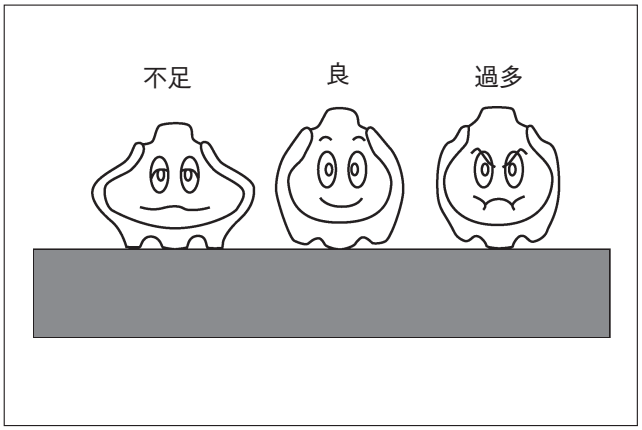
⑴ タイヤにキレツなど損傷がないか点検します。パンクなど損傷のひどい場合は，タイヤを交換します。

⑵ タイヤの空気圧を作業前に点検します。

空気圧が［前輪240kPa（2.4kgf／㎠）］になるようにします。（［ ］内は標準空気圧です。）

❸ 調整

標準空気圧になるよう調整します。



4. 各部の点検と調整のしかた

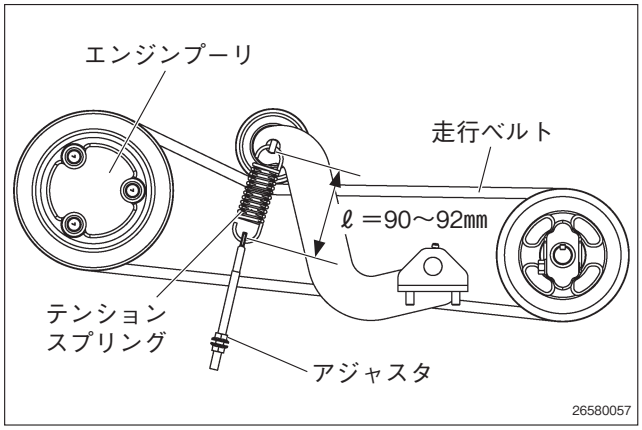
1. 走行ベルトの点検・調整

❶ **点検**……走行中エンジンの回転に比べて車輪の回転が遅い，または回転しないことはありませんか。

❷ **調整**……ボンネットを開け，走行ベルトのテンションプーリのスプリングをアジャスタのナット位置を調整して張り，ロックします。

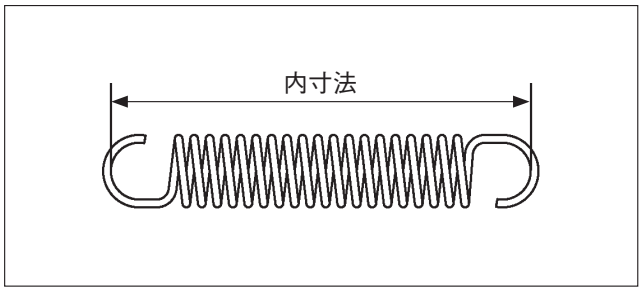
調整後はボンネットを閉めます。

ℓ = 90～92㎜



取扱いのポイント

●スプリングの取付け長さは，フックの内寸法を測定してください。



2. オルタネータベルトの点検・調整

❶ **点検**……オルタネータベルトの長い部分の中央（黒矢印）を98N {約10kgf} で押し，たわみ量Ⓐが 15～17㎜ となっていますか。

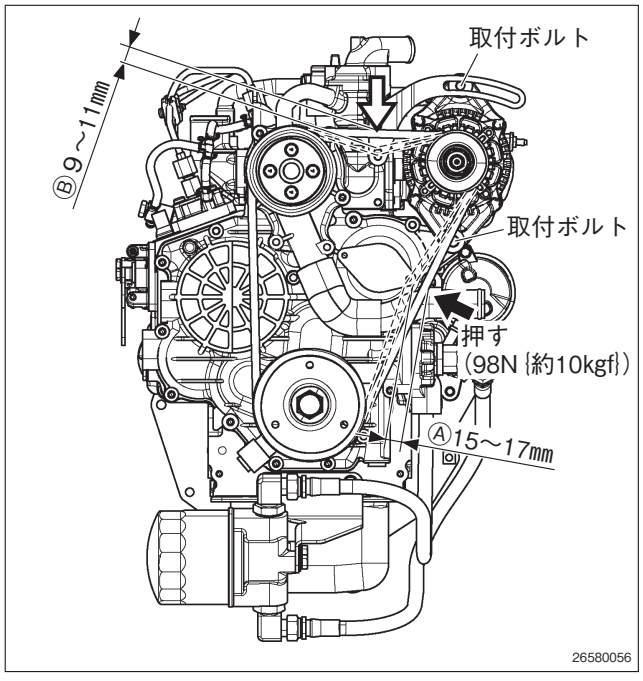
点検しにくい場合は，白矢印部分を98N {約10kgf} で押し，たわみ量Ⓑが 9～11㎜ となっているか点検します。

❷ **調整**……(1) オルタネータ取付ボルトをゆるめます。

・オルタネータを外側に倒すとベルトが張ります。

・オルタネータを内側に倒すとベルトがゆるみます。

(2) 調整後は取付ボルトを確実に締付けます。



取扱いのポイント

●損傷がある場合，張り調整代が無くなった場合は交換します。

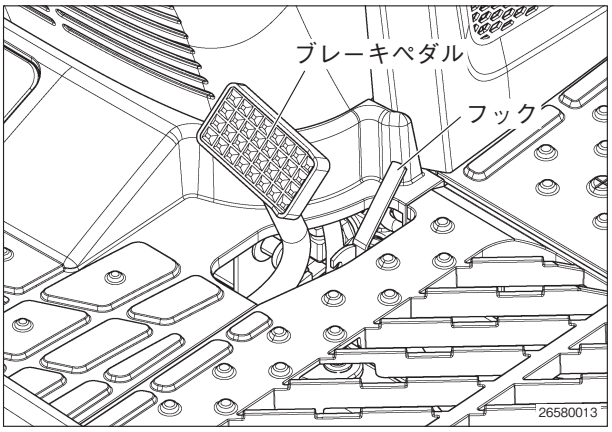
●ベルトの張り過ぎは，ベルトの早期摩耗を助長します。

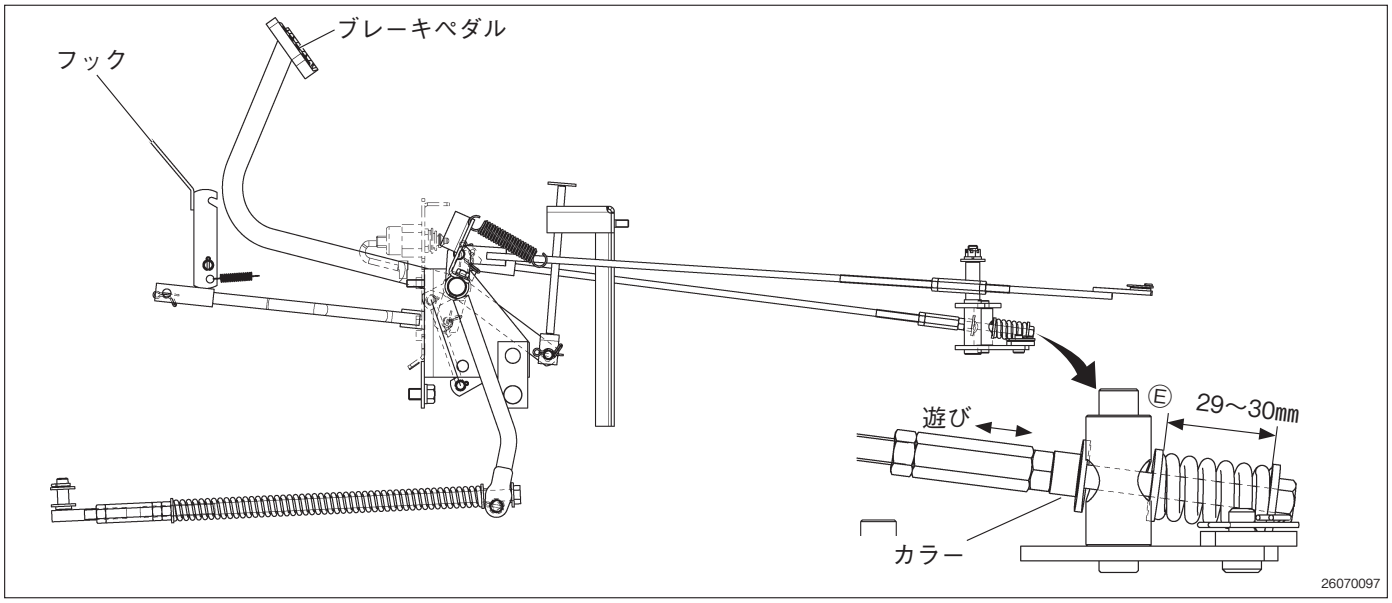
3. ブレーキペダルの点検・調整

❶ **点検**……⑴ ブレーキペダルをフックにかけたとき E=29～30㎜ になっていますか。このときカラーが軸方向に遊びがありますか。

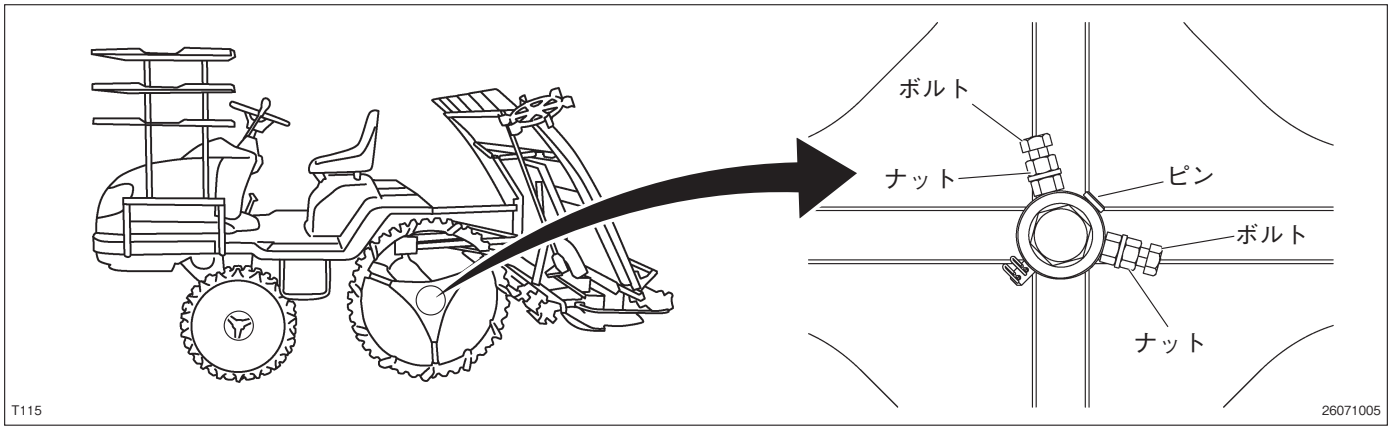
⑵ 主変速レバーを前進最高速および後進最高速にしてブレーキペダルをいっぱいに踏込んだとき主変速レバーがニュートラルに戻りますか。

❷ **調整**……ブレーキペダルの調整は，「**お買いあげ先**」に依頼してください。





4. 車輪取付部の点検・調整



❶ **点検**……⑴ ピンに傷がついていませんか。

⑵ 車軸と車輪にガタつきがありませんか。

❷ **調整**……ナットをゆるめ，ボルトを締付けロックします。

5. 植付クラッチの点検・調整

⚠警告 傷害事故防止のために

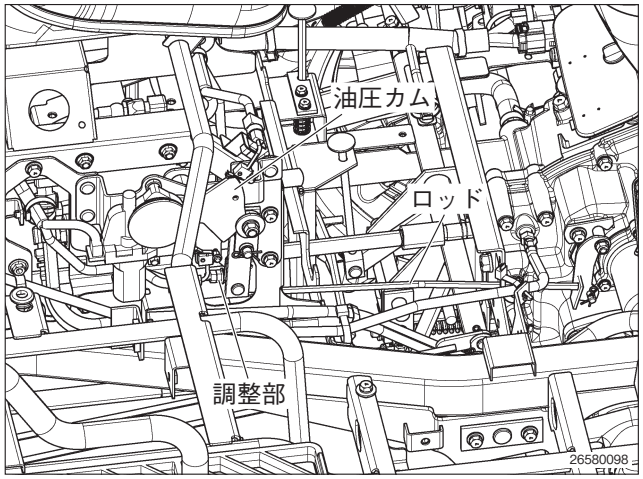
◆点検・整備・掃除するときは平坦な場所に機械を置いて，駐車ブレーキをかけエンジンを停止して各部の回転が止まってから行ってください。
◆屋内でのエンジン始動は窓や戸を開けて換気をしてください。

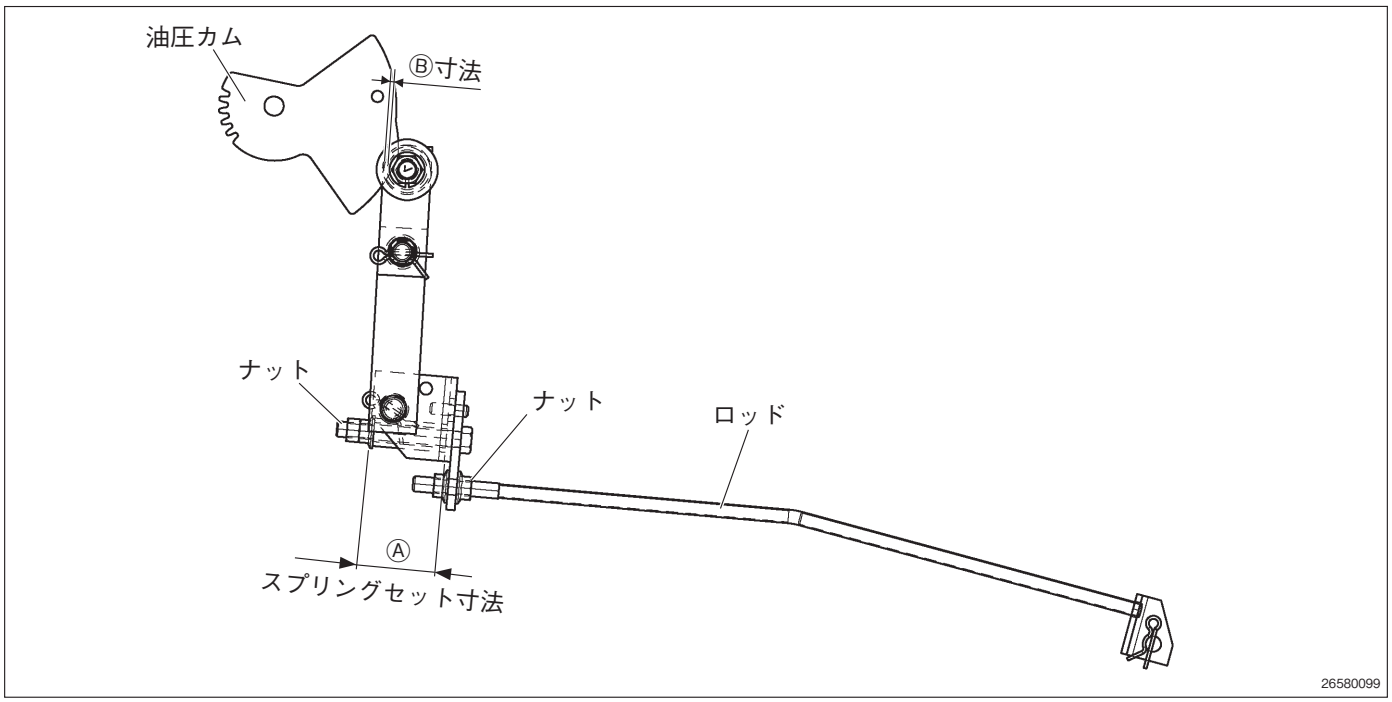
⚠注意 傷害事故防止のために

◆植付部を上げて行うときは油圧を固定にし，植付部が降りないことを確認し，植付部の下に固定脚を置いてください。
◆取外したカバー類は全て取付けてからエンジンを始動してください。

❶ **点検**……クイックアップレバーを操作してモニターパネルの《**植付**》が点灯したとき，植付部が作動しますか。また，《**下げ**》および《**固定**》が点灯したとき，植付部の作動が停止しますか。

❷ **調整**……植付クラッチが完全に切れないときは，Ⓑ寸法（植付《**入**》時，油圧カムとベアリングの間）が0～1㎜であることを確認した上で，スプリングセット寸法Ⓐが短くなるようにナット部を締込み調整します。（調整時はエンジンを停止し，油圧固定レバーを《**油圧固定**》位置にします。）





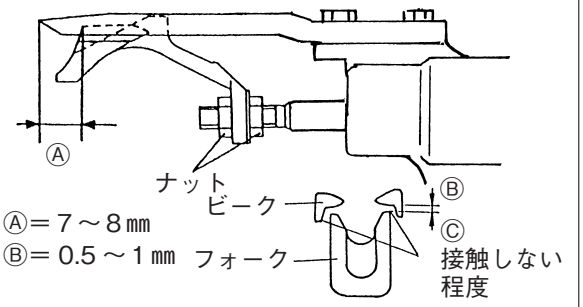
6．植付爪（ビーク，フォーク）の点検・調整

❶ **点検**……植付け姿勢が悪い。あるいは苗を持ち回りしませんか。

❷ **調整**……⑴ プランタアームを手で押し，ロータリケースを回して植付爪が下死点（最も下がった位置）のときビーク，フォークのⒶ寸法をナットで調整します。

⑵ Ⓑ・Ⓒのすき間は，ビークとフォークが接触しないように締付けます。

「Hフォーク」



❸ **ビークの摩耗による交換の目安**

フォークの位置を調整してもⒶ寸法が確保できない場合はビークを交換します。

破損，変形がないか目視で確認し破損，変形がある場合はビークを交換します。

取扱いのポイント

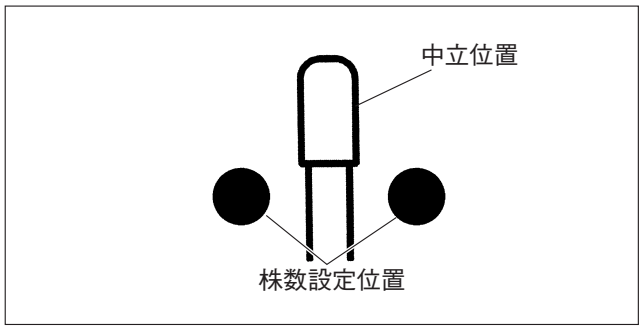
●プランタアームをいっぱい下げてフォークの調整や作動の確認をした場合は，確認後プランタアームをいっぱい上げます。

「ロータリケースを手で回す要領」

⑴ エンジンを始動し，植付部を上げて，油圧固定レバーを《油圧固定》位置にしクイックアップレバーを操作して《植付》位置にします。

⑵ 警報停止スイッチを押しながらスタータスイッチを「停止」します。

⑶ 株数調節レバー（前レバー）を株数と株数の中間（中立位置）にセットします。



⑷ **ロータリケースを手で回します。**

「ビークの点検・調整」

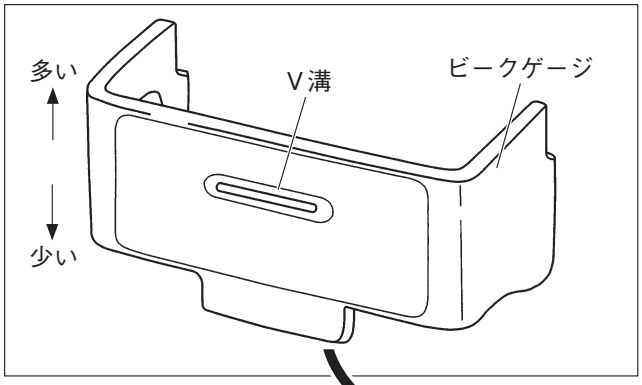
❶点検……各ビークの苗取り量が均一ですか。ビークを交換したときは調整します。

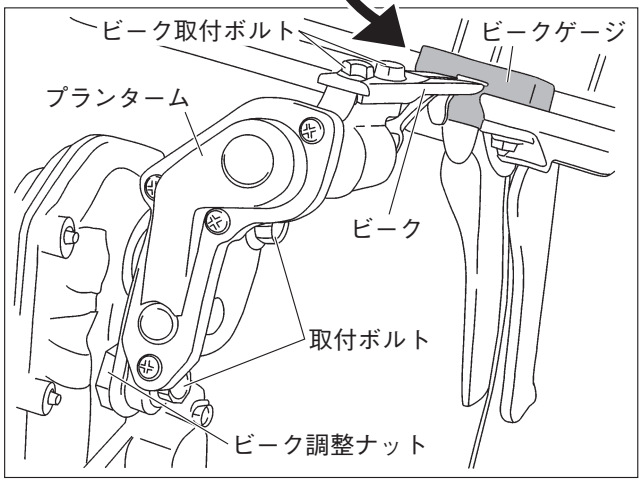
❷ビーク振り分け調整……ビークゲージをエプロン苗取口にセットし，ビーク先端がゲージのＶ溝の中央にくるようにビーク取付ボルトをゆるめ調整します。

❸ビーク高さ調整……⑴モニター操作ダイヤルで苗取り量を**《少》**から４番目にセットし，ビークゲージをエプロン苗取口にセットします。

⑵プランタアームを手で押し，ロータリケースを回して，ビークの先端がビークゲージのＶ溝位置にくることを確認します。

⑶V溝位置よりも「**少い**」または「**多い**」にズレている場合は各ビークの取付ボルト（２本）を半回転～１回転ゆるめ，ビーク調整ナット（付属品の専用スパナ使用）でビークの高さを調整し，ビーク先端がビークゲージのV溝位置にくるようにします。







取扱いのポイント

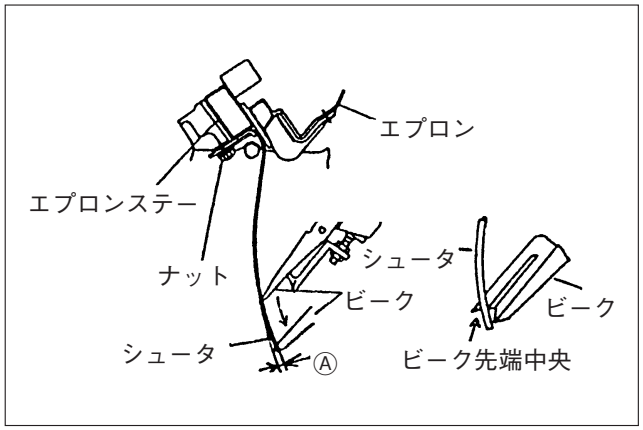
- **ビーク調整ナットで調整するときはビークをいったん多い方へもっていき，それから少い方に動かし調整してください。**
- **ビーク交換したときは同一植付条のもう片方のビークも調整を行ってください。**

7．苗シュータの点検・調整

❶ **点検**……植付け姿勢が悪い，あるいは苗が倒れてはいませんか。

❷ **調整**……プランタアームを手で押し，ロータリケースを回して，シュータが，ビーク先端中央になるようにしてください。

Ⓐ＝ **２～５㎜**



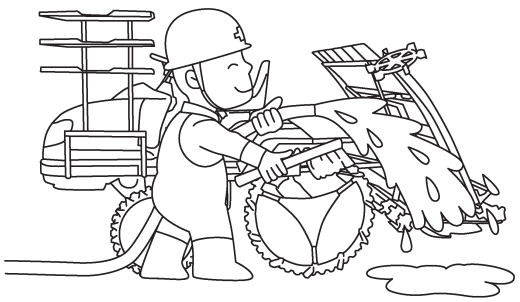
長期格納のしかた

・シーズンが終わったら，つぎの作業をして格納します。

⚠警告 火災や傷害事故防止のために

◆回転部などに付着した泥・ゴミ・ワラクズを取除くときは，エンジンを停止して各部の動きが止まってから行ってください。
◆電気配線およびバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートや漏電で火傷や損傷することがあります。点検し，傷んだ配線は交換，修理してください。
◆燃料ホース，油圧ホースの劣化や，傷による漏れなどがあると火災の原因になります。作業前や作業後に点検し，傷や漏れがあれば，交換してください。
◆エンジン，マフラ，燃料タンク，バッテリ周囲のワラクズを取除いてください。火災の原因となることがあります。
◆高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり，機械を破損･損傷･故障させることがありますので，高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って，正しく使用してください。
◆機械にシートカバーをかけるときは，エンジンが冷えてから行ってください。
エンジンが熱いときに，シートカバーをかけると火災の原因になることがあります。

1．機械の掃除と洗浄


T051

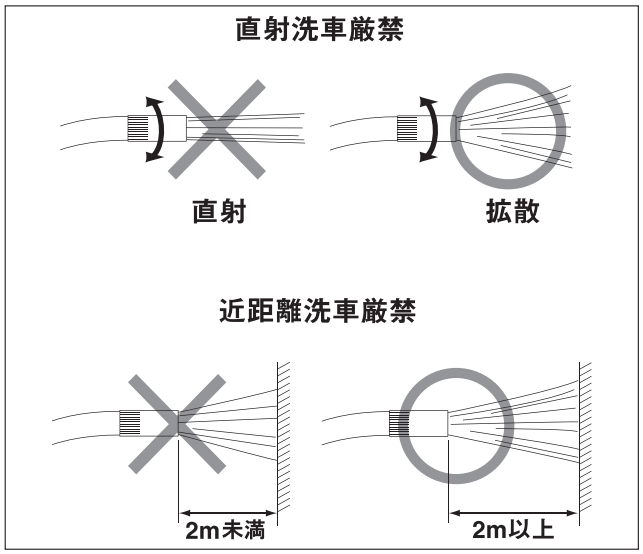
❶ 泥・ワラクズ・草などを取除き，汚れをきれいに水洗いして乾いた布でふき取ります。
❷ 塗装が剥げた箇所は補修塗料を塗り，機械のサビやすい箇所にはグリスかオイルを塗布します。
❸ 給脂・注油指定箇所（83～85ページ参照）に給脂・注油します。
❹ 回転部・摺動部・ワイヤ類には注油しサビないようにします。

⚠注意 傷害事故防止のために

◆機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし，2m以上離して洗車してください。
もし，直射にしたり，不適切に近距離から洗車すると，
1．電気配線部被覆の損傷・断線により火災を引起こすおそれがあります。
2．ホースの破損により，油・燃料が噴出して傷害を負うおそれがあります。

取扱いのポイント

●エンジン部・運転操作部・電装部には，水をかけないでください。誤って水がかかりぬれた場合は，ただちに水分を除去してください。
●機械の破損・損傷・故障の原因になります。
例）⑴シール・ラベルの剥がれ
⑵電装部品，エンジン，ラジエータ，モニータパネル内などへの侵入による故障
⑶タイヤ，オイルシールなどのゴム類，樹脂類などの破損
⑷塗装，メッキ面の皮膜剥がれ



2. エンジンの手入れ

エンジンの手入れを行うときは，平坦な格納場所で駐車ブレーキをかけ，各クラッチを《**切**》にして，エンジンが冷えてから行います。

❶ エンジンコントロールレバーを《**低速**》位置にしておきます。

❷ 新しい燃料（軽油）を入れ，タンクの燃料を満量にしておくことを推奨します。

❸ 燃料コックを閉じます。

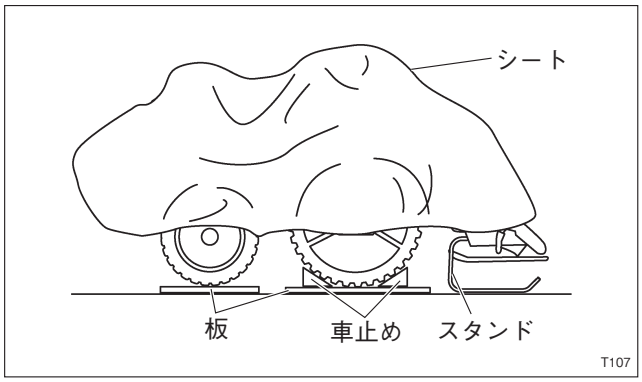
❹ 冬季気温が0℃以下になるときは，エンジンの凍結割れを防ぐため，冷却水を交換し，不凍液を入れます。（79ページ参照）

3. 点検・整備

「**定期点検整備表**」の項を参考に，該当する項目について点検・整備します。
（74～75ページ参照）

4. 格　納

機械の掃除・点検・整備を終えたら風通しのよい乾燥した平坦な屋内（直射日光が当たらない）を選び，シート（別売）をかけて保管します。（直射日光を長時間受けると色あせの原因となります）



❶ 「**車輪**」の下には板などを敷いておきます。

❷ 主変速レバーは，《**N**》(**中立**) の状態にしておきます。

❸ 副変速レバーは，いずれかの変速状態の「**入**」にしておきます。

❹ ブレーキペダルを踏み，駐車ブレーキフックをかけます。

❺ ［**6条型**］苗のせ台は機械の中央に止めておき，苗のせ台の上に物を置かないようにします。

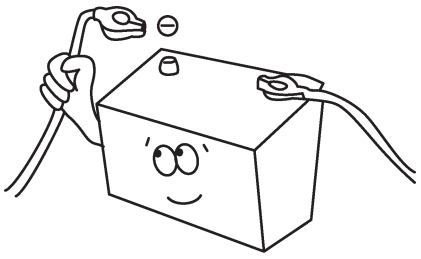
［**8条型**］苗のせ台を左端に寄せ，苗のせ台を収納します。苗のせ台の上に物を置かないようにします。

❻ センタポール・トレースマーカーは収納し，線引マーカーはマーカーフックに格納します。

❼ 植付部はスタンド位置にして，植付部油圧固定レバーは《**油圧固定**》の位置にします。

❽ 保管中の不意な漏電，発火を防ぐためバッテリを機械から取外し，風通しの良い屋内に保管してください。また機械に取付けたまま保管するときにはバッテリのマイナスコード（アース側）を外しておきます。

❾ 1ヶ月に1度，防錆，バッテリ補充電のためエンジンを約10分間運転します。



●**マイナスコード（アース側）を外しておいてください。**
V151

❿ 保管中，不意に機械が動き出すのを防ぐため，後車輪に「**車止め**」をし，始動キーを抜取っておきます。

取扱いのポイント

- **錆の発生を防止するため，塩分の強い貯蔵物や肥料とおなじ場所に格納するのはさけてください。**
- **ペースト施肥機付の機械は，ノズルを格納位置にしてから植付部を降ろしてください。**

5．再使用にあたって

格納後，はじめて使用するときには各部のシーズン前点検を入念に行った後に運転します。
（74～75ページ参照）

❶ エンジンを回す前に，バッテリターミナルなど保管するときに処置した項目を正しく復元します。

❷ 始業点検，注油を確実に行います。

不調時の処置

・不調が発生したら，すぐにその原因を調べて処置をし，故障を大きくしないようにします。
・原因がわからない場合や，調整しても再発するときは「**お買いあげ先**」に相談し，点検を受けてください。
・そのときは不調の状況とあわせて「**型式名**」・「**機械番号**」をお知らせください。

⚠警告 火傷や傷害事故防止のために

◆作業中に不調が発生した場合は機械を広い平坦な場所に停車し，エンジンを止め，各部の動きが止まってから行ってください。
◆エンジン回りの点検・整備は，エンジンが冷えてから行ってください。

⚠警告 傷害事故防止のために

◆点検・調整はエンジンを停止してから行ってください。
◆施肥モニターが作動したときは，パイプ内が高圧になっていますので，切替レバーを「施肥停止」，「施肥作業」位置に何度か動かしてパイプ内の圧力を下げてから，パイプ・ノズル内の掃除をします。体をノズル出口側から離して作業を行ってください。また，ノズル側のパイプを外すときは，切替レバーを「施肥停止」，「施肥作業」位置に何度か動かしてパイプ内の圧力を下げてください。

1．エンジン部

1．始動しない，または始動困難

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶キーを回してもスターターが回らない	⑴　バッテリーの放電。	・バッテリーを充電または交換する。	89〜94
	⑵　バッテリー端子の外れ，ゆるみ，腐食。	・端子部を掃除して確実に締め付け，グリスを塗布して防錆しておく。	89〜94
	⑶　ヒューズの溶断。	・お買いあげ先で点検を受ける。	88
	⑷　始動安全スイッチ不良。	・お買いあげ先で点検を受ける。	97
❷スターターは回るがエンジンがかからない	⑴　燃料コックが「**閉**」になっている。	・燃料コックを「**開**」にする。	17，86
	⑵　燃料タンクに燃料がない。	・燃料を補給する。	77
	⑶　燃料フィルタの詰まり。	・フィルタの掃除または交換をする。	86
	⑷　燃料系統にエア混入。	・エア抜きを行う。	87
	⑸　ヒューズの溶断。	・お買いあげ先で点検を受ける。	88

2．エンジンの出力不足，およびエンジン自然停止

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶エンジン回転が不規則	⑴　燃料系統にエア混入。	・エア抜きを行う。	87
	⑵　燃料フィルタの詰まり，水だまり。	・フィルタの掃除または交換をする。	86
	⑶　燃料系統からの燃料漏れ。	・お買いあげ先で修理する。	―
	⑷　燃料噴射ノズルの水・ゴミ詰まり。	・お買いあげ先で修理する。	―

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❷運転中エンジンが突然停止した	⑴　燃料タンクに燃料がない。	・燃料を補給する。	77
	⑵　ヒューズの溶断。	・お買いあげ先で点検を受ける。	88
	⑶　燃料噴射ノズル不良。	・お買いあげ先で修理する。	―
	⑷　エンジンの焼付き。	・お買いあげ先で修理する。	―
❸エンジンが過熱する	⑴　冷却水の不足。	・冷却水を補給する。	79
	⑵　オルタネータベルトのゆるみ，破損。	・ベルトの調整または交換をする。	96
	⑶　ラジエータの目詰まり。	・ラジエータスクリーンを掃除する。	―
	⑷　エンジンオイル量が少ない。	・オイルを規定量まで補給する。	77～78
❹エンジンの出力不足	⑴　エアクリーナーの詰まり。	・エレメントを掃除または交換する。	85
	⑵　燃料不足，燃料フィルタの詰まり。	・燃料系統を点検する。	77，86
❺運転中エンジンオイルモニターが点灯する	⑴　エンジンオイル量が少ない。	・オイルを規定量まで補給する。	77～78
	⑵　エンジンオイルの粘度が低い。	・オイル交換する。	77～78
	⑶　エンジンオイルフィルタの詰まり。	・オイルフィルタを交換する。	78

2. 走行・運転操作関係

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶変速しても走行しない	⑴　走行ベルトがスリップしている。	・ベルトのテンションプーリ張りスプリングを調整する。	96
	⑵　主変速・副変速が確実に入っていない。	・主変速レバー・副変速レバーを確実に入れる。	18～19
	⑶　駐車ブレーキがかかっている。	・駐車ブレーキを解除する。	18
❷ブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かない。	・ブレーキロッドの調整が悪い。	・「**お買いあげ先**」でロッドを調整する。	97
❸クイックアップレバーを《上昇》に操作もしくは上げスイッチを押しても植付部があがらない。	⑴　トランスミッションのオイル量が不足している。	・ギヤオイルを規定量まで補充する。	80
	⑵　油圧オイルフィルタが詰まっている。	・油圧オイルフィルタを交換する。 ・ギヤオイルが古くなっているときは，新しいオイルと交換する。	80
	⑶　クイックアップレバーが故障している。	・コントロールバルブを手動操作する。 ・「**お買いあげ先**」で修理する。	22
❹クイックアップレバーもしくは下げ・植付スイッチで《植付》にしても植付けない。	⑴　植付クラッチの調整が悪い。	・「**お買いあげ先**」でスプリングを調整する。	98
	⑵　副変速レバーが《**走行**》になっている。	・副変速レバーを《**作業**》にする。	19
❺《下降》にしても植付部が停止しない。	⑶　株数調節レバーが所定の位置に入っていない。	・所定の位置に入れる。	24

3. 電装品関係

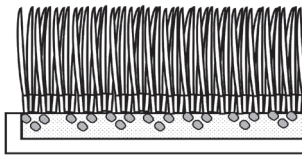
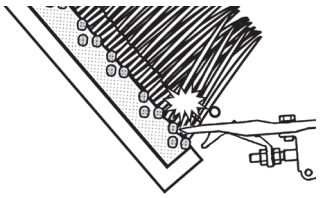
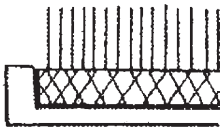
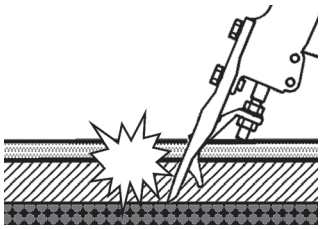
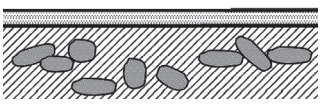
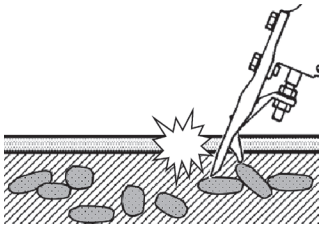
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶前照灯・モニターランプ・ブザーなどが点灯または作動しない。	⑴ 「**ランプ**」ヒューズが切れている。 ⑵ バッテリの放電。	・ヒューズ（15A）を交換する。（再発するときは，「**お買いあげ先**」にて点検を受けてください。） ・バッテリを充電する，または交換する。	88 89～94
❷バッテリが早く放電する。	⑴ バッテリの劣化。 ⑵ 充電系統の異常。	・バッテリを交換します。 ・「**お買いあげ先**」にて，点検サービスを受けてください。	88 89～94
❸マーカーが作動しない	⑴ 「**マーカー右**」，「**マーカー左**」ヒューズが切れている。	・ヒューズ（15A）を交換する。（再発するときは，「**お買いあげ先**」にて点検サービスを受けてください。）	88
	⑵ 「**本機ECU**」ヒューズが切れている。	・ヒューズ（10A）を交換する。（再発するときは，「**お買いあげ先**」にて点検サービスを受けてください。）	88

4. 水平自動関係

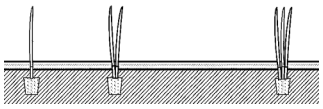
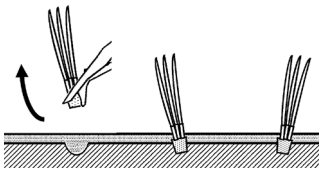
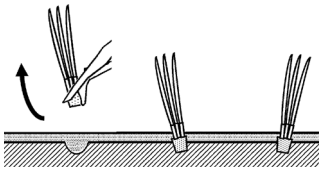
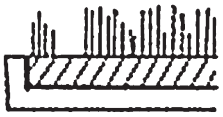
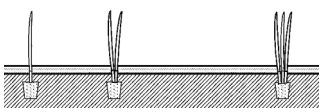
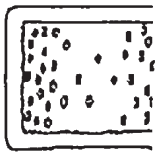
不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶水平自動が作動しない。	⑴ 「**水平**」ヒューズが切れている。	・ヒューズ（15A）を交換する。（再発するときは，「**お買いあげ先**」にて，点検サービスを受けてください。）	88
	⑵ 「**本機ECU**」ヒューズが切れている。	・ヒューズ（10A）を交換する。（再発するときは，「**お買いあげ先**」にて，点検サービスを受けてください。）	88

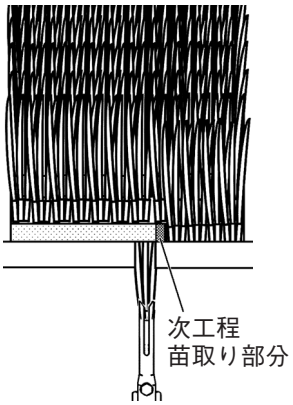
5. 植付部

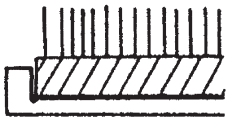
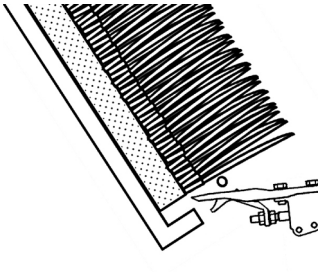
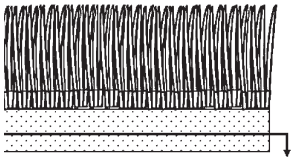
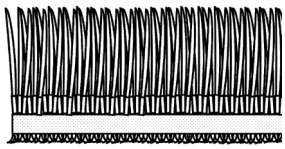
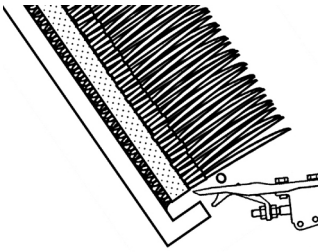
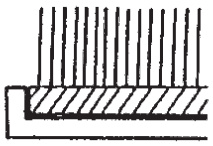
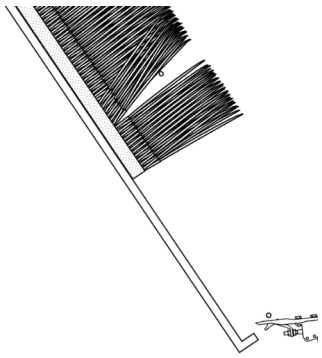
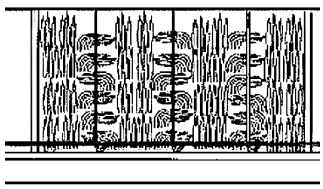
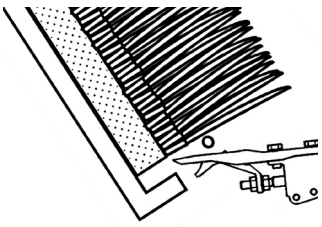
❶ 植付中にカチッ，カチッと高い音がしてトルクリミッタが作動する

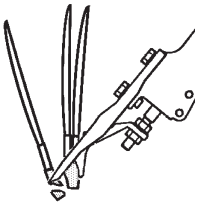
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 苗，苗載せ台に異物（石，工具など）が混入した。	・植付爪に異物があたり，トルクリミッタが作動した。	・主変速レバーを《N》(**中立**)，油圧固定レバーを《**油圧固定**》，株数調節レバーを中立位置にし，エンジンを停止する。 ・植付爪の周囲を確認し，異物を除去する。 ・ビーク，フォークの変形，破損を確認し，必要があれば交換，調整する。 ・苗載せ台，エプロンが大きく変形，破損している場合は，「**お買い上げ先**」で修理ください。 ・植付爪をゆっくり回して動作を確認する。 ・トルクリミッタの作動が改善されない場合，「**お買いあげ先**」で点検してください。	70 99〜100
⑵ 根の張り過ぎた植付爪のささりにくい苗。	・植付爪で苗をかき取れずトルクリミッタが作動した。	・苗床土を水に浸す。 ・モニター操作ダイヤルを操作してモニターパネルの苗取り量の目盛りを「**少ない**」の方向に移動させる。植付本数を確確保したい場合は，横送り回数を少ない方へ切替える。	46 51〜54
⑶ 耕盤までの深さが浅いほ場。	・ほ場の耕盤にビーク，フォークが接触している。	・耕盤までの深さ15㎝程度にする。 ・トルクリミッタが作動しないように植付け深さを調整する。（深→浅）	44 54〜55
⑷ 石が多いほ場。	・植付爪に石が接触し，トルクリミッタが作動した。	・ほ場から石を除去する。 ・ゆっくり植付する。 ・⑴項と同様に田植機の点検を行う。	70 18
⑸ 主変速レバー高速域で植付クラッチを「**入**」にしている。	・高速で植付クラッチ（爪クラッチ）をつないだ衝撃でトルクリミッタが作動する。	・主変速レバー「**３速（Ｆ３）**」以下で植付クラッチを「**入**」にする。	65

❷ 欠株ができる

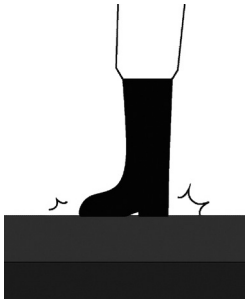
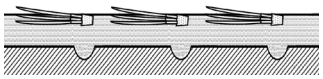
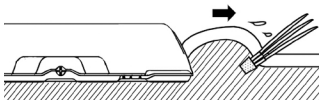
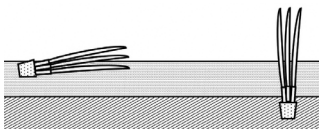
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ ビーク，フォークの苗取り調整が悪い。	・苗をうまくかき取って植付することができないため，苗取り量が少ない，または欠株になる。  ・植付時，苗が植付爪から離れず苗を持ち回ってしまい欠株する。 	・植付苗にあわせてビーク，フォークの再調整をする。	99〜100
⑵ ビーク，フォークが変形または摩耗している。	・⑴項と同様の症状が発生する。	・新しいビーク，フォークに交換し，調整をする。	99〜100
⑶ 水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。 	・植付時，苗が植付爪から離れずに苗を持ち回ってしまい，欠株する。 	・ほ場に水を「１〜２㎝」入れる ・ビーク，フォークの泥を水で洗い落とす。 ・フォークのセット位置を「４〜５㎜」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする） ※根張りの弱い苗の場合はフォークのセット位置を浅くし過ぎないようにしてください。	99
⑷ 生育ムラやハゲた部分がある苗。 	・植付爪でかき取ったブロックに苗本数が少ないまたは苗がないため，植付本数がバラつくまたは欠株がでる。 	・生育ムラやハゲた部分を切り取って使用する。 ・悪い苗は使用しない。（補植に使用する） ・横送り回数は20回（２本爪），40回（１本爪）で使用し，苗取り量も多くする。かき取り面積を大きくすることで植付爪でかき取ったブロック内の苗本数を確保する。	51〜54
⑸ 播種量が少ない苗。 	・⑷項と同様の症状が発生する。	・悪い苗は使用しない。（補植に使用する） ・横送り回数は20回（２本爪），40回（１本爪）で使用し，苗取り量も多くする。かき取り面積を大きくすることで植付爪でかき取ったブロック内の苗本数を確保する。	51〜54

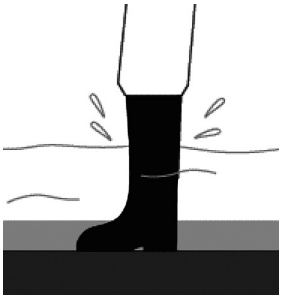
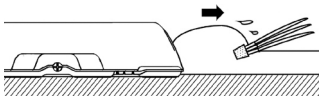
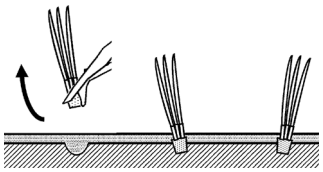
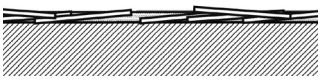
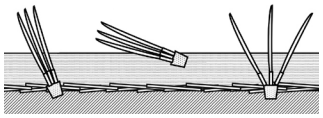
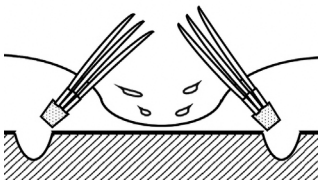
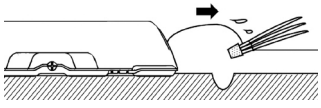
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(6) 根張りが悪く，くずれやすい苗。 根がらみの少ない人工マット苗。 	・苗箱から苗を取り出すとき，苗を苗載せ台に補給するとき，苗載せ台の振動や縦送りで苗が下方に動くときに苗がくずれてしまう。くずれた苗やくずれやすい苗を植付爪でかき取ったときに次工程の苗まで引きずりだしてしまい，次工程の苗取り時に欠株になる。 	・根張りの良い苗を使用する。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。 ・横送り回数は26回（２本爪），52回（１本爪）で使用し，植付本数は苗取り量で調整する。横短×縦長にかき取ることで苗の引きずりだしを防止する。 ・苗を苗箱の長手方向で少し圧縮させることで苗をくずれにくくする。 ・植付速度を遅くする。	45～46 57～58 26 51～54 18
(7) 苗床厚（マット厚）が薄い苗。 	・苗載せ台に苗を補給したとき，縦送りで苗が下方に動くときに苗が座屈してくずれてしまう。くずれた部分を植付爪でかき取るときに苗がうまくつかめずに欠株になる。 	・苗床厚（マット厚）が2.5㎝以上の苗を使用する。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈しないように苗おさえの高さを調整する。	45～46 57～58 26

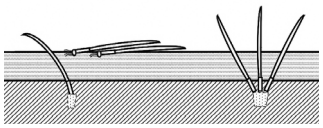
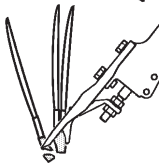
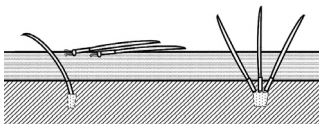
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑻ 苗床厚（マット厚）が厚い苗。 	・苗載せ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。 	・苗床厚（マット厚）が４㎝以上の場合は苗床厚（マット厚）が2.5㎝～３㎝になるように切落とす。切落とせない場合は，その苗は使用しない。  ・苗取り量を多くして苗を取るようにする。 ・苗床土を水に浸す。 ・苗のすべりがよくなるように苗おさえの高さを調整する。	45～46 51～54 45～46 57～58 26
⑼ 根が張り過ぎて苗の底面がもじゃもじゃになっている苗。 	・苗載せ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。 	・苗床土を水に浸す。 ・苗のすべりがよくなるように苗おさえの高さを調整する。	45～46 57～58 26
⑽ 草丈が極端に長い苗。 	・苗が苗おさえに引っかかって落ちてこない。 	・苗の草丈が20㎝以下になるように切り落とす。	45～46
⑾ 苗の入れ方が悪い。（斜めに入れる） 	・苗が苗おさえに引っかかって落ちてこない。 	・苗スクレーパを使用し，苗をまっすぐに入れる。 ・引っかかった苗を取除いてまっすぐ入れなおす。 ※苗が損傷している場合は苗を交換する。	57～58

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑿　苗取り量が少ない。	・苗を植付爪でかき取るときに苗がくずれてしまってうまくつかめずに欠株になる。 	・苗取り量を多くして植付爪が苗をつかむようにする。 ・横送り回数が株数セット（密植，疎植）と合っているか確認する。 ※密植（２本爪）：横送り回数20回，26回 疎植（１本爪）：横送り回数40回，52回	51〜54 50〜51

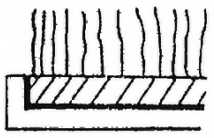
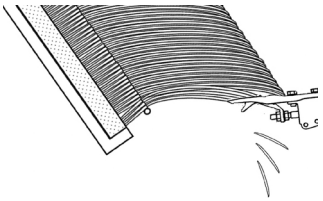
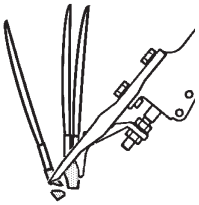
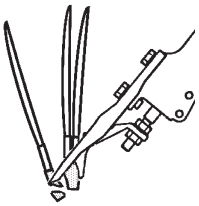
❸　浮き苗がある

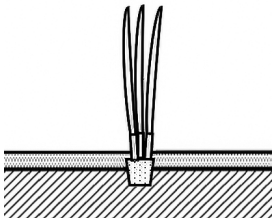
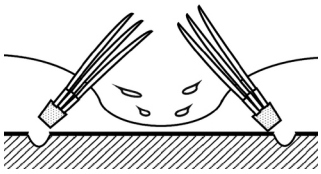
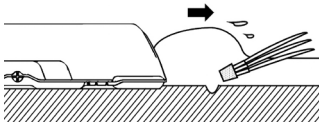
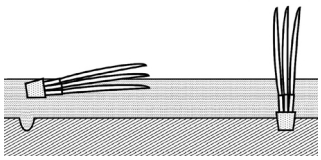
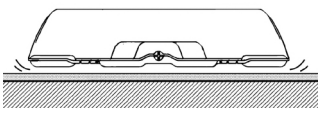
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴　田面が硬過ぎるほ場。 	・植付爪で開けた穴がふさがらず，植付後に水を入れたときに苗が浮く。 	・再度代かきして植えやすい硬さにする。 ・水を１㎝〜２㎝入れて，まくらっこを浅くかけながら植付することでほ場表面を軟らかくする。	44 70〜73
⑵　田面が軟らかすぎるほ場。 	・フロートが田面に沈みやすくなり，フロートが泥を押すことで隣接苗を倒してしまい，植付後に水を入れたときに浮き苗になる。  	・水を落として表面を硬くする。または表面を落ち着かせる。（植付を延期する） ・田面に薄くフロート跡がつくように油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》側に調整する。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。	44 61 54〜55

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(3) 水深が３㎝を超える水が多いほ場。 	・フロートが水を押して発生した波で隣接苗を倒してしまい，浮き苗になる。 	・水を落として水深０㎝～２㎝にする。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。 ・植付速度を遅くして水流れを抑えることで苗が倒れないようにする。	44 54～55
(4) 水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。 	・植付時，苗が植付爪から離れずに苗を持ち回ってしまい，途中で苗を放り投げたり，落としたりすることで浮き苗になる。 	・ほ場に水を「１～２㎝」入れる。 ・ビーク，フォークの泥を水で洗い落とす。 ・フォークのセット位置を「４～５㎜」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする） ※根張りの弱い苗の場合はフォークのセット位置を浅くし過ぎないようにしてください。	44 99
(5) 田面にワラなどの夾雑物が多いほ場。 	・苗がうまくささらず水を入れたときに浮き苗になる。 	・ワラなどの夾雑物は可能な限り除去する。 ・まくらっこを浅くかけて夾雑物をすきこみながら植付をする。 ・植付深さを深くする。	44 70～73 54～55
(6) 黒ボクなど代かきから時間が経つと硬くなり，水とかき混ぜてすぐは液状化してココアのようにサラサラになってしまうほ場。	・植付爪で開けた穴がふさがらない。フロート通過後に泥，水が流れ込んで植付けた苗または隣接苗が倒れて浮き苗になる。  	・水を落として水深０㎝～２㎝にする。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。 ・苗取り量を多くして苗を倒れにくくする。 ・田面をかき混ぜてしまうと田面が液状化してしまうため，フロートで田面を引きずり過ぎないように油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》側に調整する。 ・植付速度を遅くする。	44 54～55 51～54 61 18

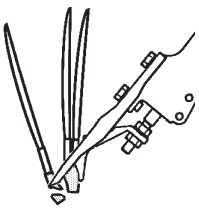
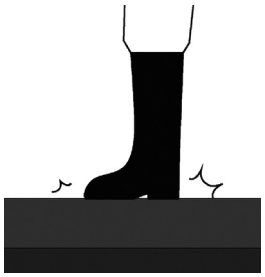
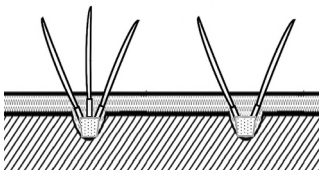
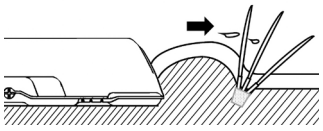
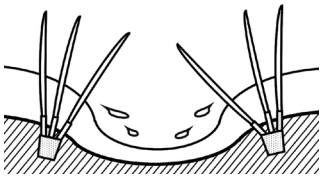
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(7) 根張りが悪く，くずれやすい苗。 根がらみの少ない人工マット苗。 	・苗箱から苗を取り出すとき，苗を苗載せ台に補給するとき，苗載せ台の振動や縦送りで苗が下方に動くときに苗がくずれしまう。くずれた苗やくずれやすい苗を植付爪でかき取るときにかき取った苗をブロック状に保持できずに浮き苗になってしまう。  	・根張りの良い苗を使用する。 ・根がらみの少ない人工マット苗は使用しない。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。 ・苗取り量を多くして苗をつかむようにする。 ・苗を苗箱の長手方向で少し圧縮させることでかき取った苗がブロック形状を保ちやすくする。 ・植付速度を遅くする。	45〜46 57〜58 26 50〜54 18
(8) 苗床厚（マット厚）が薄い苗。 	・苗載せ台に苗を補給したとき，縦送りで苗が下方に動くときに苗が座屈してくずれてしまう。くずれた部分を植付爪でかき取るときにかき取った苗をブロック状に保持できずに浮き苗になってしまう。   	・苗床厚（マット厚）が2.5㎝以上の苗を使用する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。	45〜46 26

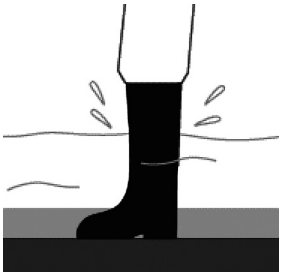
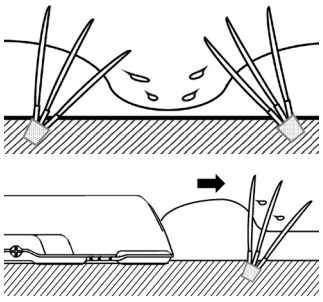
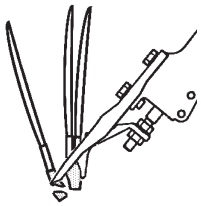
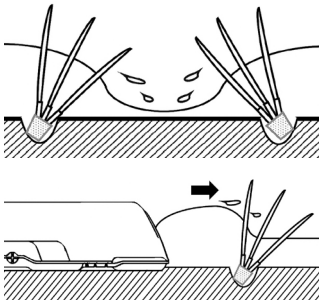
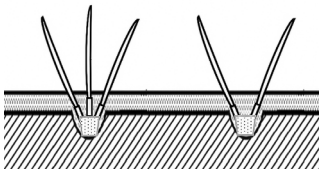
不調時の処置

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑼　軟弱徒長苗。 	・苗取口に苗が覆いかぶさっており，苗を植付爪でかき取るときに苗を切ってしまい，浮き苗に見える。 	・苗をおさえるように苗ささえバー（苗ホルダ）の位置を調整する。	27
⑽　苗が乾いている。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずに浮き苗になってしまう。 	・苗床土を水に浸す。	45〜46 57〜58
⑾　苗取り量が少ない。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずに浮き苗になってしまう。 	・苗取り量を多くして植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できるようにする。 ・横送り回数が株数セット（密植，疎植）と合っているか確認する。 ※密植（２本爪）：横送り回数20回，26回 疎植（１本爪）：横送り回数40回，52回	51〜54 50〜51

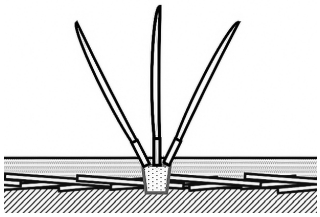
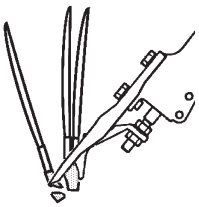
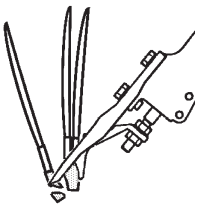
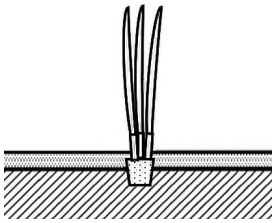
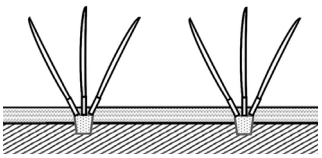
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑿　植付深さが浅すぎる。 	・植付深さが浅いため，フロート通過後に水が流れ込んで植付けた苗または隣接苗が倒れて浮き苗になる。   ・植付深さが浅いため，水を入れたときに浮き苗になる。 	・植付深さを深くする。	54
⒀　フロートが浮きすぎている。 	・油圧感度調整が敏感すぎてフロートが田面から浮いてしまい，植付深さが浅くなる。⑿項と同様の症状が発生する。	・田面に薄くフロート跡がつくように油圧感度切替ダイヤルを《**硬**》側に調整する。	61

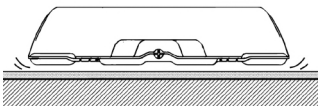
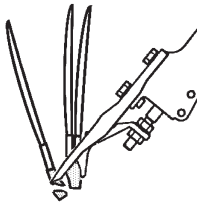
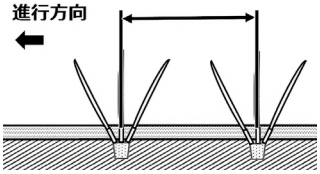
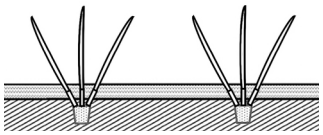
❹ 植付け姿勢が悪い（苗がばらける）

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(1) ビーク，フォークが変形または摩耗している。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずにばらけてしまう。 	・新しいビーク，フォークに交換し，調整をする。	99〜100
(2) 田面が硬すぎるほ場。 	・植付爪で開けた穴がふさがらず，植付けた苗がばらける。 	・再度代かきして植えやすい硬さにする。 ・水を１㎝〜２㎝入れて，まくらっこを浅くかけながら植付することでほ場表面を軟らかくする。	70〜72
(3) 田面がやわらかすぎるほ場。 	・フロートが田面に沈みやすくなり，フロートが泥を押すことで隣接苗を倒してしまい，苗がばらける。  ・フロートが沈むとフロート通過跡が大きくなり，そこに泥が流れ込むと植付けた苗が内側に倒れてばらける。 	・水を落として表面を硬くする。または表面を落ち着かせる（植付を延期する）。 ・田面に薄くフロート跡がつくように油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》側に調整する。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。	44 61 54

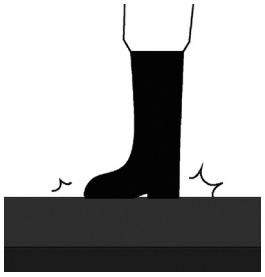
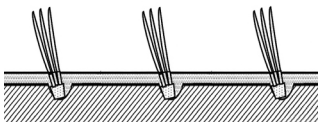
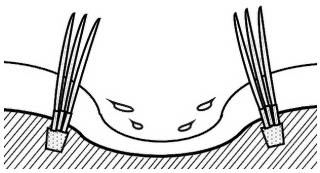
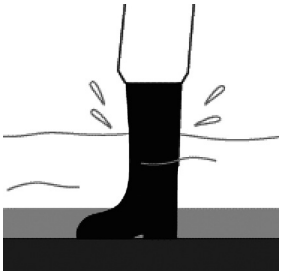
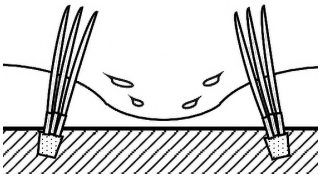
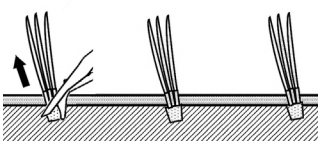
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑷ 水深が３㎝を超える水が多いほ場。 	・フロート通過後に水が流れ込んできて植付けた苗，または隣接苗が倒れてばらける。 	・水を落として水深０㎝～２㎝にする。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。 ・植付速度を遅くして水流れを抑えることで苗が倒れないようにする。	44 54～55 18
⑸ 水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。 	・ビーク，フォークに泥が詰まってしまい，植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずにばらけてしまう。 	・ほ場に水を「１～２㎝」入れる。 ・ビーク，フォークの泥を水で洗い落とす。	44
⑹ 黒ボクなど土がさらさらで固まらないほ場。	・植付爪で開けた穴がふさがらず，フロート通過後に泥，水が流れ込んできて植付けた苗，または隣接苗が倒れてばらける。  ・植付爪で開けた穴がふさがらず，植付けた苗がばらける。 	・水を落として水深０㎝～２㎝にする。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。 ・苗取り量を多くして苗を倒れにくくする。 ・フロートで田面を引きずり過ぎないように油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》側に調整する。 ・植付速度を遅くする。	44 54～55 51～54 61 18

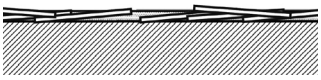
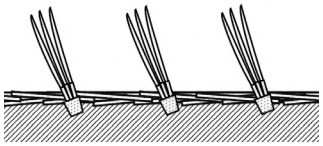
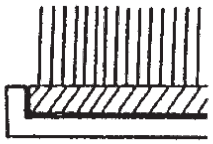
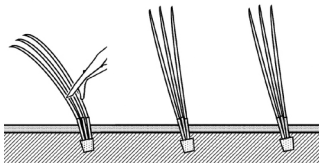
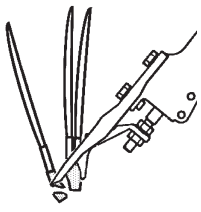
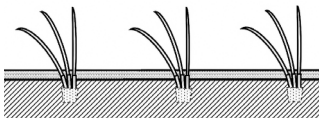
不調時の処置

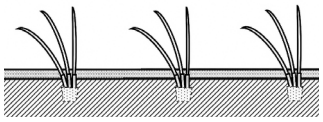
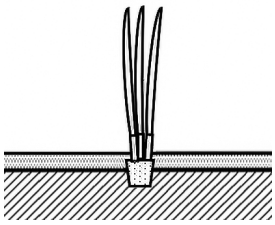
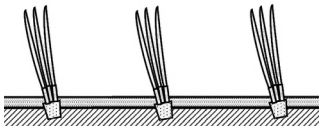
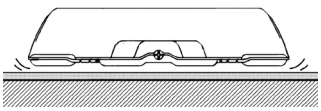
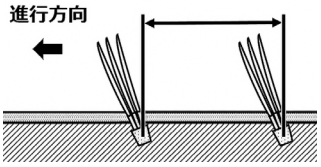
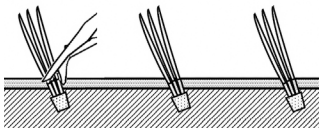
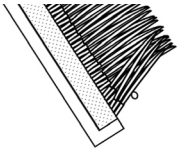
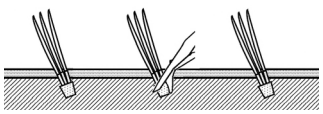
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑺ 田面にワラなどの夾雑物が多いほ場。	・苗がうまくささらずばらける。 	・ワラなどの夾雑物は可能な限り除去する。 ・まくらっこを浅くかけて夾雑物をすきこみながら植付をする。 ・植付深さを深くする。	44 70〜73 54〜55
⑻ 根張りが悪く，くずれやすい苗。 根がらみの少ない人工マット苗。 	・苗箱から苗を取り出すとき，苗を苗載せ台に補給するとき，苗載せ台の振動や縦送りで苗が下方に動くときに苗がくずれしまう。くずれた苗やくずれやすい苗を植付爪でかき取るときにかき取った苗をブロック状に保持できずにばらけてしまう。 	・根張りの良い苗を使用する。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。 ・苗取り量を多くして植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できるようにする。 ・苗を苗箱の長手方向で少し圧縮させることでかき取った苗がブロック形状を保ちやすくする。 ・植付速度を遅くする。	45〜46 57〜58 26 51〜54 18
⑼ 苗が乾いている。	・苗を植付爪でかき取るときに苗がくずれてしまい，植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずにばらけてしまう。 	・苗床土を水に浸す。	45〜46 57〜58
⑽ 植付深さが浅すぎる。 	・ほ場の泥で植付けた苗を保持する力が弱く，ばらけてしまう。 	・植付深さを深くする。	54〜55

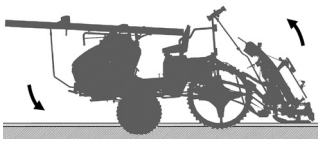
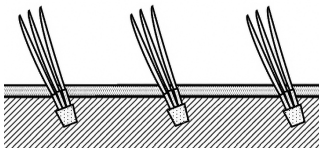
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑾　フロートが浮きすぎている。 	・油圧感度調整が敏感すぎてフロートが田面から浮いてしまい，植付深さが浅くなる。⑽項と同様の症状が発生する。	・油圧感度切替ダイヤルを《**硬**》側にセットし，田面に薄くフロート跡がつくように調整する。	61
⑿　苗取り量が少ない。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずにばらけてしまう。 	・苗取り量を多くして植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できるようにする。 ・横送り回数が株数セット（密植，疎植）と合っているか確認する。 ※密植（２本爪）：横送り回数20回，26回 疎植（１本爪）：横送り回数40回，52回	51～54 50～51
⒀　スリップして設定した株間よりも実際の株間が狭くなっている。 ※密植（２本爪）：11㎝時 疎植（１本爪）：22㎝時 	・植付けた苗を植付爪でかき回してしまい，苗がばらける。 	・株数を減らす。 ・植付速度を遅くする。	50

❺ 植付け姿勢が悪い（苗前傾になる）

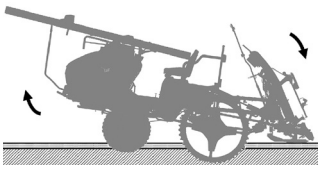
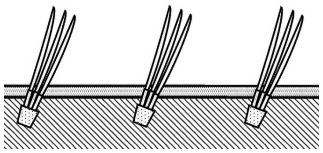
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 田面が硬すぎるほ場。 	・植付爪で開けた穴がふさがらず，植付時の慣性で苗が前傾姿勢になる。 	・再度代かきして植えやすい硬さにする。 ・水を１㎝～２㎝入れて，まくらっこを浅くかけながら植付することでほ場表面を軟らかくして穴がふさがるようにする。	44 70～73
⑵ 田面が軟らかすぎるほ場。 	・フロートが沈み気味になっており，フロート通過後にフロート跡に向かって泥が流れ込んできて植付けた苗が前方内側に向かって倒れる。 	・水を落として表面を硬くする。または表面を落ち着かせる（植付けを延期する）。 ・田面に薄くフロート跡がつくように油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》側に調整する。	44 61
⑶ 水深が３㎝を超える水が多いほ場。 	・フロート通過後に水が流れ込み，植付けた苗が前方内側に向かって倒れる。 	・水を落として水深０㎝～２㎝にする。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。 ・植付速度を遅くして水流れを抑えることで苗が倒れないようにする。	44 54～55
⑷ 水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。 	・植付時，苗が植付爪から離れるタイミングが遅くなり，苗を前方に倒してしまう。 	・ほ場に水を「**１～２㎝**」入れる ・ビーク，フォークの泥を水で洗い落とす。 ・フォークのセット位置を「**４～５㎜**」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする） ※根張りの弱い苗の場合はフォークのセット位置を浅くし過ぎないようにしてください。	44 99

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(5) 田面にワラなどの夾雑物が多いほ場。 	・ワラなどの夾雑物で植付深さが浅くなり，苗を保持する力が弱く，植付時の慣性で苗が前傾姿勢になる。 	・ワラなどの夾雑物は可能な限り除去する。 ・まくらっこを浅くかけて夾雑物をすきこみながら植付けをする。 ・植付深さを深くする。 ・植付速度を遅くする。	44 70〜73 54〜55
(6) 茎径が太く，草丈が極端に長い苗。 	・苗を植付けした後に植付爪が苗に接触し，前に倒してしまう。 	・苗の草丈が20㎝未満になるように切り落とす。 ・横送り回数を26回（２本爪），52回（１本爪）にして植付爪の接触抵抗を減らして倒れを防止する。植付本数が少なくなりすぎないよう苗取り量を調整する。 ・植付深さを深くする。	45〜46 51〜54 54〜55
(7) 根張りが悪く，くずれやすい苗。 根がらみの少ない人工マット苗 	・苗箱から苗を取り出すとき，苗を苗載せ台に補給するとき，苗載せ台の振動や縦送りで苗が下方に動くときに苗がくずれしまう。くずれた苗やくずれやすい苗を植付爪でかき取るときにかき取った苗をブロック状に保持できずに前傾気味にばらけてしまう。 	・根張りの良い苗を使用する。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。 ・苗取り量を多くして苗をつかむようにする。 ・苗を苗箱の長手方向で少し圧縮させることでかき取った苗がブロック形状を保ちやすくする。 ・植付速度を遅くする。	45〜46 57〜58 26 51〜54
(8) 床土が乾いている苗。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずに前傾気味にばらけてしまう。 	・苗床土を水に浸す。	45〜46 57〜58

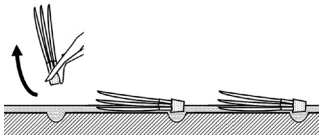
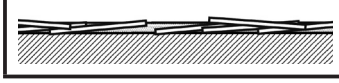
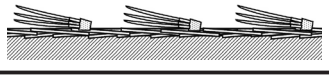
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑼　苗取り量が少ない。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずに前傾気味にばらけてしまう。 	・苗取り量を多くして植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できるようにする。 ・横送り回数が株数セット（密植，疎植）と合っているか確認する。 ※密植（２本爪）：横送り回数20回，26回 疎植（１本爪）：横送り回数40回，52回	51～54 50～51
⑽　植付深さが浅すぎる。 	・ほ場の泥で植付けた苗を保持する力が弱く，植付時の慣性で苗が前傾姿勢になる。 	・植付深さを深くする。	54～55
⑾　フロートが浮きすぎている。 	・油圧感度調整が敏感すぎてフロートが田面から浮いてしまい，植付深さが浅くなる。以下⑽項の症状が発生する。	・油圧感度切替ダイヤルを《**硬**》側にセットし，田面に薄くフロート跡がつくように調整する。 ・植付深さを深くする。	61 54～55
⑿　設定した株間よりも実際の株間が広くなっている。 ※密植（２本爪）：22㎝時 	・苗を植付した後に植付爪が苗に接触し，前に倒してしまう。 	・株数を増やす。 ・植付速度を遅くする。	50 18
⒀　苗ささえバー（苗ホルダ）で苗をおさえ過ぎている。	・苗ささえバー（苗ホルダ）で苗を前方におさえているので前傾姿勢になった苗を植付爪でかき取って植えてしまう。  	・苗を前方におさえ過ぎないように苗ささえバー（苗ホルダ）の位置を調整する。（苗載せ台から遠ざける）	27

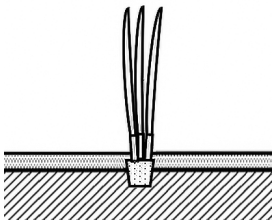
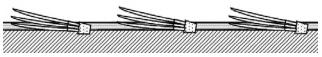
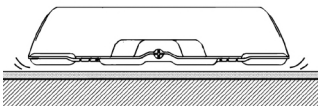
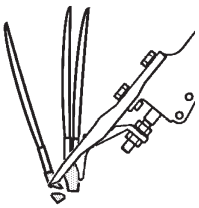
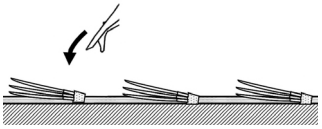
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑭ 機体が前下がりの姿勢で植付している。 	・機体ごと前傾しているので植付けした苗も前傾になる。 	・フロントウエイトを取り外す ・予備苗台の搭載枚数を減らす。 ・苗ささえバー（苗ホルダ）の位置を後方に緩める。（苗載せ台から遠ざける） ・フォークのセット位置を「4～5㎜」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする） ※根張りの弱い苗の場合はフォークのセット位置を浅くし過ぎないようにしてください。	27 99

❻ 植付姿勢が悪い（苗が後傾になる）

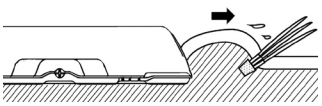
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 機体が大きく前上がりの姿勢で植付している。 	・機体ごと後傾しているので植付けした苗も後傾になる。 	・フロントウエイトを装着する。 ・後輪補助車輪を装着する。	

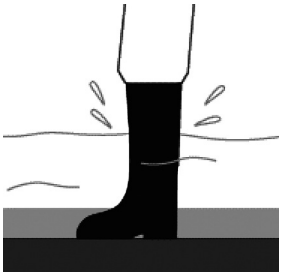
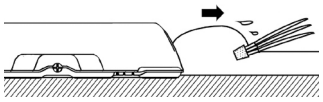
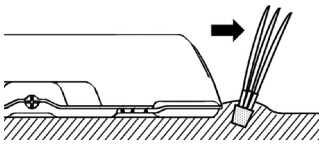
❼ 植付苗がころぶ

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。 	・植付時，苗が植付爪から離れず苗を持ち回ってしまい，途中で苗を放り投げたり，落としたりすることで苗がころんでしまう。 	・ほ場に水を「1～2㎝」入れる。 ・ビーク，フォークの泥を水で洗い落とす。 ・フォークのセット位置を「4～5㎜」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする） ※根張りの弱い苗の場合はフォークのセット位置を浅くし過ぎないようにしてください。	44 99
⑵ 田面にワラなどの夾雑物が多いほ場。 	・苗がうまくささらずに苗がころんでしまう。 	・ワラなどの夾雑物は可能な限り除去する。 ・まくらっこを浅くかけて夾雑物をすきこみながら植付をする。 ・植付深さを深くする。	44 70～73 54～55

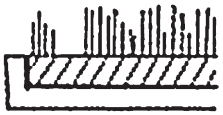
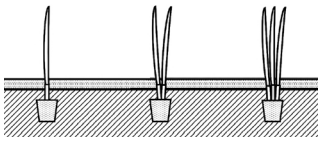
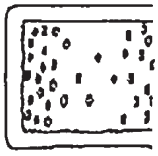
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(3) 植付深さが浅すぎる。 	・ほ場の泥で植付けた苗を保持する力が弱く，植付時の慣性で苗がころんでしまう。 	・植付深さを深くする。	54〜55
(4) フロートが浮きすぎている。 	・油圧感度調整が敏感すぎてフロートが田面から浮いてしまい，植付深さが浅くなる。(3)項と同様の症状が発生する。	・田面に薄くフロート跡がつくように油圧感度切替ダイヤルを《**硬**》側に調整する。	61
(5) ビーク，フォークが変形または摩耗している。	・植付爪でかき取った苗をブロック状に保持できずに落としてしまう。 	・新しいビーク，フォークに交換し，調整をする。	99〜100
(6) シューターが変形している。	・植付爪でかき取った苗を植え付けするまで保持できずに落としてしまう。 	・シューターを調整する。	100

❽ 植付けた跡が乱れる

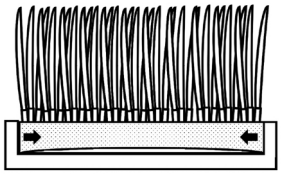
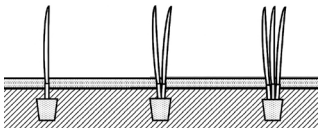
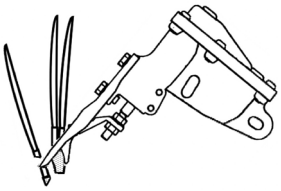
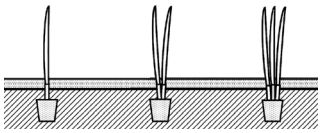
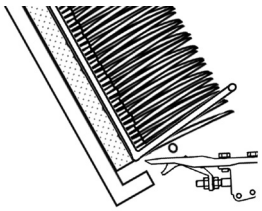
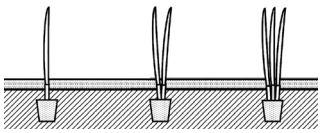
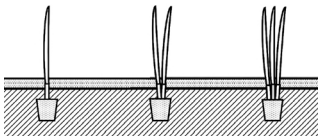
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(1) 田面が軟らかすぎるほ場。 	・フロートが田面に沈みやすくなり，フロートが泥を押すことで植付けた跡が乱れる。 	・水を落として表面を硬くする。または表面を落ち着かせる（植付を延期する）。 ・田面に薄くフロート跡がつくように油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》側に調整する。 ・植付速度を遅くする。	44 61 18

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑵ 水深が３㎝を超える水が多いほ場。 	・フロートが水を押して発生した波で植付けた跡が乱れる。 	・水を落として水深０㎝～２㎝にする。 ・植付深さを深くして苗を倒れにくくする。 ・植付速度を遅くする。	44 54～55 18
⑶ 蛇行したり，曲がりながら植付をしている。	・隣接苗に近づきすぎて泥，水で押してしまったり，フロートで踏んでしまうことで植付けた跡が乱れる。 	・田植機を真っ直ぐに走行させて曲げないよう注意する。 ・植付速度を遅くする。	18 18

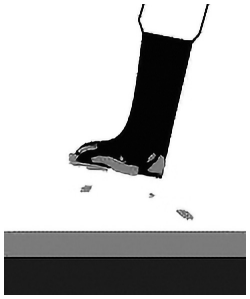
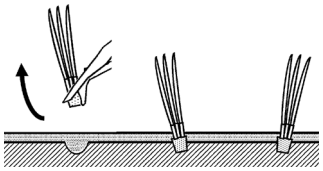
❾ 植付本数がバラつく

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 生育ムラやハゲた部分がある苗。 	・植付爪でかき取ったブロックに苗本数が少ないまたは苗がないため，植付本数がバラつく。 	・生育ムラやハゲた部分を切り取って使用する。 ・悪い苗は使用しない。（補植に使用する） ・横送り回数は20回（２本爪），40回（１本爪）で使用し，苗取り量も多くする。 かき取り面積を大きくすることで植付爪でかき取ったブロック内の苗本数を確保する。	51～54
⑵ 播種量が少ない苗。 	・⑴項と同様の症状が発生する。	・悪い苗は使用しない。（補植に使用する） ・横送り回数は20回（２本爪），40回（１本爪）で使用し，苗取り量も多くする。 かき取り面積を大きくすることで植付爪でかき取ったブロック内の苗本数を確保する。	51～54

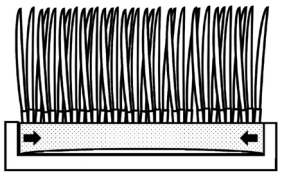
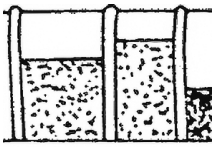
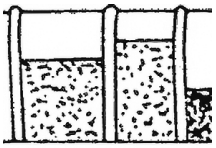
不調時の処置

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑶ 苗載せ台の幅に対して苗床の横幅が広い。 	・苗載せ台の側面と苗床が擦れることで苗すべりが悪くなり，植付本数がバラつく。 	・苗を苗箱の短手方向で少し圧縮させる。 ・苗床土を水に浸す。	45～46 57～58
⑷ 苗取り量が少ない。 	・苗を植付爪でかき取るときに苗が安定してつかめずに植付本数がバラつく。 	・苗取り量を多くして植付本数を安定させる。 ・横送り回数が株数セット（密植，疎植）と合っているか確認する。 ・密植（２本爪）：横送り回数20回，26回 疎植（１本爪）：横送り回数40回，52回	51～54 50～51
⑸ ビークが摩耗している。 ビークのセットが悪い。	・⑷項と同様。	・ビークを交換する。 ・ビークを調整する。（高さ）	99～100 99～100
⑹ 苗おさえで苗を抑えすぎている。 	・苗載せ台上で苗のすべりが悪く，植付本数がバラつく。 	・苗のすべりがよくなるように苗おさえの高さを調整する。 ・苗床土を水に浸す。	26 45～46 57～58
⑺ 苗のせ台の苗が減って苗送り用ゴムベルトより外れている。	・縦送りベルトで苗を下方に送ることができないため，苗を安定してつかめずに植付本数がバラつく。 	・苗載せ台に苗を補給する。	57～58

⑩ 植付苗をビーク，フォークが持ち回る

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 水気がなく，車輪に泥がまとわりついて離れないようなほ場。 	・植付時，苗が植付爪から離れず苗を持ち回ってしまう。 	・ほ場に水を「１～２㎝」入れる ・ビーク，フォークの泥を水で洗い落とす。 ・フォークのセット位置を「４～５㎜」浅くする。（Ⓐ寸法を小さくする） ※根張りの弱い苗の場合はフォークのセット位置を浅くし過ぎないようにしてください。	44 99
⑵ 苗床土が粘土質。	・⑴項と同様の症状が発生する。	・⑴項と同様の処置を行う。	

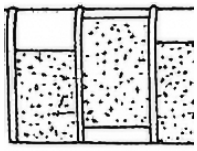
⑪ マット苗が同量に減らない

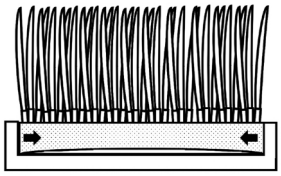
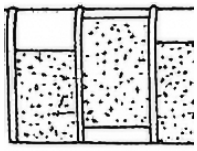
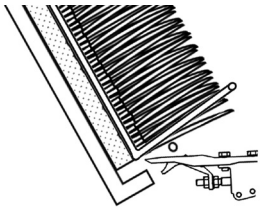
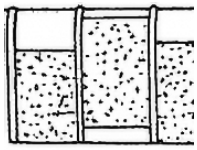
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑴ 苗載せ台の幅に対して苗床の横幅が広い。 	・苗載せ台の側面と苗床が擦れることで苗すべりが悪くなり，各条の苗減りがバラつく。 	・苗送り量の少ない苗の苗床幅を縮める。（苗箱に入れて幅を縮める） ・苗床土を水に浸す。	45～46 57～58
⑵ ビークが摩耗している。ビークのセットが悪い。	・各条のビークのセットがずれているため，各条の苗減りがバラつく。 	・ビークを交換する。 ・ビークを調整する。（高さ）	99～100 99～100

⑫ マット苗が座屈する

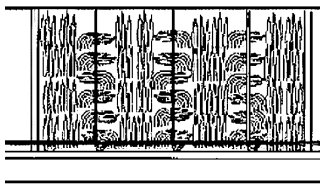
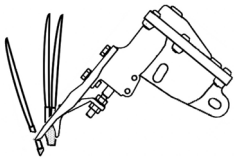
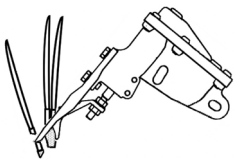
原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(1) 根張りが悪く，くずれやすい苗。 根がらみの少ない人工マット苗。 	・苗を苗載せ台に補給するとき，苗載せ台の振動や縦送りで苗が下方に動くときに苗が座屈する。 	・根張りの良い苗を使用する。 ・根がらみの少ない人工マット苗は使用しない。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。	45〜46 57〜58 26
(2) 苗床厚（マット厚）が薄い苗。 	・苗を苗載せ台に補給するとき，苗載せ台の振動や縦送りで苗が下方に動くときに苗が座屈する。 	・苗床厚（マット厚）が2.5㎝以上の苗を使用する。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗が座屈してくずれないように苗おさえの高さを調整する。	45〜46 57〜58 26
(3) 苗箱から苗を取出すときに巻いている。苗を手荒く扱っている。	・苗を苗載せ台に補給するときに苗が座屈する。 	・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。	57〜58

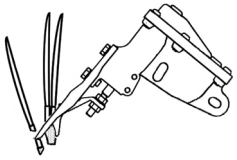
⑬ マット苗の滑りが悪い

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(1) 苗重量が軽い。	・縦送りベルトで下方に苗を送ろうとする動きが，安定して苗に伝わらないため，苗すべりが悪くなる。 	・覆土を多くする。（4㎏以下の苗は使用しない。） ・苗床土を水に浸す。 ・ビークを調整する。（高さ）	 45〜46 57〜58 99〜100

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(2) 苗載せ台の幅に対して苗床の横幅が広い。 	・苗載せ台の側面と苗床が擦れることで苗すべりが悪くなり，各条の苗減りがバラつく。 	・苗送り量の少ない苗の苗床幅を縮める。（苗箱に入れて幅を縮める） ・苗床土を水に浸す	45〜46 57〜58
(3) 苗おさえで苗を抑えすぎている。 	・縦送りベルトで下方に苗を送ろうとする動きを苗おさえが邪魔をするため，苗すべりが悪くなる。 	・苗のすべりがよくなるように苗おさえの高さを調整する。 ・苗床土を水に浸す。	26 45〜46 57〜58

⓮ 切れ苗，折れ苗がある

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
(1) 苗が乱れている。 	・苗の運搬時，苗箱から苗を取出すときに苗が乱れてしまい，ビークで苗をかき取るときに苗を切ってしまう。 	・運搬時に苗が乱れないように丁寧に扱う。 ・苗スクレーパを使用して苗箱から苗をやさしく取出し，ゆっくり苗載せ台に補給する。 ・苗スクレーパを使用し，苗をまっすぐに入れる。	45 57〜58 57〜58
(2) 苗ささえバー（苗ホルダ）のセット位置が悪い。	・苗ささえバー（苗ホルダ）で苗を十分に押さえられいないため，苗が乱れてしまい，ビークで苗をかき取るときに苗を切ってしまう。 	・苗をおさえるように苗ささえバー（苗ホルダ）の位置を調整する。	27

原因（このような状態で）	症状（どうなる）	処置方法（どうする）	参照ページ
⑶ 苗おさえが変形している。	・変形した苗おさえで苗がみだれてしまい，植付爪で苗をかき取るときに苗を切ってしまう。 	・苗おさえを苗載せ台に平行にする。	26〜27

6. まくらっこ装置関係

不調の状況	原　　因（点検箇所）	処　　置	参照ページ
❶枕地浮き苗がある	⑴ ロータ位置が低過ぎて，土を押している。	・ロータセット位置を高くする。	70〜73
	⑵ ロータ位置が高過ぎて，表土をならしている。	・ロータセット位置を低くする。	70〜73
❷ロータが回転しない	⑴ まくらっこスイッチが入っていない。	・まくらっこスイッチを《**入**》にする。	70
	⑵ 植付部が最上昇位置にある。	・植付部を下降させる。	70〜71
	⑶ ユニバーサルジョイントのピンが折損している。	・折損場所を調査しピンを差替える。	―
❸ロータが沈む	⑴ 油圧感度切替ダイヤルが《**硬**》位置にある。	・油圧感度切替ダイヤルを《**軟**》方に移動する。	61
	⑵ ロータの位置が低い。	・ロータセット位置を上げる。	70〜73
❹ロータが土につかず空転している	⑴ 油圧感度切替ダイヤルが《**軟**》位置にある。	・油圧感度切替ダイヤルを《**硬**》方に移動する。	61
	⑵ ロータの位置が高い。	ロータセット位置を下げる。	70〜73

付　　表

1．主要諸元

① **本機**

名称				XPS8		
型式名				三菱P2401		
区分				B	BP	BR
駆動方式				4輪駆動		
機械寸法	全長（格納時）（mm）			3,475		
	全幅（格納時）（mm）			2,220		
	全高（格納時）（mm）			1,930		
機械質量（重量）（kg）				1,101	1,192	1,212
エンジン	名称			D1105－E4B		
	形式			水冷直列3気筒ディーゼルエンジン		
	総排気量（L{cc}）			1.123 {1123}		
	定格出力/回転速度（kW{PS}/rpm）			18.1 {24.6} /2,800		
	燃料タンク容量（L）			39.0		
	始動方式			セルスタータ式		
走行部	車輪	種類	前輪	ノーパンク		
			後輪	ゴムラグタイヤ		
		外径（mm）	前輪	650		
			後輪	950		
	変速段数			HST前進8段・後進5段（副変速2段）		
植付部	植付け方式			ロータリ式		
	植付け条数（条）			8		
	植付け条間（cm）			30		
	植付け株数（株／3.3㎡）（スリップ率10%）			100，85，75，65，60，50（疎植植え：50，42，37）		
	植付け株間（cm）（スリップ率10%）			11，13，15，17，19，22（疎植植え：22，26，30）		
	植付け深さ（cm）			2～5		
植付け速度（m／秒）〔　〕内はスリップ率10％				0～1.95〔0～1.76〕		
まくらっこ装置	ロータ径（mm）			カゴφ140		
	ロータ幅（mm）			2,180		
	ロータ高さセット位置			7段＋格納		
安全性検査合格番号				NARO 24/058		

・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付　表

名称				XPS8
型式名				三菱P2401
区分				BTP
駆動方式				4輪駆動
機械寸法	全長（格納時）（mm）			3,475
	全幅（格納時）（mm）			2,220
	全高（格納時）（mm）			1,930
機械質量（重量）（kg）				1,206
エンジン	名称			D1105－E4B
	形式			水冷直列3気筒ディーゼルエンジン
	総排気量（L{cc}）			1.123 {1123}
	定格出力/回転速度（kW{PS}/rpm）			18.1 {24.6} /2,800
	燃料タンク容量（L）			39.0
	始動方式			セルスタータ式
走行部	車輪	種類	前輪	空気入り
			後輪	ゴムラグタイヤ
		外径（mm）	前輪	650
			後輪	950
	変速段数			HST前進8段・後進5段（副変速2段）
植付部	植付け方式			ロータリ式
	植付け条数（条）			8
	植付け条間（cm）			30
	植付け株間（cm）			11，13，15，17，19，22（疎植植え：22，26，30）
	植付け深さ（cm）			2～5
植付け速度（m／秒）〔　〕内はスリップ率5％				0～1.65〔0～1.57〕
まくらっこ装置	ロータ径（mm）			カゴφ140
	ロータ幅（mm）			2,180
	ロータ高さセット位置			7段＋格納
安全性検査合格番号				NARO 24/058

・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

名称				XPS8E	
型式名				三菱P2402	
区分				BE	BPE	BRE
駆動方式				4輪駆動	
機械寸法	全長（格納時）（mm）			3,475	
	全幅（格納時）（mm）			2,220	
	全高（格納時）（mm）			2,140	
機械質量（重量）（kg）				1,128	1,218	1,239
エンジン	名称			D1105－E4B	
	形式			水冷直列３気筒ディーゼルエンジン	
	総排気量（L{cc}）			1.123 {1123}	
	定格出力/回転速度（kW{PS}/rpm）			18.1 {24.6} /2,800	
	燃料タンク容量（L）			39.0	
	始動方式			セルスタータ式	
走行部	車輪	種類	前輪	ノーパンク	
			後輪	ゴムラグタイヤ	
		外径（mm）	前輪	650	
			後輪	950	
	変速段数			HST前進８段・後進５段（副変速２段）	
植付部	植付け方式			ロータリ式	
	植付け条数（条）			8	
	植付け条間（cm）			30	
	植付け株数（スリップ率10%）（株／3.3㎡）			100，85，75，65，60，50（疎植植え：50，42，37）	
	植付け株間（スリップ率10%）（cm）			11，13，15，17，19，22（疎植植え：22，26，30）	
	植付け深さ（cm）			2～5	
植付け速度（m／秒）〔　〕内はスリップ率10％				0～1.95〔0～1.76〕	
まくらっこ装置	ロータ径（mm）			カゴφ140	
	ロータ幅（mm）			2,180	
	ロータ高さセット位置			7段＋格納	
安全性検査合格番号				NARO 24/059	

・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

付　表

名称				XPS8E
型式名				三菱P2402
区分				BTPE
駆動方式				4輪駆動
機械寸法	全長（格納時）（mm）			3,475
	全幅（格納時）（mm）			2,220
	全高（格納時）（mm）			2,200
機械質量（重量）（kg）				1,246
エンジン	名称			D1105－E4B
	形式			水冷直列3気筒ディーゼルエンジン
	総排気量（L{cc}）			1.123 {1123}
	定格出力/回転速度（kW{PS}/rpm）			18.1 {24.6} /2,800
	燃料タンク容量（L）			39.0
	始動方式			セルスタータ式
走行部	車輪	種類	前輪	空気入り
			後輪	ゴムラグタイヤ
		外径（mm）	前輪	650
			後輪	950
	変速段数			HST前進8段・後進5段（副変速2段）
植付部	植付け方式			ロータリ式
	植付け条数（条）			8
	植付け条間（cm）			30
	植付け株間（cm）			11，13，15，17，19，22（疎植植え：22，26，30）
	植付け深さ（cm）			2～5
植付け速度（m／秒）〔　〕内はスリップ率5％				0～1.65〔0～1.57〕
まくらっこ装置	ロータ径（mm）			カゴφ140
	ロータ幅（mm）			2,180
	ロータ高さセット位置			7段＋格納
安全性検査合格番号				NARO 24/059

・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

名称			XPS6		
型式名			三菱P2403		
区分			B	BP	BR
駆動方式			4輪駆動		
機械寸法	全長（格納時）（mm）		3,475		
	全幅（格納時）（mm）		2,220		
	全高（格納時）（mm）		1,930		
機械質量（重量）（kg）			1,012	1,101	1,074
エンジン	名称		D1105－E4B		
	形式		水冷直列３気筒ディーゼルエンジン		
	総排気量（L{cc}）		1.123 {1123}		
	定格出力/回転速度（kW{PS}/rpm）		18.1 {24.6} /2,800		
	燃料タンク容量（L）		39.0		
	始動方式		セルスタータ式		
走行部	車輪	種類	前輪	ノーパンク	
			後輪	ゴムラグタイヤ	
		外径（mm）	前輪	650	
			後輪	950	
	変速段数		HST前進８段・後進５段（副変速２段）		
植付部	植付け方式		ロータリ式		
	植付け条数（条）		6		
	植付け条間（cm）		30		
	植付け株数（スリップ率10%）（株／3.3㎡）		100，85，75，65，60，50（疎植植え：50，42，37）		
	植付け株間（スリップ率10%）（cm）		11，13，15，17，19，22（疎植植え：22，26，30）		
	植付け深さ（cm）		2～5		
植付け速度（m／秒）〔　〕内はスリップ率10％			0～1.95〔0～1.76〕		
まくらっこ装置	ロータ径（mm）		カゴφ140		
	ロータ幅（mm）		1,800		
	ロータ高さセット位置		７段＋格納		
安全性検査合格番号			NARO 24/060		

・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

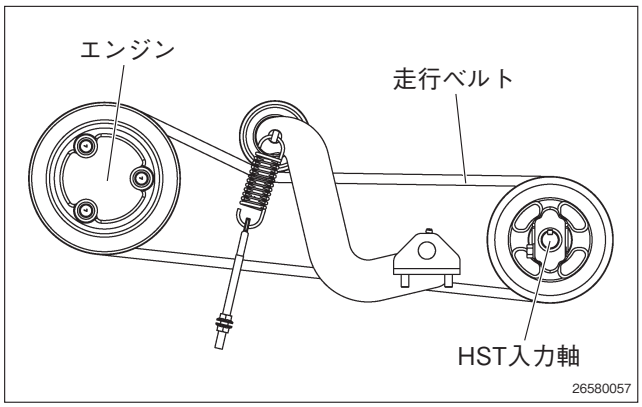
付　表

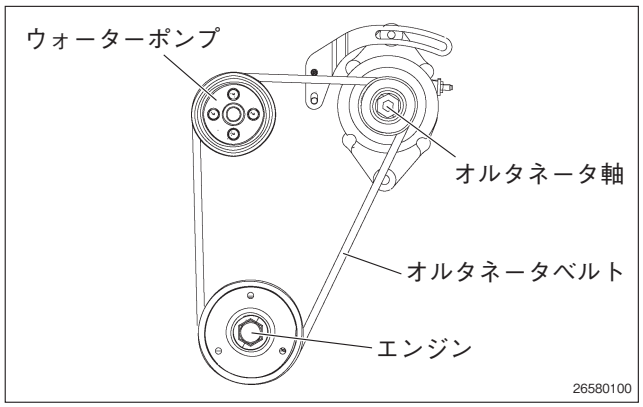
名称			XPS6E		
型式名			三菱P2404		
区分			BE	BPE	BRE
駆動方式			4輪駆動		
機械寸法	全長（格納時）（mm）		3,475		
	全幅（格納時）（mm）		2,220		
	全高（格納時）（mm）		2,140		
機械質量（重量）（kg）			1,039	1,128	1,101
エンジン	名称		D1105－E4B		
	形式		水冷直列３気筒ディーゼルエンジン		
	総排気量（L{cc}）		1.123 {1123}		
	定格出力/回転速度（kW{PS}/rpm）		18.1 {24.6} /2,800		
	燃料タンク容量（L）		39.0		
	始動方式		セルスタータ式		
走行部	車輪	種類	前輪	ノーパンク	
			後輪	ゴムラグタイヤ	
		外径（mm）	前輪	650	
			後輪	950	
	変速段数		HST前進８段・後進５段（副変速２段）		
植付部	植付け方式		ロータリ式		
	植付け条数（条）		6		
	植付け条間（cm）		30		
	植付け株数（スリップ率10%）（株／3.3㎡）		100，85，75，65，60，50（疎植植え：50，42，37）		
	植付け株間（スリップ率10%）（cm）		11，13，15，17，19，22（疎植植え：22，26，30）		
	植付け深さ（cm）		２～５		
植付け速度（m／秒）〔　〕内はスリップ率10％			0～1.95〔0～1.76〕		
まくらっこ装置	ロータ径（mm）		カゴφ140		
	ロータ幅（mm）		1,800		
	ロータ高さセット位置		７段＋格納		
安全性検査合格番号			NARO 24/061		

・この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

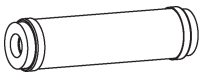
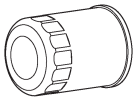
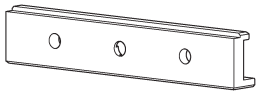
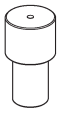
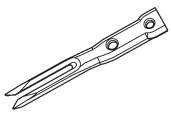
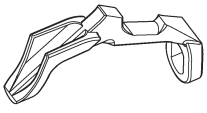
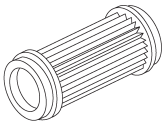
2. ベルト一覧表

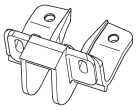
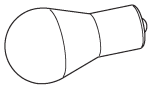
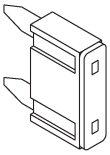
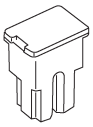
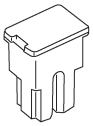
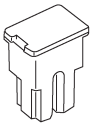
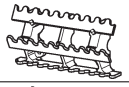
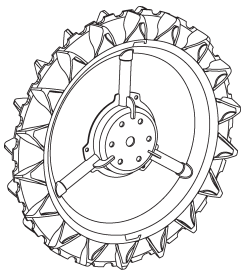
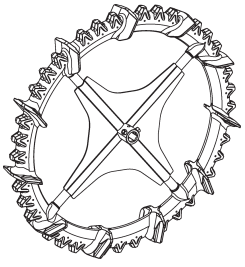
伝動系統	本数	部品番号	ベルトサイズ	備　考
エンジンーHST入力軸	1	2658 1815 000	SC54.5	走行ベルト
エンジン ー ウォーターポンプ ー オルタネータ	1	16282−97013	ー	オルタネータベルト





3. 主な消耗部品一覧表

No.	部品名称	部品番号	外　観　形　状	備　考
1	油圧オイルフィルタ	2604 2015 000		
2	エンジンオイルフィルタ	9958 0001 871	 T037	フィルタ径φ93を 使用してください
3	スライドピース	2682 5019 000	 T038	
4	スライドピース	2682 4853 000	 T039	
5	ビーク	2668 4670 000	 T040	
6	Hフォーク	2756 4681 000	 T041	
7	エレメント	2806 0122 200		

No.	部品名称	部品番号	外観形状	備考	
8	サポートE	2668 4907 000	 T042		
9	バルブ	0980 8122 001	 T044	フラッシャランプ 12V20W（G18）	
10	ヒューズ	0980 1001 006	 T045	10A（予備1個）	
11	ヒューズ	0980 1001 506		15A（予備1個）	
12	ヒューズ	0980 1003 006		30A（予備1個）	
13	ヒューズ	0980 2006 0A2	 T046	60A	
14	ヒューズ	0980 2004 0A1	 T046	40A	
15	ヒューズ	0980 2003 0A1	 T046	30A	
16	ロータA	2671 9561 001	 26580046 作業幅 235 mm	［8条型］ 10個使用	［6条型］ 10個使用
	ロータB	2671 9565 001	 26580047 作業幅 140 mm	［8条型］ 6個使用	［6条型］ 2個使用
17	前輪	左： 2607 2401 000 右： 2607 2402 000	 26071003	ノーパンクワイド φ650×95	
18	後輪	左： 2690 2452 001 右： 2690 2451 001	 26071004		

※ご用命のときは「**部品名称**」と「**部品番号**」をお知らせください。

4. 潤滑油について

・オイルは三菱農業機械純正油をお奨めします。

1. エンジンオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーマルチGDオイル　（10W－30，SL/CF）

2. ギヤオイル

メーカ	商品名
三菱農業機械純正油	スーパーLVTオイル　（GL－4）

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型 式 名

機械番号（製造番号）

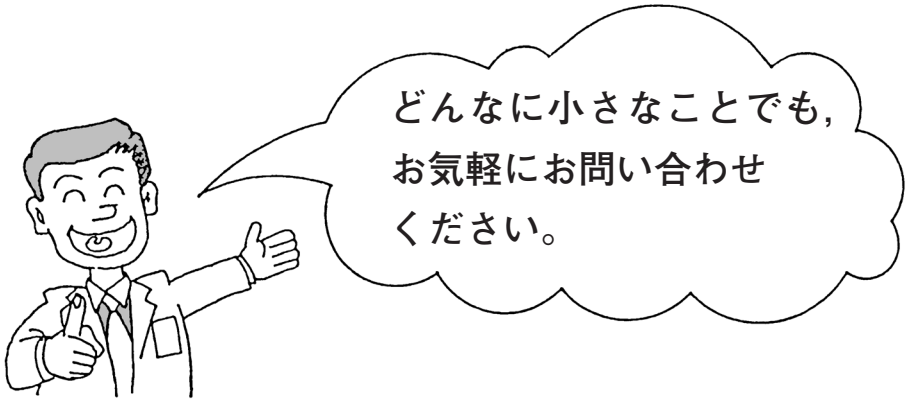
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 ＿＿＿＿＿ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）

No.062603-26587601005